RX200t

取扱説明書

	イラスト目次	**イラスト**から検索
1	安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
2	メーターの見方	メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
3	各部の操作	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
4	運転	運転に必要な操作やアドバイス
5	室内装備・機能	室内装備の使い方など
6	お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法
7	万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処
8	車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など
	さくいん	**症状**から検索
		音から検索
		アルファベットで検索
		五十音で検索

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方..... 10
検索のしかた..... 11
イラスト目次..... 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 24
安全なドライブのために 26
シートベルト 28
SRS エアバッグ..... 33
排気ガスに対する注意..... 42

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 43
チャイルドシート..... 44

1-3. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 66
オートアラーム..... 67

2 メーターの見方

2. メーターの見方
警告灯／表示灯..... 74
計器類 79
マルチインフォメーションディスプレイ 83
ヘッドアップディスプレイ 103
Harmonious Driving Navi.画面／燃費画面..... 109

3 各部の操作

3-1. キーの取り扱い
キー 118

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア 124
パワーバックドア 131
スマートエントリー＆スタートシステム 147

3-3. シートの調整
フロントシート 153
リヤシート 154
パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能 163
ヘッドレスト 168

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル..... 170
インナーミラー 172
ドアミラー 174

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ 178
ムーンルーフ..... 182
パノラマムーンルーフ 186

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって..... 192
荷物を積むときの注意..... 202

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ 204
オートマチックトランスミッション..... 209
方向指示レバー..... 215
電動パーキングブレーキ..... 216
ブレーキホールド..... 220

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ..... 222
アダプティブハイビームシステム 225
オートマチックハイビーム 230
フォグランプスイッチ..... 234
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 236
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）..... 242

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方..... 244

4-5. 運転支援装置について

Lexus Safety System+..... 249
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）..... 255
LKA（レーンキーピングアシスト）..... 265
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）..... 275
ITS Connect 292
Stop & Start システム..... 302
BSM（ブラインドスポットモニター）..... 313
・BSM 機能 317
・RCTA 機能..... 321
クリアランスソナー 327
インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）..... 337
ドライブモードセレクトスイッチ 356
AWD ロックモードスイッチ 359
運転を補助する装置 360

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転..... 367

5 室内装備・機能

5-1. リモートタッチ

リモートタッチ..... 372
12.3 インチディスプレイ..... 375

5-2. エアコンの使い方

レクサスクライメイト
コンシェルジュ..... 377
オートエアコン..... 378
ステアリングヒーター／
シートヒーター／
シートベンチレーター..... 389

5-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 393
・インテリアランプ..... 394
・パーソナルランプ..... 395

5-4. 収納装備の使い方

収納装備一覧 397
・グローブボックス..... 398
・コンソールボックス..... 398
・カップホルダー 399
・ドアポケット 401
・ボトルホルダー 401
・コインボックス 402
・小物入れ 403
ラゲージルーム内装備..... 404

5-5. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 410
・サンバイザー..... 410
・バニティミラー..... 410
・時計 411
・おくだけ充電
（ワイヤレス充電器）..... 411
・アクセサリーソケット 417
・アクセサリーコンセント 418
・助手席足元フック..... 419
・リヤドアサンシェード 420
・リヤアームレスト..... 420
・アシストグリップ..... 421
・コートフック..... 421

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ..... 424
内装の手入れ..... 429

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット..... 432
ガレージジャッキ 434
ウォッシャー液の補充 435
タイヤについて 436
タイヤ空気圧について 444
エアコンフィルターの交換 446
ワイパーゴムの交換 449
電子キーの電池交換 451
ヒューズの点検、交換 453
電球（バルブ）の交換 456

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは..... 468
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 469
発炎筒 470
車両を緊急停止するには 472

7-2. 緊急時の対処法

けん引について..... 473
警告灯がついたときは..... 480
警告メッセージが表示されたときは..... 486
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）..... 491
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）..... 502
エンジンがかからないときは..... 515
電子キーが正常に働かないときは..... 517
バッテリーがあがったときは..... 521
オーバーヒートしたときは 525
スタックしたときは..... 529

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 532

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 537

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 548

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）..... 550
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 554
アルファベット順さくいん..... 556
五十音順さくいん 558

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- ナビゲーション
- オーディオ＆ビジュアル
- 後席 11.6 型ワイドディスプレイ
- 音声操作システム
- バックガイドモニター
- サイドモニター
- パノラミックビューモニター
- ETC2.0 システム
- ハンズフリー
- G-Link

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

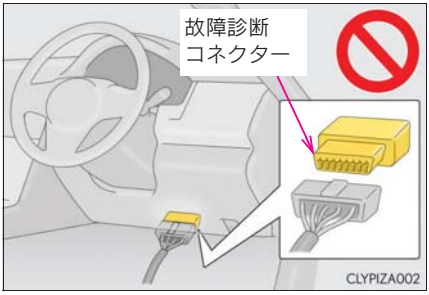
不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
    RF送信機の取り付けについては、P. 9も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・エンジン回転数
・アクセルの操作状況
・ブレーキの操作状況
・車速
・シフトポジション

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● G-Link によるデータの取り扱いについて

お客様が G-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。
・車両の各システムの作動状況
・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。レクサスにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、レクサスは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。
・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・レクサスが訴訟で使用する場合

ただし、レクサスは
・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・使用者･車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずレクサス販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル･アンテナ位置･取り付け条件）をレクサス販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方

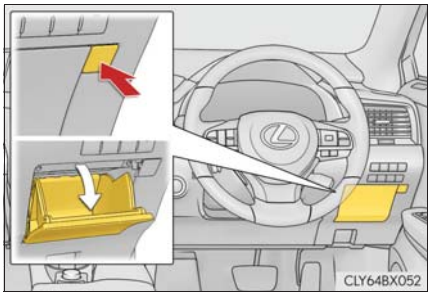
警告　お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意　お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3…　操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

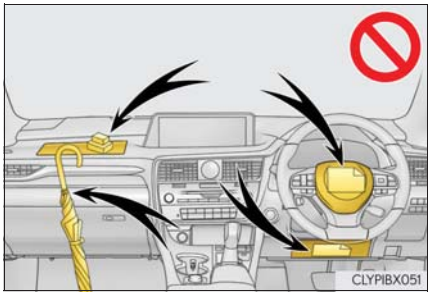
押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません”　“このようにしないでください”　“このようなことを起こさないでください”　という意味です。

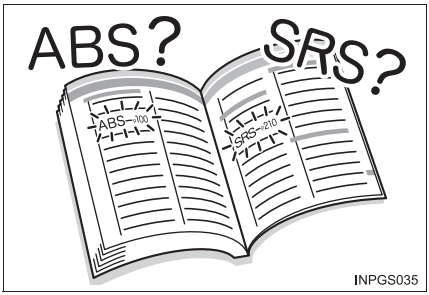


知識　機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

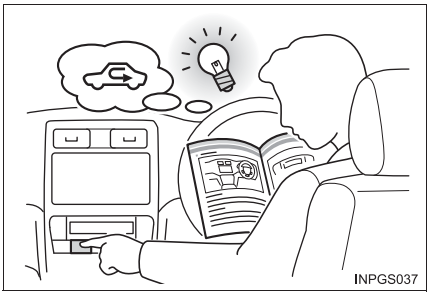
■ **名称から探す**

・五十音順さくいん.....558
・アルファベット順
さくいん 556



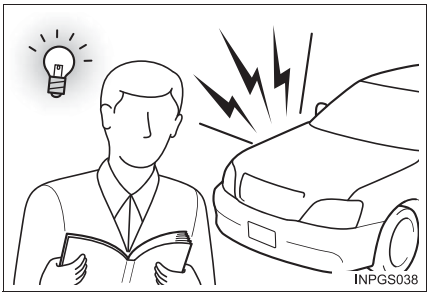
■ **取り付け位置から探す**

・イラスト目次.....12



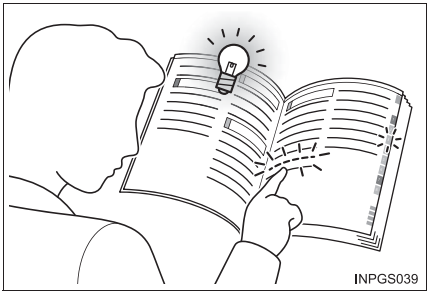
■ **症状や音から探す**

・こんなときは
（症状別さくいん）.....550
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....554



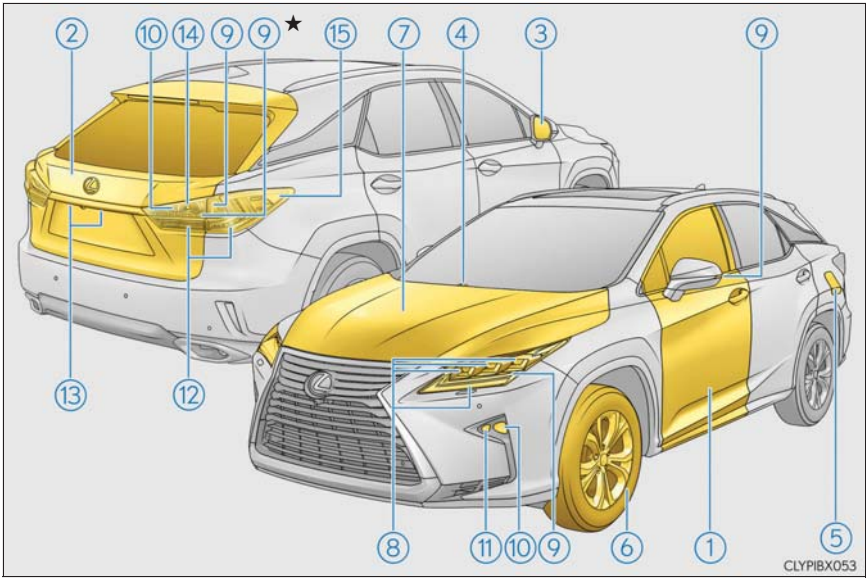
■ **タイトルから探す**

・目次 2



イラスト目次

■外観



ランプの形状は、グレードなどで異なります。（→ P. 456）

① **ドア . . . . . P. 124**

施錠／解錠 . . . . . P. 124, 126

ドアガラスの開閉 . . . . . P. 178

メカニカルキーでの施錠／解錠 . . . . . P. 517

② **バックドア . . . . . P. 131**

車内から開ける . . . . . P. 132

車外から開ける . . . . . P. 132

③ **ドアミラー . . . . . P. 174**

鏡面の角度調整 . . . . . P. 174

ミラーの格納 . . . . . P. 175

調整位置の登録★ . . . . . P. 163

曇りを取る（ミラーヒーター） . . . . . P. 383

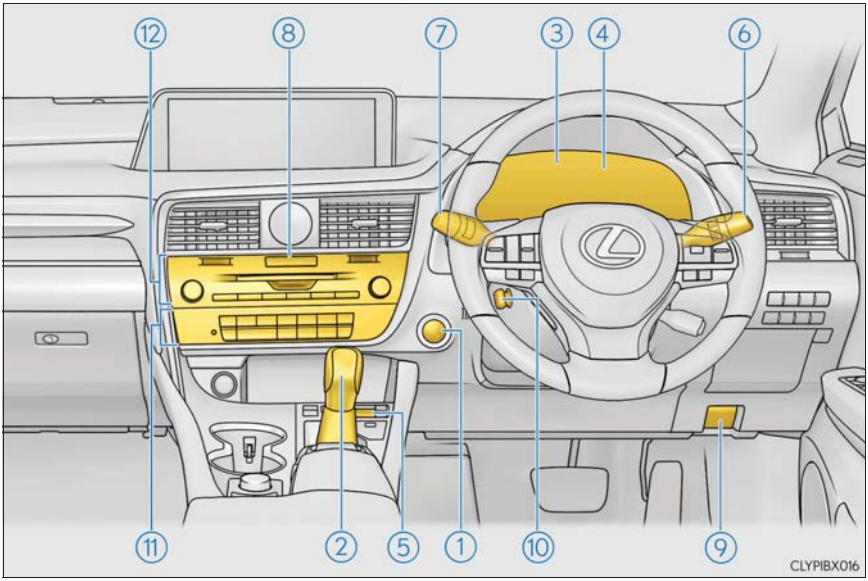
④ **ワイパー** . . . . . .P. 236
冬季の注意 . . . . . .P. 367
凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★ . . . . . .P. 383
洗車時の注意 . . . . . .P. 426
⑤ **給油口** . . . . . .P. 244
給油方法 . . . . . .P. 247
燃料の種類・燃料タンク容量 . . . . . .P. 532
⑥ **タイヤ** . . . . . .P. 436
サイズ・空気圧 . . . . . .P. 535
冬用タイヤ・タイヤチェーン . . . . . .P. 367
点検・ローテーション・タイヤ空気圧警報システム . . . . . .P. 436
パンク時の対処 . . . . . .P. 491, 502
⑦ **ボンネット** . . . . . .P. 432
開け方 . . . . . .P. 432
エンジンオイル . . . . . .P. 532
オーバーヒート時の対処 . . . . . .P. 525

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P. 456, ワット数：P. 536）

⑧ **ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト** . . . . . .P. 222
⑨ **方向指示灯** . . . . . .P. 215
⑩ **フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★** . . . . . .P. 234
⑪ **コーナーリングランプ** . . . . . .P. 223
⑫ **尾灯／制動灯** . . . . . .P. 222
緊急ブレーキシグナル . . . . . .P. 361
⑬ **番号灯** . . . . . .P. 222
⑭ **後退灯**
シフトポジションを R にする . . . . . .P. 209
⑮ **リヤサイドマーカーランプ** . . . . . .P. 222

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■インストルメントパネル



① **エンジンスイッチ . . . . . .P. 204**

エンジンの始動・モード切りかえ . . . . . .P. 204

エンジンの緊急停止 . . . . . .P. 472

エンジンが始動できないときの対処 . . . . . .P. 515

② **シフトレバー . . . . . .P. 209**

シフトポジションの切りかえ . . . . . .P. 209

けん引時の注意 . . . . . .P. 473

シフトレバーが動かないときの対処 . . . . . .P. 213

③ **メーター . . . . . .P. 79**

見方・明るさの調整 . . . . . .P. 79, 81

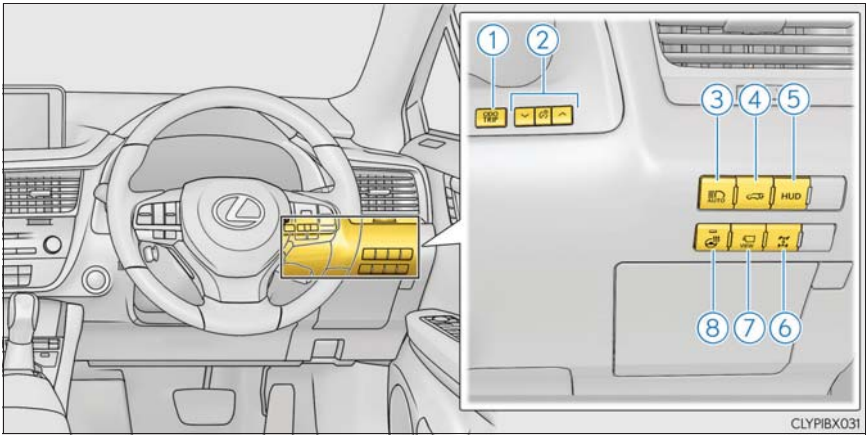
警告灯／表示灯 . . . . . .P. 74

警告灯点灯時の対処 . . . . . .P. 480

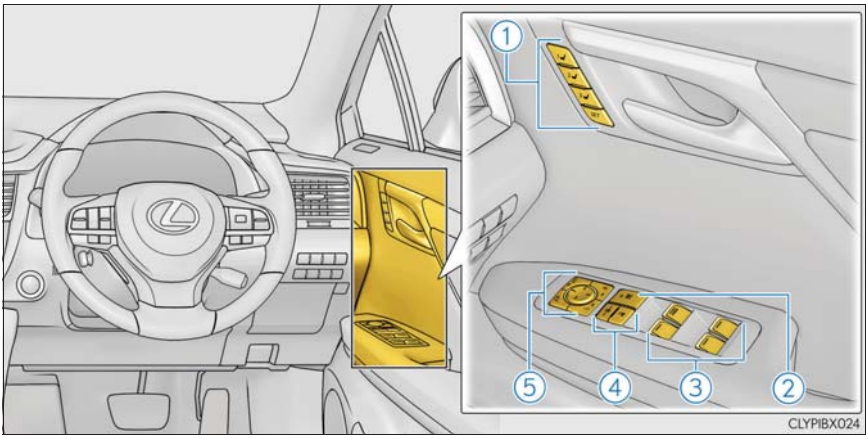
④ **マルチインフォメーションディスプレイ . . . . . .P. 83**
表示内容 . . . . . .P. 83
警告メッセージ表示時の対処 . . . . . .P. 486
⑤ **パーキングブレーキスイッチ . . . . . .P. 216**
かける・解除する . . . . . .P. 216, 217
冬季の注意. . . . . .P. 368
警告ブザー・警告メッセージ . . . . . .P. 218, 486
⑥ **方向指示レバー . . . . . .P. 215**
ランプスイッチ . . . . . .P. 222
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・リヤサイドマーカーランプ・
番号灯・LED デイライト. . . . . .P. 222
フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★. . . . . .P. 234
⑦ **ワイパー＆ウォッシャースイッチ . . . . . .P. 236, 242**
使い方. . . . . .P. 236, 242
ウォッシャー液の補充 . . . . . .P. 435
⑧ **非常点滅灯スイッチ . . . . . .P. 469**
⑨ **ボンネット解除レバー . . . . . .P. 432**
⑩ **ハンドル位置調整スイッチ. . . . . .P. 170**
調整方法 . . . . . .P. 170
調整位置の登録★. . . . . .P. 163
⑪ **オートエアコン . . . . . .P. 378**
操作方法 . . . . . .P. 378
リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー). . . . . .P. 383
⑫ **オーディオ** ※
音楽を聴く ※
電話をかける・受ける（ハンズフリー）※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■スイッチ類

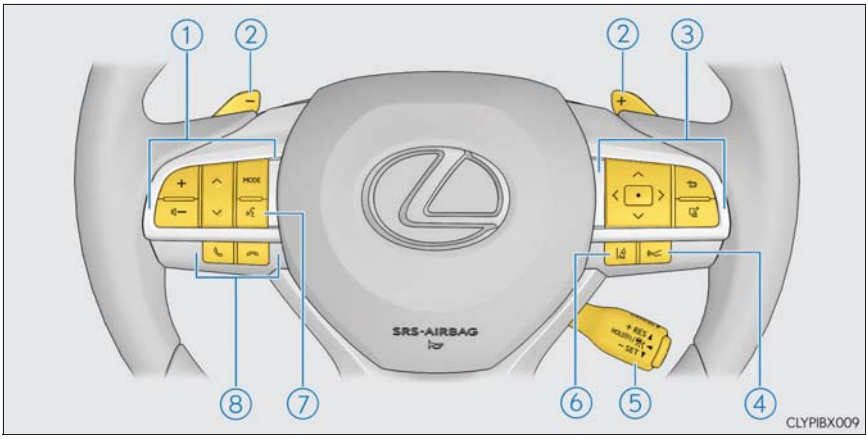


① ODO/TRIP スイッチ . . . . . .P. 86
② インストルメントパネル照度調整スイッチ . . . . . .P. 81
③ アダプティブハイビームシステムスイッチ★ . . . . . .P. 225
オートマチックハイビームスイッチ★. . . . . .P. 230
④ パワーバックドアスイッチ. . . . . .P. 132
⑤ HUD スイッチ★ . . . . . .P. 103
⑥ AWD ロックモードスイッチ★ . . . . . .P. 359
⑦ カメラスイッチ ※
⑧ ステアリングヒータースイッチ★ . . . . . .P. 390

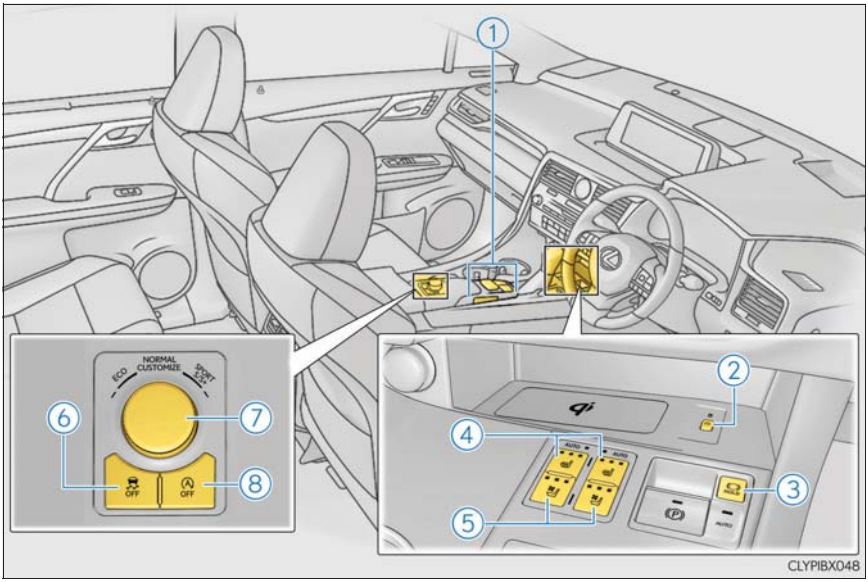


① ポジションメモリースイッチ★ . . . . . .P. 163
② ウインドウロックスイッチ. . . . . .P. 178
③ パワーウインドウスイッチ. . . . . .P. 178
④ ドアロックスイッチ . . . . . .P. 126
⑤ ドアミラースイッチ . . . . . .P. 174

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



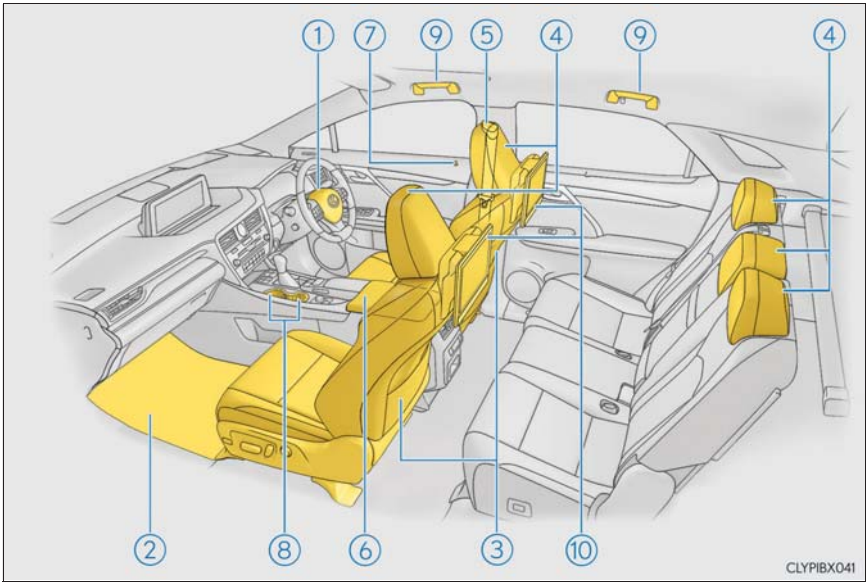
① オーディオスイッチ ※
② パドルシフトスイッチ★ . . . . . .P. 210, 211
③ メーター操作スイッチ . . . . . .P. 85
④ 車間距離切りかえスイッチ. . . . . .P. 280
⑤ クルーズコントロールスイッチ. . . . . .P. 275
⑥ LKA（レーンキーピングアシスト）スイッチ . . . . . .P. 265
⑦ トークスイッチ ※
⑧ 電話スイッチ ※



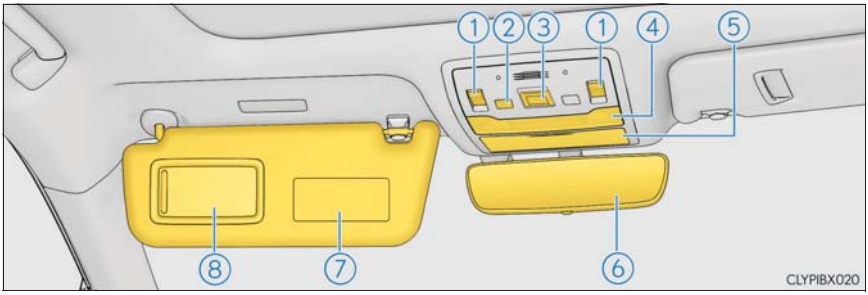
① リモートタッチ※ . . . . . .P. 372
② おくだけ充電（ワイヤレス充電器）スイッチ★ . . . . . .P. 411
③ ブレーキホールドスイッチ. . . . . .P. 220
④ フロントシートヒータースイッチ★ . . . . . .P. 391
⑤ シートベンチレータースイッチ★ . . . . . .P. 392
⑥ VSC OFF スイッチ . . . . . .P. 362
⑦ ドライブモードセレクトスイッチ . . . . . .P. 356
⑧ Stop & Start キャンセルスイッチ. . . . . .P. 302

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■室内



① SRS エアバッグ . . . . . .P. 33
② フロアマット . . . . . .P. 24
③ フロントシート . . . . . .P. 153
④ ヘッドレスト . . . . . .P. 168
⑤ シートベルト . . . . . .P. 28
⑥ コンソールボックス . . . . . .P. 398
⑦ ドアロックボタン . . . . . .P. 126
⑧ カップホルダー . . . . . .P. 399
⑨ アシストグリップ . . . . . .P. 421
⑩ 後席 11.6 型ワイドディスプレイ★ ※1



① ムーンルーフスイッチ★ . . . . . .P. 182
パノラマムーンルーフスイッチ★ . . . . . .P. 186
② 侵入センサー OFF スイッチ . . . . . .P. 70
③ ヘルプネットスイッチパネル ※1
④ インテリアランプ ※2 . . . . . .P. 394
パーソナルランプ ※2 . . . . . .P. 395
⑤ 小物入れ . . . . . .P. 403
⑥ インナーミラー . . . . . .P. 172
⑦ サンバイザー ※3 . . . . . .P. 410
⑧ バニティミラー . . . . . .P. 410

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※1：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。
※2：図はフロントですが、リヤにも装着されています。
※3：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
（→ P. 50）

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に 24
安全なドライブのために.....26
シートベルト 28
SRS エアバッグ.....33
排気ガスに対する注意.....42

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは.....43
チャイルドシート 44

1-3. 盗難防止装置

エンジンイモビライザー
システム 66
オートアラーム 67

運転する前に

点検整備

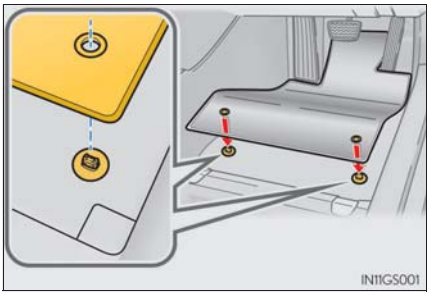
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、レクサス販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

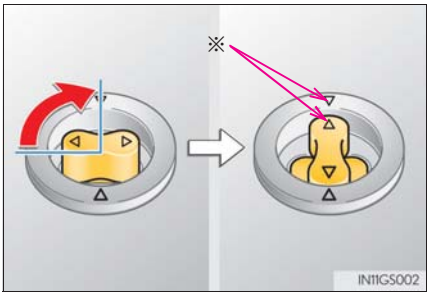
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くときは

- ●レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- ●運転席専用のフロアマットを使用する
- ●固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- ●他のフロアマット類と重ねて使用しない
- ●フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

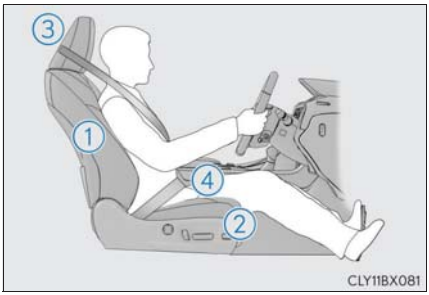
■運転する前に

- ●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ●エンジン停止およびシフトレバーがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 153）

② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 153）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 168）

④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 28）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 28）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 44）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 172, 174）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける

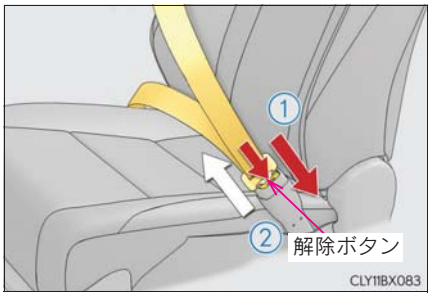
  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

着け方、はずし方

① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

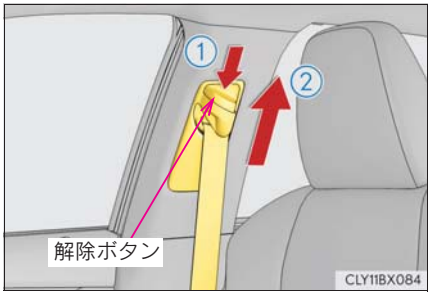


シートベルトの高さ調節（フロント席）

① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

② アジャスターを上げる

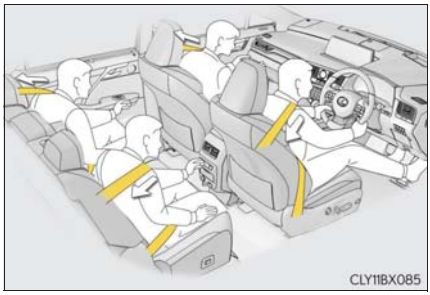
“カチッ” と音がして固定されるところまで動かしてください。



シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方･側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 44）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 28）

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

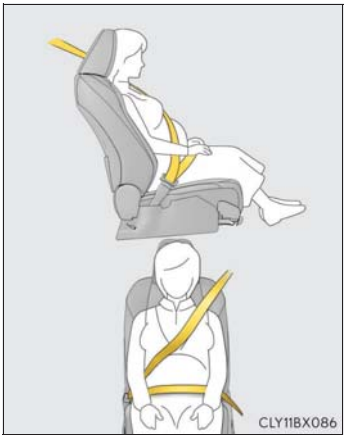
■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 28)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまを乗せるとき

→ P. 56

警告

■ **プリテンショナー付きシートベルトについて**

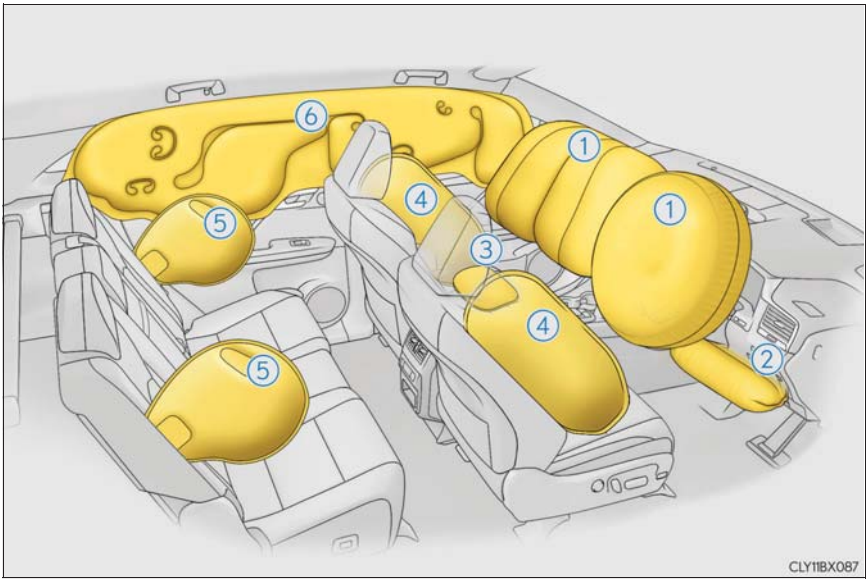
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

■ **シートベルトの損傷・故障について**

- ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

② SRS ニーエアバッグ
（運転者の衝撃緩和を補助）

③ SRS シートクッションエアバッグ
（助手席乗員の衝撃緩和を補助）

◆ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

④ SRS フロントサイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

⑤ SRS リヤサイドエアバッグ
（リヤ外側席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

⑥ SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

警告

■SRS エアバッグについて

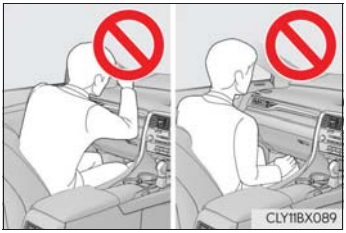
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席SRSエアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

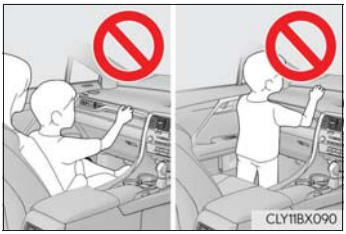
●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRSエアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 44)

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



●お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



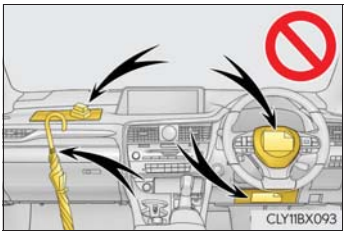
警告

■SRS エアバッグについて

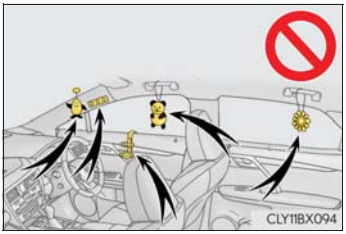
●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

●助手席やリヤ席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



●ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
（速度制限ラベルを除く：→ P. 508）



●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRSニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

警告

■SRS エアバッグについて

●SRS サイドエアバッグやSRS シートクッションエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRSエアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロント・リヤピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、レクサス販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・フロントドアパネル・フロントドアトリム・フロントドアスピーカーなどの周辺の修理・取りはずし・改造

●フロントドアパネルの穴あけなどの改造

●フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理、改造

●グリルガード(ブルバー・カンガルーバーなど)・除雪装置・ウィンチなどの取り付け

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが展開すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●G-Link の契約期間内は、SRS エアバッグの作動または後方から強い衝撃を受けた場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

●助手席の SRS シートクッションエアバッグは、シートベルトを着用していないときは作動しません。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、左右の SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが開きます。

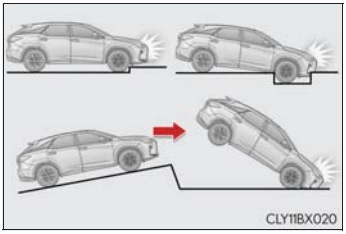
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



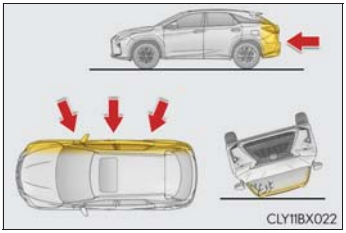
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

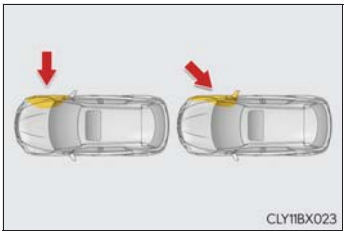


■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

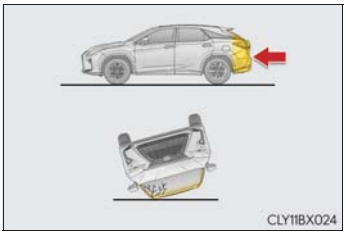
●斜めからの衝撃



SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●後方からの衝突

●横転

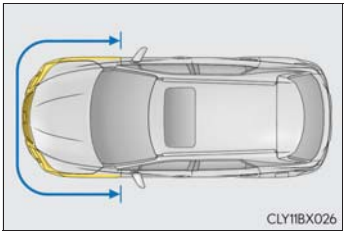


■レクサス販売店に連絡が必要な場合

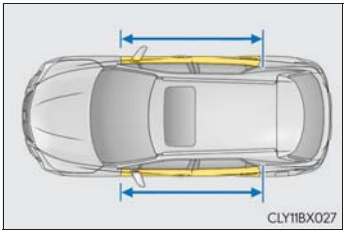
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

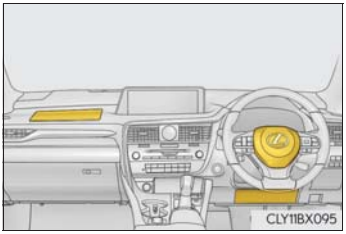
●フロントSRSエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



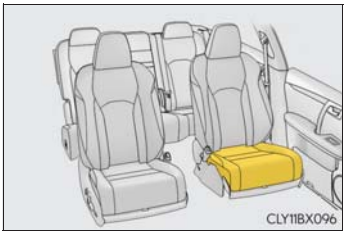
●SRSサイド＆カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき



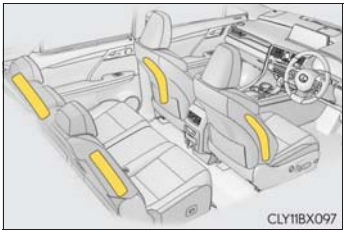
●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近･インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



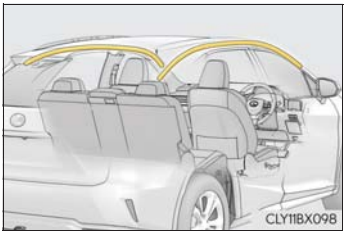
●助手席のシートクッション表面が、傷付いたり､ひび割れたり､その他の損傷を受けたとき



●SRSサイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRSカーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 44）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→ P. 127）・ウインドウロックスイッチ（→ P. 178）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた、P. 44 を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- レクサスでは、より安全にお使いいただくために、レクサス純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  レクサス純正チャイルドシートは、レクサス車のために作られたチャイルドシートです。レクサス販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 44
チャイルドシートについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 46
チャイルドシートを使用するときは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 49
チャイルドシートの取り付け方法
・シートベルトで固定する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 52
・ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する・・・・・・P. 57
・トップテザーアンカーを使用する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 64

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。（→ P. 53, 58）

警告

■**お子さまを乗せるときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

●レクサスでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。

●お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■**チャイルドシートについて**

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認ください。(→ P. 52, 57)本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

●チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

●チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートについて

お手持ちのチャイルドシートについては、次の項目を確認のうえ、車に取り付けてください。

■ チャイルドシートの規格

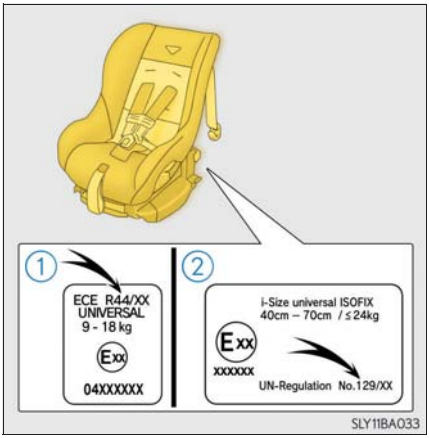
ECE R44※1 または、ECE R129※1, 2 に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

① ECE R44 認可マーク ※3
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

② ECE R129 認可マーク ※3
対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。



※1 ECE R44、ECE R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2 ECE R129 に適合したチャイルドシートを購入できない場合があります。チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

※3 表示されているマークは、商品により異なります。

■ 質量グループについて（ECE R44 のみ）

この質量グループは、チャイルドシートの適合性を確認する際に必要となります。チャイルドシートの適合性一覧表と合わせてご確認ください。（→ P. 53, 58）

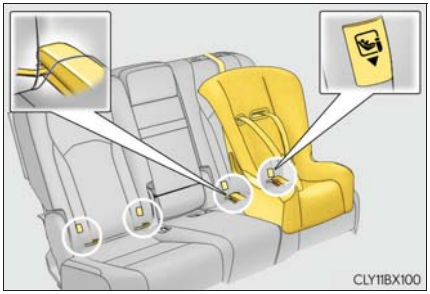
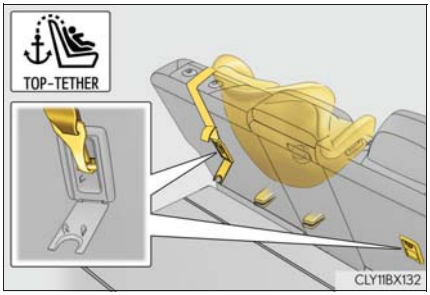
ECE R44 の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次の 5 種類に分類されます。

質量グループ	お子さまの体重	参考年齢 ※
グループ 0	10kg まで	9ヶ月頃まで
グループ 0 ＋	13kg まで	1 歳半頃まで
グループ Ⅰ	9 ～ 18kg	9ヶ月頃～ 4 歳頃まで
グループ Ⅱ	15 ～ 25kg	3 歳頃～ 7 歳頃まで
グループ Ⅲ	22 ～ 36kg	6 歳頃～ 12 歳頃まで

※ 年齢の範囲は、おおよその目安になります。お子さまの体重に合わせて選択してください。

■ チャイルドシート固定方法の種類

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書をご確認してください。

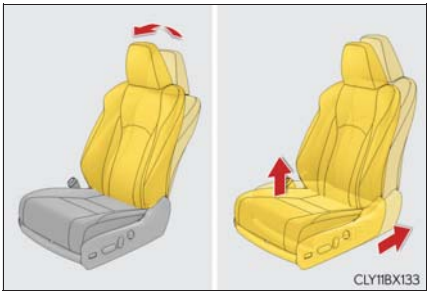
固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P. 52
ISOFIX チャイルドシート固定専用バーで固定する		P. 57
テザーベルトを固定する		P. 64

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。



- 背もたれを可能な限り起こす
- シートをいちばんうしろに下げる
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能な時は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■チャイルドシートを使用するとき

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

チャイルドシート適合性一覧表（→ P. 53）は、お客様がお持ちのチャイルドシートについて、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまにあった推奨チャイルドシートについても選択することができます。
次に記載されている、「シートベルトで取り付けるタイプのチャイルドシートの質量グループ・取り付け可能な座席位置の確認のしかた」も合わせて確認ください。

◆ シートベルトで取り付けるタイプのチャイルドシートの質量グループ・取り付け可能な座席位置の確認のしかた

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する（→ P. 47）

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0 +」になります。
（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「 I 」になります。

2 チャイルドシートの取り付け可能な位置と対応するチャイルドシートの種類（記号）を「チャイルドシート適合性一覧表」から確認して、適切なシートを選択する。（→ P. 53）

◆ チャイルドシート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

チャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーの場合、次の表中の U または UF が示す位置に取り付けることができます。(UF は前向きのチャイルドシートのみ取り付けできます。)
チャイルドシートのカテゴリーと質量グループはチャイルドシートに付属の取扱説明書に記載されています。お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

質量グループ	シート位置			推奨チャイルドシート
	フロントシート	リヤシート		
	助手席	左右席	中央席	
0 (10kg まで)	×	U	U	“ レクサス純正　NEO　G-Child baby”
0+ (13kg まで)	×	U	U	
I (9 ～ 18kg)	うしろ向き ×	U※2	U※2	
	前向き UF※1, 2			
II , III (15 ～ 36kg)	UF※1, 2	U※2	U※2	“ レクサス純正ジュニアシート ”

表に記入する記号の説明

×：　チャイルドシートを取り付けることはできません。

U：　この質量グループでの使用を許可された汎用(ユニバーサル)カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF：　この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きのチャイルドシートに適しています。

※1 助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、背もたれを可能な限り起こし、シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。
その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

◆ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 シートの調整

助手席：

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→ P. 49）

リヤシート：

背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

2 チャイルドシートとヘッドレストがあたるときは、ヘッドレストをはずす（→ P. 168）

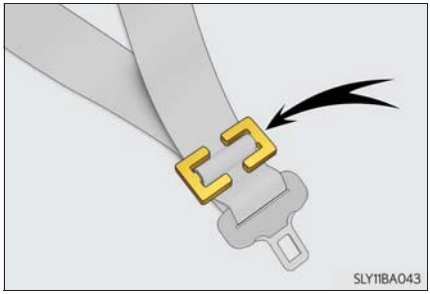
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→ P. 56）

◆ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくり戻してください。

警告

■**チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

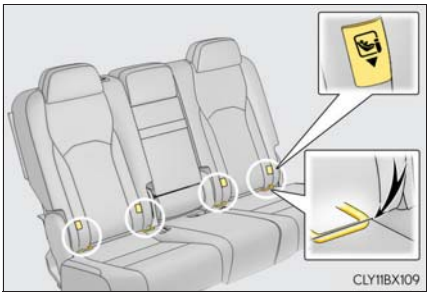
●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートをISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています)



■ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表について

チャイルドシート適合性一覧表 (→ P. 58, 61) は、お客様がお持ちのチャイルドシートについて、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまにあった推奨チャイルドシートについても確認することができます。
次に記載されている、サイズ等級、固定具および「ECE R44 ISOFIX 対応チャイルドシートの質量グループ・サイズ等級の確認のしかた」も合わせて確認ください。

■ ECE R44 ISOFIX対応チャイルドシートの質量グループ･サイズ等級の確認のしかた

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する (→ P. 47)

(例 1)：体重が 12kg の場合、質量グループは「0 ＋」になります。
(例 2)：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ｉ」になります。

2 サイズ等級を確認する

手順で確認した「質量グループ」を「チャイルドシート適合性一覧表」から該当するサイズ等級を確認します。(→ P. 58)※

(例 1)：質量グループが「0 ＋」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2)：質量グループが「Ｉ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「着席位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「推奨チャイルドシート」(→ P. 58) で指定されている製品を使用してください。

◆ チャイルドシート適合性一覧表（ISOFIX での取り付け [ECE R44 適合のチャイルドシート]）

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「サイズ等級」に分かれています。次の表に示す「サイズ等級」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。
チャイルドシートの「サイズ等級」と「質量グループ」を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「サイズ等級」がない（または必要情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

サイズ等級	使用の向き・形状・大きさ
A	全高前向きチャイルドシート
B	低型前向きチャイルドシート
B1	低型前向きチャイルドシート
C	大型うしろ向きチャイルドシート
D	小型うしろ向きチャイルドシート
E	うしろ向きチャイルドシート
F	左向き寝台式チャイルドシート（キャリコット）
G	右向き寝台式チャイルドシート（キャリコット）

質量グループ	サイズ等級	着座位置			推奨チャイルドシート
		フロントシート	リヤシート		
		助手席	左右席	中央席	
キャリコット	F	×	×	×	–
	G	×	×	×	–
0 (10kg まで)	E	×	IL	×	“レクサス純正 NEO G-Child ISO leg”
0+ (13kg まで)	E	×	IL	×	
	D	×	IL	×	
	C	×	IL	×	
I (9 ～ 18kg)	D	×	IL	×	–
	C	×	IL	×	
	B	×	IUF※ IL※	×	“レクサス純正 NEO G-Child ISO leg”
	B1	×	IUF※ IL※	×	
	A	×	IUF※ IL※	×	

表に記入する記号の説明

×： ISOFIX チャイルドシートを取り付けることはできません。

IUF： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向きチャイルドシートに適しています。

IL： この質量グループでの使用を許可された「特定車種用」・「一部制限付き」または「準汎用」（セミユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX チャイルドシートに適しています。

※ ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。
その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ チャイルドシート適合性一覧表（i-Size での取り付け [ECE R129 適合のチャイルドシート]）

チャイルドシートが「i-Size」カテゴリーの場合、次の表中の i-U が示す位置に取り付けることができます。

チャイルドシートのカテゴリーはチャイルドシートに付属の取扱説明書に記載されています。

	着席位置		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
i-Size チャイルドシート	×	i-U※	×

表に記入する文字の説明

×： i-Size 汎用（ユニバーサル）チャイルドシートを取り付けることはできません。

i-U： 前向きおよびうしろ向きの i-Size 汎用（ユニバーサル）チャイルドシートに適しています。

※ ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。
その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 シートの調整

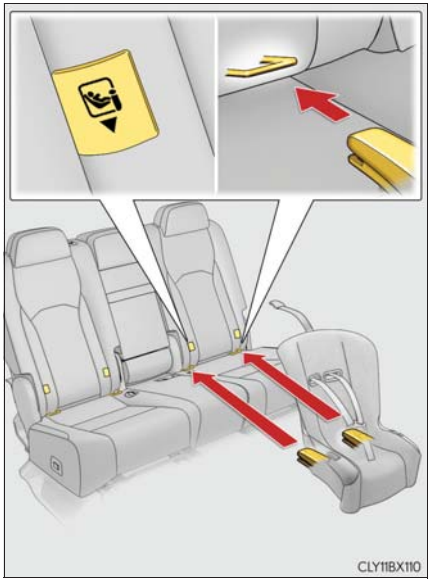
背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

2 チャイルドシートとヘッドレストがあたるときは、ヘッドレストをはずす（→ P. 168）

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



4 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→ P. 56）

警告

■**チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

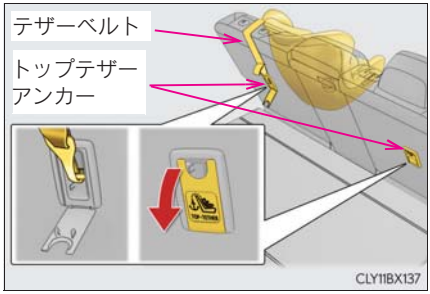
●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカーを使用する

■ トップテザーアンカーについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカーが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



■ テザーベルトをトップテザーアンカーに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

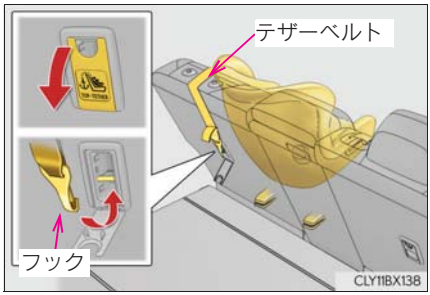
1 チャイルドシートとヘッドレストがあたるときは、ヘッドレストをはずす（→ P. 168）

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

2 フタを開けてトップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。（→ P. 56）

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



警告

■**チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカー以外に掛けないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

注意

■**トップテザーアンカーについて**

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

エンジンイモビライザーシステム

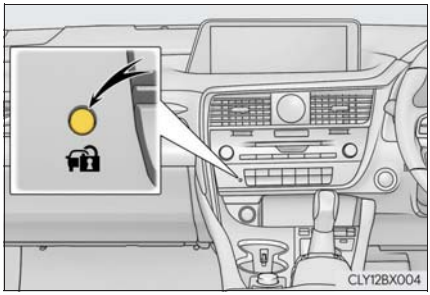
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。



知識

■ **メンテナンスについて**

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ **システムが正常に作動しないとき**

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ **エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは

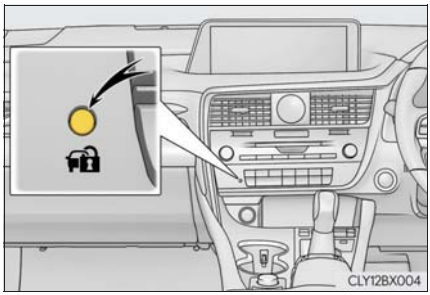
オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。
オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動くものを検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）

※ G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／ G-Link ／サービスの使い方／ G-Security」を参照してください。

オートアラームを設定する

ドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。



オートアラームが設定されるとセキュリティ表示灯は点灯から点滅にかわります。

侵入センサーを停止してからオートアラームを設定するには（→ P. 70）

オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- ドアを解錠する
- エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションONモードにするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

●車内に人が乗っていないか

●ドアガラスとムーンルーフ★またはパノラマムーンルーフ★が閉じているか

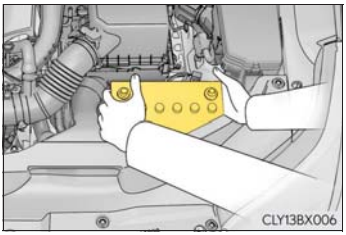
●車内に貴重品などを放置していないか

■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

●車内に残った人が、ドアやボンネットを開けたり、解錠したとき

●施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき（→ P. 521）



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■オートアラーム作動によるドアロック機能について

以下のとき、車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

●バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■G-Link（ご契約のお客様のみ）

●うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れ、ムーンルーフの閉め忘れを、ご指定の E メールアドレスへお知らせすることができます。
うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー＆スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

●リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／ G-Link ／サービスの使い方／ G-Security」を参照してください。

■カスタマイズ機能

お車に装備されてる機能の一部は、設定を変更することができます。（→ P. 538）

⚠注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

侵入センサーとは

侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入センサーを設定する

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。(→ P. 67)

■ 侵入センサーを停止する

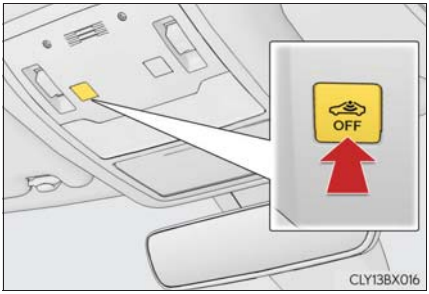
車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 侵入センサーOFF スイッチを押す

もう一度スイッチを押すと、侵入センサーは再びセットされます。

侵入センサーをOFF/ONにするたびに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



知識

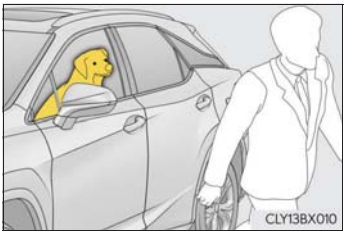
■ 侵入センサーの作動・停止について

- 侵入センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入センサーを停止したあとにエンジンスイッチを押すか、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーによる解錠操作を行うと、侵入センサーは復帰します。
- 再度オートアラームをセットすると、侵入センサーは作動可能状態に自動復帰します。

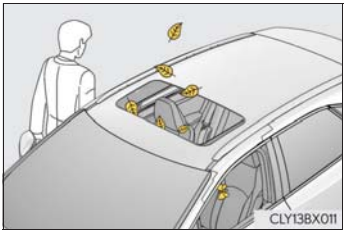
■侵入センサーについての留意事項

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

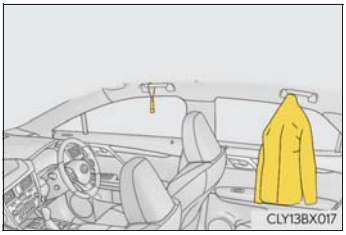
●車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合



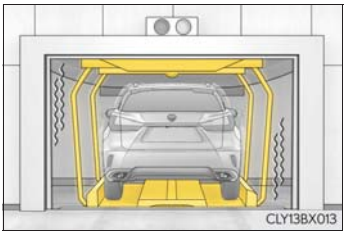
●ドアガラスやムーンルーフ★またはパノラマムーンルーフ★などが開いている場合、次のものを検知することがあります。
・ 室内に入った落ち葉・虫・風など
・ 他車の侵入センサーなどが発する超音波
・ 室外の歩行者の動き



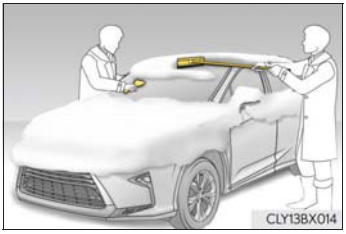
●マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合



●立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車した場合



●雪かきやガラスに付着した氷を削り落とすときに、連続的な衝撃や振動が車両に伝わった場合



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●高圧洗車機や自動洗車機などを使う場合

●ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わった場合

⚠注意

■侵入センサーを正しく作動させるために

●センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴射しないでください。

●センサーの穴はふさがないようにしてください。

●運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

メーターの見方

2

2. メーターの見方

警告灯／表示灯 74
計器類 79
マルチインフォメーション
ディスプレイ 83
ヘッドアップディスプレイ 103
Harmonious Driving Navi.
画面／燃費画面 109

警告灯／表示灯

メーター・センターパネル・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

▶ F SPORT 以外

▶ F SPORT

警告灯

万一のシステム異常などを警告します。

※1

ブレーキ警告灯（→ P. 480）

※1

ブレーキ警告灯（→ P. 480）

※1

充電警告灯★（→ P. 480）

※1

エンジン警告灯（→ P. 480）

※1

SRS　エアバッグ／プリテンショナー警告灯（→ P. 480）

※1

ABS ＆ブレーキアシスト警告灯（→ P. 480）

（点滅）
パーキングブレーキ表示灯（→ P. 481）

※1

（点滅）
ブレーキホールド作動表示灯（→ P. 481）

※1

パワーステアリング警告灯（→ P. 481）

※1

パワーステアリング警告灯（→ P. 481）

LKA 表示灯（→ P. 481）

※1

スリップ表示灯（→ P. 481）

※1

（点滅）
PCS 警告灯（→ P. 482）

※1

（点滅）
ICS OFF 表示灯★（→ P. 482）

※1, 2

（点滅）
Stop ＆ Start キャンセル表示灯（→ P. 482）

燃料残量警告灯（→ P. 482）

シートベルト非着用警告灯（→ P. 483）

※1

タイヤ空気圧警告灯（→ P. 483）

※1

マスターウォーニング（→ P. 483）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイにオープニングが表示されているときは、点灯しない場合があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→ P. 215）

尾灯表示灯（→ P. 222）

ハイビーム表示灯（→ P. 222）

※1

オートマチックハイビーム表示灯★（→ P. 230）
アダプティブハイビームシステム表示灯★（→ P. 225）

フロントフォグランプ表示灯（→ P. 234）

リヤフォグランプ表示灯★（→ P. 234）

クルーズコントロール表示灯（→ P. 275）

レーダークルーズコントロール表示灯（→ P. 275）

クルーズコントロールセット表示灯（→ P. 275）

LKA 表示灯（→ P. 265）

LKA 表示灯（→ P. 265）

（点滅）
LKA 表示灯（→ P. 265）

クリアランスソナー表示灯★（→ P. 327）

※1, 3

ICS OFF 表示灯★（→ P. 340）

BSM 表示灯★（→ P. 313）

RCTA 表示灯★（→ P. 313）

※4, 5

BSM ドアミラーインジケーター★（→ P. 313）

※1

（点滅）
スリップ表示灯（→ P. 362）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1, 3
VSC OFF 表示灯（→ P. 363）

※1, 3
PCS 警告灯（→ P. 258）

※1, 2
Stop & Start 表示灯
（→ P. 302）

※1, 2, 3
Stop & Start キャンセル
表示灯（→ P. 305）

パーキングブレーキ表示灯
（→ P. 216）

※1
ブレーキホールドスタンバイ
表示灯（→ P. 220）

※1
ブレーキホールド作動表示灯
（→ P. 220）

※1
エコドライブインジケータ
ランプ（→ P. 100）

※6
セキュリティ表示灯
（→ P. 66, 67）

※1
AWD ロックモード
表示灯★（→ P. 359）

※7
低温表示灯（→ P. 79）

ITS Connect アイコン★
（→ P. 292）

ITS Connect アイコン★
（→ P. 292）

ITS Connect アイコン★
（→ P. 292）

● 走行モード表示

▶ F SPORT 以外

エコドライブモード表示灯
（→ P. 356）

SPORT 表示灯★
（→ P. 356）

SPORT S 表示灯★
（→ P. 356）

SPORT S+ 表示灯★
（→ P. 356）

カスタマイズモード表示灯★
（→ P. 356）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ F SPORT

エコドライブモード表示灯
（→ P. 356）

SPORT S 表示灯
（→ P. 356）

SPORT S+ 表示灯
（→ P. 356）

カスタマイズモード表示灯
（→ P. 356）

※1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイにオープニングが表示されているときは、点灯しない場合があります。

※3 システムが OFF のときに点灯します。

※4 作動確認のため次の条件のときインジケーターが点灯します。
- マルチインフォメーションディスプレイの で BSM の機能を ON に設定している状態で、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたとき
- エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態で、BSM の機能をマルチインフォメーションディスプレイの で ON にしたとき

システムが正常であればインジケーターは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※5 ドアミラーに表示されます。

※6 インストルメントパネルに表示されます。

※7 外気温が約 3 ℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

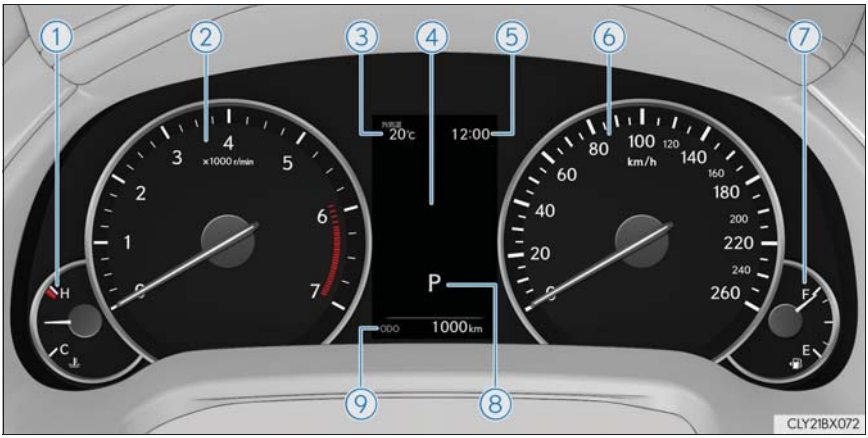
警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

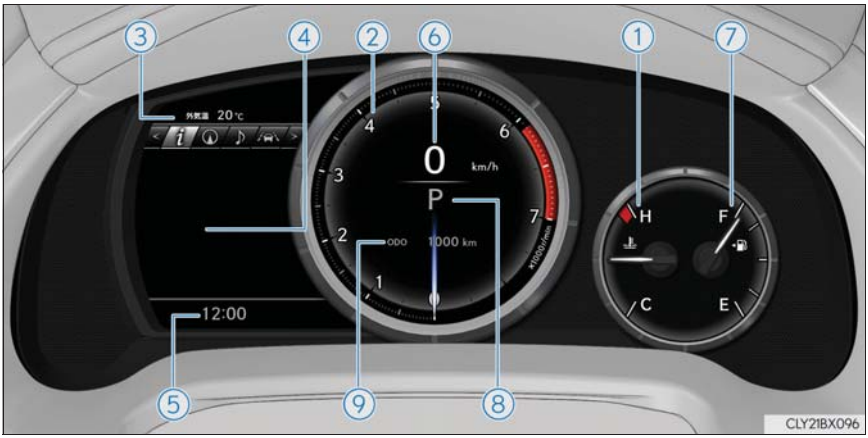
ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

計器類

▶ F SPORT 以外



▶ F SPORT



① 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

② タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

F SPORT：走行モードをスポーツモードに切りかえるとタコメーターの配色が変わり、目盛り部分などが強調表示されます。

③ 外気温

外気温度を -40 ℃ ～ 50 ℃ の間で表示します。外気温が約 3 ℃ 以下のときは、低温表示灯が点灯します。

④ マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→ P. 83）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→ P. 486）

⑤ 時計

表示される時刻は、インストルメントパネルのアナログ時計と連動しています。（→ P. 411）

⑥ スピードメーター

⑦ 燃料計

⑧ シフトポジション表示（→ P. 209）

⑨ オドメーター／トリップメーター（→ P. 98）

■ REV インジケーター（F SPORT）

設定したエンジン回転数に到達すると、タコメーター内にリング状のインジケーターを表示します。

REVインジケーターの表示を開始するエンジン回転数は、マルチインフォメーションディスプレイの ☼ で設定することができます。
（→ P. 92）

■ REV ピーク（F SPORT）

5000 r/min 以上の回転域で、エンジン回転数の最高値にタコメーター指針の残像を約 1 秒間表示します。

インストルメントパネル照度調整スイッチ

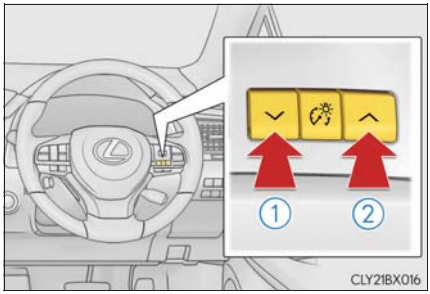
インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。

① 暗くする

② 明るくする

昼照度と夜照度 ※、それぞれの明るさのレベルを調整することができます。

※ 昼照度と夜照度：→ P. 82



知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■メーターの照度について（昼照度と夜照度）

メーターの照度には昼照度と夜照度があり、次のときに照度が切りかわります。

●昼照度：周囲が明るいときに車幅灯が点灯しているとき、または車幅灯が消灯しているとき

●夜照度：周囲が暗いときに車幅灯が点灯しているとき

■外気温表示について

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
・停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

●“--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■時計の設定について

で時計の設定を変更するときに時刻調整画面が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。
レクサス販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。（→ P. 92）

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

●タコメーターの表示がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

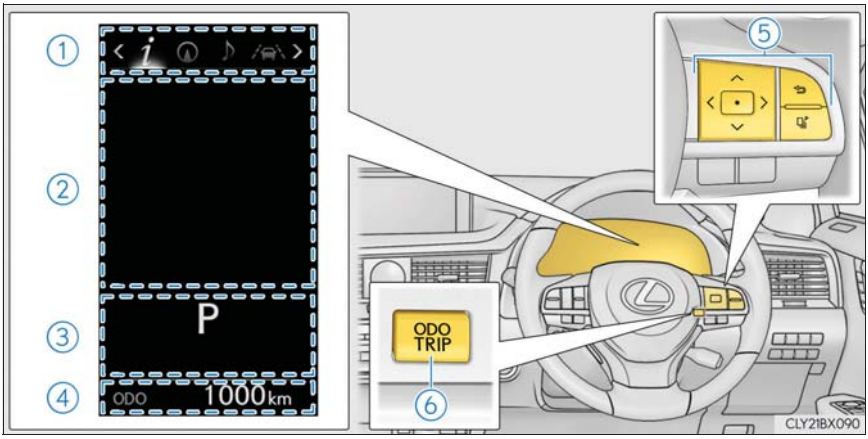
●水温計の表示がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 525）

マルチインフォメーションディスプレイ

機能概要

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示したり、設定を切りかえることができます。

▶ F SPORT 以外



① メニューアイコン表示エリア

メニューアイコンの切りかえ操作をしていないときは外気温と時計が表示されています。

・ メニューアイコン (→ P. 87)
・ 外気温 (→ P. 79)
・ 時計 (→ P. 79)

② コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを切り替えることにより、様々な情報を表示することができます。
また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

・ 各メニューの表示内容 (→ P. 87)
・ 提案サービス機能 (→ P. 99)
・ ITS Connect★ (→ P. 292)
・ 警告メッセージ (→ P. 486)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

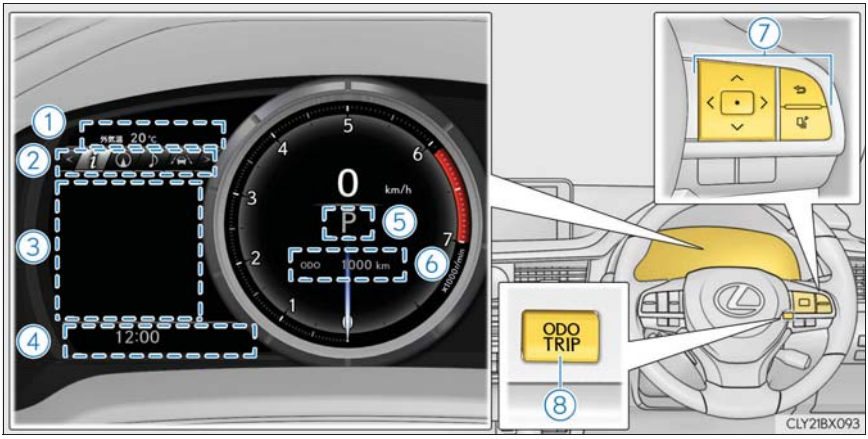
③ 表示灯／シフトポジション表示エリア
- 表示灯 (→ P. 74)
- シフトポジション表示 (→ P. 209)
- ITS Connect★の通信接続状態 (→ P. 294)

④ オドメーター／トリップメーター表示エリア (→ P. 98)
- オドメーター／トリップメーター
- Ⓐ アイドリングストップ時間

⑤ メーター操作スイッチ (→ P. 85)

⑥ ODO/TRIP スイッチ (→ P. 86)

▶ F SPORT



① 外気温表示エリア
- 外気温 (→ P. 79)
- ITS Connect★の通信接続状態 (→ P. 294)

② メニューアイコン (→ P. 87)

③ コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを切り替えることにより、様々な情報を表示することができます。
また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。
- 各メニューの表示内容 (→ P. 87)
- 提案サービス機能 (→ P. 99)
- ITS Connect★ (→ P. 292)
- 警告メッセージ (→ P. 486)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

④ 表示灯／時計表示エリア
- 表示灯 (→ P. 74)
- 時計 (→ P. 79)

⑤ シフトポジション表示 (→ P. 209)

⑥ オドメーター／トリップメーター表示エリア (→ P. 98)
- オドメーター／トリップメーター
- Ⓐ アイドリングストップ時間

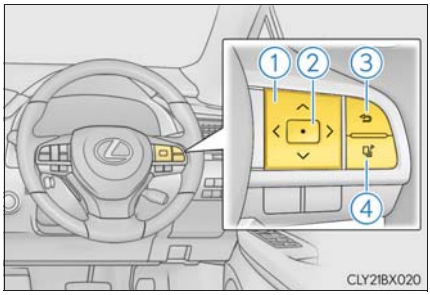
⑦ メーター操作スイッチ (→ P. 85)

⑧ ODO/TRIP スイッチ (→ P. 86)

操作方法

◆ コンテンツ表示エリアの操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



① ＜ ＞ :メニューの切りかえ
∧ ∨ :コンテンツの切りかえ、ページ送り、カーソル移動

② 短押し：決定
長押し：リセット

③ 前の画面にもどる
短押しと長押しで戻ることができる階層がかわります。

④ 短押し：トップ画面を表示する
長押し：トップ画面を登録する

■ トップ画面の登録

お好みの画面を登録することで、トップ画面を変更することができます。トップ画面を登録するには、登録したい画面を表示中に スイッチを長押ししてください。

・ スイッチを長押しすると、登録確認画面が表示されます。登録できない画面を選択しようとした場合は、登録不可のメッセージが表示されます。
・ 未登録時はドライブインフォメーション画面を表示します。

■ ドライブインフォメーションのリセット

i で表示される平均燃費（リセット間）・平均車速（リセット間）・走行時間（リセット間）をリセットするには、リセットしたい項目を表示中に スイッチを長押しします。

画面に表示されている項目が 2 つともリセット可能な場合は、選択画面が表示されます。

◆ オドメーター／トリップメーター表示エリアの操作方法

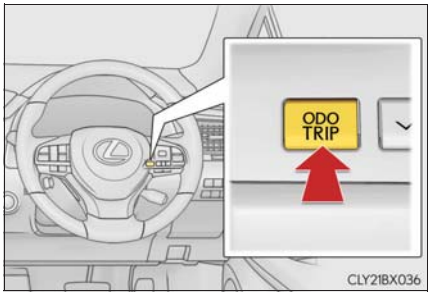
ODO/TRIP スイッチを使って次のように操作します。

短押し：表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示される項目が切りかわります。

長押し：リセット

トリップメーターを表示中にスイッチを長押しすると、走行距離を 0 にもどします。



メニューアイコン

メニューアイコンを選択して、次の項目を表示することができます。

ドライブインフォメーション (→ P. 88)

走行に関するさまざまな情報を表示します。

ナビゲーションシステム連携表示

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。
・ 目的地案内
・ コンパス（ヘッディングアップ表示）

オーディオシステム連携表示

オーディオソースの選択、選曲などを操作することができます。

運転支援システム情報

次のシステムの作動状況を表示します。
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）(→ P. 275)
・ LKA（レーンキーピングアシスト）(→ P. 265)
・ ITS Connect★（→ P. 292)

Stop & Start システム情報 (→ P. 91, 302)

Stop & Start システムの作動状況を表示します。

警告メッセージ（→ P. 486）

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。

設定（→ P. 92）

さまざまな機能の設定やメーターの表示設定などを変更することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドライブインフォメーション（ i ）

■ ドライブインフォメーション 1 ／ 2 ／ 3

次の走行に関する情報を表示します。

● ドライブインフォメーション 1
- 瞬間燃費
- リセット間平均燃費

● ドライブインフォメーション 2
- 航続可能距離
- リセット間平均車速

● ドライブインフォメーション 3
- 給油後平均燃費
- 始動後走行時間

表示する項目は メニューから変更することができます。（→ P. 92）

表示できる項目は次のとおりです。

項目		表示内容
瞬間燃費		現在の瞬間燃費を表示
平均燃費	リセット間	リセット後の平均燃費を表示 ※1、2
	始動後	エンジン始動後の平均燃費を表示 ※2
	給油後	給油後の平均燃費を表示 ※2、3
平均車速	リセット間	リセット後の平均車速を表示 ※1
	始動後	エンジン始動後の平均車速を表示
走行時間	リセット間	リセット後の経過時間を表示 ※1
	始動後	エンジン始動後の経過時間を表示
距離	航続可能距離	燃料残量による走行可能な距離を表示 ※3、4
	始動後	エンジン始動後の走行距離を表示
その他	ブランク	非表示

※1 リセット方法：→ P. 86

※2 表示される燃費は参考として利用してください。

※3 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
給油の際はエンジンスイッチを OFF にしてください。万一、エンジンスイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

※4 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できない場合があります。

■ エコドライブインジケーター

→ P. 100

■ ふらつき検知機能

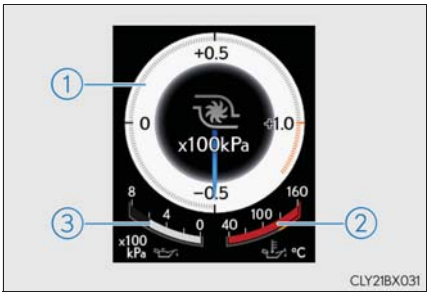
運転者の注意力が低下したときに発生するふらつき運転を検知し、注意力低下の度合いをバーの長さで表示します。
バーの長さが短いほど休憩が必要な状態であることを表します。

この表示は、LKA（レーンキーピングアシスト）の機能のひとつです。LKA（レーンキーピングアシスト）のふらつき警報機能の作動条件を満たしたときに、表示の機能が有効になります。（→ P. 265）

■ AWD Control★

各輪にかかる駆動力を目盛りの数で表示します。
目盛りの数が多いほど、駆動力が大きいことを示しています。

■ ブーストメーター／油温計／油圧計★



① ブーストメーター
過給圧を表示します。一定圧以上になると表示の色がかわります。

② 油温計
エンジンオイルの温度を表示します。エンジン油温が 140 ℃以上になると、表示が点滅します。

③ 油圧計
エンジン内部の油圧を表示します。油圧が低下すると、ブザーが鳴り、警告メッセージを表示します。（→ P. 488）

表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ G モニター★

車両にかかる前後左右の G（加速度）を表示します。

また、G モニターの周囲にはステアリング操作量・アクセル開度量・ブレーキ液圧が表示されます。

① 車両にかかる G

② 現在の G 値（前後左右に分解した値）

③ 最大 G の軌跡

④ アクセル開度量

⑤ ブレーキ液圧

⑥ ステアリング操作量

表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。

● 最大 G の軌跡のリセット

を長押しすることで、軌跡をリセットすることができます。

● ピークホールド機能

0.5G 以上の力を発生した場合、G 値表示が橙色に変わり、2 秒間保持されます。

■ タイヤ空気圧

→ P. 437

■ ブランク（非表示）

ブランク画面を表示します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

Stop & Start システム情報（Ⓐ）

■ 現在のアイドリングストップ時間／状態通知

現在のアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を表示します。

また、アイドリングストップの状態を状況に応じて割り込み表示でお知らせします。（→ P. 309）

■ 通算のアイドリングストップ時間／節約燃料

ハンドルの ∧ または ∨ スイッチを押して、次の項目を表示することができます。

● アイドリングストップ時間（始動後・リセット後）
次のアイドリングストップ時間を通算で表示します。
・ エンジン始動してからのアイドリングストップ時間
・ リセットしてからのアイドリングストップ時間

● 節約燃料（始動後・リセット後）
次のアイドリングストップ時間中の節約燃料を通算で表示します。
・ エンジン始動してからの節約燃料
・ リセットしてからの節約燃料

表示される節約燃料は参考として利用してください。

■ Stop & Start 設定

ハンドルの • スイッチを押すと、Stop & Start システムの設定画面が表示されます。

設定画面では、次の操作を行うことができます。

● Ⓐ Stop & Start

エアコンの「A/C」を ON にしているときのアイドリングストップ時間を Normal と Long の 2 段階から選択することができます。この設定は ⚙ からも変更することができます。

● リセット

アイドリングストップ時間・節約燃料をリセットします。

リセットするには、カーソルを「リセット」に合わせた状態で • スイッチを長押しします。

設定（⚙）

◆ 設定変更のしかた

ハンドルのメーター操作スイッチを操作して、次のように設定を変更します。

1. ＜ または ＞ スイッチを押して ⚙ を選択して、設定画面を表示させる
2. スイッチを操作して、変更する項目にカーソルを合わせる
3. 画面に表示されている内容に従って設定を変更する

◆ 設定変更できる項目

■ LKA（レーンキーピングアシスト）（→ P. 265）

次の LKA の設定を変更することができます。

項目	設定内容	説明
センタートレース	ON	車線維持支援機能の作動・非作動を変更することができます。※ 1
	OFF	
操舵支援	ON	ハンドル操舵支援の作動・非作動を変更することができます。※ 2
	OFF	
警報手段		警報の手段をハンドルの振動または警報ブザーのいずれかから選択することができます。
警報感度	高	警報の感度を変更することができます。
	普通	
ふらつき検知	ON	ふらつき警報機能の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	
ふらつき検知感度	高	ふらつき警報機能の感度を変更することができます。
	普通	
	低	

※1 車線維持支援機能の ON/OFF を切り替えると、ハンドル操舵支援の ON/OFF も連動して変更されます。

※2 ハンドル操舵支援を OFF にすると、車線維持支援機能も連動して OFF になります。

■ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）（→ P. 255）

次のプリクラッシュセーフティシステムの設定を変更することができます。

項目	設定内容	説明
PCS	ON	プリクラッシュセーフティシステムの作動・非作動を変更することができます。
	OFF	
警報感度		警報タイミングを変更することができます。

■ BSM（ブラインドスポットモニター）★（→ P. 313）

次のブラインドスポットモニターの設定を変更することができます。

項目	設定内容	説明
BSM	ON	BSM（ブラインドスポットモニター）機能の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	
RCTA※	ON	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	

※ BSM 機能が ON のときに、操作することができます。

■ クリアランスソナー★（→ P. 327）

項目	設定内容	説明
クリアランスソナー	ON	クリアランスソナーの作動・非作動を変更することができます。
	OFF	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ICS（インテリジェントクリアランスソナー [リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き]）★（→ P. 337）

項目	設定内容	説明
ICS	ON	インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	

■ HUD（ヘッドアップディスプレイ）★（→ P. 103）

次のヘッドアップディスプレイの設定を変更することができます。

項目	設定内容	説明
明るさ／位置		・＜ ／ ＞ スイッチで表示の明るさを調整できます。 ・∧ ／ ∨ スイッチで表示位置を調整できます。
インジケーター切替	表示なし	ヘッドアップディスプレイの表示内容を変更することができます。
	エコドライブインジケーター	
	タコメーター	
表示カスタマイズ	ナビゲーション	ヘッドアップディスプレイに表示する内容の表示・非表示を変更することができます。
	レーン	
	運転支援	

■ 時計（→ P. 79）

マルチインフォメーションディスプレイ内の時計の設定を変更することができます。

項目	設定内容	説明
表示の切りかえ	24 時間表示	時刻の表示方法を変更することができます。
	12 時間表示	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 車両設定

項目	設定内容	説明
PBD（パワーバックドア）（→ P. 131） 次のパワーバックドアの設定を変更することができます。		
機能	All On	パワーバックドアを作動可能な状態にします。
	タッチレスセンサーOff	タッチレスセンサーでの操作のみ作動できない状態にします。
	All Off	パワーバックドアを作動できない状態にします。
開位置調節	5	パワーバックドアを自動で開けたときの停止位置を変更することができます。
	4	
	3	
	2	
	1	
音量	大	パワーバックドア作動時のブザー音量を変更することができます。
	中	
	小	
Stop & Start システム（→ P. 302）		
Stop & Start	Normal	エアコンの A/C スイッチを ON にしているときの、Stop & Start システムによるアイドリングストップ時間を変更することができます。
	Long	
TPMS（タイヤ空気圧警報システム）（→ P. 437）		
タイヤ空気圧警報システムの初期化		タイヤ空気圧警報システムの初期化を行います。初期化するには スイッチを長押ししてください。 初期化操作は、必ずタイヤの空気圧を指定の数値に調整した後に行ってください。（→ P. 438）

項目	設定内容	説明
ITS Connect★（→ P. 292） 次の ITS Connect の設定を変更することができます。		
右折支援	ON	右折時注意喚起の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	
右折支援時期	早い	右折時注意喚起の表示タイミングを変更することができます。
	遅い	
赤信号支援	ON	赤信号注意喚起の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	
赤信号支援時期	早い	赤信号注意喚起の表示タイミングを変更することができます。
	遅い	
一時停止支援	ON	一時停止注意喚起の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	
一時停止支援時期	早い	一時停止注意喚起の表示タイミングを変更することができます。
	遅い	
前方停止車両通知	ON	前方停止車両存在案内の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	
わき道車両通知	ON	わき道車両存在案内の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	
緊急車両通知	ON	緊急車両存在通知の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	
信号待ち案内	ON	信号待ち発進準備案内の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	
クルーズ（ITS）	ON	通信利用型レーダークルーズコントロールの作動・非作動を変更することができます。
	OFF	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 表示設定

項目	設定内容	説明
言語		表示される言語を変更することができます。
単位		燃費表示の単位を変更することができます。
（エコドライブインジケーターランプ）	ON	エコドライブインジケーターランプの作動・非作動を変更することができます。（→ P. 100）
	OFF	
スイッチ設定		トップ画面を変更する方法を表示します。
ドライブインフォ 1		ドライブインフォメーションに表示させる項目をドライブインフォ1、ドライブインフォ2、ドライブインフォ3 それぞれに 2 項目ずつ選択することができます。（選択項目：→ P. 88）
ドライブインフォ 2		
ドライブインフォ 3		
割込表示	交差点案内	割り込み表示される項目の表示・非表示を変更することができます。
	電話着信	
	作動時間	
	状態通知	
	照度調整	
カラー（F SPORT 以外）	全 2 色	カーソルの色などを変更することができます。
指針（F SPORT）	全 3 色	タコメーターの指針色を変更することができます。

項目	設定内容	説明
REV インジケーター（F SPORT）	ON	REV インジケーターの作動・非作動を変更することができます。（→ P. 81）
	OFF	
	REV セッティング	REV インジケーターの表示を開始するエンジン回転数を設定します。 設定可能範囲： 2000 r/min ～ 6100 r/min
REV ピーク（F SPORT）	ON	REV ピークの作動・非作動を変更することができます。（→ P. 81）
	OFF	
表示設定初期化		メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

オドメーター／トリップメーター表示エリア

◆ 表示項目

■ オドメーター

走行した総距離を表示します。

■ トリップメーター A ／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中に ODO/TRIP スイッチを長押しします。

◆ 割り込み表示

状況に応じて次の情報が割り込み表示されます。

■ アイドリングストップ時間

Stop & Start システムによってエンジンが停止すると、現在のアイドリングストップ時間が表示されます。

提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにメーター操作スイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

カスタマイズ機能により、提案サービス機能の作動・非作動を変更することができます。(→P. 537)

■ パワーバックドア機能の ON 切り替え提案

パワーバックドアメインスイッチが OFF（ でパワーバックドアの機能を OFF に設定しているとき）の状態で運転席のパワーバックドアスイッチを操作したときに、メインスイッチを ON に変更する提案メッセージを表示します。
このとき「はい」を選択すると、メインスイッチが ON に変更されます。

メインスイッチが ON に変更されてから再度パワーバックドアスイッチを操作すると、バックドアを開閉することができます。

■ ヘッドランプ消灯提案

エンジンスイッチを OFF にした後にランプスイッチが「AUTO」の状態でヘッドランプを点灯したまましばらく車内にいると、ヘッドランプの消灯を提案するメッセージを表示します。
このとき「はい」を選択すると、ヘッドランプが消灯します。

エンジンスイッチを OFF にしてからメッセージが表示されるまでの間に運転席または助手席のドアを開けたときは、提案メッセージが表示されません。

■ 窓閉め提案（ワイパー連動）

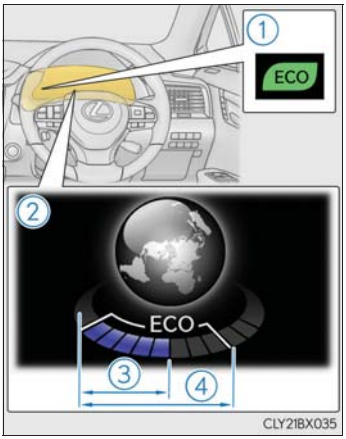
雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワイパーが動き始めるとドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。
このとき「はい」を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

■ 窓閉め提案（エンジンスイッチ連動）

ドアガラスが開いている状態でエンジンスイッチを OFF にすると、ドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。
このとき「はい」を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

知識

■エコドライブインジケーター



① エコドライブインジケーターランプ
環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

② エコドライブインジケーターゾーン表示
エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

③ 現状のアクセル開度
現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。
このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。

④ エコ運転の範囲

次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

- シフトレバーが D 以外にあるとき
- パドルシフトスイッチ★を操作しているとき
- 走行モードがスポーツモードのとき
- 車速が約 100 km/h 以上のとき

■ 表示灯／シフトポジション表示エリアの背景色について（F SPORT 以外）

走行モード (→ P. 356) によって背景色が切り替わります。

- エコドライブモード：青色
- スポーツモード：赤色

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■G モニターの表示について（F SPORT）

●傾斜のある場所など、路面の状況によっては停車中でもG値が0にならない場合があります。

●車両や使用環境によって、ブレーキペダルを一杯に踏み込んでもブレーキ液圧の表示が最大にならない場合があります。

●バッテリー端子の脱着をしたときは、一時的にステアリング操作量が表示されなくなりますが、しばらく走行することで表示されます。

■設定画面の操作について

●一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。

●警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

■タイヤ空気圧表示ついて

●エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたあと、空気圧が表示されるまで 2、3 分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで 2、3 分かかります。

●電波状況等によって各タイヤ位置の情報を識別できないときは"---"と表示されることがあります。

●タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象で、異常ではありません。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 92, 537）

警告

■**運転中の使用について**

●マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。

●マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■**低温時の画面表示について**

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えば変速段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐに変速段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**ディスプレイの設定を変更するとき**

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

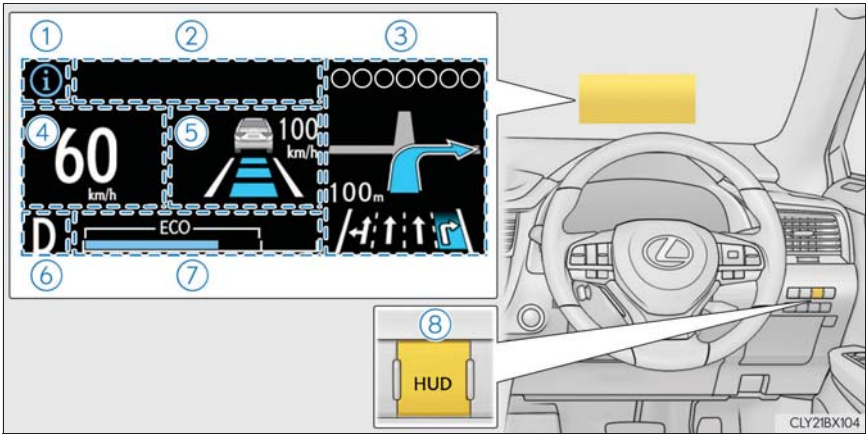
■**ディスプレイの設定を変更するとき**

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

ヘッドアップディスプレイ★

機能概要

ヘッドアップディスプレイはメーターやナビゲーションシステムと連携して、運転者の視界前方に現在の車速などのさまざまな情報を表示することができます。



① ⓘ／⚠アイコン（→ P. 105）

② メッセージ表示エリア（→ P. 106）
- メッセージ表示
- 外気温表示

③ ナビゲーションシステム連携表示エリア（→ P. 106）

ナビゲーションシステムと連携して、次の内容を表示します。
- 交差点名表示
- 目的地案内
- レーン表示

④ 車速表示

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⑤ 運転支援表示エリア

次のシステムの作動状況を表示します。
・ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）（→ P. 275）
・ LKA（レーンキーピングアシスト）（→ P. 265）
・ クリアランスソナー★（→ P. 327）
・ インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）★（→ P. 337）

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照ください。

⑥ シフトポジション表示（→ P. 209）

⑦ エコドライブインジケーター／タコメーター（→ P. 107）

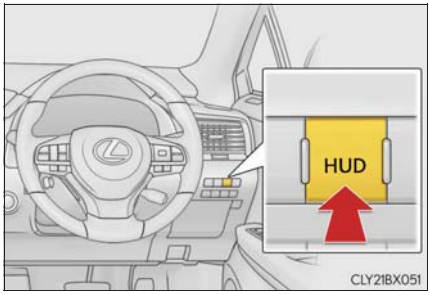
⑧ HUD スイッチ（→ P. 105）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドアップディスプレイの使い方

◆ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示切りかえ

HUD スイッチを押すと表示／非表示が切りかわります。



◆ ヘッドアップディスプレイの設定

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ で以下の設定を変更することができます。(→ P. 92)

■ 表示の明るさ／位置

表示の明るさや位置を調整することができます。

■ 表示内容

次の内容の表示／非表示を設定することができます。

・ 目的地案内
・ レーン表示
・ 運転支援

■ エコドライブインジケーター／タコメーター

エコドライブインジケーター表示／タコメーター表示／表示なしのいずれかから選択することができます。

ⓘ／⚠アイコン

マルチインフォメーションディスプレイと連携して、次のアイコンが表示されます。

⚠:マスターウォーニングアイコン
マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されている時に表示されます。(→ P. 486)

ⓘ:インフォメーションアイコン
マルチインフォメーションディスプレイに提案メッセージ・操作アドバイスメッセージが表示されている時に表示されます。(→ P. 99)

メッセージ表示エリア

状況に応じて、次の内容が表示されます。

■ メッセージ表示

次のシステムに関するメッセージを表示します。

・ プリクラッシュセーフティシステムによる衝突警報
・ ITS Connect による注意喚起★
・ インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）による注意喚起★
・ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）に関する通知
・ ETC に関する通知

■ 外気温表示

次の時に外気温が表示されます。

・ エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたとき
・ 低温表示灯が点滅しているとき

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの外気温表示と同様です。詳しくは、マルチインフォメーションディスプレイの外気温表示を参照してください。(→ P. 79)

ナビゲーションシステム連携表示エリア

ナビゲーションシステムと連携して、次の内容が表示されます。

■ 交差点名表示

状況に応じて、通過する交差点の名称が表示されます。

■ 目的地案内

ナビゲーションシステムで目的地案内を実行しているときに表示されます。交差点に接近すると、進行方向を矢印で指示します。

■ レーン（車線）表示

交差点にさしかかったとき、車線・進行方向などのレーン情報が表示されます。

ナビゲーションシステムで目的地案内を実行しているときには、走行を推奨する車線が青色で表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エコドライブインジケーター／タコメーター

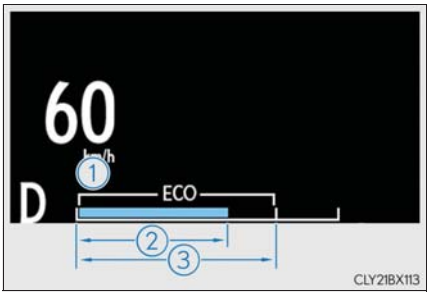
■ エコドライブインジケーター

① エコドライブインジケーターゾーン表示

② 現状のアクセル開度

③ エコ運転の範囲

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイのエコドライブインジケーターと同様です。詳しくは、P. 100 を参照してください。



■ タコメーター

毎分のエンジン回転数を表示します。

知識

■ヘッドアップディスプレイについて

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

■バッテリー端子の脱着をしたとき

ヘッドアップディスプレイのカスタマイズ設定がリセットされます。

■表示の明るさについて

マルチインフォメーションディスプレイの ☼ による明るさの調整に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。

■ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度イグニッション ON モードにしても、非表示のままです。

■交差点名表示について

地図データに情報がない場合など、状況によっては交差点名称が表示されない場合があります。

■レーン表示について

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の道路標識・表示や道路状況に従って走行してください。

警告

■**ヘッドアップディスプレイ使用上の留意点**

●映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。
調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■**ヘッドアップディスプレイの設定を変更するとき**

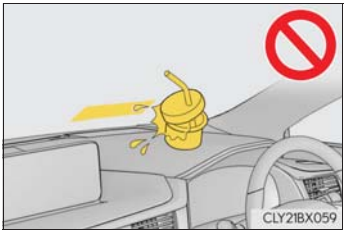
エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**ヘッドアップディスプレイ映写部についての注意**

●映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やそのほかの液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。

●映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。
ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。



●映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。
装置が故障する原因となります。

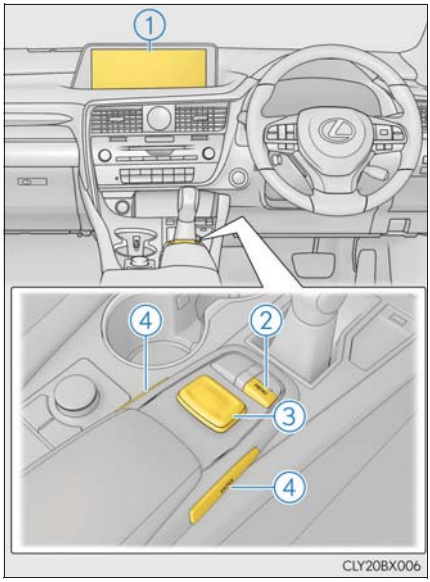
■**ヘッドアップディスプレイの設定を変更するとき**

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

Harmonious Driving Navi. 画面／燃費画面

燃費の情報をナビゲーション画面に表示します。
燃費画面は、サイド画面にも表示することができます。

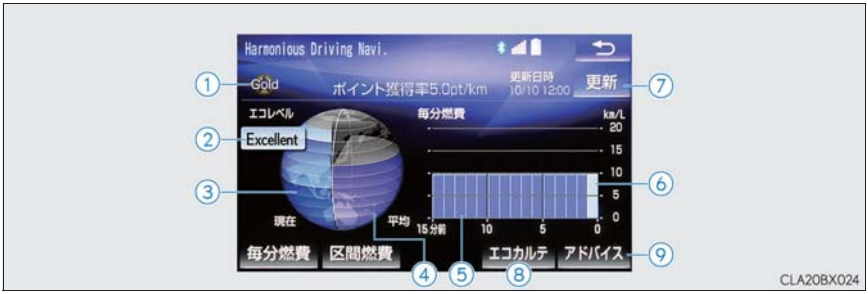
① ナビゲーション画面
② MENU スイッチ
③ リモートタッチノブ
④ ENTER スイッチ



Harmonious Driving Navi. 画面の見方

1 リモートタッチの MENU スイッチを押し、を選択する

2 情報画面の「Driving Navi」を選択する



① ステータス／ポイント獲得率表示 ※

エコ運転の採点結果や走行情報を G-Link センターに送信し、計算されたデータをもとにステータスやポイント獲得率を表示します。
ステータスはエコ運転を継続することでブロンズ、シルバー、ゴールドの順にランクがアップします。

② エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じて Good・Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

③ エコレベルメーター

エコドライブインジケーターランプの点灯を継続させることなどでメーターが増加します。

④ エコレベル平均値

エコレベルメーターの平均値を表示します。

⑤ 毎分燃費（前回エンジン始動～エンジン停止）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑥ 毎分燃費（今回エンジン始動～現在）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑦ 更新スイッチ ※

走行情報などを G-Link センターへ送信し、ステータス／ポイント表示を更新します。

⑧ エコカルテスイッチ ※

お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・CO_2 排出量・平均燃費・獲得ポイントが表示されます。

⑨ アドバイススイッチ

・ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。良いところを確認したり、さらに良くするにはどうしたら良いかを知ることができます。
・エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

※ G-Link サービスをご利用されているときに表示されます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

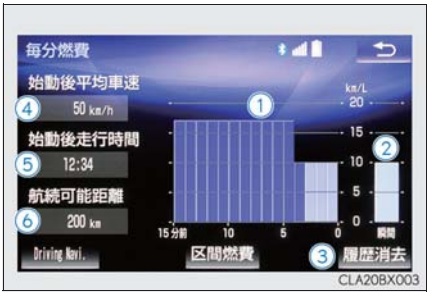
燃費画面の見方

1 リモートタッチの MENU スイッチを押し、を選択する

2 情報画面の「燃費」を選択する

■ 毎分燃費の見方

区間燃費画面が表示されたときは、「毎分燃費」を選択します。



① 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

② 瞬間燃費

③ 履歴消去

④ エンジン始動後平均車速

⑤ エンジン始動後走行時間

⑥ 航続可能距離（→ P. 113）

平均燃費はエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 区間燃費の見方

毎分燃費画面が表示されたときは、「区間燃費」を選択します。

① 最高燃費表示

② 平均燃費表示

③ 過去平均燃費表示

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

④ 履歴消去

⑤ 平均燃費更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■過去の区間平均燃費の記録を更新するには

区間燃費画面で「更新」を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

■G-Link センターへ送信する走行情報について

G-Link センターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費などとは一致しないことがあります。

■Harmonious Driving Navi. 画面について

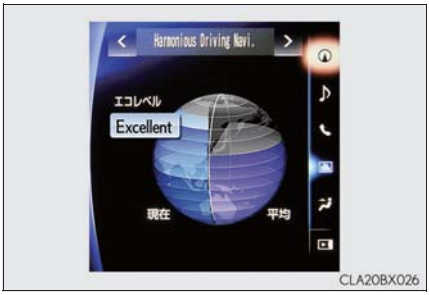
パソコンや携帯電話のユーザーサイトでもステータスなどをみることができます。

サイド画面の使い方

サイド画面に車両情報を表示して（→ P. 376）、< または > を選択してお好みの画面を表示します。

▶ Harmonious Driving Navi.

現在のエコ運転の状況を表示します。



▶ 毎分燃費

過去 10 分間の 1 分ごとの平均燃費と航続可能距離を表示します。

▶ 区間燃費

平均燃費と最高燃費を表示します。

▶ Trip Information

航続可能距離、平均燃費、始動後走行時間を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

各部の操作 3

3-1. キーの取り扱い

キー.....118

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア.....124

パワーバックドア 131

スマートエントリー＆スタートシステム 147

3-3. シートの調整

フロントシート 153

リヤシート 154

パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能.....163

ヘッドレスト 168

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 170

インナーミラー 172

ドアミラー 174

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉

パワーウインドウ 178

ムーンルーフ 182

パノラマムーンルーフ.....186

キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

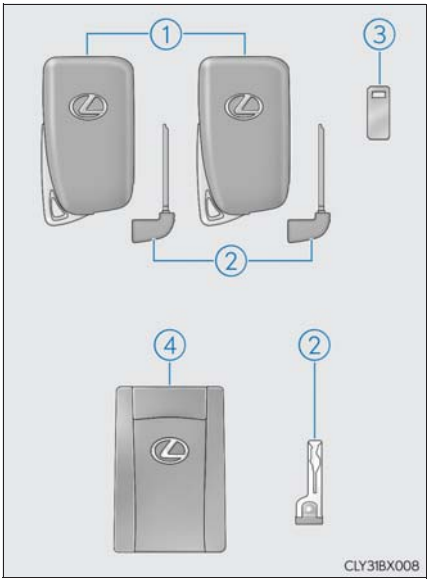
① 電子キー
- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→ P. 147）
- ワイヤレス機能の作動

② メカニカルキー

③ キーナンバープレート

④ カードキー（電子キー）

スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→ P. 147）



ワイヤレスリモコン

① 全ドアを施錠する（→ P. 124）

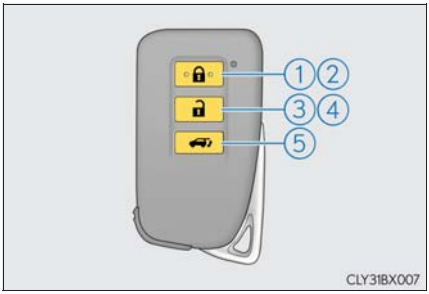
② ドアガラスとムーンルーフ★またはパノラマムーンルーフ★を閉める※（→ P. 124）

③ 全ドアを解錠する（→ P. 124）

④ ドアガラスとムーンルーフ★またはパノラマムーンルーフ★を開く※（→ P. 124）

⑤ パワーバックドアを開閉する（→ P. 131）

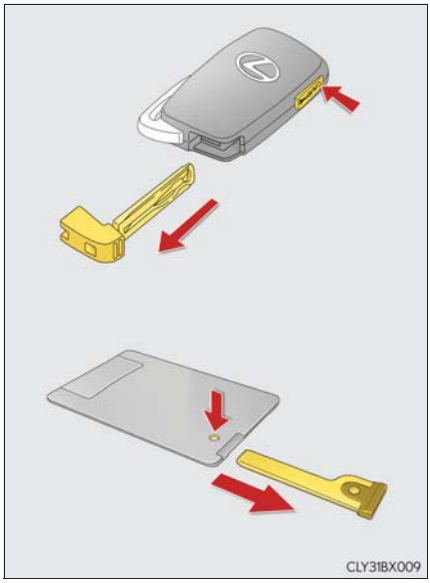
※ レクサス販売店での設定が必要です。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください



メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 517）

知識

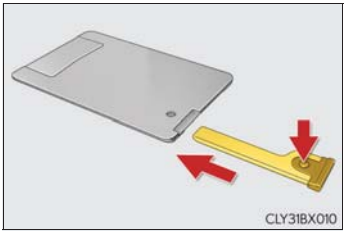
■カードキーについて

●カードキーは非防水です。

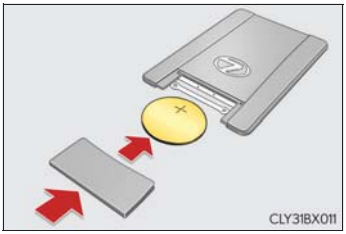
●カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。

●メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などで解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。

●メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



●電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。



■駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてグローブボックスを施錠（→ P. 398）します。メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は1～2年です。(カードキーの電池は1年半程度で消耗します)

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーのLEDが点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。
・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池の交換方法

→P. 451

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはレクサス販売店へご相談ください。

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

注意

■キーの故障を防ぐために

●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない

●湿度の高いところに長時間放置しない

●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない

●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない

●分解しない

●電子キー表面にシールなどを貼らない

●テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守り下さい。

●電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

●必ず日本国内でご使用下さい。

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キー（カードキーを含む）をお持ちください。

■電子キーを紛失したときは

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちのうえ、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

注意

■カードキーの取り扱いについて

●メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。

●電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。
水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。

●電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。

●電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。

●電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。

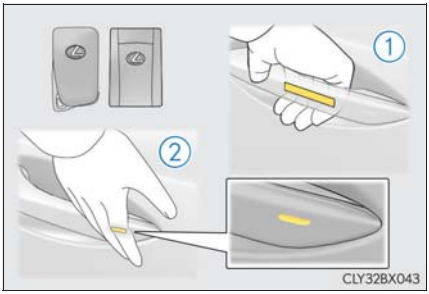
●次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
・小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
・シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
・シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

ドア

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。



① ハンドルを握って解錠する※

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

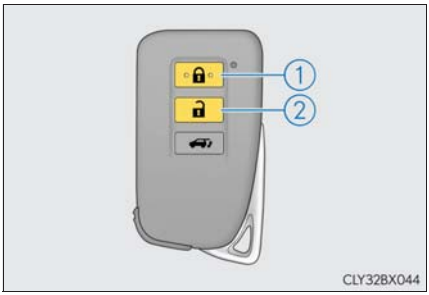
施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

※ 解錠の設定を変更することができます。（→ P. 128, 540）

② ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

◆ ワイヤレスリモコン



① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★またはパノラマムーンルーフ★が閉まります。※

② 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★またはパノラマムーンルーフ★が開きます。※

※ レクサス販売店での設定が必要です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動の合図

ドア：
ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。
（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

ドアガラスとムーンルーフまたはパノラマムーンルーフ：
ブザーで知らせます。

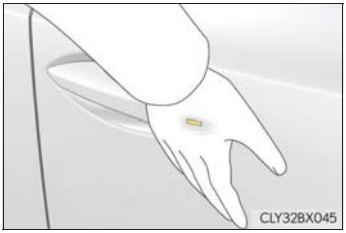
■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラームの設定

施錠するとオートアラームが設定されます。（→ P. 67）

■スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

●メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 517）

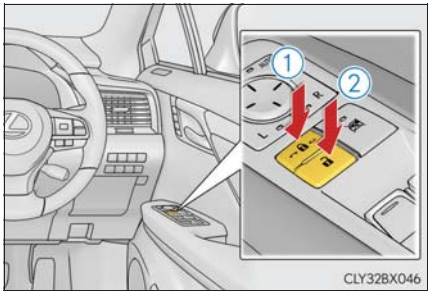
●電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 451）

車内からの施錠／解錠

◆ ドアロックスイッチ（施錠／解錠）

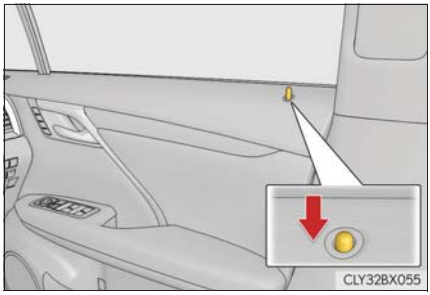
① 全ドアを施錠する

② 全ドアを解錠する



◆ ロックボタン（施錠）

ロックボタンを押し下げて、ドアを施錠する



◆ ドアハンドル（解錠）

▶ 運転席ドア

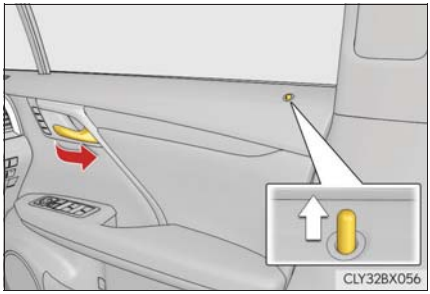
ドアハンドルを引くとドアが解錠され、ドアが開きます。

ドアが解錠されると、ロックボタンが上がります。

▶ 運転席以外のドア

ドアハンドルを引くとドアが解錠され、再度ドアハンドルを引くとドアが開きます。

ドアが解錠されると、ロックボタンが上がります。



キーを使わずに外側からドアを施錠するときは

▶ フロント席ドア

1 ロックボタンを押し下げる

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

▶ リヤ席ドア

1 ロックボタンを押し下げる

2 ドアを閉める

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

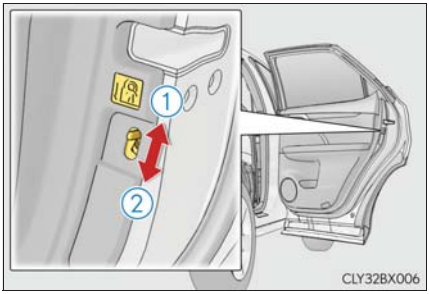
チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P. 537 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	エンジンが作動中にシフトレバーを P 以外にしたとき全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P にしたとき全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	エンジンスイッチを OFF にしてから 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

知識

■解錠ドアの切りかえ機能

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 オートアラームの侵入センサーを停止する
（操作中のオートアラーム誤作動防止：→ P. 70）

3 キー表面のインジケーターが消灯しているときに 🔒 ボタンと同時に、🔓 または 🚗 のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 3 を行ってください）

マルチインフォメーションディスプレイ表示	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠	車外：“ピピッ”（3 回） 車内：“ポーン”（1 回）
	運転席以外のドアハンドルを握ると全席解錠	
	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ”（2 回） 車内：“ポーン”（1 回）

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。（ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます）
オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→ P. 67）

■ **衝撃感知ドアロック解除システム**

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■ **メカニカルキーでの施錠・解錠**

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 517）

■ **チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方**

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■ **半ドア走行時警告ブザー**

全ドアまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえるとマスターウォーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。
開いているドアまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ **スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況**

→ P. 149

■ **カスタマイズ機能**

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。（→ P. 537）

警告

■ **事故を防ぐために**

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  特に、運転席はロックボタンが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ **ドアを開閉するときの留意事項**

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ **ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフまたはパノラマムーンルーフを操作するとき**

ドアガラスやムーンルーフまたはパノラマムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフまたはパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

パワーバックドア

パワーバックドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。

車外からの施錠／解錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

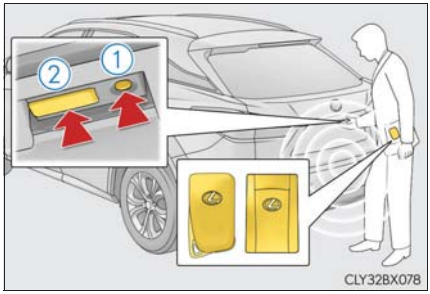
電子キーを携帯して操作します。

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。



◆ ワイヤレスリモコン

→ P. 124

車内からの解錠／施錠

◆ ドアロックスイッチ

→ P. 126

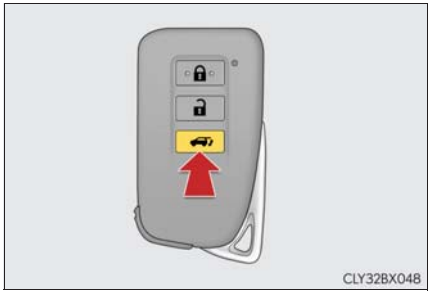
ワイヤレスリモコンでのパワーバックドアの開閉

スイッチを約 1 秒長押しする

パワーバックドア解錠時※ に作動させることができます。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動を停止します。
作動を停止した状態から再度、スイッチを約1秒間長押しすると、パワーバックドアは反転作動します。

※ カスタマイズ機能により、施錠時からでも作動できるように設定できます。(→ P. 541)

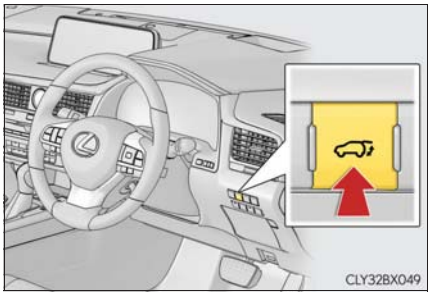


車内からパワーバックドアを開閉するには

スイッチを約 1 秒長押しする

ブザーが鳴りパワーバックドアが自動で開閉します。ただしパワーバックドア施錠状態では、スイッチは作動しません。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動を停止します。
作動を停止した状態から再度、スイッチを約1秒間長押しすると、パワーバックドアは反転作動します。



車外からパワーバックドアを開けるには

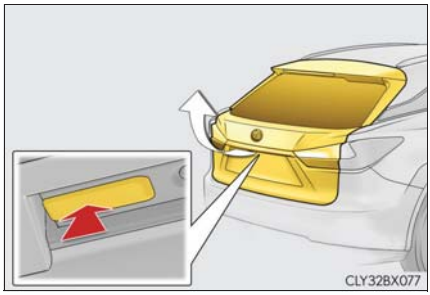
■ バックドアオープンスイッチ

パワーバックドア解錠時:バックドアオープンスイッチを押す

パワーバックドア施錠時:電子キーを携帯して、バックドアオープンスイッチを長押しする

ブザーが鳴りパワーバックドアが自動で開きます。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動を停止します。

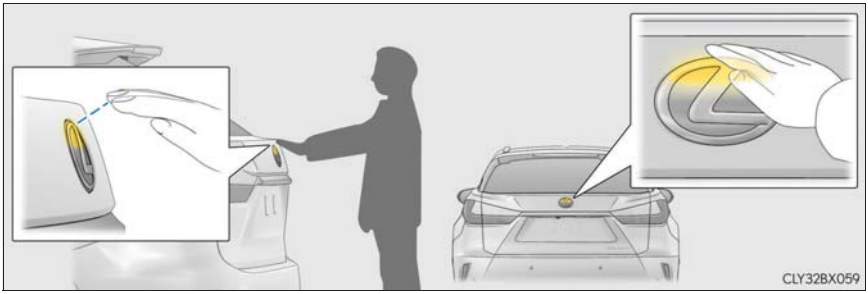


■ ワイヤレスリモコン

→ P. 131

■ タッチレスセンサー

タッチレスパワーバックドアは、リヤエンブレムの上部に手を近づける、またはリヤエンブレムの上部に触ることでパワーバックドアを自動で開けることができます。操作するときは、タッチレスセンサーの作動が ON(→ P. 95) であることを確認し、電子キーを携帯してください。



1 電子キーを携帯した状態で、ゆっくりリヤエンブレムに手を近づけ、ブザーが鳴るまでリヤエンブレムの上部に手をかざし保持する（リヤエンブレム上部に触ることでも作動します）

全ドア施錠時：リヤエンブレムに手をかざしタッチレスセンサーが手を感知すると、全ドアが解錠されます。

2 ブザーが鳴ったら、すぐに手を離す

ブザーが鳴ったらすぐに手を離してください。手を離さないとブザーが 2 回鳴りパワーバックドアは作動しません。

3 パワーバックドアが開く

作動を停止するときは、リヤエンブレムに触ることで停止します。
再作動を行う場合は、パワーバックドアスイッチ (→ P. 132, 134) を操作してください。（リヤエンブレムに触れてもタッチレスセンサーでは再作動はできません）

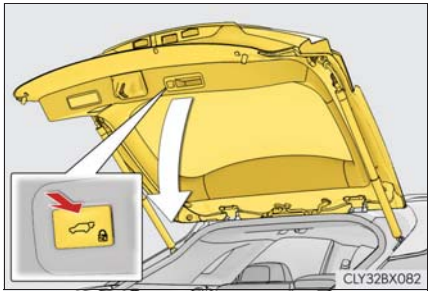
車外からパワーバックドアを閉じるには

■ パワーバックドアスイッチを使用して閉じるには

スイッチを押す

ブザーが鳴りパワーバックドアが自動で閉まります。

パワーバックドアが閉まる途中で スイッチを押すと、作動を停止します。
再度スイッチを押すと、パワーバックドアは自動で開きます。



▶ クローズ＆ロック機能

スイッチを 2 回短押しする

通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、パワーバックドアが自動で閉まります。閉まると同時にすべてのドアが施錠されたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

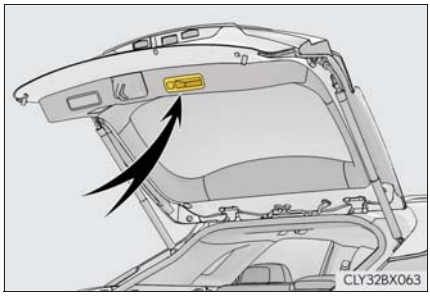
パワーバックドアが閉まる途中で スイッチを押すと、作動を停止します。

再度スイッチを押すと、パワーバックドアは自動で開きます。

■ バックドアグリップを使用して閉じるには

バックドアグリップを持ってパワーバックドアを引き下げる

ブザーが鳴りパワーバックドアが自動で閉まります。



パワーバックドアの設定を変更するには

マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定変更を行います。(→ P. 92)

パワーバックドア自動開停止位置調整について

パワーバックドアを自動で開けたときの停止位置を変更することができます。

▶ スイッチで設定するには

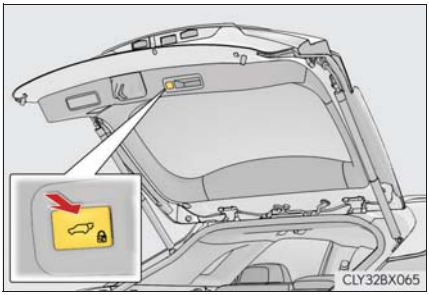
1 パワーバックドアをお好みの位置で停止させる（→ P. 132, 134）

2 パワーバックドア下部の

スイッチを約 2 秒間長押しする

・設定が完了するとブザーが 4 回鳴ります。

・次回パワーバックドアを開けると、その位置でパワーバックドアが停止します。



▶ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

マルチインフォメーションディスプレイで停止位置を設定できます。(→ P. 83)

▶ ナビゲーションシステムで設定するには

ナビゲーションシステムで停止位置を設定できます。(→ P. 539)

スイッチ・マルチインフォメーションディスプレイ・ナビゲーションシステムのうち、最後に設定した停止位置が優先されます。

調整した位置を初期状態の位置にもどすには（→ P. 139）

知識

■パワーバックドアの作動可能条件

パワーバックドアの作動が ON（→ P. 95）で、次の作動条件を満たしているときに自動で開閉できます。

●パワーバックドアが解錠されているとき、ただし次のときはパワーバックドアが施錠されていてもパワーバックドアは作動します。
・ 電子キーを携帯してバックドアオープンスイッチを押したとき
・ カスタマイズ機能により施錠時からでもワイヤレスリモコンの作動ができるように設定したとき（→ P. 539）

● エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき開作動するには、上記に加え、車速が約 3 km/h 以下で、次のいずれかの条件で作動します。
・ パーキングブレーキがかかっている
・ ブレーキペダルを踏んでいる
・ シフトレバーが P の位置にある

▶タッチレスセンサー

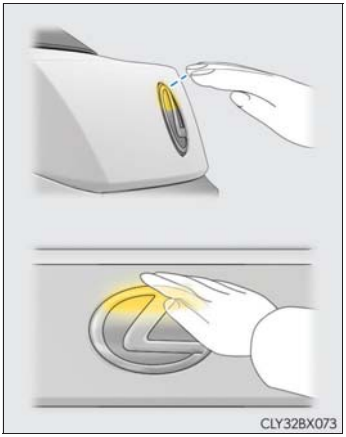
タッチレスセンサーの作動が ON(→ P. 95) で、次の作動条件を満たしているときに自動で開きます。

●パワーバックドアが完全に閉じているとき

●電子キーが作動範囲内にあるとき (→ P. 147)

●指を揃えリヤエンブレムの上部に手を傾けて近づけたとき（リヤエンブレム上部に触ることでも作動します）

次の方法でも、リヤエンブレムの上部に傾けて近づけたときに操作できます。ただし、リヤエンブレムとの距離は同じにしてください。
・ 手袋をした手で操作したとき
・ 肘で操作したとき



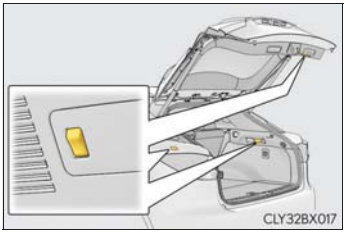
■解錠操作のセキリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ラゲージルームランプ

スイッチを ON にしておくと、パワーバックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

エンジンスイッチを OFF にしたときに、ラゲージルームランプが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

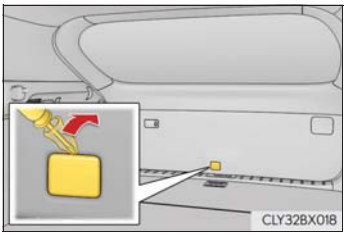


■パワーバックドアが開かないときは

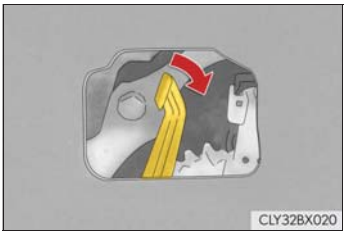
パワーバックドアを内側から開けることができます。

1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



2 レバーを押す



■バックドアイージークローザー

パワーバックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

●エンジンスイッチがどの状態であっても、バックドアイージークローザーは作動します。

●バックドアイージークローザーが作動中でも、バックドアオープンスイッチを押してパワーバックドアを開けることができます。

■パワーバックドアの作動について

●作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が 2 回点滅します。

●パワーバックドアの作動がOFF(→P. 95)のときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。

●パワーバックドア自動開閉中に、バックドアオープンスイッチを押すと、パワーバックドアの作動が停止し、手動操作に切りかわります。

●パワーバックドア自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、パワーバックドア開作動中はすぐに停止、パワーバックドア閉作動中は自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。

■バックドア予約ロック機能について

パワーバックドアが開いている状態で、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。次の操作をすると、パワーバックドア以外のすべてのドアが施錠され、パワーバックドアが閉まると同時にパワーバックドアも施錠されます。

1 パワーバックドア以外のすべてのドアを閉じる

2 パワーバックドアの自動閉作動中にワイヤレスリモコンの施錠操作を行う（→ P. 124）または、スマートエントリー＆スタートシステムによる施錠操作を行う（→ P. 124, 131）

■クローズ＆ロック機能について

パワーバックドアが開いている状態で、パワーバックドアを閉じると同時に全ドアを施錠する機能です。

次の操作をすると、パワーバックドアが閉まると同時に全ドアも施錠されます。

1 パワーバックドア以外のすべてのドアを閉じる

2 電子キーを携帯した状態で、パワーバックドア下部の スイッチ（→ P. 134）を 2 回短押しする

通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、パワーバックドアが閉じると同時にすべてのドアが施錠したことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

ただし次の条件を満たしていることが必要です。

●パワーバックドア開閉の前回操作が、パワーバックドア開作動にて停止していること

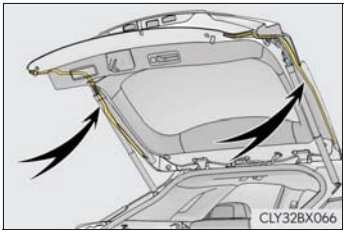
●自車のもう一つの電子キーを車室内に置いていないこと

■バッテリーを再接続したときは

パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてパワーバックドアを手動で一度全閉にしてください。

■挟み込み防止機能

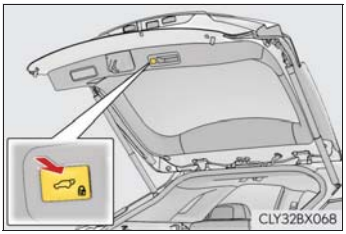
パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。パワーバックドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からパワーバックドアは自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。



■パワーバックドア自動開停止位置調整で設定した停止位置を解除するには

パワーバックドア下部の スイッチを約 7 秒間押し続ける。

ブザーが 2 回鳴ります。次回パワーバックドアを開ける操作をすると、初期状態の位置までパワーバックドアが開きます。



■クローズ＆ロック機能が正常に作動しない状況

クローズ＆ロック機能は、次のような状況では作動しないことがあります。

●電子キーを持った手でパワーバックドア下部の スイッチ(→P. 134)を押したとき

●地面に置いたかばんなどに電子キーを入れたままパワーバックドア下部の スイッチ (→ P. 134) を押したとき

●パワーバックドア下部の スイッチ(→P. 134)から離れた位置から押したとき

■タッチレスセンサーが誤作動するおそれのある状況

タッチレスセンサーは、次のような状況で誤作動するおそれがあります。

誤作動を防ぐため電子キーを携帯して作動範囲内に入らない、またはタッチレスセンサーの作動を OFF（→ P. 95）にしてください。

●リヤエンブレムに大雨などで大量の水がかかっているとき

●リヤエンブレムに洗車で水をかけたとき

●リヤエンブレムの汚れを拭き取る動作をしたとき

●リヤエンブレムに背中をもたれかけたとき（反り返ったとき）

●リヤエンブレムに金属体などを近づけたとき

●リヤエンブレムの近くでカーカバーの脱着作業を行ったとき

■タッチレスセンサーが正常に作動しない状況

次のような場合にタッチレスセンサーが正常に作動しないときは、バックドアオープンスイッチ（→ P. 134）から操作してください。

●タッチレスセンサーは、次のような状況では一時的に感度が低下して作動しないことがあります。
・リヤエンブレムに大雨などで大量の水がかかっているとき
・リヤエンブレムに洗車で水をかけたとき
・リヤエンブレムの汚れを拭き取り後、数秒間
・リヤエンブレムの表面に泥・雪・氷などが付着したとき
・リヤエンブレムに草木などの動くものがふれる状態が長期間続いたとき
・タッチレスセンサーの感度をさまたげる電波があるとき

●タッチレスセンサーは、次のような状況では作動しません。
・電子キーを携帯していないとき
・電子キーが作動範囲外にあるとき
・電子キーと車両間の通信をさまたげる電波があるとき（→ P. 149）
・パワーバックドアが完全に閉じていないとき
・リヤエンブレムに対し手を傾けず平行に近づけたとき ※

※レクサス販売店により、設定変更できます。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 92, 537）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

走行前にパワーバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
パワーバックドアが完全に閉まっていないと、走行中にパワーバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中はパワーバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、パワーバックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にパワーバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはパワーバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にパワーバックドアが動いたり、閉めるときに手・腕・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。（パワーバックドアの作動を OFF にすることでパワーバックドアは作動しません。→ P. 95）

警告

■**パワーバックドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●パワーバックドアを開ける前に、パワーバックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでパワーバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●パワーバックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

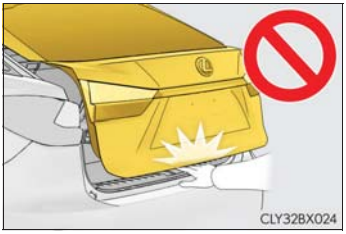
●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。
パワーバックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、パワーバックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずパワーバックドアが静止していることを確認して使用してください。

●パワーバックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●パワーバックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップを持ったままパワーバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。



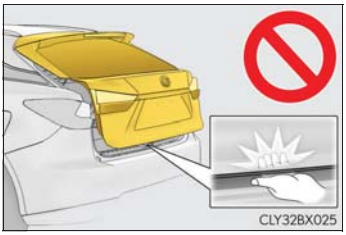
●スピンドルユニット（→ P. 145）を持ってパワーバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、スピンドルユニットが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●パワーバックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・腕・頭・首などを挟むおそれがあります。パワーバックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

警告

■バックドアイージークローザーについて

●パワーバックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



●バックドアイージークローザーは、パワーバックドアの作動がOFFのときにも作動するため、指などの挟みこみには十分注意してください。

■パワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●自動開閉中にパワーバックドアの作動を OFF（→ P. 95）にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、パワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●自動開閉中に作動可能条件（→ P. 136）を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、傾斜した場所ではパワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。

●傾斜した場所では、開いたあとにパワーバックドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。

●次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、パワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
・自動作動中、障害物に干渉したとき
・エンジン停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

警告

- パワーバックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・腕・頭・首などを挟むおそれがあります。パワーバックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

■挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、パワーバックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

注意

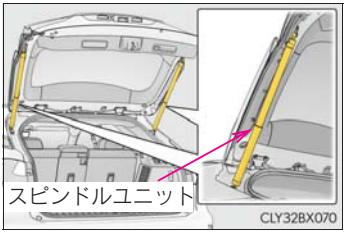
■スピンドルユニットについて

パワーバックドアにはパワーバックドアを支えるためのスピンドルユニットが取り付けられています。スピンドルユニットの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をスピンドルユニットに付着させない

●パワーバックドアにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない

●スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



■バックドアイージークローザーの故障を防ぐために

●バックドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、バックドアイージークローザーの故障の原因となります。

●パワーバックドアの開け閉めを短時間にくり返すとバックドアイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、いったんパワーバックドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

■パワーバックドアの故障を防ぐために

●パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるパワーバックドアの貼り付きがないことを確認してください。パワーバックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。

●パワーバックドアの作動中は、パワーバックドアに無理に力をかけないでください。

●パワーバックドア左右端部のセンサー（→ P. 139）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

■クローズ＆ロック機能について

クローズ＆ロック機能でパワーバックドアを閉じると、通常ブザーと異なるブザー音が鳴り作動します。
正常に作動開始したことを確認するため、通常ブザーと異なるブザー音が鳴ったことを確認してください。
またパワーバックドアが完全に閉じ施錠されると、すべてのドアが施錠されたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。
車から離れるときは、ドアロックアンサーバックを確認し、全ドアが施錠されたことを確認してください。

注意

■タッチレスセンサーについて

タッチレスセンサーは、リヤエンブレムの内側に設置されています。タッチレスパワーバックドアを正しく作動させるために次のことをお守りください。

●電子キーを携帯して作動範囲内で操作する

●リヤエンブレムは常にきれいにしておく
リヤエンブレムに汚れや着雪などがある場合、タッチレスセンサーが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落とした後、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。

●リヤエンブレムに親水性コーティングなどの液体を塗らない

●リヤエンブレムに草木など動くものを近づけない
リヤエンブレムに草木などの動くものがふれる状態が長期間続いたときは、タッチレスセンサーが作動しなくなることがあります。その場合、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。

●リヤエンブレムへの強い衝撃を避ける
リヤエンブレムが強い衝撃を受けると、タッチレスセンサーが正常に作動しなくなるおそれがあります。
次のような場合にタッチレスセンサーが作動しないときは、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
・タッチレスセンサーやタッチレスセンサー周辺に強い衝撃を受けた
・リヤエンブレムに傷や破損がある

●リヤエンブレムを分解しない

●リヤエンブレムにステッカーなどを貼らない

●リヤエンブレムを塗装しない

●パワーバックドアに自転車キャリアなどを取り付けた場合は、タッチレスセンサーの作動を OFF（→ P. 95）にする

■誤作動を防ぐために

タッチレスセンサーを使用しないときは、マルチインフォメーションディスプレイの操作によりタッチレスセンサーの作動を OFF（→ P. 95）にしてください。

スマートエントリー＆スタートシステム

電子キー（カードキー含む）をポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する（→ P. 124）
- バックドアを施錠・解錠する（→ P. 131）
- エンジンを始動する（→ P. 204）

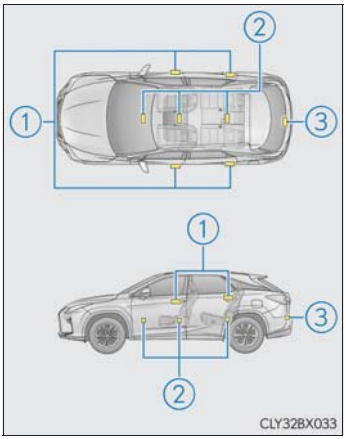
知識

■アンテナの位置

① 車外アンテナ

② 車内アンテナ

③ ラゲージルーム外アンテナ



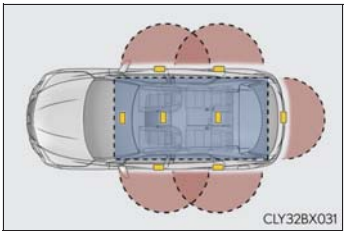
■作動範囲（電子キーの検知エリア）

：ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

：エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。



■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→ P. 486）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と5秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。

■マルチインフォメーションディスプレイにスマートエントリー＆スタートシステム故障の警告メッセージが表示されたときは

→ P. 486

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

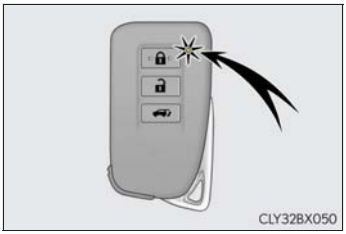
●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの 🔒 を押しながら、🔓 を 2 回押し、電子キーのインジケータが４回光ることを確認してください。



節電モード中は、スマートエントリー& スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→ P. 517）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
- ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
- ・アルミ箔を使用したタバコの箱
- ・金属製の財布やかばん
- ・小銭
- ・カイロ
- ・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
- ・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
- ・他の車の電子キー、自車のもう一つの電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
- ・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
- ・デジタルオーディオプレーヤー
- ・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
・ドアの施錠･解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・バックドアを開けるとき、電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている
・エンジン始動時またはエンジンスイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ラゲージルーム・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれていた

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、エンジンを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。※

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
・キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する （→ P. 149）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

●ドアハンドルを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

※ レクサス販売店での設定変更が可能です。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。（→ P. 537）

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドアの施錠・解錠：→ P. 517

●エンジンの始動：→ P. 519

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。（→ P. 537）

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

●ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 124, 131, 517）

●エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→ P. 519

●エンジンの停止：→ P. 204

警告

■**電波がおよぼす影響について**

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→ P. 147）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

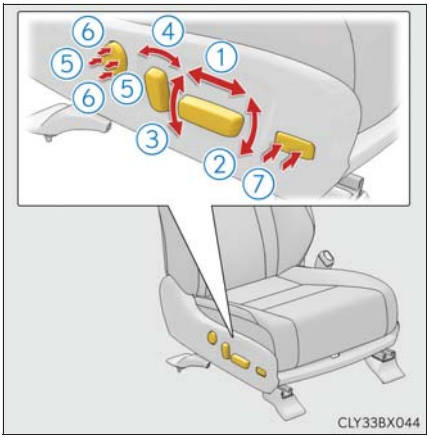
●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた

① 前後位置調整
② クッション前端の上下調整
③ シート全体の上下調整
④ リクライニング調整
⑤ 腰部硬さ調整
（ランバーサポート）
⑥ 腰部高さ調整
（ランバーサポート）★
⑦ クッションの長さ調整★



知識

■パワーイージーアクセスシステム

エンジンスイッチのモード切りかえ・運転席のシートベルト脱着に連動して、運転席シート★とハンドルが動きます。（→ P. 163）

警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

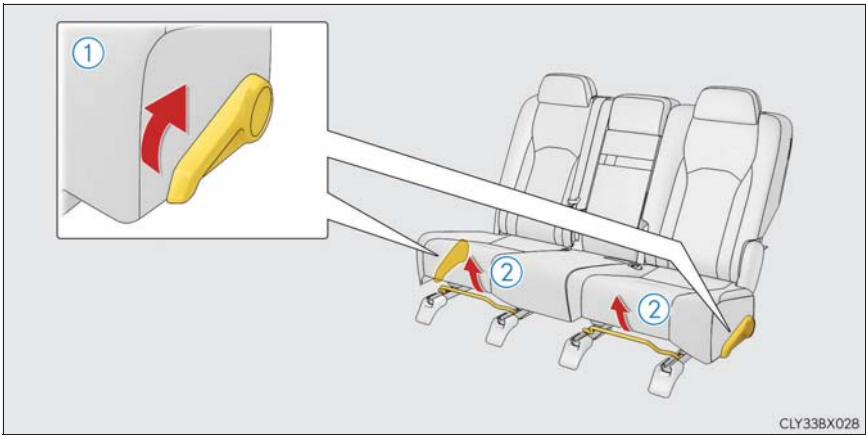
背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤシート

調整のしかた

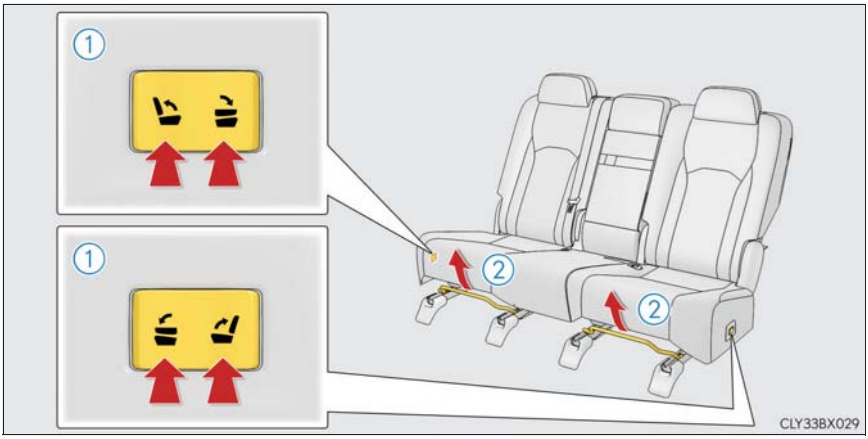
▶ マニュアルシート装着車



① リクライニング調整

② 前後位置調整

▶ パワーシート装着車



① リクライニング調整

② 前後位置調整

背もたれを倒す

■ 操作する前に

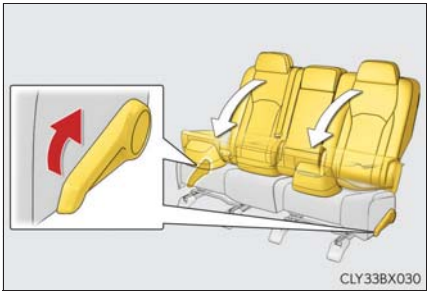
1 リヤ中央席のシートベルトとバックルを格納する

2 ヘッドレストをいちばん下まで下げる（→ P. 168）

■ 前に倒すときは（マニュアルシート装着車）

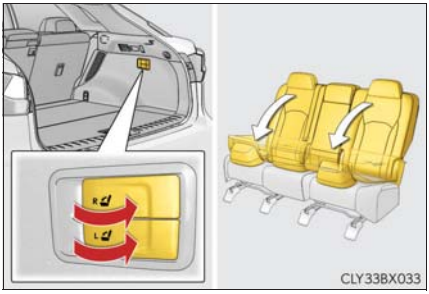
▶ リヤ席レバー

レバーを引いて背もたれを倒す



▶ ラゲージルーム内レバー

レバーを引いて背もたれを倒す



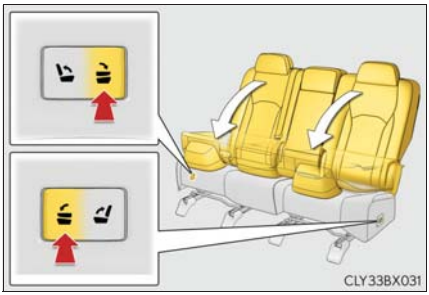
■ **前に倒すときは（パワーシート装着車）**

スイッチを長押しして背もたれを倒す

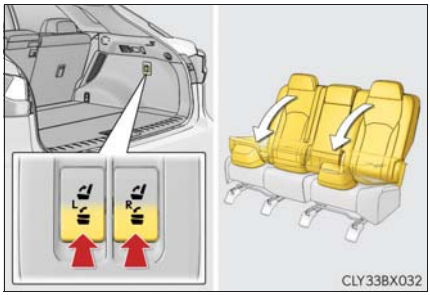
ブザーが鳴り、作動を開始します。作動が完了すると、再度ブザーが鳴ります。

途中で止めるには、もう一度スイッチのどちらかを押すか、他の位置にある、止めたいシート側の操作スイッチを押してください。（止める位置によっては、ブザーが鳴ります）

▶ リヤ席スイッチ



▶ ラゲージルーム内スイッチ

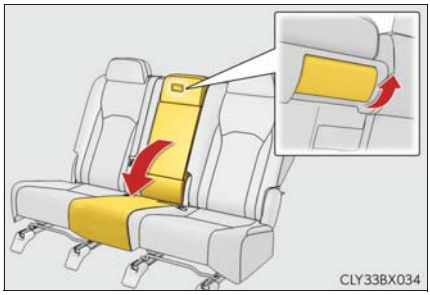


リヤ席スイッチ操作時：背もたれがうしろに倒れている場合は、背もたれを直立位置にし、再度スイッチを押してください。

■ **中央のシートだけを倒すときは**

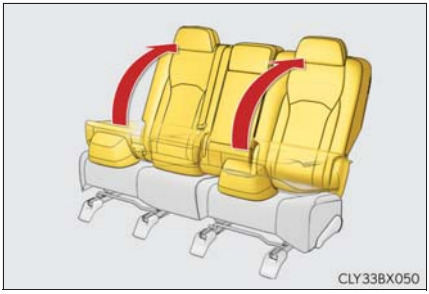
レバーを引いて背もたれを前方に倒す

もどすときは背もたれを起こし、固定してください。

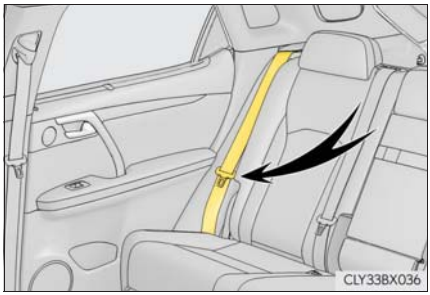


■ 背もたれをもとにもどすときは（マニュアルシート装着車）

1 背もたれを起こし固定する



2 シートベルトのプレートがシートの前側にあることを確認する



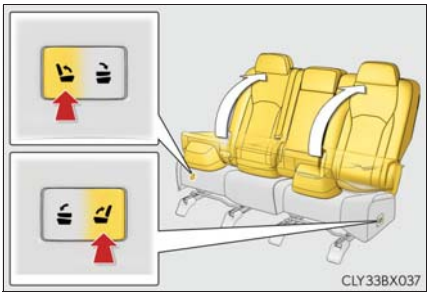
■ 背もたれをもとにもどすときは（パワーシート装着車）

1 スイッチを長押しして背もたれをもとにもどす

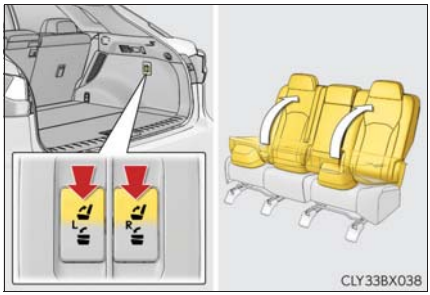
ブザーが鳴り、作動を開始します。作動が完了すると、再度ブザーが鳴ります。

途中で止めるには、もう一度スイッチのどちらかを押すか、他の位置にある、止めたいシート側の操作スイッチを押してください。（止める位置によっては、ブザーが鳴ります）

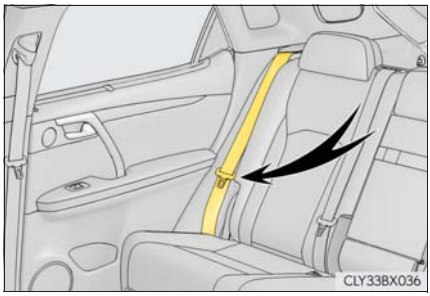
▶ リヤ席スイッチ



▶ ラゲージルーム内スイッチ



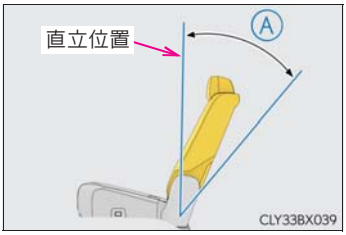
2 シートベルトのプレートがシートの前側にあることを確認する



知識

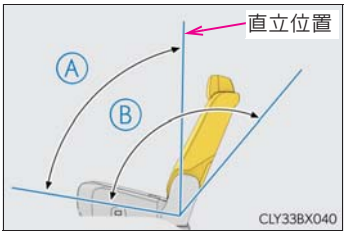
■リクライニング調整の作動条件（パワーシート装着車）

背もたれの位置が図のAの範囲のとき、リヤ席スイッチ操作でリクライニング調整が可能になります。



■背もたれを前に倒すときの作動条件（パワーシート装着車）

次の条件がすべて満たされたとき、スイッチ操作で背もたれを前に倒すことが可能になります。



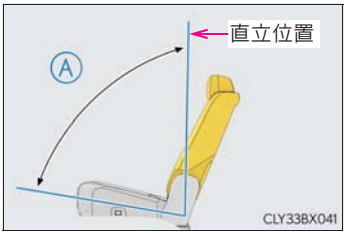
- ●エンジンスイッチが　OFF　またはアクセサリーモードのとき
- ●リヤ席スイッチ操作時：背もたれの位置が図のAの範囲のとき
- ●ラゲージルーム内スイッチ操作時：背もたれの位置が図のBの範囲のとき
- ●リヤ席スイッチ操作時：操作するシート側のリヤドアが開いているとき
- ●ラゲージルーム内スイッチ操作時：バックドアが開いているとき
- ●操作するシート以外の操作スイッチが押されていないとき

エンジンスイッチがイグニッションONモードのときは上記に加え、次のいずれかの条件でリヤシートが作動します。

・パーキングブレーキがかかっている
・ブレーキペダルを踏んでいる
・シフトレバーがPの位置にある

■背もたれをもとにもどすときの作動条件（パワーシート装着車）

次の条件がすべて満たされたとき、スイッチ操作で背もたれをもとにもどすことが可能になります。



●エンジンスイッチが　OFF　またはアクセサリーモードのとき

●リヤ席スイッチ操作時：背もたれの位置が図のＡの範囲のとき

●リヤ席スイッチ操作時：操作するシート側のリヤドアが開いているとき

●ラゲージルーム内スイッチ操作時：バックドアが開いているとき

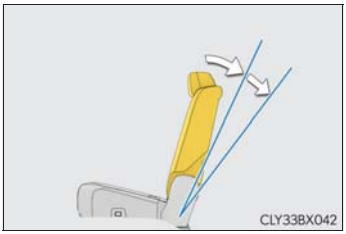
●操作するシート以外の操作スイッチが押されていないとき

エンジンスイッチがイグニッションONモードのときは上記に加え、次のいずれかの条件でリヤシートが作動します。

・パーキングブレーキがかかっている
・ブレーキペダルを踏んでいる
・シフトレバーがＰの位置にある

■リクライニング調整について（パワーシート装着車）

リヤ席スイッチを操作すると、背もたれは途中で止まります。いちばんうしろまで倒すには、再度スイッチを押してください。



■パワーシートの作動について★

シートにカバーや座布団を装着すると、正常に作動しない場合があります。また、前倒しするときは、リヤシートの上に作動のさまたげになるものがないことを確認してください。

■背もたれの挟み込み防止機能（パワーシート装着車）

背もたれを前に倒すとき、もとにもどすときに、背もたれとシートクッションの間に異物を感知すると、背もたれが反転作動し、作動が停止します。
反転作動中は断続的にブザーが鳴り、作動が停止すると連続的にブザーが鳴ります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**背もたれを前倒しするときや、前倒ししたあとは**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中に前倒しをしない

●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする

●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない

●お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■**背もたれを操作するとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●同乗者がシートにあたらないようにしてください。

●シートの間や動いている部分に手を近付けないようにしたり、体の一部が挟まれないようにしてください。

●パワーシート装着車：お子さまには背もたれの操作をさせないでください。同乗者がシートに挟まれるおそれがあります。

●パワーシート装着車：前倒しするシートに同乗者が座っていないことを確認してください。また、前倒し中に同乗者が座らないようにしてください。

■**リクライニング調整について**

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**背もたれをもとの位置にもどしたあとは**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

●シートベルトがねじれたり、挟み込まれていないか確認する

警告

■**挟み込み防止機能（パワーシート装着車）**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、シートが完全に倒れる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

注意

■**背もたれを前倒しするときは**

背もたれを倒す前に必ずリヤ中央席のシートベルトとバックル、アームレストを格納してください。（→ P. 420）

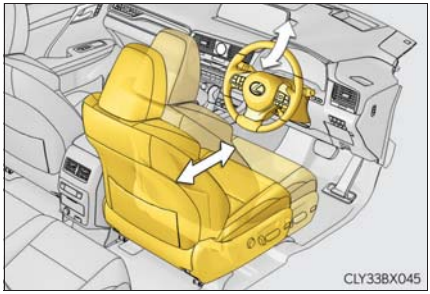
パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー★／メモリーコール機能★

自動でフロントシート★・ハンドル・ドアミラーを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整したりします。

パワーイージーアクセスシステム（運転席のみ）

乗降時に運転者が乗り降りしやすいよう、シートやハンドルが自動で動きます。

次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。
・シフトレバーを P に入れる
・エンジンスイッチを OFF にする
・シートベルトをはずす



次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。
・エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにする
・シートベルトを着用する

知識

■パワーイージーアクセスシステムの作動について

降車時に、シートの位置が最後方付近にあるなど、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。（→ P. 537）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ポジションメモリー

お好みのドライビングポジション（シートの位置・ハンドルの位置・ドアミラーの角度）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。ドライビングポジションは、3 パターンまで登録できます。

■ 登録方法

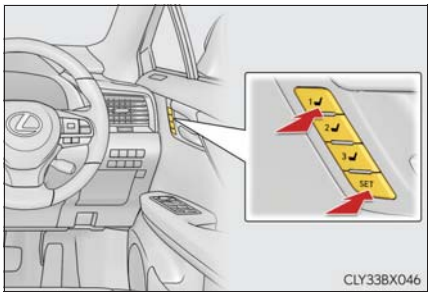
1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度をお好みの位置に調整する

4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 ～ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



助手席側★を登録するときは、助手席をお好みの位置に調整し、助手席側のスイッチで手順 4 の操作を行うと、助手席のシート位置が登録できます。

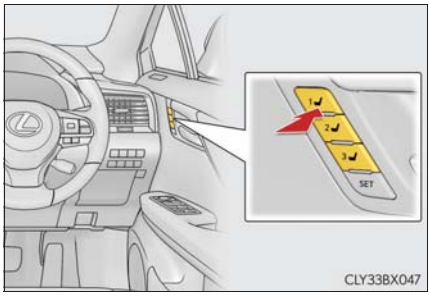
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 呼び出し方法

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

3 1 ～ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

●SET ボタンを押す

●1 ～ 3 のボタンを押す

●シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）

●ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■登録できるシート位置（→ P. 153）

腰部位置調整（ランバーサポート）以外の位置が登録できます。

■エンジンスイッチ OFF 後の作動

運転席側：
運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

助手席側：
助手席ドアを開けて 180 秒以内に呼び出したいポジションのスイッチを押すと、シートの位置が調整されます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

メモリーコール機能（運転席のみ）

お好みのドライビングポジションを電子キー（カードキーを含む）に登録することで、電子キーごとにお好みのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

■ 登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ 1 ～ 3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

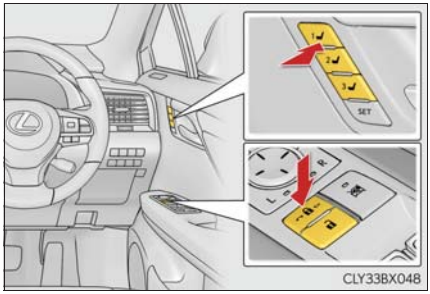
1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

3 登録させたいドライビングポジション（1 ～ 3）を呼び出す

4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ピー” とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。



■ 呼び出し方法

1 ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルを除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。

2 エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするか、シートベルトを着用する

シートとハンドルが登録したドライビングポジションに動きます。

■ **解除方法**

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ピッピッ” とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

知識

■ **メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて**

●電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。

●運転席ドア以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■ **カスタマイズ機能**

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。（→ P. 537）

警告

■ **シートを調整時の警告**

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ヘッドレスト

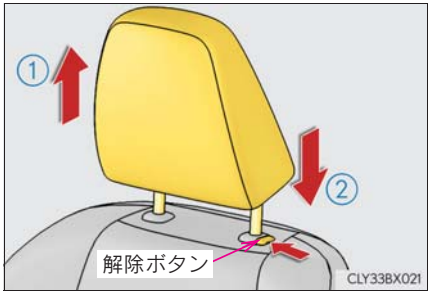
フロント席

◆ 上下調整

① 上げる

② 下げる

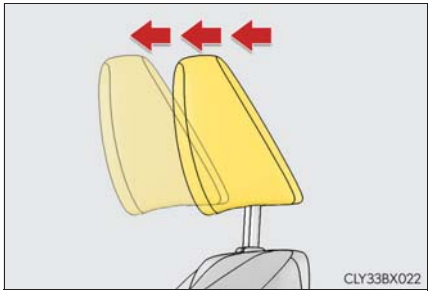
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



◆ 前後調整★

ヘッドレストの前後位置を、4 段階に調整できます。

いちばん前の状態からさらに前に引くと、いちばんうしろにもどります。

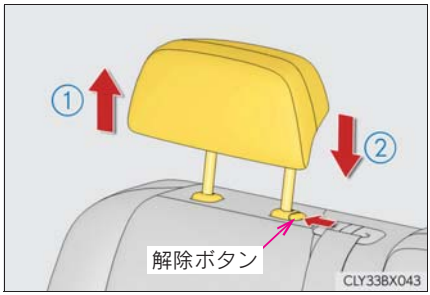


リヤ席

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

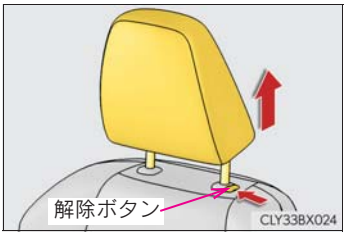


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

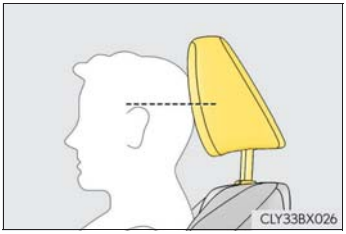
■ヘッドレストを取りはずすとき

解除ボタンを押しながら取りはずします。
ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。(→ P. 153, 154)



■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤ席について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

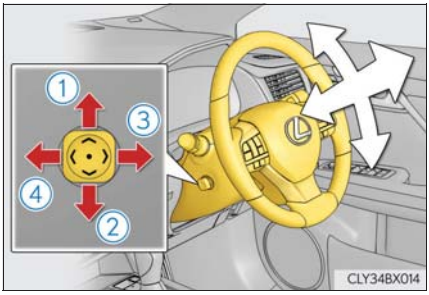
- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。

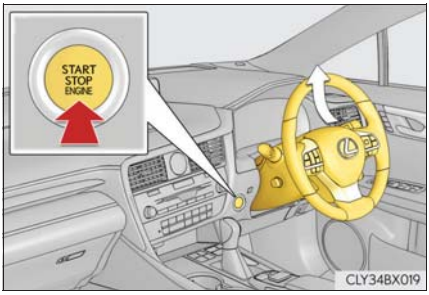
① 上方へ
② 下方へ
③ 手前へ
④ 前方へ



オートアウェイ＆オートリターン機構

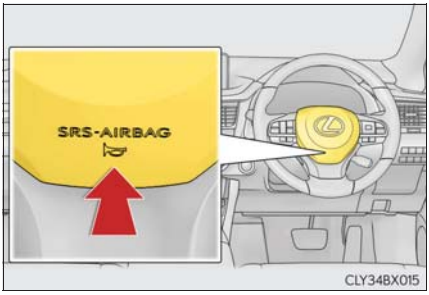
エンジンスイッチを OFF にすると、乗降がしやすくなるように、ハンドルが動きます。

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにすると、もとの位置にもどります。



ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



知識

■ハンドル位置調整の作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき ※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、エンジンスイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ハンドル位置の自動調整★

お好みのハンドル位置を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→ P. 163）

■パワーイージーアクセスシステム

エンジンスイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルと運転席シート★が動きます。（→ P. 163）

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。（→ P. 537）

警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

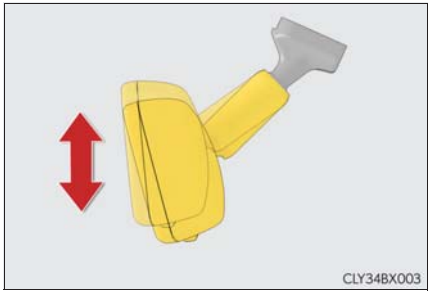
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



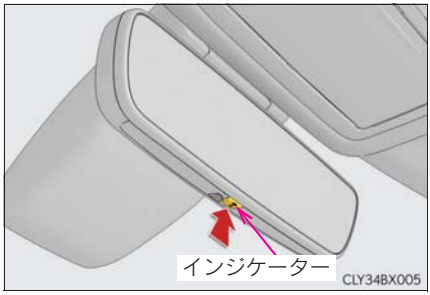
自動防眩機能

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切りかえ

ON ／ OFF

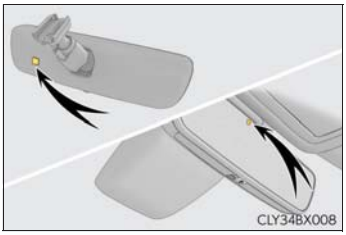
ON のときはインジケーターが点灯します。
エンジンスイッチをイグニッションONモードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能がONになっています。
ボタンを押すとOFFになりインジケーターが消灯します。



知識

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

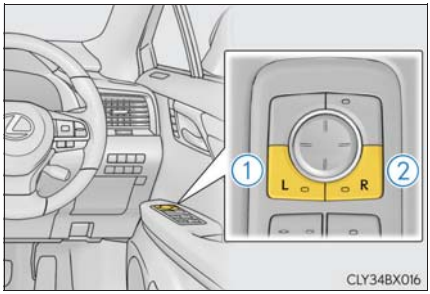
調整のしかた

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

① 左

② 右

もう一度押すと、選択が解除されます。



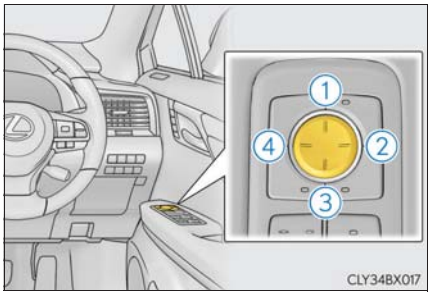
2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

① 上

② 右

③ 下

④ 左

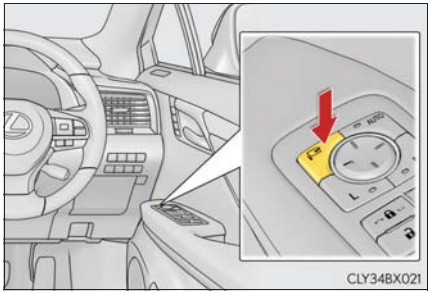


ドアミラーの格納・復帰のしかた

■ マニュアル作動

ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



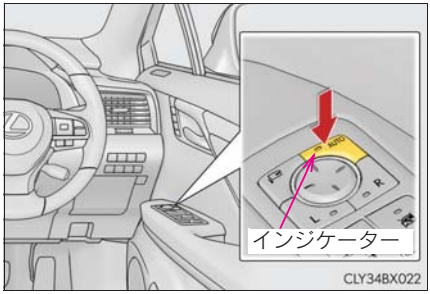
■ オート作動

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰させることができます。

ボタンを押す

ボタンを押すと、インジケーターが点灯します。

もう一度ボタンを押すとマニュアル作動にもどります。



リバース連動機能について

ミラー選択スイッチのLまたはRどちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。
この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチのL・Rともに選択が解除された状態にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトレバーをRに入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。
次回からシフトレバーをRにするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトレバーがR以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。
通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

知識

■鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのとき

■バッテリー端子の脱着をしたとき

オート電動格納機能の設定がリセットされ、OFFの状態にもどります。機能をONにするときは、再度、オート電動格納機能のON・OFF切りかえを行ってください。

■ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→P. 383）

■ミラー角度の自動調整★

お好みのミラー角度を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P. 163）

■自動防眩機能★

インナーミラーの自動防眩機能をONにしておくと、ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。（→P. 172）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■寒冷時に「オート作動」で使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。(→ P. 537)

警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているとき

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウインドウ

開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

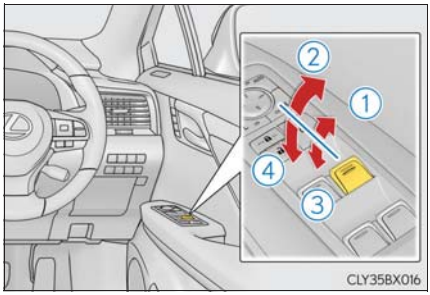
① 閉める

② 自動全閉 ※

③ 開ける

④ 自動全開 ※

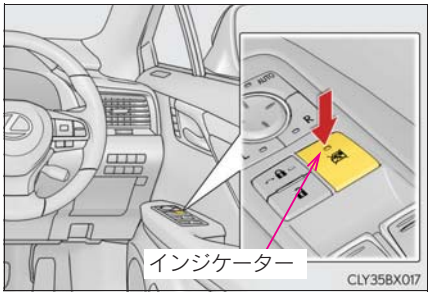
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと、インジケーターが点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■ **作動条件**

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ **エンジン停止後の作動**

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、エンジンスイッチをイグニッション ON モードの状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける

6 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→ P. 518）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→ P. 124）

※ レクサス販売店での設定が必要です。

■オートアラーム

オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→ P. 68）

■バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

■窓開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。（→ P. 537）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するときは

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→P. 178)

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。

●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。
またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れるときはエンジンスイッチをOFFにし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■巻き込み防止機能

●巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

●巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まれないように注意してください。

ムーンルーフ★

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンできます。

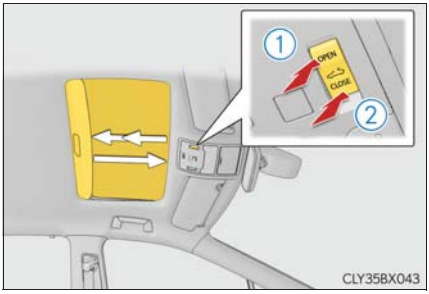
ムーンルーフを開閉する

① ムーンルーフを開く ※

全開の手前の位置で止まります。（風切り音の低減機能）
全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

② ムーンルーフを閉める ※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

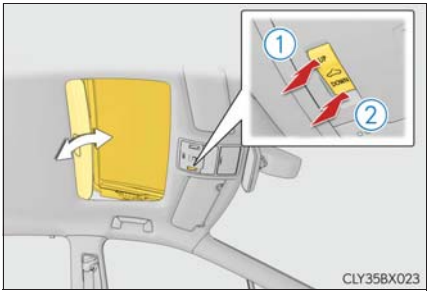


チルトアップ／ダウンする

① チルトアップ ※

② チルトダウン ※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジン停止後の作動

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

●メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。※（→ P. 518）

●ワイヤレスリモコンでムーンルーフを開閉できます。※（→ P. 124）

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

■ムーンルーフが正常に閉まらないときは

次の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの “CLOSE” 側を押し続ける ※1

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。※2 その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの “UP” 側を押し続け ※1、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

3 スイッチから一度手を離し、再度 “UP” 側を押し続ける ※1

ムーンルーフがチルトアップの状態で 10 秒間停止し、※2 微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※1 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※2 10 秒間停止したあとにスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの “CLOSE”、または、“UP” 側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■オートアラーム

オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能でムーンルーフを閉めると、オートアラームが作動することがあります。(→ P. 68)

■ムーンルーフ開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。(→ P. 537)

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ムーンルーフを開けているときは

●走行中はルーフから手や顔を出さない

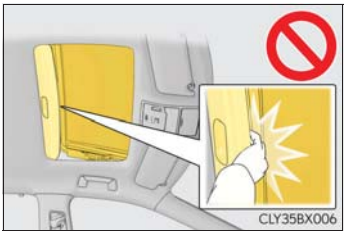
●開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するときは

●運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。
またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。



●車から離れる時はエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

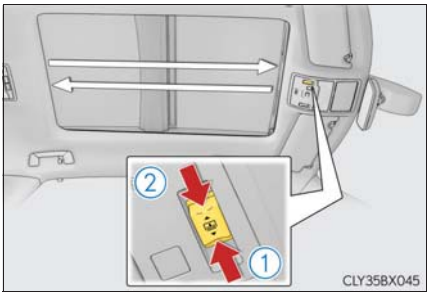
●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

パノラマムーンルーフ★

頭上のスイッチでパノラマムーンルーフと電動サンシェードの操作ができます。

電動サンシェードを開閉する



① 開ける

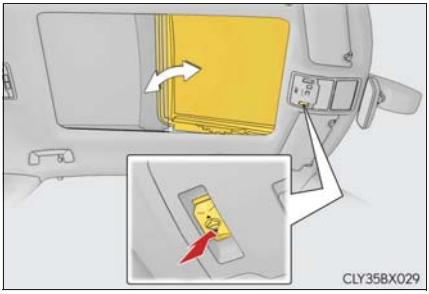
スイッチを長押しすると、自動で全開します。※

② 閉める

スイッチを長押しすると、自動で全閉します。※

※ 途中で停止するときは、スイッチをもう一度押します。

パノラマムーンルーフをチルトアップ／ダウンする



チルトアップ（単押し）※

パノラマムーンルーフをチルトアップすると、電動サンシェードがルーフの半分の位置まで開きます。

※ 途中で停止するときは、スイッチをもう一度押します。

チルトダウン（長押し）

パノラマムーンルーフがチルトアップしている状態のときに、チルトダウンできます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

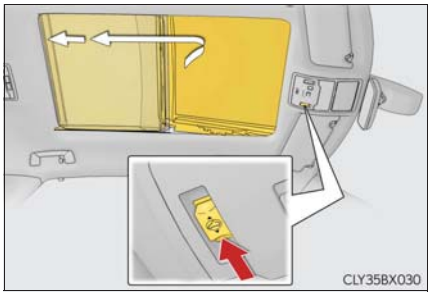
パノラマムーンルーフを開閉する

開ける ※

スイッチを押すと、パノラマムーンルーフと電動サンシェードが開きます。

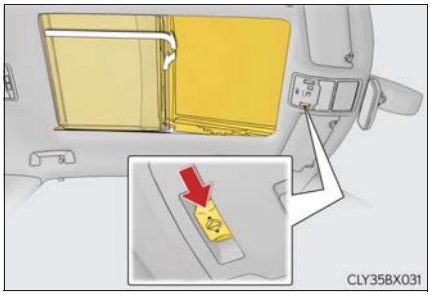
チルトアップした状態からでも開くことができます。

※ 途中で停止するときは、スイッチをもう一度押します。



閉める

スイッチを押すと、パノラマムーンルーフが全閉にできます。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジン停止後の作動

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はパノラマムーンルーフ・電動サンシェードの操作ができます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

次の状況で異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

●パノラマムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするとき

●電動サンシェードを閉めるとき

■ドアロック連動パノラマムーンルーフ開閉機能

●メカニカルキーでパノラマムーンルーフを開閉できます。※ （→ P. 518）

●ワイヤレスリモコンでパノラマムーンルーフを開閉できます。※ （→ P. 124）

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

■パノラマムーンルーフと電動サンシェードの両方を閉じるには

スイッチの ▼ を押す

電動サンシェードがルーフの半分の位置まで閉まった後、いったん停止し、パノラマムーンルーフが閉じます。その後、電動サンシェードが全閉します。

■パノラマムーンルーフまたは電動サンシェードが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

1 車を停止する

2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

3 スイッチまたは スイッチの ▼ 側を押し続け、反転後も約 10 秒間スイッチを押し続けると閉じ切り作動を開始します。※

4 パノラマムーンルーフと電動サンシェードが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※ 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■オートアラーム

オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動パノラマムーンルーフ開閉機能でパノラマムーンルーフを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→ P. 68）

■パノラマムーンルーフ開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でパノラマムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

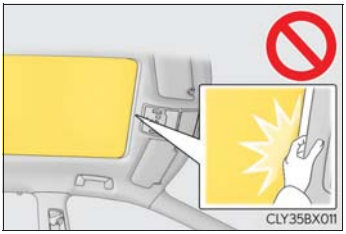
■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。（→ P. 537）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■電動サンシェードを開閉するときは

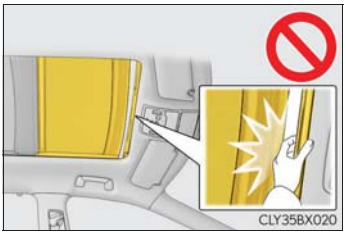


●電動サンシェードを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

●お子さまには、電動サンシェードの操作をさせないでください。
電動サンシェードに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■パノラマムーンルーフを開閉するときは

●運転者は、パノラマムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはパノラマムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。



●パノラマムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってパノラマムーンルーフを操作するときは、パノラマムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。
またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れる時はエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■**挟み込み防止機能**

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、パノラマムーンルーフ・電動サンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■**やけどやけがを防ぐために**

ルーフの下側と電動サンシェードの隙間にはふれないでください。
手を挟んでけがをするおそれがあります。また、車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれもあります。

注意

■**パノラマムーンルーフの損傷を防ぐために**

●開く前は、開口部付近に石や氷などの異物がないことを確認してください。

●パノラマムーンルーフの表面・端面には、固いものをぶつけないでください。

●パノラマムーンルーフが全開・全閉したあとに スイッチを押し続けないでください。

■**洗車後や雨が降ったあとなどは**

パノラマムーンルーフを開く前にルーフに付いた水をふき取ってください。そのまま開くと、車内に水が入るおそれがあります。

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって..... 192

荷物を積むときの注意..... 202

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ 204

オートマチックトランスミッション..... 209

方向指示レバー..... 215

電動パーキングブレーキ..... 216

ブレーキホールド..... 220

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ..... 222

アダプティブハイビームシステム 225

オートマチックハイビーム..... 230

フォグランプスイッチ..... 234

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 236

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）..... 242

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方..... 244

4-5. 運転支援装置について

Lexus Safety System+ 249

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）.....255

LKA（レーンキーピングアシスト).....265

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付).....275

ITS Connect.....292

Stop & Start システム 302

BSM（ブラインドスポットモニター).....313

・BSM 機能.....317

・RCTA 機能 321

クリアランスソナー.....327

インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）.....337

ドライブモードセレクトスイッチ 356

AWD ロックモードスイッチ 359

運転を補助する装置.....360

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 367

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンを始動する

→ P. 204

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 209）

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 217）

パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P 以外にしたときに、自動でパーキングブレーキが解除されます。（→ P. 216）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

Stop & Start システムが作動可能状態のときは、ブレーキを踏み車両が停止すると、エンジンが自動的に停止します。

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける（→ P. 217）

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→ P. 209）

駐車する

1 車を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 217）、シフトレバーを P にする（→ P. 209）

3 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する

4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 209）

2 パーキングブレーキスイッチを引いて、手動でパーキングブレーキをかける（→ P. 217）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む

4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキスイッチを押し、パーキングブレーキを解除して発進する

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→ P. 360）

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

以下の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき
- スポーツモード選択時にブレーキペダルを踏んだとき

■エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

●次のような通常と異なる操作が行われた場合、エンジン出力を抑制する場合があります。
・アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。（D は M ポジションを含む）
この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
・後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。

●ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→ P. 362）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

●暑い日に長い上り坂を走行する

●高速走行直後に急減速や急停止をする

■エンジン停止前のアイドル運転について

ターボ装置の損傷を防ぐため、高速走行・登坂走行直後は、アイドル運転を行ってからエンジンを停止してください。

車両停止時は Stop & Start システムが働きエンジンが停止するため、アイドル運転を行うときは Stop & Start キャンセルスイッチを押してシステムを非作動にしてください。（→ P. 305）

走行状況	アイドル運転時間
市街地、郊外などの一般走行	不要
高速走行 (約 100 km/h 定速)	約 1 分
山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行および レース場などの 100 km/h 以上の連続走行	約 2 分

■環境に配慮した運転

→ P. 107

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 472 を参照してください。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P. 209)

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●AWD 車：オフロード走行をしないでください。
本格的なオフロード走行を目的とした AWD 車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトレバーを N に入れると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■停車するとき

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてエンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。
ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

●ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したときは（AWD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ターボ装置の故障を防ぐために

●高速走行・登坂走行直後は、エンジンを停止しないでください。必ずアイドル運転を行い、ターボ装置を冷却してからエンジンを停止してください。（→ P. 194）

●排気管・エアクリーナ・スパークプラグなどには指定以外の部品を使わないでください。

●排気管の改造は絶対にしないでください。

●エンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速は絶対に行わないでください。

●定期的なオイル交換を必ず行ってください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 491, 502 をご覧ください。

注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・オートマチックトランスミッション・トランスファー（AWD 車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●プロペラシャフト (AWD 車)・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。
乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

●次の場所には荷物を積まないでください。
・運転席足元
・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
・トノカバー
・インストルメントパネル
・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

●ルーフレール装着車：ルーフレールには直接荷物を置かないでください。荷くずれを起こしたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■**荷物の重量・荷重のかけ方について**

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**ルーフレールを使用するときは★**

ルーフレールをルーフラゲージキャリアとして使用するときは、2 つ以上のレクサス純正キャリアを装着してください。レクサス純正品以外を装着される場合は、レクサス純正品に相当するものを装着してください。

ルーフラゲージキャリアに荷物を積むときは、次のことをお守りください。

●車両に荷重が均等になるように荷物を積んでください。

●車両の大きさ（全長、全幅）を超える荷物を積まないでください。

●走行する前に、荷物が確実に固定されていることを確認してください。

●ルーフラゲージキャリアに荷物を積むと、車両の重心が高くなります。高速走行、急加速、急旋回、急ブレーキなどは避けてください。車両を適切に操作することができなくなることで横転し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●長距離走行、荒れた路面での走行、高速走行をするときは、時おり車両を止めて、荷物が固定した位置にあることを確認してください。

●75kg 以上の荷物を積まないでください。

注意

■**荷物を積むとき**

ムーンルーフ★やパノラマムーンルーフ★に荷物が触れないようにしてください。お守りいただかないと傷が付いたり割れたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンの始動のしかた

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーがＰの位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。

表示されないと、エンジンは始動しません。

4 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

エンジンの停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかけて（→P. 216）、シフトレバーをＰの位置にする

3 エンジンスイッチを押す

4 ブレーキペダルから足を離してメーターの表示が消灯していることを確認する

エンジンスイッチの切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

① OFF※

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

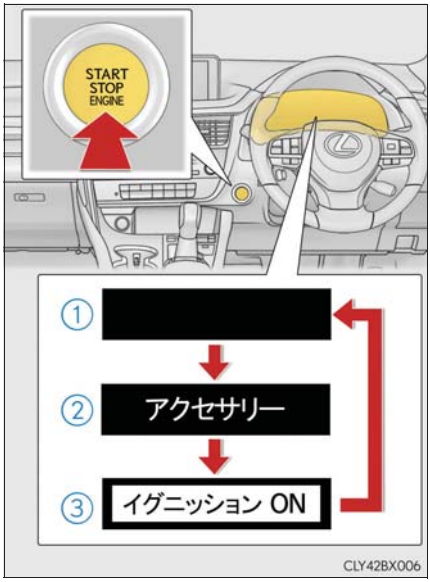
メーターに「アクセサリー」が表示されます。

③ イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

メーターに「イグニッション ON」が表示されます。

※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。



シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーを P の位置にする

3 マルチインフォメーションディスプレイに「電源を Off してください」が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを 1 回押す

4 マルチインフォメーションディスプレイの「電源を Off してください」の表示が消灯していることを確認する

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上イグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■電子キーの電池の消耗について

→ P. 121

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 149

■ご留意いただきたいこと

→ P. 150

■エンジンが始動しないときは

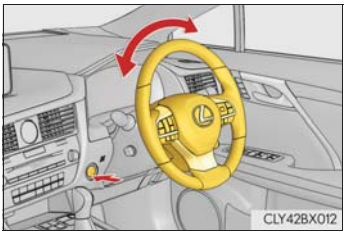
- エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→ P. 66）レクサス販売店へご連絡ください。
- シフトレバーが P の位置にあるか確認してください。エンジンを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとエンジンを始動できないことがあります。マルチインフォメーションディスプレイに「始動時は P レンジに入れてください」が表示されます。

■ステアリングロックについて

エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないとき

マルチインフォメーションディスプレイに「ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを押してください」が表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー＆スタートシステム故障　取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池が切れたときは

→ P. 451

■エンジンスイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。

●エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 517

警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。（→ P. 472）
ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンがかかっていないときに、メーターの「アクセサリー」または「イグニッション ON」の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■エンジンを始動するとき

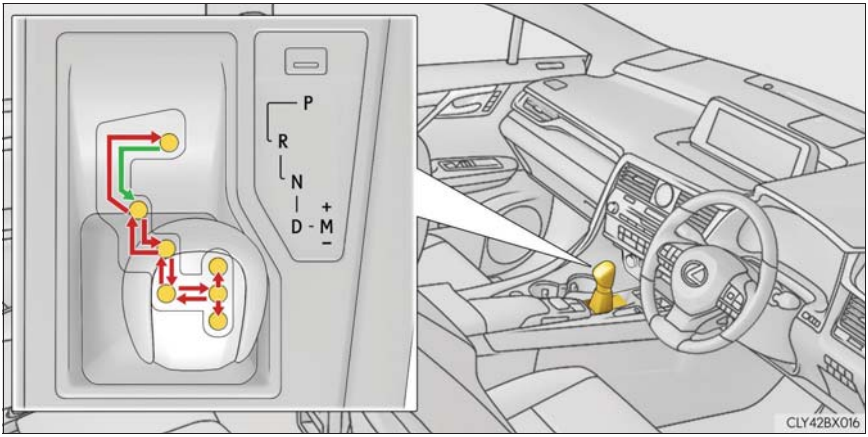
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション

シフトレバーの動かし方



エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
M	M モード走行 ※2（→ P. 211）

※1 D ポジションを使用することで、その時の走行状況に最適なシフトレンジが自動で選択されます。通常は D ポジションを使用してください。

※2 M モードは任意のギヤ段に固定して走行することができます。

走行モードの選択

→ P. 356

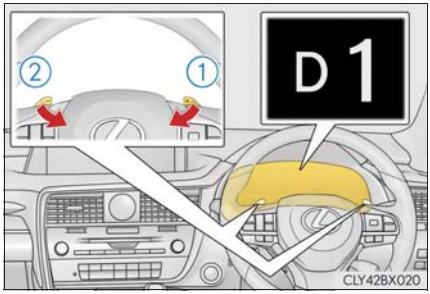
D ポジションでのシフトレンジ選択（パドルシフトスイッチ装着車）

パドルシフトスイッチの “－” 側または “＋” 側を操作すると、一時的にレンジを選択する走行へ切りかわります。
パドルシフトスイッチの “－” 側を操作したとき、走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジにダウンシフトします。パドルシフトスイッチの “＋” 側を操作したときは、現在のギヤ段より一つ上のレンジにシフトアップします。
レンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。

① シフトアップ

② シフトダウン

D1 から D6 レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。



■ シフトレンジ機能

メーター表示	機能
D2 ～ D6	スピードや走行条件に応じて、1 速から選択したギヤまで自動的にかわります。
D1	ギヤが 1 速に固定されます。

シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなります。

M モードでのギヤ段選択

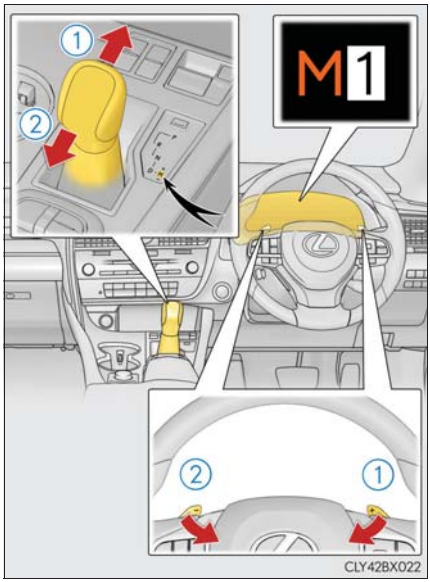
シフトレバーを M ポジションにすると、M モードに切りかわります。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★の操作で思いどおりのギヤ段を選択し、運転することができます。

① シフトアップ

② シフトダウン

シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★を操作するごとに 1 速ずつ変速します。

M1 から M6 の中で選択したギヤ段に固定され、ギヤ段が表示されます。



M ポジションでは、次の場合を除いてシフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★を操作しない限り、変速しません。

- 車速が低下した場合（シフトダウンのみ）
- オートマチックトランスミッションフルードやエンジン冷却水が低温の場合
- オートマチックトランスミッションフルードが高温の場合（シフトアップのみ）
- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に達した場合

次の場合はシフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★を操作しても変速しません。

- 車速が低い場合（シフトアップのみ）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■D ポジションでのレンジ選択の自動解除（パドルシフトスイッチ装着車）

次のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

●パドルシフトスイッチの “＋” 側を一定時間以上保持したとき

●停車したとき

●アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき

●シフトレバーを D 以外にしたとき

■オートマチックトランスミッションの保護

トランスミッションフルードの温度が高くなると、マルチインフォメーションディスプレイに「AT オイル高温 取扱書を確認してください」が表示され、自動的に保護モードに入ります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■シフトレバーを M にしても、メーターに「M」が表示されない、または「D」が表示されたままのときは

システム異常のおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★を操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

■レーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。

●パドルシフトスイッチ装着車：D ポジションでのレンジ選択走行中に 5 または 4 にレンジダウンしたとき（→ P. 275）

●D ポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき（→ P. 356）

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

次のような通常と異なる操作が行われた場合、エンジン出力を抑制する場合があります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき（D は M ポジションを含む）
この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

●後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。
エンジンスイッチがイグニッション ON モードでブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■シフトレバーを P からシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

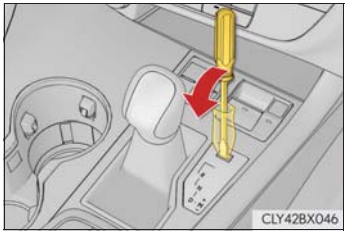
1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにし、パーキングブレーキがかかっていることを確認する（→ P. 205, 216）

2 エンジンスイッチを OFF にする

3 ブレーキペダルを踏む

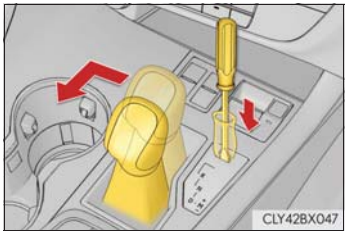
4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



5 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



■AI-SHIFT について

●AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。
AI-SHIFT は、シフトレバーを D ポジションにしているとき自動的に作動します（シフトレバーを M ポジションにすると機能が解除されます）。

●G AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的にスポーツ走行に適切なギヤ段に切りかえます。
G AI-SHIFT は、シフトレバーを D ポジションでドライブモードセレクトスイッチをスポーツモードにしているとき自動的に作動します（ドライブモードセレクトスイッチをノーマルモードにするか、シフトレバーを M ポジションにすると機能が解除されます）。

警告

■**すべりやすい路面を走行するとき**

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■**シフトロック解除時の事故を防ぐために**

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

① 左折

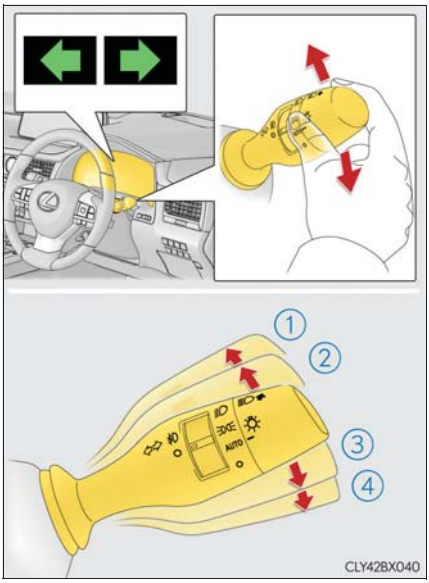
② 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折



知識

■ **作動条件**

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ **表示灯の点滅が異常に速くなったときは**

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

電動パーキングブレーキ

お好みに応じて次のモードから選択することができます。

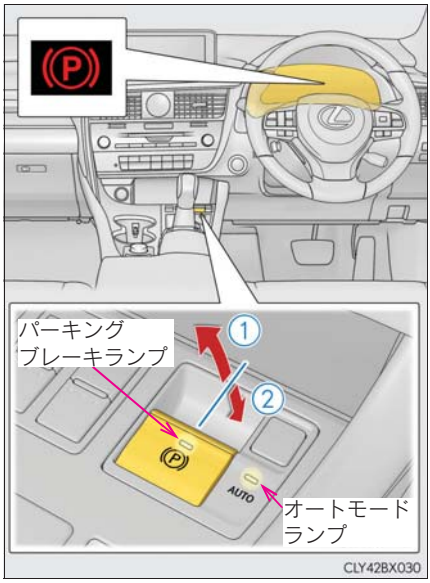
オートモード

シフトレバーの操作に応じて、パーキングブレーキが自動で作動します。
オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。（→ P. 217）

① オートモードを ON にする（停車中にオートモードランプが点灯するまでスイッチを引き続ける）

P から P 以外にしたとき：
パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが消灯します。
P 以外から P にしたとき：
パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。
シフトレバーは、ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

② オートモードを OFF にする（停車中にオートモードランプが消灯するまでスイッチを押し続ける）



マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

① パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。

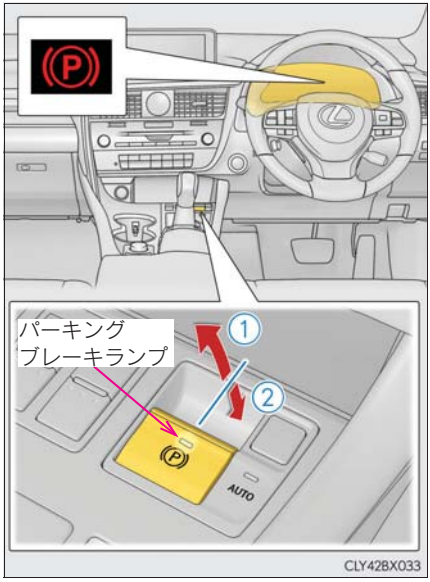
緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けてください。

② パーキングブレーキを解除する

パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが消灯します。

ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。（→ P. 480）



知識

■駐車するとき

→ P. 192

■パーキングブレーキの作動

●エンジンスイッチがイグニッションONモード以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

●エンジンスイッチがイグニッション ON モード以外では、オートモードによる作動（かける・解除する）はできません。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキ高温 現在使用できません」が表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「EPB 動作停止」または「パーキングブレーキ現在使用できません」が表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作しても表示が消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプについて

●パーキングブレーキをかけたとき、エンジンスイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。
イグニッション ON モード：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
イグニッション ON モード以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でエンジンスイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■モードの切りかえについて

オートモードのON/OFFを切りかえるとメーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーが吹鳴します。

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキを解除してください」が表示されます。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキ警告灯が点灯したときは

→ P. 480

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 368

警告

■**駐車するとき**

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**駐車するとき**

車から離れるときは、シフトレバーを P にし、パーキングブレーキをかけて、車が動かないことを確認してください。

■**システムに異常が発生したら**

安全な場所に車を停め、警告表示を確認してください。

■**故障などでかかったままになったとき**

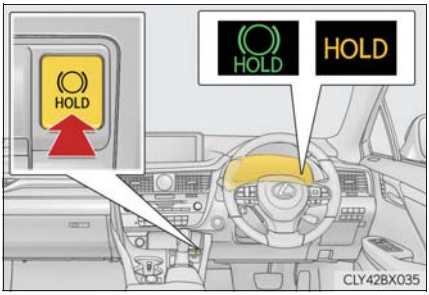
パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。ただちにレクサス販売店に連絡してください。

ブレーキホールド

シフトレバーがD・MまたはNでブレーキホールドシステムがONのとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーがDまたはMのとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

ブレーキホールドシステムをONにする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）が点灯します。



知識

■ **システムの作動条件**

次のときはシステムをONできません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない

ブレーキホールドシステムがONのときにいずれかを検出したときは、システムがOFFになり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ **ブレーキ保持について**

- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときは警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 急坂路ではブレーキ保持できないことがあります。その場合は、運転者はブレーキをかける必要があるときもあります。このときは警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
- ブレーキ保持中にシステムをOFFするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

パーキングブレーキは自動では解除されません。ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作してパーキングブレーキを解除し、パーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。(→ P. 216)

■マルチインフォメーションディスプレイに「BrakeHold 故障」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールド作動表示灯が点滅したときは

→ P. 480

警告

■急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

注意

■駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にエンジンスイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。エンジンスイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

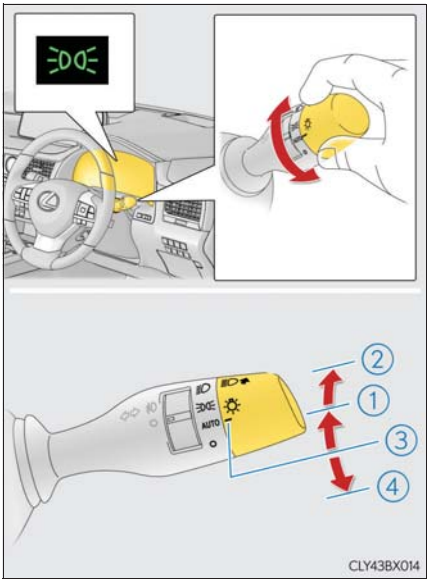
レバーの端をまわすと、次のようにランプが点灯します。

① 車幅灯･尾灯･リヤサイドマーカーランプ・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯

② 上記ランプとヘッドランプを点灯

③ AUTO ヘッドランプ･LED デイライト（→ P. 223）・車幅灯などを自動点灯・消灯
（エンジンスイッチがイグニッションONモードのとき）

④ ○ 消灯



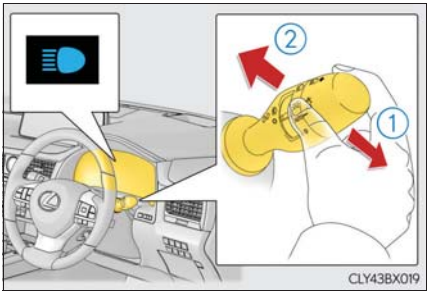
ハイビームにする

① ランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



アダプティブハイビームシステム装着車は、エンジンスイッチが OFF のときにレバーを引いてもハイビームは点灯しません。

コーナーリングランプ

● ヘッドランプ（ロービーム）点灯時にハンドルまたは方向指示レバーを操作すると、交差点での視認性確保のため、車両進行方向側のコーナーリングランプが点灯します。

ただし、車速が約 35km/h 以上の場合は、コーナーリングランプは点灯しません。

● ヘッドランプ（ロービーム）点灯時にシフトレバーを R にすると、駐車時の視認性向上のため、両側のコーナーリングランプが点灯します。

知識

■LED デイライト

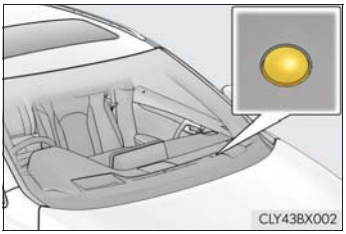
日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します）
LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■コーナーリングランプ

コーナーリングランプは、点灯したまま約 30 分経過すると、自動で消灯します。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはOFFにしてランプが点灯した状態で運転席ドアを開けるとヘッドランプと尾灯が消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを AUTO にもどし、再度 または の位置にします。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能

日中での走行時、ランプスイッチが AUTO でワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。

■節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。
エンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると節電機能は解除されます。
次のいずれかを行った場合、節電機能は一旦解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

●ランプスイッチを操作したとき

●ドアを開閉したとき

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。（→ P. 537）

⚠注意

■バッテリーあがりを防止するために

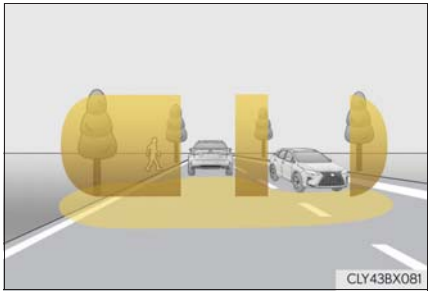
エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

アダプティブハイビームシステム★

アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置されたカメラセンサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

- 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。
- カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。
- 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。（遮光ハイビーム）

  前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。



- 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。

警告

■安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

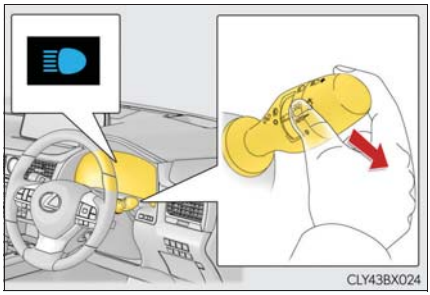
■アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

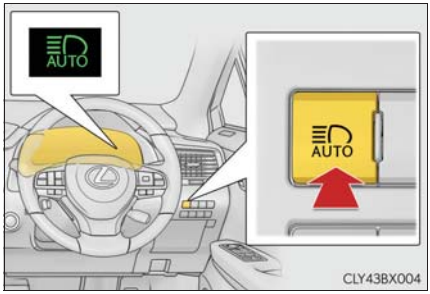
アダプティブハイビームシステムの使い方

1 ランプスイッチを≡Dまたは AUTOにし、レバーを前方へ押す



2 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステムが作動すると、アダプティブハイビームシステム表示灯が点灯します。



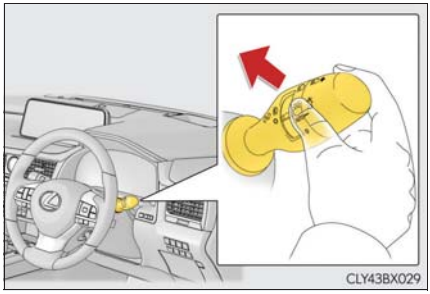
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーを前方に押します。

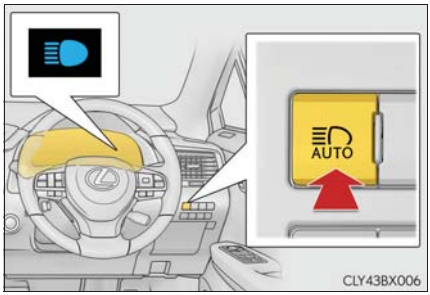


■ ハイビームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度スイッチを押します。



知識

■ヘッドランプ配光の自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。
・車速が約 15km/h 以上※
・車両前方が暗い

※ 車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。

●次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわり、ロービームの照らす範囲を調整します。
・車速が約 15km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいる

●次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。
・車速が約 15km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両の台数が多い
・前方車両の動きが速く、その車両にまぶしさを与える可能性がある

■カメラセンサーの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。
・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。

●次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・カメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
・カメラセンサーが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。（→ P. 537）

オートマチックハイビーム★

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置されたカメラセンサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■**安全にお使いいただくために**

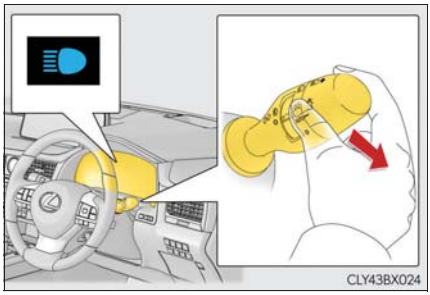
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■**オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために**

荷物を積み過ぎないでください。

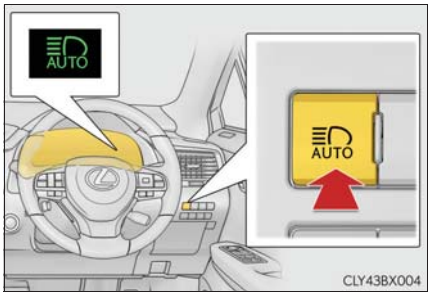
オートマチックハイビームの使い方

1 ランプスイッチを≡Dまたは AUTOにし、レバーを前方へ押す



2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

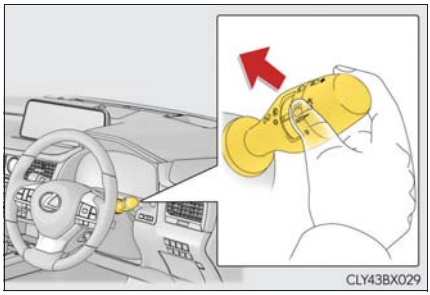
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。

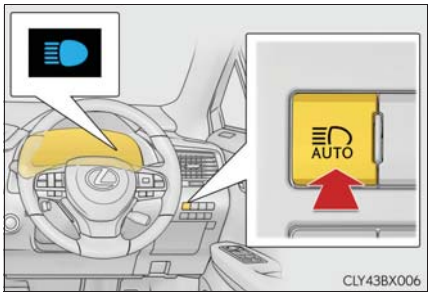


■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
・車速が約 30km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいない
・前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
・車速が約 25km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両がランプを点灯している
・前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■カメラセンサーの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・カメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
・カメラセンサーが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

フォグランプスイッチ

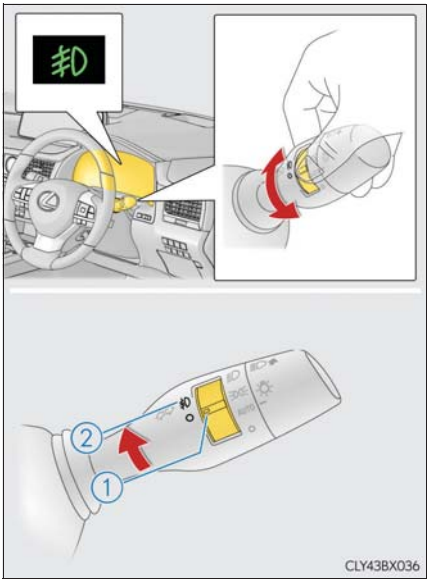
雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

操作のしかた

▶ フロントフォグランプ装着車

① ○ 消灯する

② 点灯する



▶ フロント＆リヤフォグランプ装着車

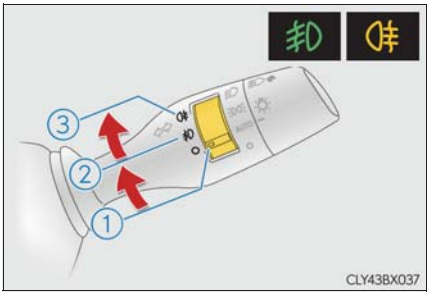
① ○ 消灯する

② フロントフォグランプを点灯する

③ フロント＆リヤフォグランプを点灯する

手を離すとの位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。



知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ★：フロントフォグランプが点灯しているときに使用できます。

■リヤフォグランプ★について

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧、雪などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）

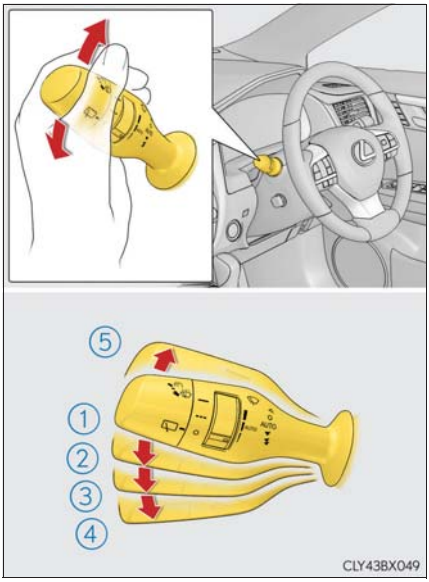
操作のしかた

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

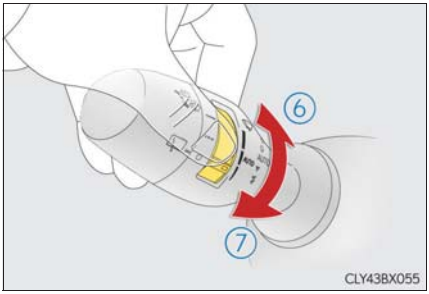
“ AUTO ” を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

“ AUTO ” が選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。

① ○ 停止
② AUTO AUTO モード
③ ▼ 低速作動
④ ▼▼ 高速作動
⑤ △ 一時作動



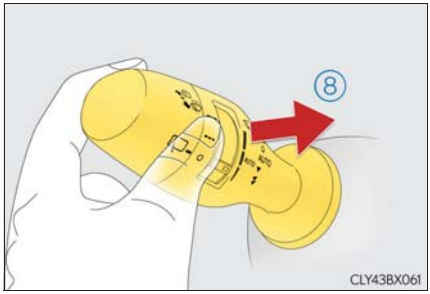
⑥ 雨滴センサーの感度調整（高）
⑦ 雨滴センサーの感度調整（低）



⑧ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

ヘッドランプクリーナー装着車：
エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態でヘッドランプが点灯しているとき、5 回手前に引くごとにヘッドランプクリーナーが作動します。



知識

■ **作動条件**

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ **液だれ防止作動**

ウォッシャー液を噴射するとワイパーが数回作動し、その後、液だれ防止のためにさらに 1 回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。

■ **車速による作動への影響**

車速によってワイパー作動の間欠時間への影響があります。

■ **雨滴感知センサー**

● 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。

● エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときにワイパースイッチを “AUTO” にすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

● AUTO モードのとき雨滴センサーの感度調整を（高）側へ調整すると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

● 雨滴感知センサーの温度が90℃以上または－15℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ドア開連動ワイパーストップ機能

AUTO モード選択中、パーキングブレーキがかかっている、またはシフトレバーが P の位置にある状態でワイパーが作動しているとき、フロントドアを開けるとワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。フロントドアを閉めると作動を再開します。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。（→ P. 537）

⚠警告

■AUTO モード時のワイパー作動について

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ウォッシャーを使用するとき

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ **フロントウインドウガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ **ウォッシャー液が出ないときは**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ **ノズルがつまったときは**

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

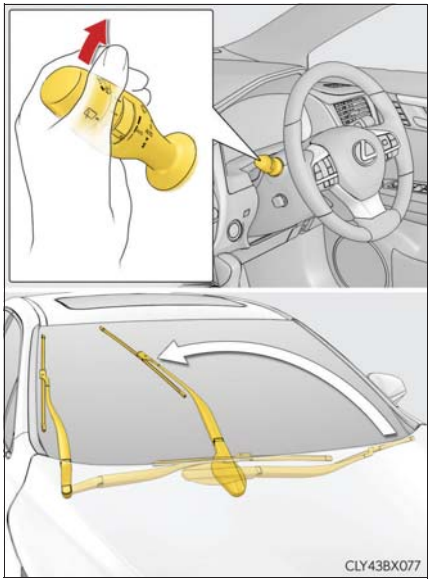
ワイパーの停止位置切りかえ／ワイパーの立て方

ワイパーは使用していないとき、ボンネット下に格納されています。
寒冷時やワイパーゴムを交換するときは、ワイパーの停止位置を格納位置からサービスポジションに切りかえた上でワイパーを立ててください。

■ サービスポジションへ切りかえる

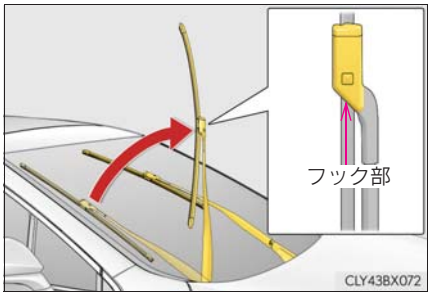
エンジンスイッチを OFF にしたあと約 40 秒以内に、ワイパースイッチを △ の位置で約 2 秒以上保持する

ワイパーがサービスポジションに移動します。



■ ワイパーを立てる

ワイパーアームのフック部を持ってガラス面から引き上げる



知識

■ワイパーを格納位置にもどすには

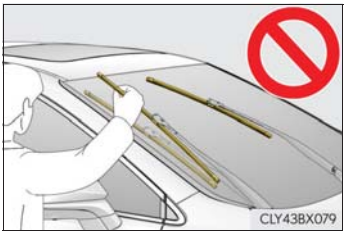
ワイパーを倒した状態でエンジンスイッチをイグニッション ON モードにし、いずれかのワイパー操作をしてください。作動後は格納位置で停止します。

注意

■ワイパーを立てるときは

●ワイパーがボンネット下の格納位置にあるとき、ワイパーを立てないでください。この位置でワイパーを立てるとボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。

●ワイパーブレードのみを持ってワイパーを立てないでください。ブレードが変形するおそれがあります。



●ワイパーを立てた状態でワイパーを作動させないでください。ワイパーがボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）

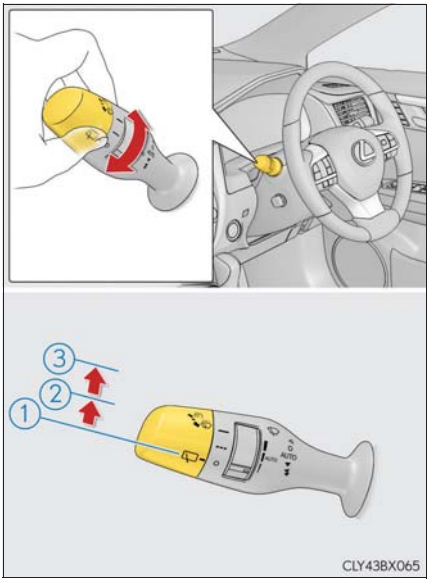
操作のしかた

次のようにレバーをまわしてワイパーの作動を選択します。

① ○ 停止

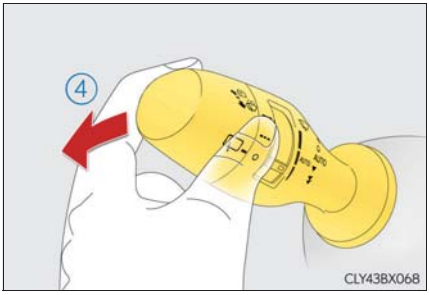
② - - - 間欠作動

③ ―― 通常作動



④ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■リヤウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類

- 無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）
- バイオ混合ガソリン（プレミアム）

■バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

警告

■**給油するときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●給油口にノズルを確実に挿入してください。

●継ぎ足し給油をしないでください。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

■給油するとき

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン ※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

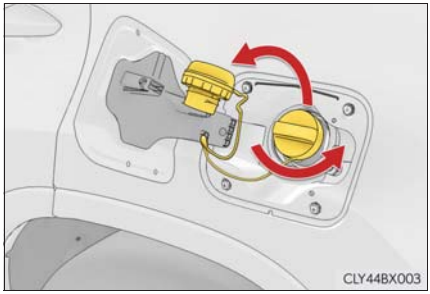
※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE の混合率 22% をこえるもの

給油口の開け方

1 ドアが解錠された状態で、給油扉の車両後端の中央部分を押す

奥まで押し込み、手を離すと給油扉が少し開きます。その後、手で全開にします。

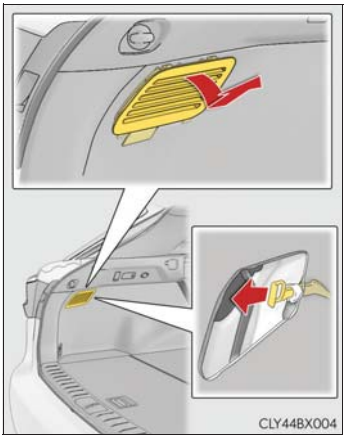
2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



知識

■給油扉が開かないとき

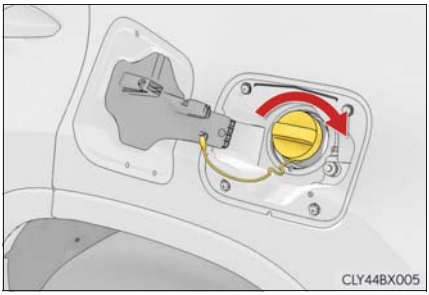
ドアが解錠されている状態で、給油扉の車両後端の中央部分を押しても給油扉が開かないときは、ラゲージルーム内のカバーを取りはずし、レバーを引くことで、給油扉を開けることができます。



給油口の閉め方

1 キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



2 給油扉を閉め、給油扉の車両後端の中央部分を押す

ドアを施錠すると給油扉も施錠されます。

知識

■給油扉の施錠について

次の場合、ドアが施錠されても給油扉は施錠されません。

- 室内のドアロックスイッチで施錠したとき
- シフト操作連動ドアロックまたは車速感応オートドアロックで施錠されたとき (→ P. 128)
- ドアを施錠したあとに給油扉を閉めたとき

警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずレクサス販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Lexus Safety System+

Lexus Safety System+ は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

◆ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

→ P. 255

◆ LKA（レーンキーピングアシスト）

→ P. 265

◆ アダプティブハイビームシステム★

→ P. 225

◆ オートマチックハイビーム★

→ P. 230

◆ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）

→ P. 275

警告

■ Lexus Safety System+ について

Lexus Safety System+ は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両データの記録について

プリクラッシュセーフティシステムには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・アクセルペダルの操作状況
・ブレーキペダルの操作状況
・車速
・プリクラッシュセーフティシステムの各機能の作動状況
・先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報
・カメラセンサーの画像情報（プリクラッシュブレーキまたはプリクラッシュブレーキアシスト作動時のみ）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

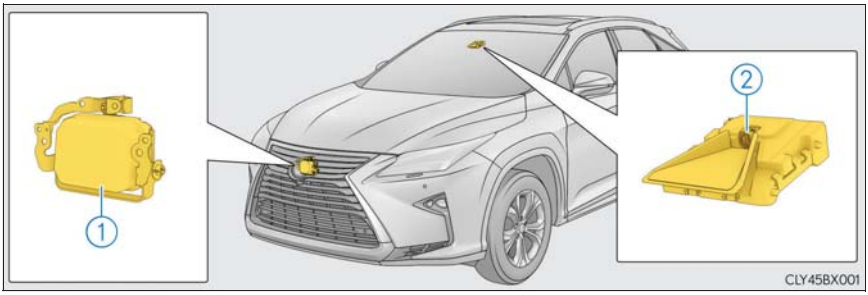
・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・レクサスが訴訟で使用する場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティシステム作動時のデータは残りません。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。



① レーダーセンサー　② カメラセンサー

警告

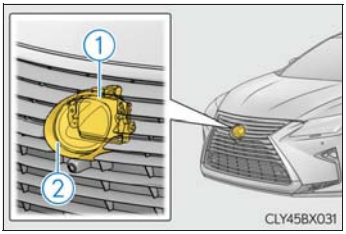
■**レーダーセンサーの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダーセンサーとフロントグリルエンブレムは常にきれいにしておく

① レーダーセンサー

② フロントグリルエンブレム



レーダーセンサー前面やフロントグリルエンブレム前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーセンサーやフロントグリルエンブレムを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●レーダーセンサーやフロントグリルエンブレム周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダーセンサー周辺への強い衝撃を避ける
レーダーセンサー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

●レーダーセンサーを分解しない

●レーダーセンサーやフロントグリルエンブレムを改造したり、塗装したりしない

●レーダーセンサー・フロントグリル・フロントバンパーの脱着や交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

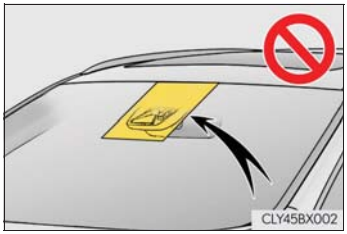
警告

■**カメラセンサーの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、カメラセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、カメラセンサー前部に水滴が付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
・フロントウインドウガラス内側のカメラセンサー取り付け部が汚れた場合は、レクサス販売店にご相談ください。

●カメラセンサー前部のフロントウインドウガラス（図に示す範囲）にアンテナを取り付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない



●カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、フロントデフロスターで取り除く（→ P. 382）

●カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
・ワイパーゴムの交換：→ P. 449
・ワイパーブレードの交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

●フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

●カメラセンサーに液体をかけない

●カメラセンサーに強い光を照射しない

警告

- カメラセンサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  レンズに汚れ・傷がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- カメラセンサーに強い衝撃を加えない
- カメラセンサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- カメラセンサーを分解しない
- カメラセンサー付近に電子機器や、強い電波を発信する機器を取り付けない
- インナーミラーなどのカメラセンサー周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、カメラセンサーの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
  詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、カメラセンサーの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

知識

■レーダーセンサーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

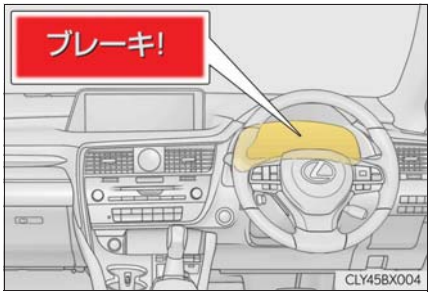
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

進路上の車両や歩行者を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティシステムの ON ／ OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。(→ P. 258)

◆ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



◆ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

◆ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに衝突警報を行い、さらに衝突の可能性が高まったと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突速度の低減に寄与します。

◆ サスペンションコントロール★

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS(→ P. 361) によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリクラッシュセーフティシステムは衝突の回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
・ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→ P. 260
・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 262

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティシステムの作動テストを行わないでください。状況によってシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

●プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

警告

■**プリクラッシュセーフティシステムを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

プリクラッシュセーフティシステムの設定変更

■ プリクラッシュセーフティシステムの ON ／ OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの（→ P. 92）から、プリクラッシュセーフティシステムの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるたびシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ プリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの（→ P. 92）から、プリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更することができます。

エンジンスイッチを OFF にしても選択した警報タイミングは継続します。

① 遠い

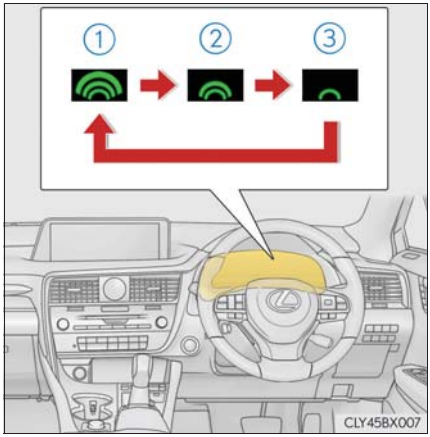
「中間」より警報タイミングが早くなる

② 中間

初期設定

③ 近い

「中間」より警報タイミングが遅くなる



知識

■システムの作動条件

プリクラッシュセーフティシステムが ON で、前方の車両や歩行者と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。各機能の作動速度は次のとおりです。

●衝突警報
・ 自車速度約10～180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約10～80km/h）
・ 自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10km/h 以上

●プリクラッシュブレーキアシスト
・ 自車速度約30～180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約30～80km/h）
・ 自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 30km/h 以上

●プリクラッシュブレーキ
・ 自車速度約10～180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約10～80km/h）
・ 自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10km/h 以上

ただし、次のときシステムは作動しません。

●バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●シフトレバーが R のとき

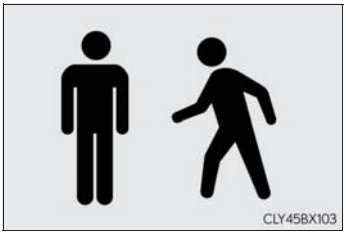
●VSC が OFF のとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

●PCS 警告灯が点滅または点灯しているとき

■歩行者検出について

対象となる歩行者の大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、歩行者の動き・姿勢・角度などによっては、歩行者を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
（→ P. 263）



■プリクラッシュブレーキの作動解除

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

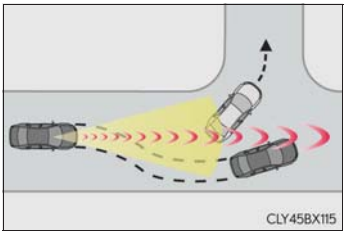
●アクセルペダルを強く踏み込む

●ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

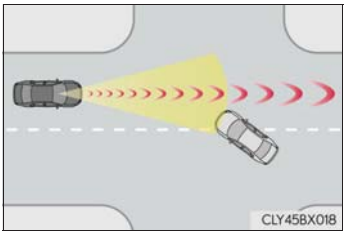
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性があると判断し、作動するおそれがあります。

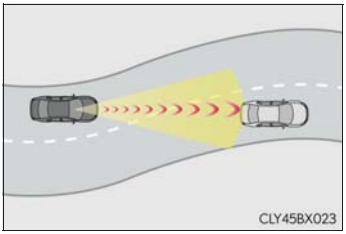
・車両や歩行者のすぐそばを通過するとき
・車線を変更して先行車を追いこすとき
・車線変更している先行車を追い抜くとき
・右左折する先行車を追いこすとき



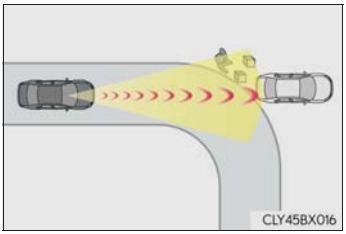
・右左折待ちの対向車とすれ違うとき



・隣の車線の前方車両との位置関係がずれる道（曲がりくねった道など）を走行するとき

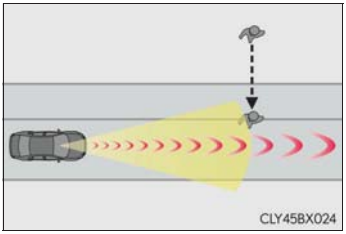


・前方車両に急接近したとき
・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
・道路脇の構造物（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき
・カーブ入り口の道路脇に車両・歩行者・構造物が存在するとき

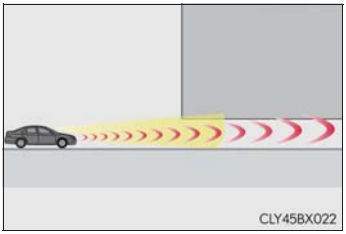


・道路脇が構造物に囲まれた狭い道（狭いトンネル・鉄橋など）を走行するとき
・路上または道路脇に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき

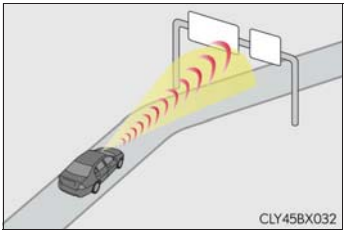
・横断する歩行者が車両のすぐそばに近付いたとき



・道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識など）がある場所を走行するとき

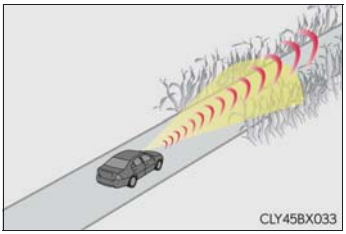


・上り坂で道路上方に構造物（看板など）がある場所を走行するとき



・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに急速に接近したとき
・洗車機を使用するとき

・車両に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

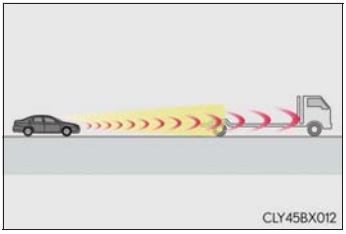


・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
・路面または壁面に車両や歩行者との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

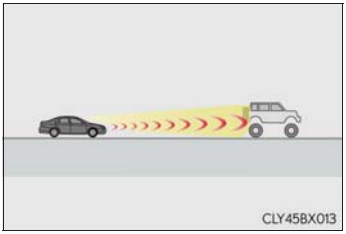
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、前方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

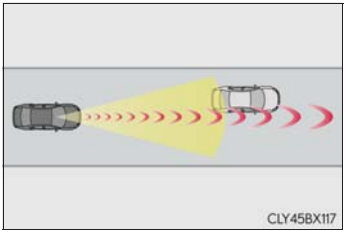
・前方から自車に向かって車両が近付いてくるとき
・前方車両がオートバイ・自転車のとき
・車両の側面または前面に近付いたとき
・先行車の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・先行車の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）



・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
・前方車両の最低地上高が極端に高いとき

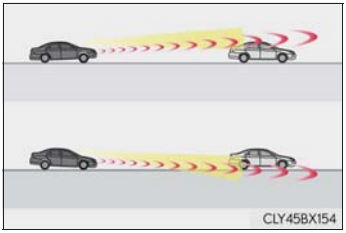


・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・前方車両が太陽光などを強く反射しているとき
・車両が横から割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・前方車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・自車が車線変更を行い、変更した車線の先行車に急接近したとき
・前方車両と自車の中心がずれているとき



・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
・強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）がカメラセンサーに直接あたっているとき

・薄暗いとき（朝方・夕方など）、および夜間やトンネル内
・エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・自車が横すべりしているとき
・車両姿勢が変化しているとき



・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードがカメラセンサーの視界をさえぎっているとき
・ふらつき運転をしているとき
・過度な高速走行をしているとき
・坂道を走行しているとき
・前方センサーの向きがずれているとき

●例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

●例えば次のような歩行者は、前方センサーが検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・身長が約 1m 以下、または約 2m 以上の歩行者
・合羽・ロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
・大きな荷物を抱えていたり、傘をさしていたりして、体の一部が隠れている歩行者
・前かがみになっている、またはしゃがんでいる歩行者
・ベビーカー・車いす・自転車などを押している歩行者
・集団でいる歩行者
・白っぽい服を着ていて、極端に明るく見える歩行者
・夜間やトンネル内など、暗闇にいる歩行者
・服装の色合いや明るさなどが背景に溶け込んでいる歩行者
・壁際や車両・フェンス・ガードレールなどのそばにいる歩行者
・路面の金属物（マンホール・鉄板など）上にいる歩行者
・歩く速度が速い歩行者
・歩く速度を急激に変化させている歩行者
・物陰から飛び出してきた歩行者
・車両の側端（ドアミラーなど）すれすれの位置にいる歩行者

■PCS 警告灯が点滅、およびマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

●次のときは、状況が改善されると PCS 警告灯・警告メッセージが消え、作動可能状態になります。
・炎天下などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が高いとき
・極寒の環境などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が低いとき
・レーダーセンサーやフロントグリルエンブレム周辺に雪や汚れなどが付着しているとき
・カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりしているとき（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 382）
・ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスのカメラセンサー付近にシールが貼り付けられているときなど、カメラセンサーの前方がさえぎられているとき

●PCS 警告灯が点滅したままのとき、および警告メッセージが表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■VSC を停止したとき

●VSC の作動を停止 (→ P. 363) したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。

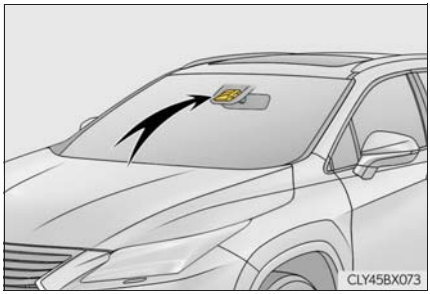
●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が Off のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

LKA（レーンキーピングアシスト）

機能概要

白（黄）線が整備された、高速道路または自動車専用道路を走行中、車線からの逸脱の可能性を警告したり、車線からの逸脱を避けるためのハンドル操作を支援したりします。また、クルーズコントロール（全車速追従機能付）の作動中は、車線維持に必要なハンドル操作支援も行います。

LKA は、フロントウインドウガラス上部のカメラセンサーで、白（黄）線を認識します。

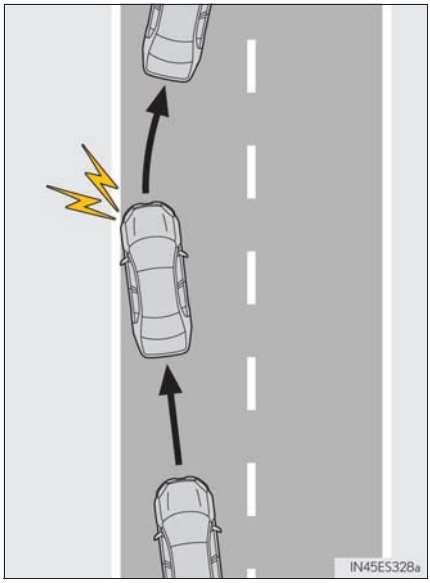


LKA に含まれる機能

◆ 車線逸脱警報機能

車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

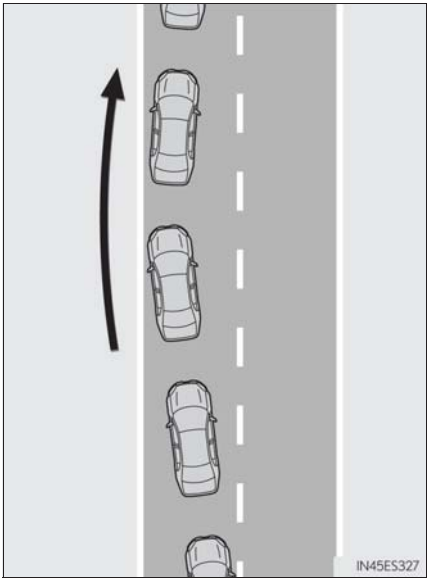
警報ブザーが鳴った、またはハンドルに振動があったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線内の中央付近にもどってください。



◆ 車線逸脱抑制機能

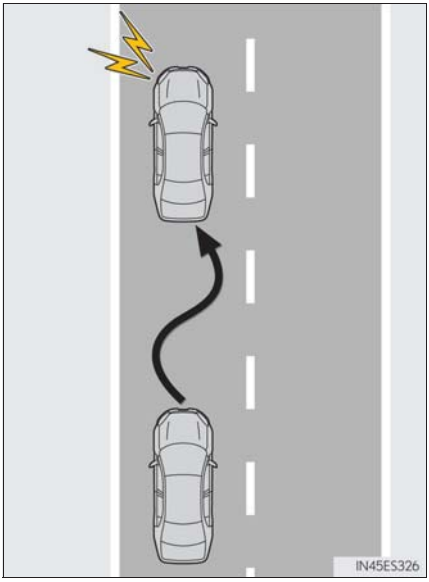
車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるのに必要なハンドル操作の一部を支援します。

一定のあいだハンドルを操作しなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、機能が一時的に解除されます。



◆ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているとき、または車線から何度もはみだしそうになった場合に、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。

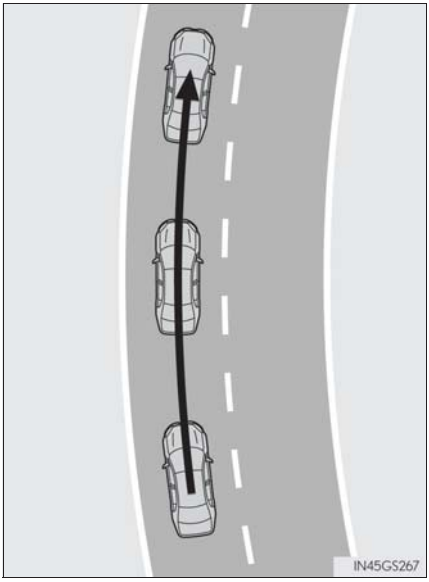


◆ 車線維持支援機能

レーダークルーズコントロールと連携し、現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

レーダークルーズコントロールが作動していないときは、車線維持支援機能が働きません。

一定のあいだハンドルを操作しなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、機能が一時的に解除されます。



⚠ 警告

■ LKA をお使いになる前に

LKA を過信しないでください。LKA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 誤作動を防ぐために

LKA を使用しないときは、LKA スイッチでシステムを OFF にしてください。

警告

■**LKA を使用してはいけない状況**

次の状況では、LKA を使用しないでください。
システムが適切に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき

●タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき

●構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき

●路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポールなど）

●雪道を走行しているとき

●雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき

●道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡などが残っているとき

●工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき

●雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき

●高速道路または自動車専用道以外の車線を走行しているとき

●工事区間を走行しているとき

●車両けん引時

■**LKA の故障、または誤作動を防ぐために**

●ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。

●サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

●ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。

●フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

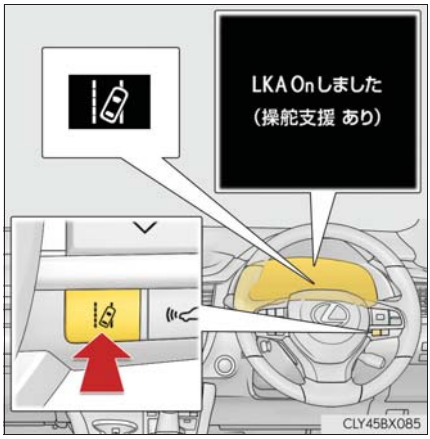
設定のしかた

LKA を ON にするには LKA スイッチを押す

LKA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

いったん LKA を ON ／ OFF すると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



マルチインフォメーションディスプレイ表示

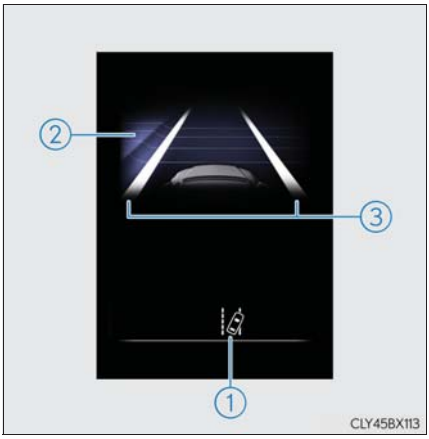
① LKA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：車線逸脱抑制機能、または車線維持機能によるハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中



② ハンドル操舵支援の作動表示

車線逸脱抑制機能、または車線維持機能によるハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

③ 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき

システムが白（黄）線を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき

システムが白（黄）線を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・LKA を ON にしているとき
・車速が約 50km/h 以上のとき
・システムが白（黄）線を認識しているとき
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・方向指示レバーを操作していないとき
・直線路または半径が約 150m よりゆるいカーブを走行しているとき
・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 480）

●車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・マルチインフォメーションディスプレイの で「操舵支援」を「有」に設定しているとき（→ P. 92）
・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・TRC または VSC を停止していないとき
・手放し運転警告（→ P. 272）が表示されていないとき

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・マルチインフォメーションディスプレイの で「ふらつき検知」を「有」に設定しているとき（→ P. 92）
・車速が約 50km/h 以上のとき
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 480）

●車線維持支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・LKA を ON にしているとき
・マルチインフォメーションディスプレイの で「センタートレース」を「有」に設定しているとき（→ P. 92）
・システムが白（黄）線を認識しているとき
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）が作動しているとき
・車線の幅が約 2.5 ～ 4.1m のとき
・方向指示レバーを操作していないとき
・直線路または半径が約 200m よりゆるいカーブを走行しているとき
・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 480）
・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・TRC または VSC を停止していないとき
・手放し運転警告（→ P. 272）が表示されていないとき
・車線逸脱抑制機能が作動していないとき

■機能の一時解除

作動条件（→ P. 271）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能について

車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能が作動しなかったりすることがあります。

■車線逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、ハンドルの振動を感じにくい場合があります。

■手放し運転警告について

車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能の作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、警告メッセージが表示され、機能が一時的に解除されます。ハンドルに軽く手を添えた運転が続いたときも同様です。ただし路面状況などにより、作動が中断しない場合があります。

■白（黄）線が片側しかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、カメラセンサーが白（黄）線を正しく検知できず、各機能が正しく作動しないおそれがあります。

●白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき

●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき

●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき

●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき

●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき

●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）

●白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき

●コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき

●照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき

●トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき

●対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射しているとき

●分岐・合流路などを走行しているとき

●坂道を走行しているとき

●左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき

●舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき

●急カーブを走行しているとき

●車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき

●重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき

●先行車との車間距離が極端に短くなったとき

●走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき

●夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき

●横風を受けているとき

●車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

●冬用タイヤなどを装着しているとき

■LKA 表示灯が橙色で点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

→ P. 480

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。（→ P. 92）

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）

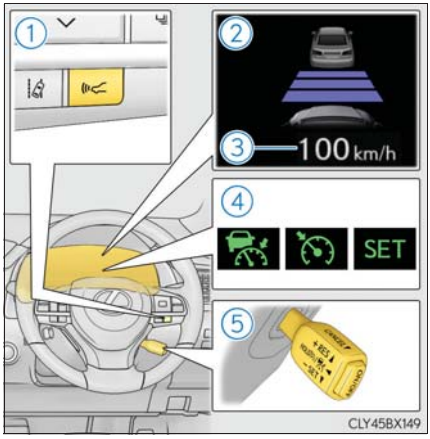
機能概要

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化にあわせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。
通信利用型レーダークルーズコントロールは ITS Connect を装備している車両のみ使用できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード（→ P. 278）
- 通信利用型レーダークルーズコントロール (ITS Connect 装着車のみ)（→ P. 283）
- 定速制御モード（→ P. 286）

① 車間距離切りかえスイッチ
② マルチインフォメーションディスプレイ
③ 設定速度
④ 表示灯
⑤ レーダークルーズコントロールスイッチ



警告

■**安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**システムの支援内容に関する注意点**

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

警告

■**誤操作を防ぐために**

レーダークルーズコントロールを使わないときは ON/OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■**レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

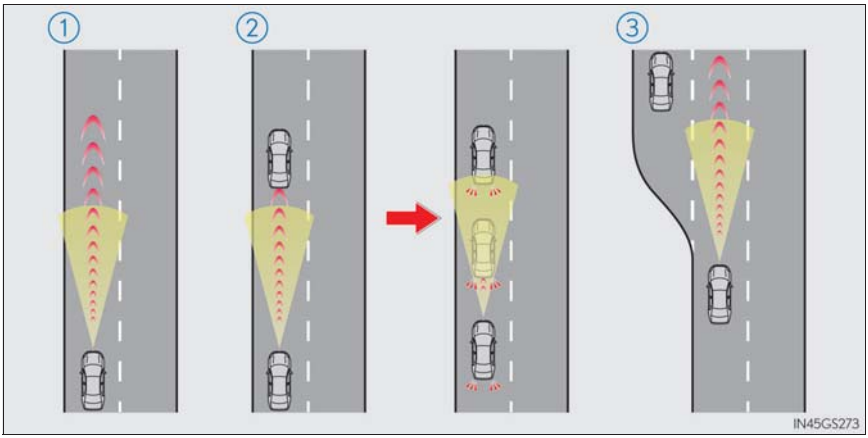
次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
  急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- レーダーセンサー前面または、カメラセンサー前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- 頻繁に加速・減速を繰り返すような交通状況のとき
- 車両けん引時
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーセンサーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



① 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

② 減速走行ー追従走行：
設定した速度より、車速が遅い先行車が現れたとき

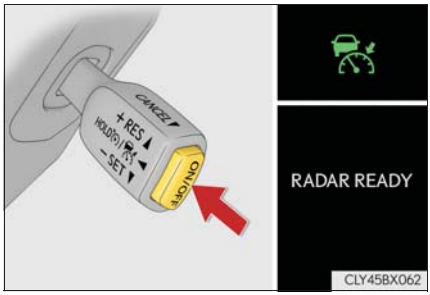
先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化にあわせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。
先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、クルーズコントロールレバーを上げるか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります。

③ 加速走行：
設定した速度より、車速が遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

速度を設定する（車間制御モード）

1 ON/OFF スイッチを押して、システムを ON にする

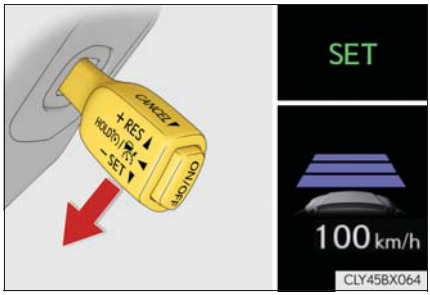


レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには再度スイッチを押します。

ON/OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。（→ P. 286）

2 希望の車速（約 50 ～ 100km/h）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する



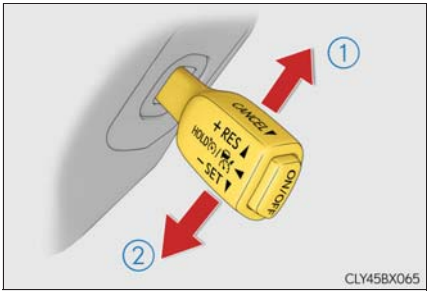
クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。

車速が約 50km/h 未満、かつ先行車がいる状態でレバーを操作したときは、設定速度が約 50km/h にセットされます。

設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。



① 速度を上げる
（車間制御モードの制御停車中は除く）

② 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：レバーを上または下に保持して速度をかえ、希望の速度で手を離す

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ、5km/h ずつ

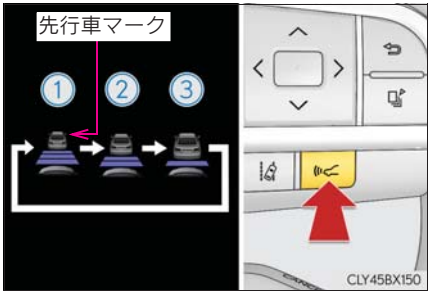
定速制御モード（→ P. 286）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ連続して変化

車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。



① 長い

② 中間

③ 短い

エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするたびに車間距離は①にもどります。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

車間距離選択の目安（車間制御モード）

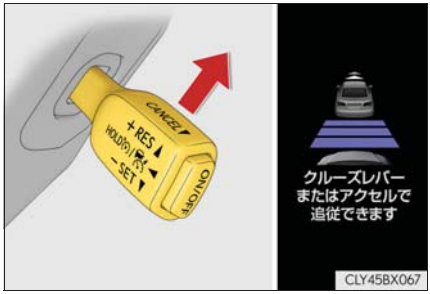
次の目安を参考に車間距離を選択してください。
（車速 80km/h で走行している場合）
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車したときの車間距離は設定にかかわらず約 3 ～ 5m です。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

先行車の発進後、レバーを上げる

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。

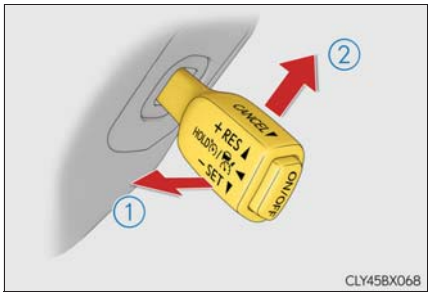


制御を解除する・復帰させる

① 制御を解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

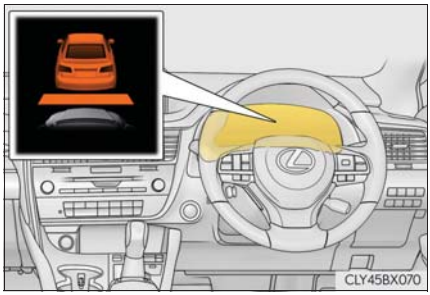
② 制御を復帰させるには、レバーを上げる



ただし、車速が約 40km/h 以下で、かつ先行車を検知していないときは復帰しません。

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

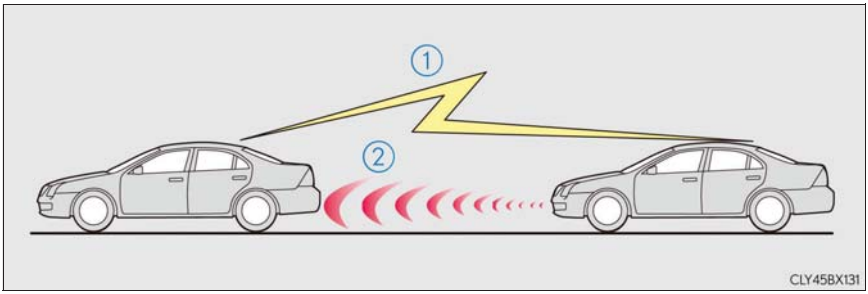
通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect 装着車）

通信利用型レーダークルーズコントロールは、ITS Connect が装着されている車両のみ利用できます。

ITS Connect については P. 292 を参照してください。

このシステムは車間制御モードでの追従走行中、先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対応している場合に自動的に作動します。

■ 情報取得



① 先行車との通信
加減速情報などを取得します。

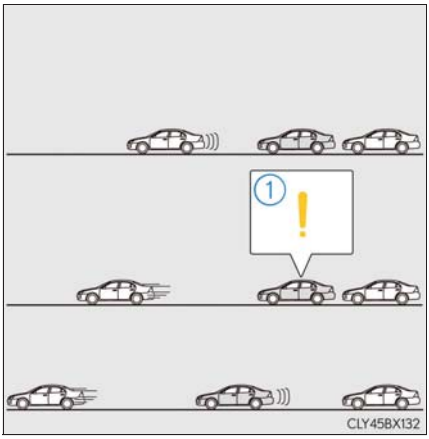
② ミリ波レーダー
車間距離情報などを取得します。

■ システム作動について

先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識できなくなった場合は自動的に車間制御モードに切りかわります。

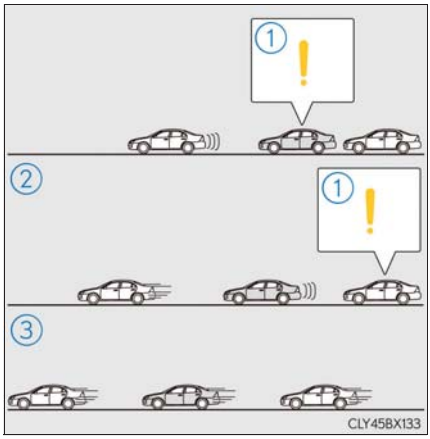
車間制御モードに比べて、次のような作動になります。

▶ 車間制御モード



① 先行車の発進に遅れて気づく

▶ 通信利用型レーダークルーズコントロール



① 先行車の発進に素早く気づく

② スムーズな加速で追従

③ 短時間で渋滞解消

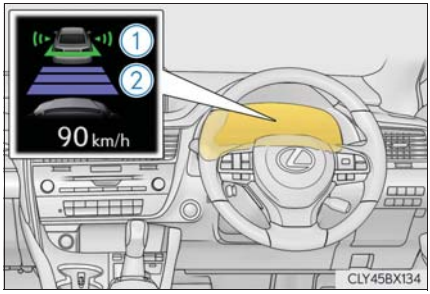
■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの ON/OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの画面（→ P. 92）から、通信利用型クルーズコントロールの ON（作動）/ OFF（非作動）を変更することができます。

■ システム作動時の表示

① 先行車通信マーク

② 車間距離表示



■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの作動目安

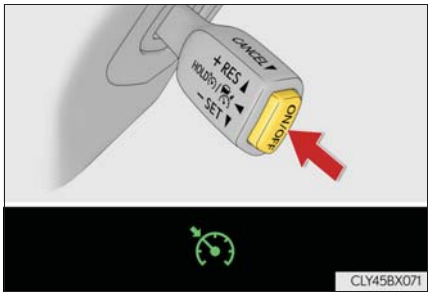
レーダークルーズコントロールの車間距離設定に応じて本機能の作動レベルがかわります。（→ P. 280）

車間距離設定	作動目安
長い	ゆったりとした加減速による追従走行
中間	中間の追従走行
短い	きびきびとした加減速による追従走行

定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化にあわせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーセンサーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

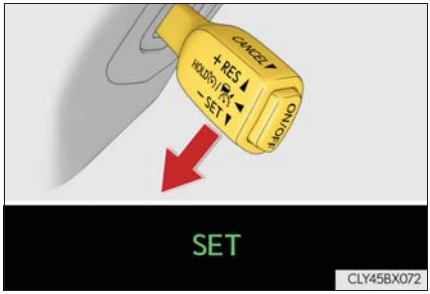
1 クルーズコントロールが OFF の状態で、ON/OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続ける



ON/OFF スイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切り替えが可能です。

2 希望の車速（約 50 ～ 100km/h）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する



クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる
→ P. 280

制御を解除する・復帰させる
→ P. 281

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D のとき設定できます。

●パドルシフトスイッチで D の 4 レンジ以上を選択したとき設定できます。（パドルシフトスイッチ装着車）

●車速は約 100km/h 以下で設定できます。（ただし、先行車を検知していないときは、約 50km/h 以下では設定できません）

■速度設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●先行車がいないときに車速が約 40km/h 以下になったとき

●車速が約40km/h以下で追従走行中に先行車がいなくなった、もしくはセンサーが正しく車両を検知できなかったとき

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき

●プリクラッシュブレーキが作動したとき

●パーキングブレーキが作動したとき

●急坂路で制御停車したとき

●制御停車中に次を検出したとき
・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・車両が停止したあと約 3 分経過した

その他の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■通信利用型レーダークルーズコントロールについて

●本機能によって、車間制御モードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。

●先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。

●先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。必要に応じてブレーキ・アクセルを操作して下さい。

■通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから車間制御モードに切りかわる場合があります。

●先行車との通信が途絶したとき

●センサーが先行車を誤って検知したとき

●トンネルやビル街などで、自車または先行車の GPS 受信状態や通信状態が悪化しているとき

●雪道などスリップしやすい路面を走行しているとき

●急な坂道を走行しているとき

●追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき

●通信していた先行車との間に、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割りこんできたとき

■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

●設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき

●車速が約 40km/h 以下になったとき

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●プリクラッシュブレーキが作動したとき

その他の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

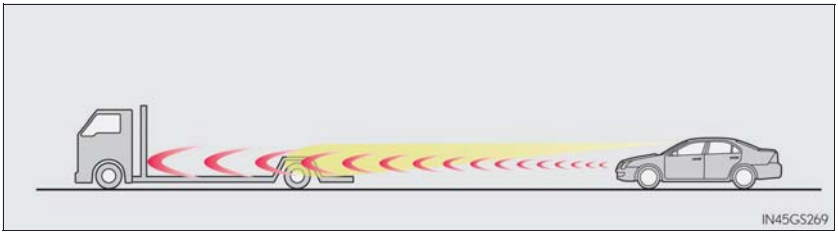
次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 282）も作動しないおそれがあります。

●先行車が急に割り込んできたとき

●先行車が低速で走行中のとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

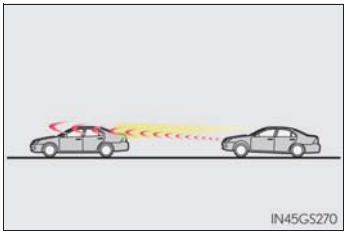
●先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



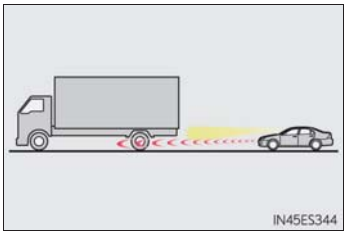
●同じ車線を二輪車が走行中のとき

●周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの検知のさまたげになる場合

●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



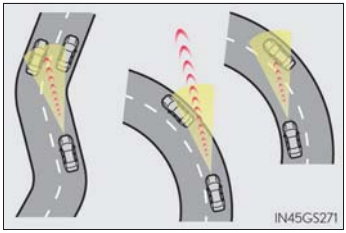
●先行車の車高が極端に高いとき



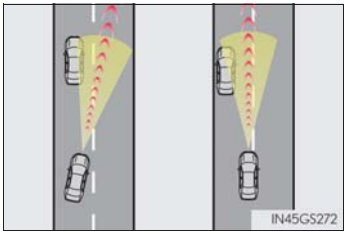
■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。
センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



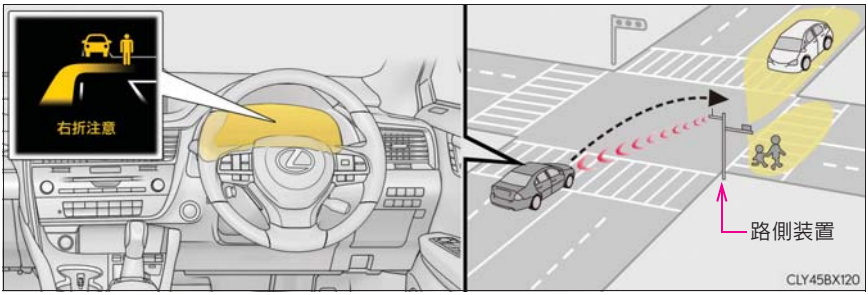
●先行車が急ブレーキをかけた場合

ITS Connect★

ITS Connect の概要

ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。

◆ 安全運転を支援する通知・案内・注意喚起



ITS Connect は、道路に設置された DSSS※ 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。

受信した情報は、状況に応じて通知・案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイに表示され、運転者に注意を促すことにより安全運転を支援します。

※ DSSS（Driving Safety Support Systems）とは、運転者の認知・判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

◆ 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスムーズな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。詳細は P. 283 を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
「システムが正常に作動しないおそれがあるとき」(→ P. 300) をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

■ITS Connect について

●次のような状況では、ITS Connect は作動しません。
・交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき
・先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき

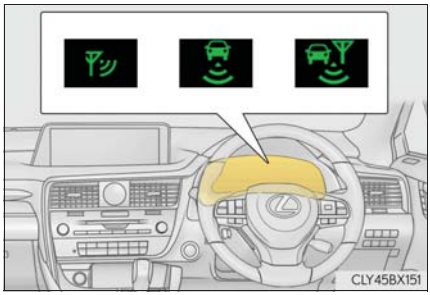
●交差点に進入する方向によっては、作動する通知・案内・注意喚起が異なる場合があります。

■右折時注意喚起について

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。
そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。「割り込み表示による通知・案内・注意喚起」(→ P. 295) をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能なとき、マルチインフォメーションディスプレイに次のアイコンを表示して通信の接続状態をお知らせします。



アイコン	接続状態
	道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取得できている
	通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている
	道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている

割り込み表示による通知・案内・注意喚起

状況に応じて、次の通知・案内・注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。

■ 右折時注意喚起

交差点で右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、対向車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

▶ 対向車および歩行者を感知する交差点

▶ 対向車のみを感知する交差点

・注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 赤信号注意喚起

赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

■ 信号待ち発進準備案内

赤信号で停車したとき、青信号にかわるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号がかわることを表します。

■ 緊急車両存在通知

緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、ブザーが鳴り、自車に対する緊急車両のおおよその方向・距離・進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近くに緊急車両がいることを表します。

■ 一時停止注意喚起 ※

一時停止の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、一時停止を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

■ 前方停止車両存在案内 ※

見通しが悪いカーブの先などで、渋滞などによって先行車両が停止または低速で走行しているときに、ブザーと表示でお知らせします。

■ わき道車両存在案内 ※

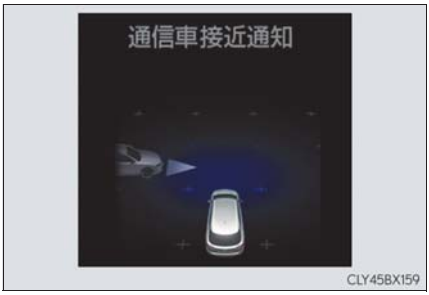
見通しが悪い交差点のわき道に車両がいるときに、ブザーと表示でお知らせします。

※ 一時停止注意喚起・前方停止車両存在案内・わき道車両存在案内について、正常に作動しないおそれがある状況など、詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／ナビゲーション／地図画面を操作する／ DSSS（Driving Safety Support Systems）運転支援機能を使用する」を参照してください。

通信車両接近通知

交差点などで停車しているときに、通信機を搭載した車両が接近してくると、通信車両のおおよその方向を表示します。

接近してくる方向が正面の場合は、右側方向指示灯を点滅させているときのみ表示します。



■ 通信車両接近通知の使い方

- マルチインフォメーションディスプレイで専用の通知画面を表示しているときに使用することができます。
  ハンドルのメーター操作スイッチの < または > を押して を選択し、∧ または ∨ を押して、通知画面を表示してください。
- 車両が停止しているときに表示が有効になります。車両が完全に停止していないときは通知されません。

各機能の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの(→ P. 92) で、以下の機能の設定を変更することができます。

機能	設定内容
右折時注意喚起	ON/OFF の切りかえ
	表示タイミングの切りかえ
赤信号注意喚起	ON/OFF の切りかえ
	表示タイミングの切りかえ
一時停止注意喚起	ON/OFF の切りかえ
	表示タイミングの切りかえ
前方停止車両存在案内	ON/OFF の切りかえ
わき道車両存在案内	ON/OFF の切りかえ
緊急車両存在通知	ON/OFF の切りかえ
信号待ち発進準備案内	ON/OFF の切りかえ
通信利用型レーダークルーズコントロール	ON/OFF の切りかえ

知識

■交差点ごとの作動する通知・案内・注意喚起について

道路に設置されている DSSS 用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知・案内・注意喚起は異なります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
・トンネルや高架下を通過しているとき
・エンジン始動してから、しばらく走行するまでの間

●例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・周囲に大型車が走行しているときなど、通信が遮られたとき
・通信を妨害する電波が発せられているとき
・DSSS 用路側装置の向きが変わってしまっているとき
・DSSS 用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
・他車両の通信機が故障しているとき

●右折時注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・周囲の環境や天候、DSSS 用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
・対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
・DSSS 用路側装置の検知範囲外に対向車や歩行者がいるとき

●赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・遅い速度で走行しているとき
・停車しているとき
・DSSS 用路側装置が設置された交差点付近の側道を走行しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●信号待ち発進準備案内は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・前方の信号機が青信号、黄信号または矢印信号のとき
・青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないとき
・停車していないとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき
・緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
・立体交差付近を走行しているとき
・緊急車両から受信した情報が誤っているとき

●通信車両接近通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

■ITS Connect 機器に関する情報

●本システムは、T-Engine フォーラム（www.tron.org）の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。

●本システムは、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合しています。
機種名 :DTU-1000
型式認定番号 :10003

●本システムは、周波数 760MHz の電波を発信するため、お車を海外へ持ち込んだ場合はその国の関連法規に違反する場合があります。

■ITS Connect に関するお問い合わせについて

ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子・機能・使用方法や路側装置の整備計画など）はレクサスオーナーズデスクにお問い合わせください。

レクサスオーナーズデスクについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

⚠注意

■ITS Connect 機器取り扱いの注意

●ITS Connect 機器は電波法および電気通信事業法の基準に適合しています。
ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。

●ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

Stop & Start システム

赤信号や交差点などの一時的な停車中、燃費向上やアイドリング騒音低減のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルなどの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

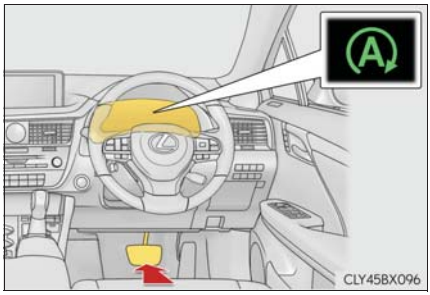
Stop & Start システムの作動

◆ ブレーキホールドシステムが OFF のとき

■ エンジンが停止する

シフトレバーを D または M で走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します。

Stop & Start 表示灯が点灯します。



■ エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。

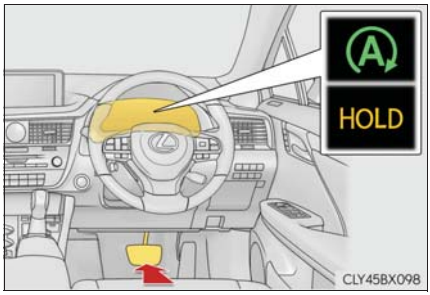
Stop & Start 表示灯が消灯します。

◆ ブレーキホールドシステムが ON のとき

ブレーキホールドシステム作動時（→ P. 220）も、Stop & Start システムは作動します。

■ エンジンが停止する

シフトレバーを D または M で走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します。



Stop & Start 表示灯が点灯します。

ブレーキホールドシステム作動中は、ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点灯します。このときブレーキペダルから足を離しても、Stop & Start システムによるエンジン停止状態を継続します。

■ エンジンが再始動する

アクセルペダルを踏むと、エンジンが再始動します。（ブレーキペダルから足を離してもエンジンは再始動しません）

Stop & Start 表示灯とブレーキホールド作動表示灯（黄）が消灯します。

■ ブレーキホールドシステム作動時の Stop & Start システムの作動について

- Stop & Start システムによりエンジンが自動的に再始動してもブレーキホールドシステムによるブレーキ保持は継続します。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中に、ブレーキホールドシステムの作動条件（→ P. 220）が満たされなくなるとブレーキホールドシステムは OFF になります。

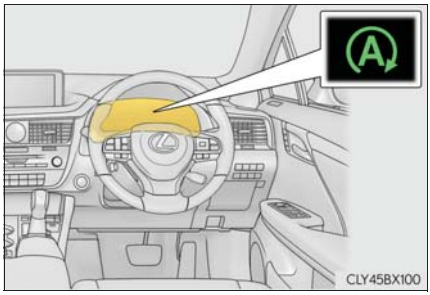
  このとき自動的にパーキングブレーキがかかりエンジンが自動的に再始動します。

◆ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）が作動しているとき

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）による制御停車時（→ P. 278）も、Stop & Start システムは作動します。

■ エンジンが停止する

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）の車間制御モードで走行中、制御停車で車両が完全に停止すると、エンジンが自動的に停止します。（ブレーキペダルを踏まなくてもエンジンが自動的に停止します）



Stop & Start 表示灯が点灯します。

■ エンジンが再始動する

先行車が発進すると、エンジンが再始動します。

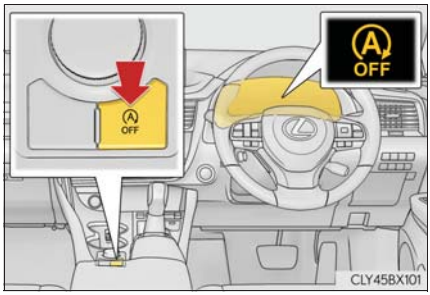
Stop & Start 表示灯が消灯します。

■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）による制御停車時の Stop & Start システムの作動について

Stop & Startシステムによりエンジンが自動的に再始動しても制御停車は継続します。（制御停車から追従走行に復帰させる：→ P. 281）

Stop & Start システムを非作動にするには

Stop & Start システムを非作動にするには Stop & Start キャンセルスイッチを押す



Stop & Start キャンセル表示灯が点灯します。

もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、作動可能状態にもどり、Stop & Start キャンセル表示灯が消灯します。

■ Stop & Start システムの自動再開

Stop & Start システムを Stop & Start キャンセルスイッチによって非作動にしていても、一度エンジンスイッチを OFF にしてからエンジンを始動することによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態にもどります。

■ Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中、Stop & Start キャンセルスイッチを押すとエンジンが再始動します。
- Stop & Start システムが非作動のとき、もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、Stop & Start システムが作動可能状態にもどりますがエンジンは停止しません。
  次に車両が停止したときに、Stop & Start システムによってエンジンが停止します。

坂道発進補助機能

Stop & Start システムによるエンジン停止後、エンジンが再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ力を一時的に保持し坂道での車両後退を抑制します。
駆動力が発生すると、保持していたブレーキ力を自動的に解除します。

- 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。
- ブレーキから音が発生することがありますが異常ではありません。
- ブレーキペダルの踏み応えが変わったり、振動が発生したりすることがありますが異常ではありません。

知識

■作動条件

●次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start システムが作動可能状態になります。
・ブレーキペダルをしっかりと踏んでいるとき（レーダークルーズコントロール［全車速追従機能付］の車間制御モードの制御停車中を除く）
・シフトレバーが D または M のとき
・ が OFF のとき
・運転席シートベルトを着用しているとき
・エンジンが十分暖まっているとき
・運転席ドアが閉まっているとき
・アクセルペダルを踏んでいないとき
・外気温が -5 ℃以上のとき
・ボンネットが閉まっているとき

●次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われない場合がありますが、異常ではありません。
・外気温が高い、または低いときに、エアコンを使用しているとき
・バッテリーが十分に充電されていないとき（例：長期間の駐車後などバッテリーの充電量が低下、電気負荷が大きい、バッテリー液温が低い、バッテリーが劣化）、および定期的な充電中のとき
・ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
・勾配が急な坂道で停車したとき
・ハンドル操作をしているとき
・渋滞などで、断続的に停車するとき
・標高が高いとき
・エンジン冷却水温やトランスミッション油温が低いとき、または高すぎるとき
・バッテリー液温が低いとき、または高すぎるとき
・バッテリーを交換したあとしばらくの期間、またはバッテリー端子をはずしたあとしばらくの期間

●Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動します。（Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください）
・エアコンを ON にしたとき
・ を ON にしたとき
・ハンドルを操作したとき
・シフトレバーを D または M 以外にしたとき
・運転席シートベルトをはずしたとき
・運転席ドアを開けたとき
・アクセルペダルを踏んだとき
・Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき
・坂道などで車両が動き出したとき

●Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。（Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください）
・ ブレーキペダルをさらに強く踏み込む、またはポンピングブレーキをしたとき
・ エアコンを使用しているとき
・ バッテリーの充電量が低下しているとき

■ボンネットを開けたとき

●Stop & Start システムによるエンジン停止中にボンネットを開けたときは、Stop & Start システムによるエンジン停止状態からエンスト状態に移行され、エンジンが自動で再始動しません。その場合は通常のエンジン始動操作（→ P. 204）でエンジンを始動してください。

●ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したときは、ボンネットを閉めても Stop & Start システムは作動しません。ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にし、30 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

■Stop & Start システムについて

●Stop & Start システムが作動しないときやキャンセルされたとき、または Stop & Start システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意を促がします。（→ P. 309）

●Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンスイッチを押すと、Stop & Start システムによるエンジン停止状態からエンスト状態に移行され、エンジンが自動で再始動しません。その場合は通常のエンジン始動操作（→ P. 204）でエンジンを始動してください。

●Stop & Start システムによりエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリーソケットやアクセサリーコンセントなどが使用できないことがありますが異常ではありません。

●電装品・無線機の取り付け・取りはずしは Stop & Start システムに悪影響をおよぼす可能性があります。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■Stop & Start システムによるエンジン停止中、フロントウインドウガラスが曇ったとき

を ON にしてください。（→ P. 382）

断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■Stop & Start システムによるエンジン停止中に、エアコン吹き出し口から臭いが発生したときは

Stop & Start キャンセルスイッチを押して Stop & Start システムの作動を停止してください。

■Stop & Start システムによるエンジン停止中のエアコンについて

●オート設定で空調システムを使用しているときに、Stop & Start システムによりエンジンが停止した場合は、冷房時の温度上昇や暖房時の温度低下を抑えるため、ファンの風量を弱めたり、停止したりすることがあります。

●空調の効きをより良くしたいときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■エアコンが ON のときのアイドリングストップ時間の長さの切りかえについて

マルチインフォメーションディスプレイの（→ P. 91）、または（→ P. 92）から、エアコンが ON のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さを切りかえることができます。（エアコンが OFF のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さは切りかえできません）

■Stop & Start システム保護機能

●大音量でオーディオを使用しているとき、バッテリーの消費を抑えるためにオーディオを自動的に OFF にする場合があります。この場合、エンジンスイッチを OFF にして 3 秒以上待ってからアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにし、オーディオを再開させてください。

●バッテリーの端子を外して再接続したときに、オーディオ（メーカーオプションのナビゲーションシステムを除く）が作動しないことがあります。この場合、いったんエンジンスイッチを OFF にし、次の操作を 2 回繰り返すことでオーディオが作動します。

・エンジンスイッチをイグニッション ON モードにし、再度エンジンスイッチを OFF にする

■バッテリーを交換するとき

→ P. 523

■アイドリングストップ時間など Stop & Start システムの作動表示

→ P. 91

■マルチインフォメーションディスプレイのメッセージについて

次のとき、マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されることがあります。

●Stop & Start システムによるエンジン停止が行われないとき

メッセージ	状況
ブレーキをもう少し踏み込んでください	**ブレーキペダルを踏む力が足りない** ブレーキペダルを踏み足すと作動します。
エアコン優先	・**外気温が高い、または低いときにエアコンを使用している** エアコンの設定温度と室内温度の差が小さくなると作動可能状態になります。 ・**を ON にしている**
バッテリー充電	・**バッテリーの充電量が低下している可能性がある** バッテリーの充電を優先するため、一時的にアイドリングストップを禁止していますが、エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。 ・**リフレッシュ充電中の可能性がある（参考シーン：定期的な充電中、バッテリー交換したあとしばらくの期間、またはバッテリー端子をはずしたあとしばらくの期間など）** 約 5 ～ 60 分間のリフレッシュ充電が完了すると作動可能状態になります。 ・**長期間（60 分以上）にわたって継続的に表示される場合は、バッテリーの劣化の可能性がありますのでレクサス販売店にご相談ください。**
ブレーキシステム	・**標高が高い** ・**ブレーキ倍力装置の負圧が低下した** ブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。
ハンドル操作	**ハンドルを操作した**
シートベルト非装着	**運転席のシートベルトをはずしている**

メッセージ	状況
アイドリングストップできません	**・一時的にアイドリングストップを禁止している** エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。 **・ボンネットが開いている状態でエンジンを始動した可能性がある** ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にして、30 秒以上待ってからエンジンを始動すると作動可能状態になります。
システム温度が低い	**バッテリーが冷えている可能性がある** エンジンをしばらく作動させることでエンジンルーム内の温度が上昇すると作動可能状態になります。
システム温度が高い	**バッテリーが非常に熱くなっている可能性がある** エンジンルーム内の温度が十分に下がると作動可能状態になります。
専用バッテリー非装着	**Stop & Start システム専用品以外のバッテリーを装着した可能性がある** Stop & Start システムが作動しません。 レクサス販売店で点検を受けてください。

●Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンが自動的に再始動したとき

メッセージ	状況
エアコン優先	**・エアコンを ON にした、またはエアコンを使用している** **・ を ON にした**
ブレーキシステム	**ブレーキペダルをさらに踏み込んだ、またはポンピングブレーキをした** 走行することによりブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。
バッテリー充電	**バッテリーの充電量が低下している可能性がある** バッテリーの充電を優先させるため、エンジンが再始動しました。エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。
ハンドル操作	**ハンドルを操作した**
シートベルト非装着	**運転席のシートベルトをはずした**

■**マルチインフォメーションディスプレイに「アイドリングストップ故障 販売店で点検してください」が表示されたとき**

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■**Stop & Start キャンセル表示灯が点滅したままのとき**

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■**Stop & Start システムが作動しているとき**

●Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯中）は、ブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。（ブレーキホールド作動中とレーダークルーズコントロール［全車速追従機能付］の制御停車中は除く）

●Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯中）は、車から離れないでください。
エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。
エンジンが自動的に再始動する場合があるため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**Stop & Start システムを正常に作動させるために**

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

●運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点滅するとき

●運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯しないとき

●運転席ドアを閉めているにもかかわらず、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示が表示される、またはインテリアランプがドア開閉連動 ON（→ P. 394）のときにインテリアランプが点灯するとき

●運転席ドアを開けているにもかかわらず、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示が表示されない、またはインテリアランプがドア開閉連動 ON（→ P. 394）のときにインテリアランプが点灯しないとき

BSM（ブラインドスポットモニター）★

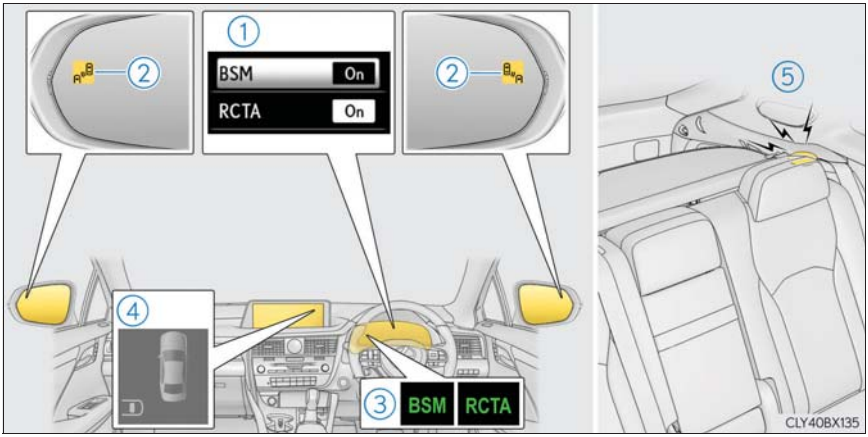
ブラインドスポットモニターの概要

ブラインドスポットモニターには 2 つの機能があります。

- BSM（ブラインドスポットモニター）機能
  運転者による車線変更時の判断を支援します。
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能
  後退時に運転者を支援します。

これらの機能は同じセンサーを使用します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



① マルチインフォメーションディスプレイ

BSM 機能または RCTA 機能の ON/OFF を切り替えます。
RCTA 機能は、BSM 機能が ON のときのみ ON にすることができます。

② ドアミラーインジケーター

BSM 機能：
ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

RCTA 機能：
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

③ BSM 表示灯 /RCTA 表示灯

BSM 機能または RCTA 機能が ON のとき、それぞれのインジケーターが点灯します。

④ モニター画面の表示（RCTA 機能のみ）

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、モニター画面に検知した側の RCTA アイコン（→ P. 322）が点灯します。

イラストは左後方から車両が接近している例です。

⑤ RCTA ブザー（RCTA 機能のみ）

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

BSM 機能を ON にした直後の約 1 秒間はブザーが鳴ります。

設定のしかた

1 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する。

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して「BSM」を選択する。

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して「BSM」/「RCTA」を選択する。

• を押すたびに ON ／ OFF が切りかわります。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■システムに異常があるときは

次のような原因で異常が検知されたときは、警告表示でお知らせします。
(→ P. 486)

- センサーが故障しているとき
- センサーが汚れているとき（着雪、ステッカー貼り付けなどを含む）
- 極めて高温または低温の環境での使用
- センサーの電圧異常
- センサーの位置や向きがずれているとき

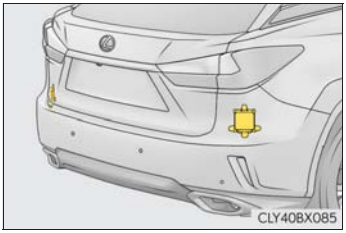
■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
(→ P. 326, 537)

警告

■**レーダーセンサーの取り扱い**

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。



●センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく
センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示（→ P. 486）とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落とした後、BSM機能の作動条件（→ P. 319）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。

●センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。
・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

●センサーを分解しない

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにステッカーを貼らない

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

●リヤバンパーの塗装修理の際にはレクサス設定色以外への変更は行わないでください

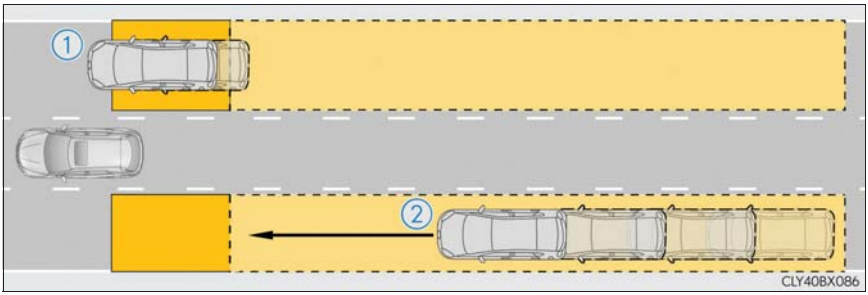
本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。

製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 202-LSC077

BSM 機能

BSM 機能はレーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。



① ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

② 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

BSM 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。

検知できる範囲：

① 車両の両側面について、側面から約0.5 m離れた面から約3.5 mの領域※

※ 車両側面から外側に約 0.5 m は検知しません。

② リヤバンパーから約 1 m 前方の領域

③ リヤバンパーから約 3 m 後方の領域

④ リヤバンパーから後方約 3 m ～ 60 m の領域※

※ 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯、点滅します。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

BSM 機能は、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

知識

■BSM 機能の作動条件

BSM 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●BSM 機能が ON のとき

●シフトレバーが R 以外の位置のとき

●車速が約 16 km/h 以上のとき

■BSM 機能が車両を検知する条件

BSM 機能は、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

●隣の車線を走行する他車に自車が追い越されるとき

●他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■BSM 機能が車両を検知しない状況

BSM 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型の二輪車、自転車、歩行者など ※

●対向車

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●同じ車線を走行する後続車 ※

●2 つ隣の車線を走行する他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

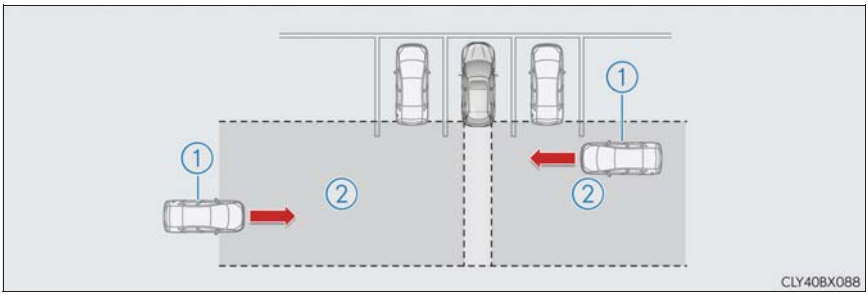
■BSM 機能が有効に作動しないおそれがある状況

●BSM 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。
- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
- 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- 自車と後続車の車間距離が短いとき
- 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
- 自車と他車の速度差に変化があるとき
- 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
- 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
- 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
- きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
- 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
- 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- BSM 機能または RCTA 機能を ON にした直後

●BSM 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
- 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
- きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- タイヤがスリップ（空転）しているとき
- 自車と後続車の車間距離が短いとき
- 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

RCTA 機能

RCTA 機能はレーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



① 接近車両

② 接近車両を検知できる範囲

■ リヤクロストラフィックオートブレーキ機能

インテリジェントクリアランスソナーが ON のとき、自車の右後方または左後方から接近している車両を検知するとシステムが作動し、接近車両への衝突を緩和し被害軽減に寄与します。
インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）についての詳しい説明は P. 337 を参照してください。

■ RCTA アイコンの表示

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、モニター画面上に次の表示をします。

画面表示	表示内容
	左後方から車両が接近しているとき
	右後方から車両が接近しているとき
	両方向から車両が接近しているとき
	RCTA 機能に異常があるとき (→P. 315)

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

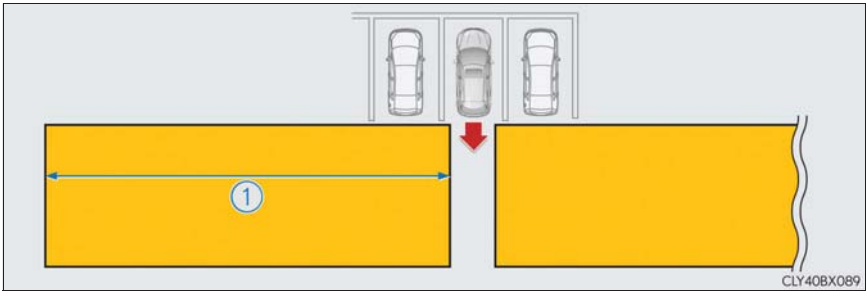
RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

RCTA 機能を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両	速度	1 警報距離（概算）
速い	28 km/h	20 m
遅い	8 km/h	5.5 m

知識

■RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●RCTA 機能が ON のとき

●シフトレバーが R のとき

●自車の車速が約 8 km/h 以下のとき

●接近する他車の車速が約 8 km/h ～ 28 km/h の間のとき

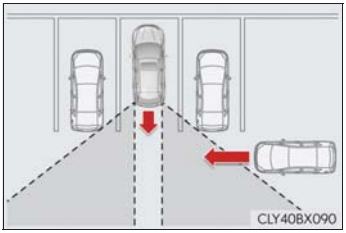
■RCTA 機能が車両を検知しない状況

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●真後ろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両



●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●小型の二輪車、自転車、歩行者など ※

●自車から遠ざかる車両

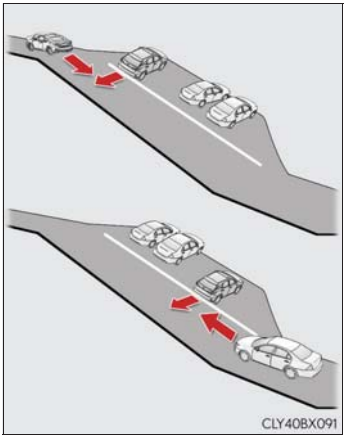
●自車の隣の駐車スペースから接近する車両 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

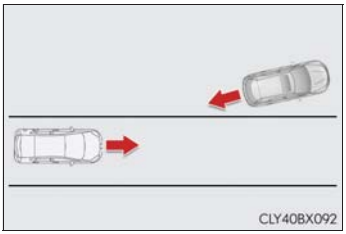
■RCTA 機能が有効に作動しないおそれがある状況

●RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。
- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
- 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- 高速で接近する車両

・勾配の変化が激しい坂で後退しているとき

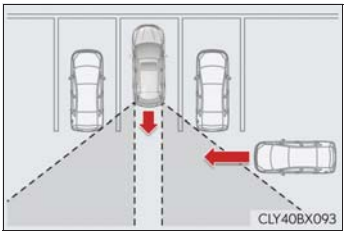


・浅い角度での駐車



・RCTA 機能を ON にした直後
・RCTA 機能を ON にした状態で、エンジンを始動した直後

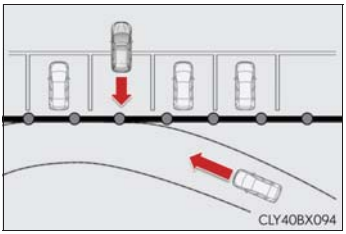
・障害物のためにセンサーが検知できない車両



●RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

・自車の横を通過する車両

・駐車場に面した道を走行する車両



・車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

BSM 機能 /RCTA 機能の設定

ナビゲーションシステムで BSM 機能および RCTA 機能の設定をすることができます。

1 リモートタッチの MENU スイッチを押し、を選択する

2 「設定・編集」画面の「運転支援」を選択し、「ブラインドスポットモニター設定」を選択する

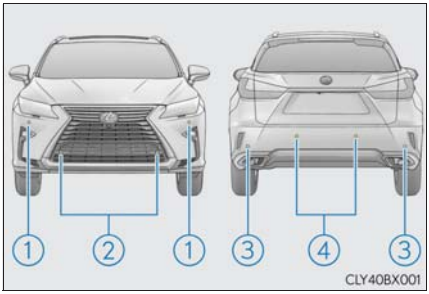
3 設定を変更したい項目を選択する（→ P. 544）

クリアランスソナー★

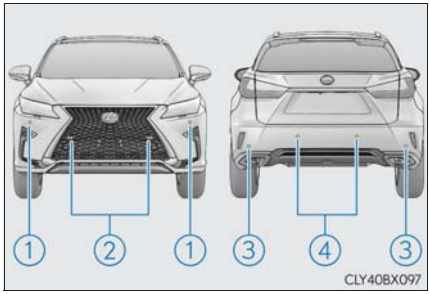
クリアランスソナーは、低速（約 10km/h 以下）で運転しているときに、車両と障害物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面の距離表示とブザー音で運転者にお知らせする補助装置です。

センサーの位置・種類

▶ F SPORT 以外



▶ F SPORT

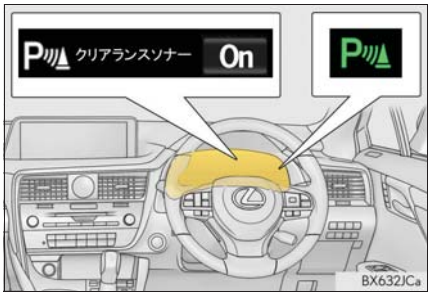


① フロントコーナーセンサー
② フロントセンターセンサー
③ リヤコーナーセンサー
④ バックセンサー

クリアランスソナーの切りかえ

1 マルチインフォメーションディスプレイ内の ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して、「クリアランスソナー」を選択する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

3 メーター操作スイッチの [•] を押す

ON を選択すると、クリアランスソナー表示灯が点灯します。

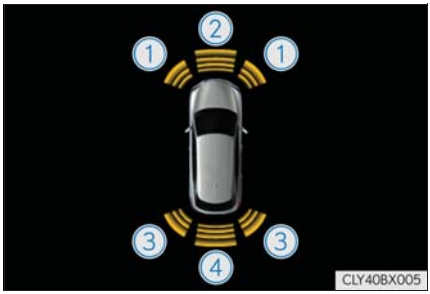
OFF を選択して、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの「設定」から「クリアランスソナー」を ON にし、システム作動状態にしないとクリアランスソナーは復帰しません。

（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

クリアランスソナーの表示のしかた

■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

① フロントコーナーセンサー作動表示
② フロントセンターセンサー作動表示
③ リヤコーナーセンサー作動表示
④ バックセンサー作動表示



■ ナビゲーション画面（サイド画面）の表示

障害物を検知すると自動的に表示されます。

①クリアランスソナー表示

表示されないように設定することができます。（→P. 332）

[🔇×]：ブザー音ミュート（消音）スイッチ（前進時のみ表示されます）

ブザー音を一時的に消すことができます。

②リヤクロストラフィックアラート表示

距離表示の見方

通常表示 ※1	割り込み表示 パノラミックビューモニター使用時	障害物までのおおよその距離 —	フロントコーナー＆フロントセンターセンサー	リヤコーナー＆バックセンサー
 （点灯）	 （遅い点滅）	遠い	**フロントセンターセンサー：** 約 100cm ～ 60cm	**バックセンサー：** 約 150cm ～ 60cm
 （点灯）	 （点滅）		約 60cm ～ 45cm	約 60cm ～ 45cm
 （点灯）	 （速い点滅）		約 45cm ～ 35cm	約 45cm ～ 35cm
 （点滅 ※2 または 点灯 ※3）	 （点灯）	近い	約 35cm 以下	約 35cm 以下

※1 イラストは説明のための例であり、表示により異なります（→ P. 328）

※2 マルチインフォメーションディスプレイ

※3 ナビゲーション画面

音声案内とブザー音

障害物を検知すると、ブザー音と同時に音声案内を行います。

■ フロント側またはリヤ側のみで障害物を検知しているとき

- 障害物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が約 35cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に障害物を検知しているときは、もっとも近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

■ 障害物を車両の前後で同時に検知したとき

- フロント側、またはリヤ側で障害物を検知してブザーが連続で鳴っているとき、反対側（フロントまたはリヤ）で新たに障害物を検知すると、ブザー音は「ピピピピピピピ　ピー」をくり返します。
- フロント側、またはリヤ側で障害物を検知してブザーが連続で鳴っているとき、反対側（フロントまたはリヤ）でもブザーが連続で鳴る範囲内に障害物を検知すると、ブザー音は「ピピピ　ピー」をくり返します。

ブザーの音量と鳴るタイミングを変更することができます。（→ P. 332）

障害物を検知できる範囲

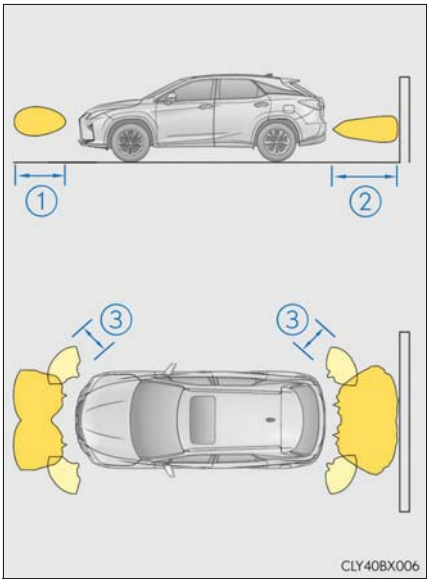
① 約 100cm（約 1.0m）

② 約 150cm（約 1.5m）

③ 約 60cm（約 0.6m）

・ 検知できる範囲は右図のとおりです。ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

・ 障害物の形状・条件によっては検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。



障害物を検知できる範囲を変更することができます。（→ P. 332）

音声案内・ナビゲーション画面表示・ブザーの設定

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき、クリアランスソナーの設定をすることができます。

1 リモートタッチの MENU スイッチを押し、「設定・編集」を選択する

2 「運転支援」を選択する

3 「クリアランスソナー設定」を選択する

■ ブザー音量設定

設定したい音量を選択する

ブザー音量を調整することができます。

■ 画面表示の ON/OFF（ソナー表示）

「ソナー表示なし」を選択する

- 選択するごとに、表示する／しないが切りかわります。
- 作動表示灯が点灯しているときはソナー表示されません。

障害物が検知されたとき、自動的にクリアランスソナー画面が表示されるかどうか設定することができます。

■ 画面表示・ブザータイミング

「切替え」を選択する

- フロントセンターセンサー：
  選択するごとに、検知範囲が「遠」（緑色、約 100cm 以内）と「近」（黄色、約 60cm 以内）に切りかわります。
- バックセンサー：
  選択するごとに、検知範囲が「遠」（緑色、約 150cm 以内）と「近」（黄色、約 60cm 以内）に切りかわります。

フロントセンターセンサー・バックセンサーの割り込み表示が表示される検知範囲と、ブザーが出力される検知範囲を調整することができます。

■ 移動時クリアランスソナー連動表示を設定する

車速とクリアランスソナーの検知状態に応じ、サイド画面のクリアランスソナー割り込み表示に加えてパノラミックビュー＆ ワイドフロントビュー★画面が自動的に表示されます。

ソナー表示の「ソナー表示あり」を選択する

● 次の場合に自動で表示されます。
- 走行中にクリアランスソナーが障害物を検知したとき

● 次の場合に自動で元の画面にもどります。
- 停車したとき
- クリアランスソナーの検知が終了したとき

●「ソナー表示なし」を選択すると、クリアランスソナー連動表示を OFF にすることができます。

知識

■ クリアランスソナーの作動条件

●フロントコーナーセンサー：
- エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
- シフトレバーが P 以外にあるとき

●フロントセンターセンサー：
- エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
- シフトレバーが P・R 以外にあるとき

●リヤコーナーセンサー：
- エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
- シフトレバーが R にあるとき

●バックセンサー：
- エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
- シフトレバーが R にあるとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■センサーの検知について

●センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●障害物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

●センサーが障害物に近付きすぎると検知できないことがあります。

●障害物を検知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示やブザーが出る前に、障害物まで約 35cm 以内に接近するおそれがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「ソナーの汚れを除去してください」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

■マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー故障」が表示されたときは

センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。
レクサス販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。(→ P. 537)

⚠警告

■クリアランスソナーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車速が約 10km/h をこえないようにしてください

●センサーの検知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）センサー検知範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください

●センサーが検知する範囲にはアクセサリー用品などを取り付けないでください

●マルチインフォメーションディスプレイに「ソナーの汚れを除去してください」が表示された場合、センサーの状態を確認してください。センサー部に氷・雪・泥などが付着してないのに警告メッセージが表示している場合は、センサーの異常が考えられますのでレクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■センサーについて

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

●センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても検知しないことがあります。

●センサーを手などで覆ったとき

●炎天下や寒冷時

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき

●どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき

●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●車両姿勢が大きく傾いたとき

●市販のフェンダーポール、無線機アンテナ、フォグランプを車に付けたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●標識などのものによっては検知距離が短くなります。

●バンパー真下付近は検知しません。
センサーより低いものや細い杭などは、一度検知しても接近すると突然検知しなくなることがあります。

●センサーに障害物が近付きすぎたとき

●バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき

●レクサス純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

●けん引フックを取り付けたとき

●字光式ナンバープレートを取り付けたとき

障害物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

警告

■**正確に検知できないことがある障害物**

次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

●人・動物などの動いているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

注意

■**クリアランスソナー使用時の注意**

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

●障害物を検知してない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき

●センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき

●バンパーをぶつけたとき

●ブザー音がしないのにクリアランスソナーの作動表示が点灯したままのとき

■**洗車時の注意**

●高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

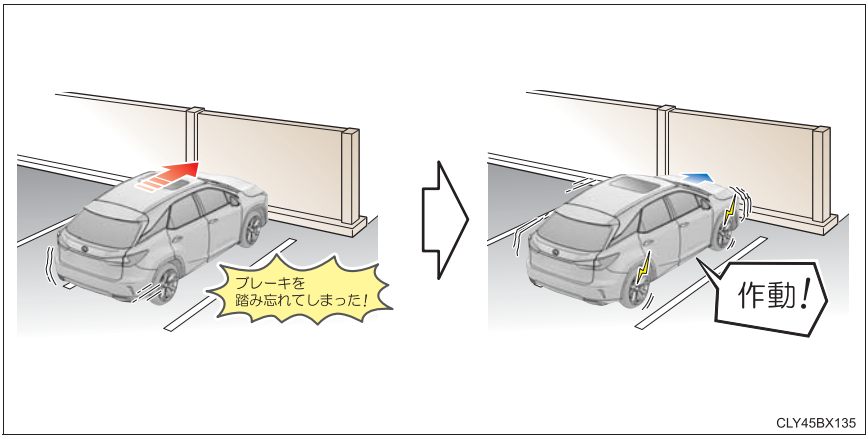
インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）★

駐車時や低速走行時における障害物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトレバーの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の障害物を検知するとシステムが作動し、壁などの障害物への衝突を緩和し被害低減に寄与します。

システム作動例

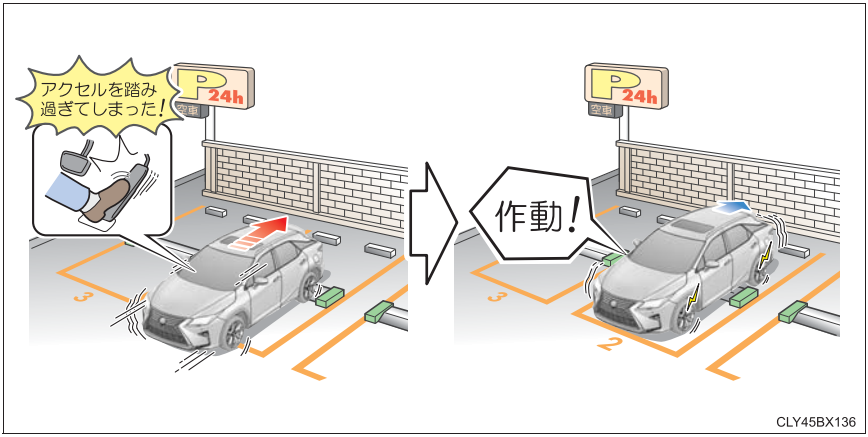
次のようなときに進行方向の障害物を検知してシステムが作動します。

◆ 低速走行時にブレーキペダルを踏み忘れてしまった、または踏み遅れてしまったとき

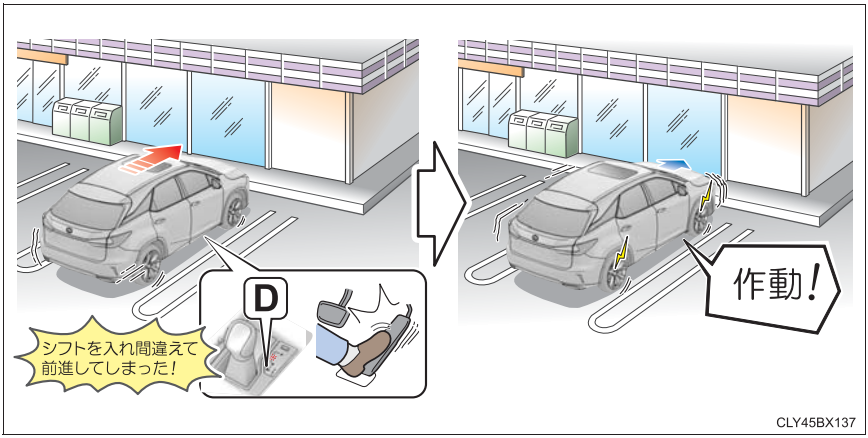


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



◆ 誤ってシフトレバーを D に入れ前進してしまったとき



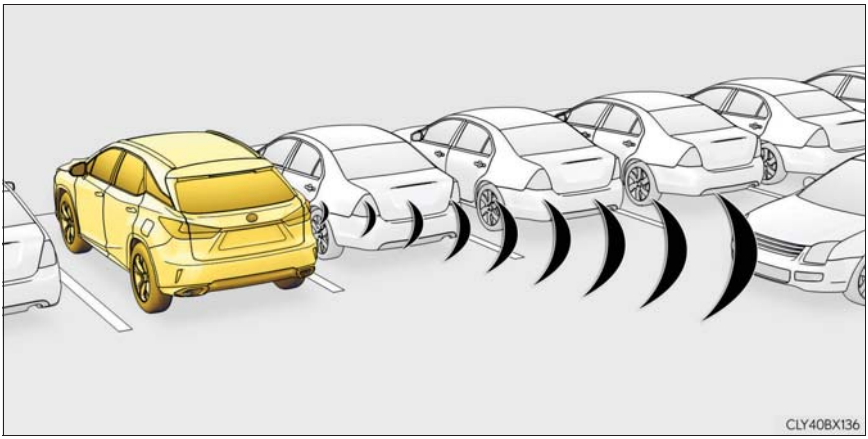
リヤクロストラフィックオートブレーキ機能とは

レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、衝突の危険性がある場合にブレーキ制御させることで、接近車両への衝突を緩和し被害軽減に寄与します。

■ システム作動例

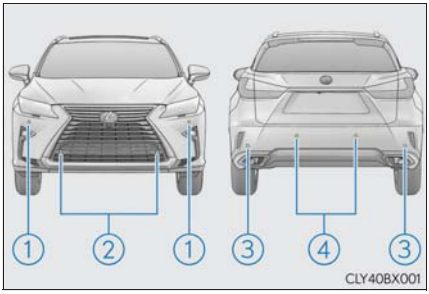
次のようなときに進行方向の障害物を検知してシステムが作動します。

◆ 後退時、近接車両接近中にブレーキペダルを踏み忘れてしまった、または踏み遅れてしまったとき

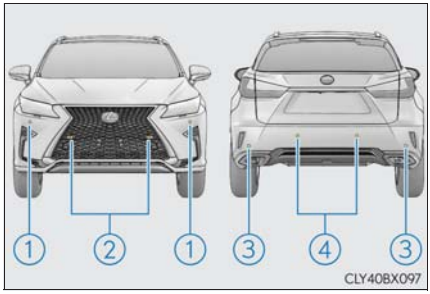


センサーの種類

▶ F SPORT 以外



▶ F SPORT



① フロントコーナーセンサー

② フロントセンターセンサー

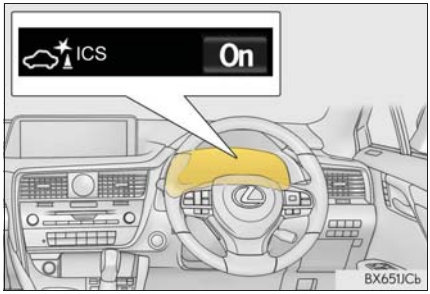
③ リヤコーナーセンサー

④ バックセンサー

インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）の切りかえ

1 マルチインフォメーションディスプレイ内の を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して、「ICS」を選択する



3 メーター操作スイッチの を押す

4 「はい」を選択し、 を押す

インテリジェントクリアランスソナーが OFF になると、ICS OFF インジケーターが点灯します。
OFF に切りかえた場合、再度マルチインフォメーションディスプレイの「設定」から「ICS」を ON にしないとシステムは復帰しません。（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

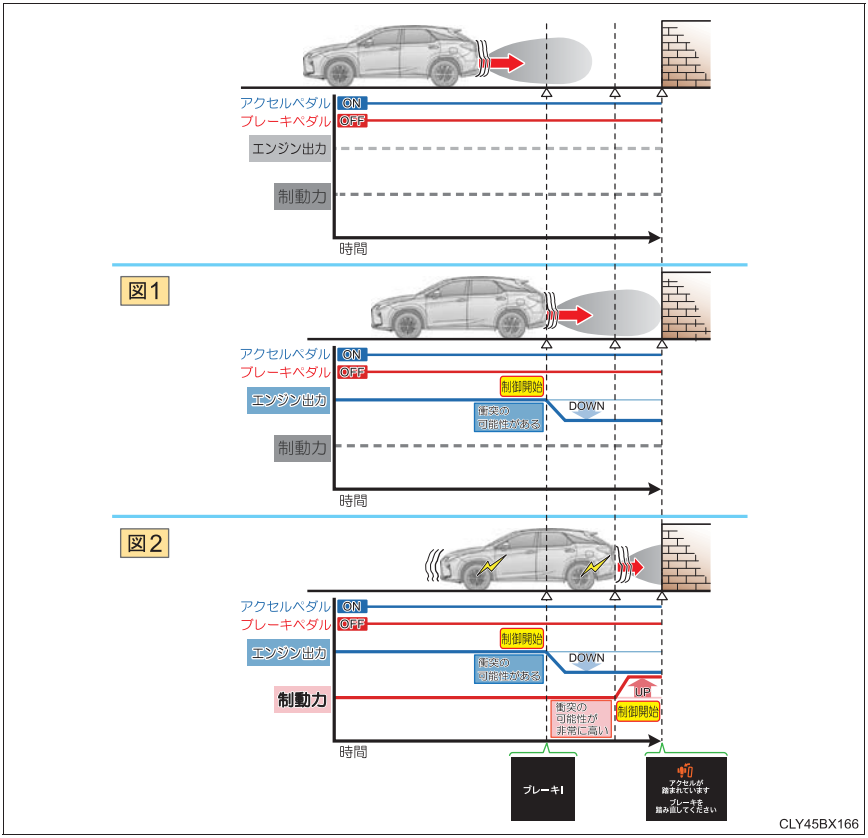
エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

制御	状況	マルチインフォメーションディスプレイ表示	ICS OFF表示灯	ブザー
エンジン出力抑制制御作動中（加速制限制御）	一定以上の加速ができない状況	「加速抑制中です」	消灯のまま	“ポーン”（単発音）
エンジン出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）	通常よりやや強めのブレーキ操作が必要な状況	「ブレーキ！」	消灯のまま	“ポーン”（単発音）
ブレーキ制御作動中	急ブレーキが必要な状況			
システム作動により車両停止	ブレーキ制御作動後に車両が停止した状況	「アクセルが踏まれています ブレーキを踏み直してください」	点灯	“ポーン”（単発音）

インテリジェントクリアランスソナーの作動について

インテリジェントクリアランスソナーは、衝突の可能性がある障害物を検知したとき、エンジンの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（エンジン出力抑制制御：下記図 1）
また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：下記図 2）



知識

■インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）の作動開始条件

ICS OFF 表示灯が点灯・点滅（→ P. 340、347）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●エンジン出力抑制制御
・インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）を ON（作動）にしているとき
・車速が 15km/h 以下
・車両進行方向に障害物がある（2 ～ 4m 先まで）
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断した

●ブレーキ制御
・エンジン出力抑制制御作動中
・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断した

■インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●エンジン出力抑制制御
・インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）を OFF（停止）にした
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になった
・車両進行方向の障害物がなくなった（2 ～ 4m 先まで）

●ブレーキ制御
・インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）を OFF（停止）にした
・ブレーキ制御により車両が停止して約２秒が経過した
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだ
・車両進行方向の障害物がなくなった（2 ～ 4m 先まで）

■インテリジェントクリアランスソナーの検知範囲について

インテリジェントクリアランスソナーの検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→ P. 331）とは異なります。
そのため、クリアランスソナーが障害物との接近をお知らせしても、インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）は作動を開始していない場合があります。

■インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）のシステムが作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）が停止して、ICS OFF 表示灯が点灯します。

■インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）のシステムの復帰について

システム作動によりインテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）が停止した場合に、インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）を復帰させたい場合は、再度、インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）を ON に（→ P. 340）するか、エンジンスイッチ をいったん OFF にしてから再度、イグニッション ON モードにしてください。
また、進行方向の障害物がなくなった状態で車両を走行させたとき、または車両の進行方向が入れ替わった（前進から後退、または後退から前進に切りかえた）ときはシステムが自動的に復帰します。

■インテリジェントクリアランスソナーが検知しない障害物について

次のような障害物は、センサーが検知しない場合があります。

- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
  （特に人は衣類の種類によっても検知できない場合があります）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凸凹なもの、波打っているもの
- 背の低いもの
- 針金、フェンス、ロープ、標識の支柱などの細いもの
- バンパーに非常に近いもの

■クリアランスソナーのブザーについて

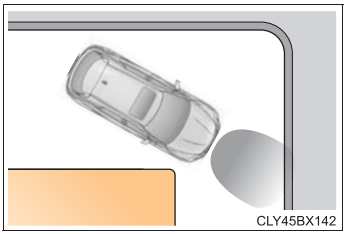
クリアランスソナーの ON/OFF に関係なく（→ P. 327）、インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）を停止させていなければ（→ P. 340）、前側センサーまたはうしろ側センサーが障害物を検知してブレーキ制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、障害物とのおよその距離をお知らせします。

■衝突の可能性がなくてもインテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）のシステムが作動する状況

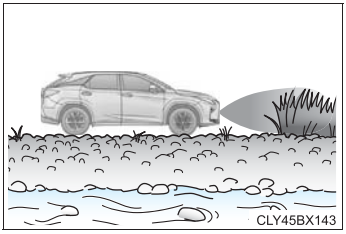
次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●周辺環境の影響

・狭い道路を走行するとき



・砂利道・草むらなどを走行するとき



・垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
・道路脇に障害物があったとき（狭いトンネル・狭い鉄橋・狭い道路などを走行したとき）
・縦列駐車時
・地面にわだちや穴がある場合
・排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
・急な登坂路を走行するとき
・冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●天候の影響

・センサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
・霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況

●他の音波の影響

・他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
・センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化

・車両姿勢が大きく傾いたとき
・積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

■万一、踏切などでインテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）が誤って作動したときは

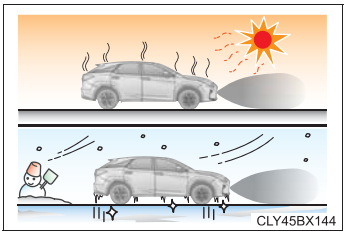
万一、踏切などでインテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）が誤って作動しても、ブレーキ制御は約２秒で解除されるため、そのまま前進することで脱出できます。
また、ブレーキペダルを踏んでも、ブレーキ制御は解除されるため、再度アクセルペダルを踏むことで前進し、脱出できます。

■インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）のシステムが正常に作動しないおそれのある状況

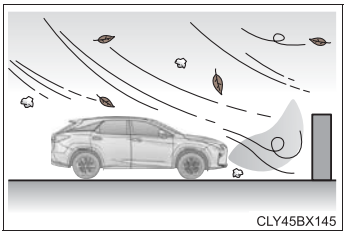
次のような状況では、システムが正常に作動しない場合があります。

●天候の影響

・ 炎天下や寒冷時でセンサー周辺部が著しく高温または低温の場合



・ 風が強いとき



・ センサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
・ 霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況

●周辺環境の影響

・ 検知できる障害物と車両のあいだに、検知できない障害物がある場合
・ 車、二輪車、自転車、歩行者などの障害物が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●他の音波の影響

・ 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両検知器、他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
・ センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化

・ 車両姿勢が大きく傾いたとき
・ 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ 衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

■バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。
約 35km/h 以上の車速で５秒以上直進走行することで初期化できます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「ICS 現在使用できません」が表示され ICS OFF 表示灯が点滅したときは

●センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

●センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、センサーが汚れてなくても表示がでるときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

●バッテリーを脱着したあとにシステムの初期化がされていないことが考えられます。システムの初期化を行ってください。（→ P. 347）

■マルチインフォメーションディスプレイに「ICS 故障 販売店で点検してください」が表示され ICS OFF 表示灯が点滅したときは

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。
レクサス販売店で点検してください。

警告

■**インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）を安全にお使いいただくために**

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）は衝突緩和という支援ができる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。

●インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約２秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

■**インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）のシステムを正しく作動させるために**

センサー（→ P. 340）について、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●改造・分解・塗装などをしない

●純正品以外に交換しない

●センサー周辺へ衝撃を与えない

●センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておく

レーダー（→ P. 316）について、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、レーダーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●改造・分解・塗装などをしない

●純正品以外に交換しない

●レーダー周辺へ衝撃を与えない

●レーダーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておく

■**サスペンションの取り扱いについて**

車高や車の傾きが変化すると、センサーが障害物を正しく検知できなくなり、システムが作動しなくなったり、不要に作動してしまう場合があるため、サスペンションの改造はしないでください。

注意

■インテリジェントクリアランスソナーの故障を防ぐために

●センサー周辺に衝撃を受けたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

●高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

■レーダーセンサーの故障を防ぐために

●センサー周辺に衝撃を受けたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

●レーダーセンサーの取り扱い（→ P. 316）をお守りください。

■インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）の不要な作動を防ぐために

次のときは、インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）を OFF にしてください。
衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合

●船舶・トラックなどへ積載する際の進入時

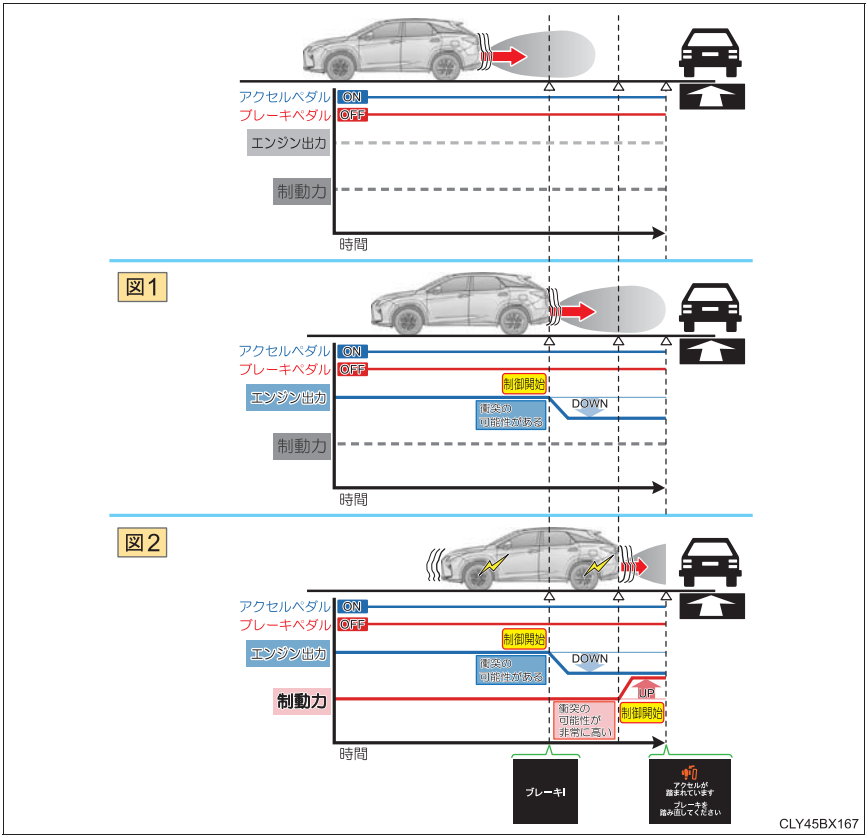
●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合

●積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●けん引フックを取り付けた場合

リヤクロストラフィックオートブレーキ機能の作動について

リヤクロストラフィックオートブレーキ機能は、衝突の可能性がある接近車両を検知したとき、エンジンの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（エンジン出力抑制制御：下記図１）
また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：下記図２）



知識

■リヤクロストラフィックオートブレーキ機能の作動開始条件

ICS OFF 表示灯が点灯・点滅（→ P. 340、347）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●エンジン出力抑制制御
・インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）を ON（作動）にしているとき
・自車の車速が約 15 km/h 以下のとき
・シフトレバーが R のとき
・接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断した

●ブレーキ制御
・エンジン出力抑制制御作動中
・接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断した

■リヤクロストラフィックオートブレーキ機能の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●エンジン出力抑制制御
・インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）を OFF（停止）にした
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になった
・後側方への接近車両がなくなった

●ブレーキ制御
・インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）を OFF（停止）にした
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過した
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだ
・後側方への接近車両がなくなった

■リヤクロストラフィックオートブレーキ機能の検知範囲について

リヤクロストラフィックオートブレーキ機能の検知範囲は、RCTA 機能の検知範囲（→ P. 323）とは異なります。
そのため、RCTA 機能が障害物の接近をお知らせしても、リヤクロストラフィックオートブレーキ機能は作動を開始していない場合があります。

■システムが作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、リヤクロストラフィックオートブレーキ機能が停止して、ICS OFF 表示灯が点灯します。

■システムの復帰について

システム作動によりリヤクロストラフィックオートブレーキ機能が停止した場合に、インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）を復帰させたい場合は、再度、インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）を ON にし停止を解除（→ P. 340）するか、エンジンスイッチをいったん OFF にしてから再度、イグニッション ON モードにしてください。
また、後側方への接近車両がなくなった状態で車両を後退させたとき、または車両の進行方向が入れ替わった（前進から後退、または後退から前進に切り替えた）ときはシステムが自動的に復帰します。

■リヤクロストラフィックオートブレーキ機能が車両を検知しない状況

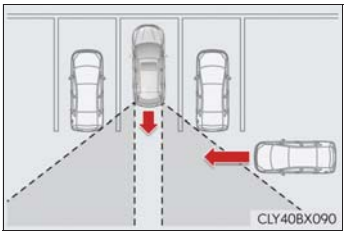
リヤクロストラフィックオートブレーキ機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●真後ろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両

●自車近くで急加速または急減速した車両



●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●小型の二輪車、自転車、歩行者など ※

●自車から遠ざかる車両

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

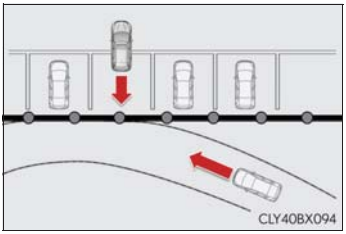
■RCTA 機能のブザーについて

RCTA 機能の ON/OFF（→ P. 315）に関係なく、リヤクロストラフィックオートブレーキ機能を停止させていなければ、ブレーキ制御が作動すると、ブザーが鳴り注意喚起をおこないます。

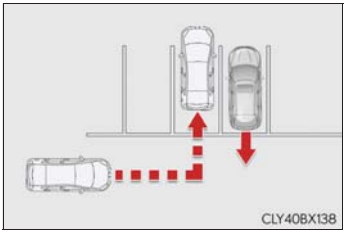
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

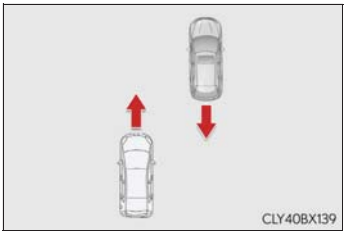
●駐車場に面した道を走行する車両



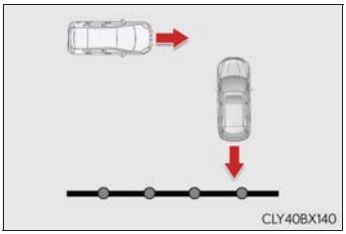
●自車近くで旋回していく移動物



●自車の横を通過する車両



●車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき



■システムが正常に作動しないおそれがある状況

次のような状況では、システムが正常に作動しない場合があります。

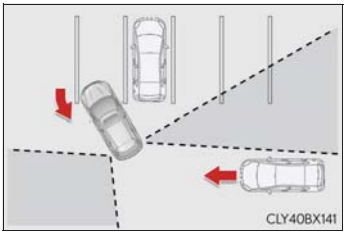
●レーダーセンサーが検知しない場合
・停止物
・自車から遠ざかる車両
・歩行者、二輪車、自転車等、乗用車以外の移動物※
・レーダーセンサーと接近物との距離が近すぎる場合
・後側方から接近車両の速度が約 8km/h 未満
・後側方から接近車両の速度が約 24km/h より大きい

※ 場合によっては検知する場合があります。

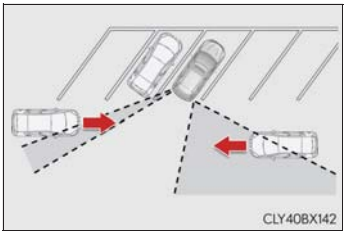
●レーダーセンサーが障害物を正しく検知できない場合
・炎天下や寒冷時
・リヤバンパーに氷、雪、泥などが付着したとき
・どしゃぶりの雨や水しぶきが掛ったとき
・隣接車両等でレーダーから接近車両が遮蔽されているとき
・車両姿勢が大きく傾いたとき
・けん引フックを取り付けたとき
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤ等を取り付けたとき
・車高が極端に変化している場合（ノーズアップ、ノーズダウン等）
・レーダーセンサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ、フェンダーポール、無線アンテナ等）やステッカーを張り付けたとき
・レーダーセンサーの軸ズレが発生しているとき（再搭載、衝突等）
・複数台の車両が狭い間隔で連続で接近するとき
・高速で接近する車両

●レーダーセンサーが検知しない可能性がある状況または対象物

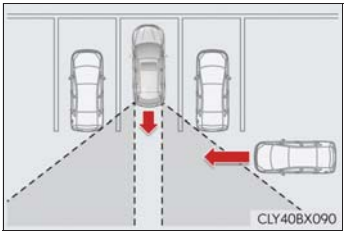
・自車角度がついた場合等、後方付近からの接近車両
・自車が旋回している場合



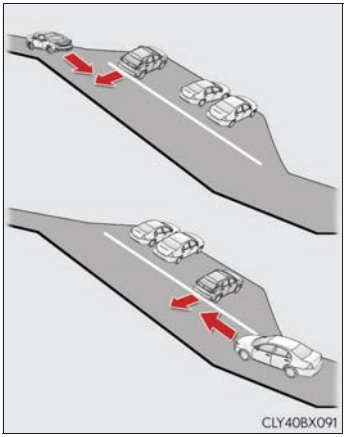
・浅い角度での駐車



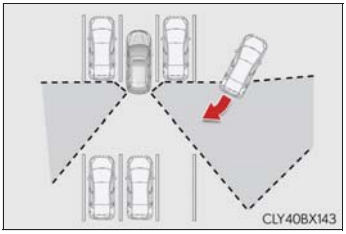
・障害物のためにセンサーが検知できない車両



・勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



・旋回しながら車両が近づいてきた場合



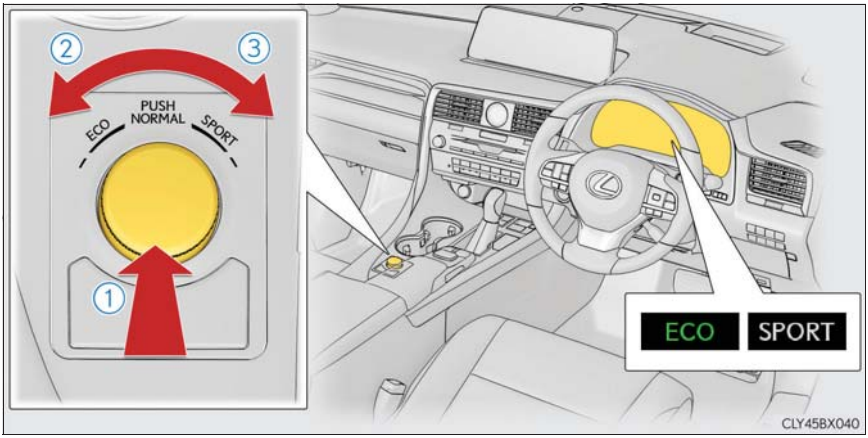
■レーダーセンサーの取り扱いについて

→ P. 316

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

▶ NAVI・AI-AVS 非装着車



① ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスが良く、市街地を走行する場合に適しています。

エコドライブモードまたはスポーツモード時にスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

② エコドライブモード

スロットル特性を穏やかに設計することで、エコ運転中のドライバーのアクセル操作をアシストします。またエアコン (暖房 / 冷房) の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

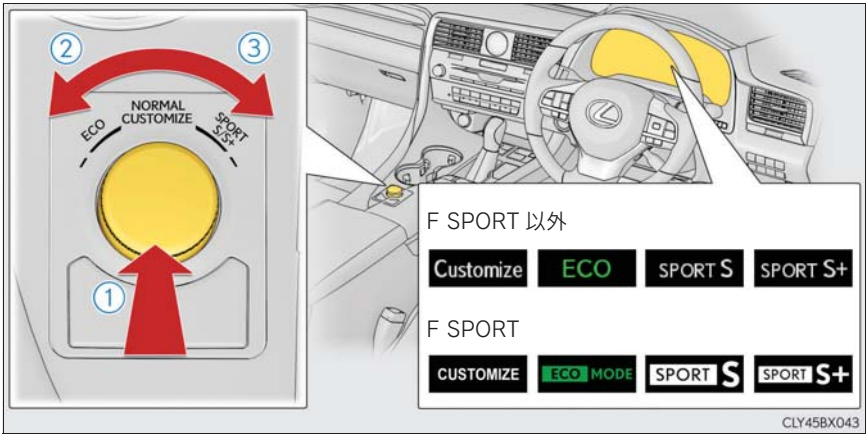
エコドライブモード以外のときにスイッチを左へまわすとエコドライブモードに切りかわり、エコドライブモード表示灯が点灯します。

③ スポーツモード

トランスミッションとエンジンの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速が可能です。また、ステアリングのフィーリングも変化し、コーナーの多い道などで、きびきびした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツモード以外のときにスイッチを右へまわすとスポーツモードに切りかわり、SPORT 表示灯が点灯します。

▶ NAVI・AI-AVS 装着車



① ノーマル／カスタマイズモード

ノーマル／カスタマイズモードは、スイッチを押して選択します。スイッチを押すごとに、ノーマル／カスタマイズモードが切りかわります。カスタマイズモードのとき、“Customize/CUSTOMIZE” 表示灯が点灯します。

エコドライブモードまたはスポーツモードのときにスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

・ノーマルモード
燃費性能、静粛性、運動性能のバランスが良く、市街地を走行する場合に適しています。

・カスタマイズモード
以下の機能をお好みで設定し、走行することができます。カスタマイズモードは、ナビゲーション画面で設定します。
（ドライブモード設定画面を表示させる：→ P. 537）

機能	設定
パワートレーン制御	Normal
	Power
	Eco
シャシー制御	Normal
	Sport
エアコン作動	Normal
	Eco

② エコドライブモード

スロットル特性を穏やかに設計することで、エコ運転中のドライバーのアクセル操作をアシストします。またエアコン (暖房 / 冷房) の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード以外のときにスイッチを左へまわすとエコドライブモードに切りかわり、エコドライブモード表示灯が点灯します。

③ スポーツモード

・スポーツ S モード

トランスミッションとエンジンの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速が可能です。コーナーの多い道などで、きびきびした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S モード以外のときにスイッチを右へまわすとスポーツ S モードに切りかわり、SPORT S 表示灯が点灯します。

・スポーツ S ＋モード

トランスミッションとエンジンに加え、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより操縦性・安定性の確保に貢献し、よりスポーティーな走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S モードのときにスイッチを右へまわすとスポーツ S ＋モードに切りかわり、SPORT S ＋表示灯が点灯します。

知識

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをより良くしたいときは、風量の調整またはエコドライブモードの解除をしてください。

■スポーツ / カスタマイズモードの自動解除

スポーツ / カスタマイズモードは、エンジンスイッチを OFF にするとノーマルモードにもどります。

■サイド画面の割り込み表示

モードを切り替えるごとに、選択したモードがサイド画面に表示されます。

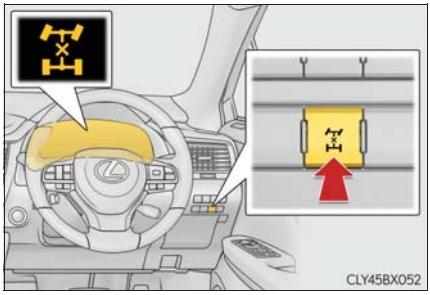
AWD ロックモードスイッチ（AWD 車）

AWD ロックモードは、後輪への駆動力配分を最大限高めます。
悪路・砂地・ぬかるみ・深雪路などでとくに大きな駆動力を必要とするときに使用します。

スイッチを押す

AWD ロックモード表示灯が点灯します。

再度スイッチを押すとAWDロックモードは解除され、通常のダイナミックトルクコントロール AWD にもどります。（→ P. 361）



知識

■**AWD ロックモードの作動条件**

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■**AWD ロックモードの自動解除**

- ブレーキを踏むと、ABS と VSC の効果を高めるために自動的に解除されます。
- 車速が約 40km 以上になったとき、自動的に AWD ロックモードが解除されます。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ ダイナミックトルクコントロール AWD ★

通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などですべりやすい路面など様々な走行状態に応じて、FF（前輪駆動）走行状態から AWD（4 輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操縦性・走行安定性に寄与します。

◆ NAVI・AI-AVS（AVS：アダプティブバリアブルサスペンションシステム）★

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を 4 輪独立に制御することで、優れたフラット感（安定性）と快適な乗り心地の確保に貢献します。
また、ドライブモードセレクトスイッチでスポーツ S ＋モードを選択したときには、スポーツ走行に適した減衰力に切りかわります。（→ P. 357）

◆ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）★

ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・EPS を総合的に制御します。
すべりやすい路面の走行などで急な運転操作をした際に、ブレーキ・エンジン出力を制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

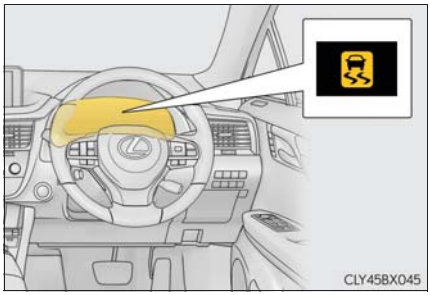
◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

TRC・VSC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。
このようなときに を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。

もう一度 を押すと、システム作動可能状態にもどります。

知識

■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。※

もう一度 を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。
（→ P. 264）

■VSC OFF スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が作動できない状態になっています。レクサス販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

●シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）

●車両停止状態

●アクセルペダルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトレバーを P または N の位置にした

●アクセルペダルを踏んだ

●パーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
・ 車体やハンドルに振動を感じる
・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ ウィーン ” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

●エンジンスイッチを OFF にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■NAVI・AI-AVS の NAVI 協調機能について

ナビゲーションの道路コーナー情報により、コーナーの前からあらかじめ減衰力を制御します。これにより、優れたコーナーリング性能を確保します。ナビゲーションにおいてルート探索可能な道路で作動します。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●ブレーキペダルを離した

●車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

警告

■**タイヤまたはホイールを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 535）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■**タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬の前の準備

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
・エンジンオイル
・冷却水
・ウォッシャー液

● バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前 2 輪）を使用してください。
タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→ P. 436）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

● 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するときは

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するときは

● パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、必ず輪止め ※1 をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P に入れたあとにパーキングブレーキを解除してください。（→ P. 216）

● パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーを P に入れた状態でシフトレバーが動かないこと ※2 を確認してください。

※1 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

※2 ブレーキペダルを踏まないで P からシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

ワイパーについて

積雪や凍結のおそれがある場合は、ボンネット下にあるワイパーをサービスポジションに切りかえてから立ててください。（→ P. 240）

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●前 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う

●取り付け後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

警告

■冬用タイヤを装着するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーンを装着するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは30km/hのどちらか低い方をこえる速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

●LKA（レーンキーピングアシスト）を使用しない

注意

■タイヤチェーンの使用について

レクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■タイヤを修理・交換するときは

レクサス販売店へご依頼ください。
タイヤの取り付け・取りはずしは、タイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。（タイヤについての詳しい説明は P. 436 を参照してください）

■タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

■フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するとき

たたいて割らないでください。
フロントウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備・機能 5

5-1. リモートタッチ

リモートタッチ..... 372

12.3 インチディスプレイ..... 375

5-2. エアコンの使い方

レクサスクライメイト
コンシェルジュ 377

オートエアコン..... 378

ステアリングヒーター／
シートヒーター／
シートベンチレーター..... 389

5-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 393

・インテリアランプ 394

・パーソナルランプ 395

5-4. 収納装備の使い方

収納装備一覧 397

・グローブボックス 398

・コンソールボックス 398

・カップホルダー 399

・ドアポケット 401

・ボトルホルダー 401

・コインボックス 402

・小物入れ 403

ラゲージルーム内装備.....404

5-5. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 410

・サンバイザー 410

・バニティミラー 410

・時計.....411

・おくだけ充電
（ワイヤレス充電器）.....411

・アクセサリーソケット.....417

・アクセサリーコンセント.....418

・助手席足元フック 419

・リヤドアサンシェード.....420

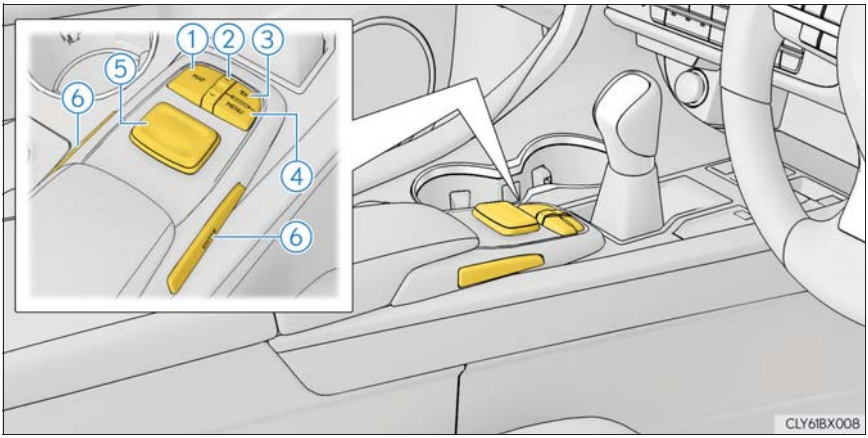
・リヤアームレスト 420

・アシストグリップ 421

・コートフック 421

リモートタッチ

リモートタッチを使って、ナビゲーション画面の操作・設定ができます。
詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



① MAP スイッチ

ナビゲーション画面で現在地を表示します。

② ∧・∨スイッチ

地図縮尺やリスト画面を切りかえます。

③ ⮌（戻る）スイッチ

ひとつ前の画面に戻ります。

④ MENU スイッチ

メニュー画面を表示します。（→ P. 374）

⑤ リモートタッチノブ

画面上のスイッチを選択または決定します。

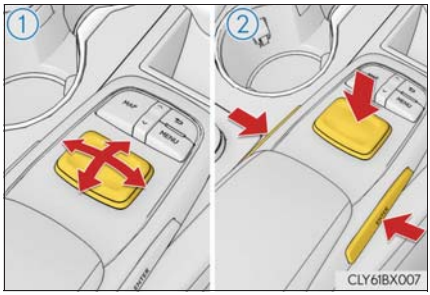
⑥ ENTER スイッチ

画面上のスイッチを決定します。

リモートタッチの操作について

① 選択する:リモートタッチノブを操作して、ポインタをスイッチに合わせる。

② 決定する：リモートタッチノブかENTER スイッチを押す



知識

■低温時の画面表示について

外気温が極めて低いときは、リモートタッチを操作しても画面の反応が遅れることがあります。

警告

■リモートタッチを操作するとき

- リモートタッチノブに指をはさんだり髪の毛を引っかけるなどして、思わぬけがをするおそれがあります。
- 環境によってリモートタッチが熱くなる、または冷たくなり、持てなくなることがあります。

注意

■リモートタッチの故障を防ぐために

- リモートタッチに食べ物や飲み物などをこぼさないでください。変色の原因になります。
- リモートタッチの上に乗ったり、ものを上に置かないでください。ノブが曲がったり、折れたりするおそれがあります。
- リモートタッチにコインやコンタクトレンズなどの異物が挟まると、操作できなくなります。
- リモートタッチノブに衣服などを挟んだり、巻き込んだりするおそれがあります。
- エンジンスイッチをアクセサリーモードにしたとき、リモートタッチノブの上に手またはものが置かれていると、正しく作動しないおそれがあります。

メニュー画面

リモートタッチの MENU スイッチを押すと、メニュー画面が表示されます。

分割画面表示にしているとき、メニュー画面はメイン画面に表示されます。（→ P. 375）

スイッチ	機能
	目的地を設定する。※
	オーディオ操作画面を表示する。※
	デジタルテレビを表示する。※
	電話画面を表示する。※
	情報画面を表示する。※
	エアコン操作画面を表示する。（→ P. 378）
	設定・編集画面を表示する。※
「画質・消」	画質調整画面を表示する。※

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

12.3 インチディスプレイ

画面表示について

■ 全画面表示

以下の画面は、表示エリアの全てに一画面で表示することができます。

- オープニング画面
- メニュー画面（→ P. 374）
- ナビ※
- オーディオ※
- 燃費、Harmonious Driving Navi（→ P. 109）
- TV※
- エアコン（→ P. 378）

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ 分割画面表示

異なる情報を左右に並べて表示します。たとえば燃費情報画面を表示したまま、オーディオ画面を並べて表示したり操作することができます。

画面左側の広い表示エリアをメイン画面、右側の狭い表示エリアをサイド画面と呼びます。

分割画面の操作

■ 操作したい画面の選択

メイン画面を選択するには、リモートタッチノブを左に操作します。

サイド画面を選択するには、リモートタッチノブを右に操作します。

■ メイン画面

メイン画面の表示や操作、および各機能の詳細については、それぞれの項目および、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ サイド画面

▶ 基本画面

右端のスイッチから各画面をサイド画面に表示し操作することができる

① ナビ※

② オーディオ※

③ ハンズフリー※

④ 車両情報（→ P. 114）

⑤ エアコン（→ P. 381）

⑥ 全画面表示切替スイッチ

サイド画面を非表示にします。

メイン画面に表示中の画面が全画面表示に対応している場合（→ P. 375）、その画面が全画面表示となります。

▶ 割り込み画面

次の各画面は状況に応じて自動的に表示される

● クリアランスソナー★（→ P. 328）

● ハンズフリー※

● オーナーズデスク※

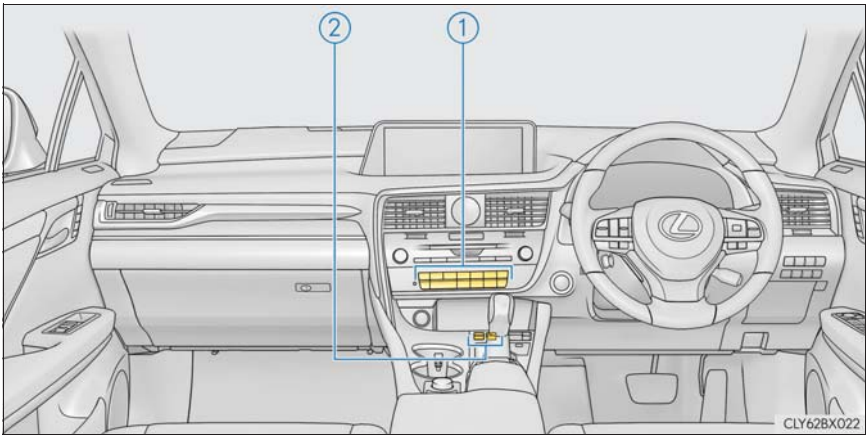
● ドライブモード（→ P. 356）

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

レクサスクライメイトコンシェルジュ★

エアコンの設定温度、外気温、車室内温度などに応じて、前席のシート空調がそれぞれ自動制御されます。各システムの調整の手間を省き、快適な状態を維持するよう制御します。



① エアコン（→ P. 382）
オート設定にします。

運転席・助手席の設定温度を別々に調整することができます。

② シートヒーター / シートベンチレーター（→ P. 391, 392）
各席でオート設定にします。

エアコンの設定温度・外気温などに応じて、シートヒーターとシートベンチレーターが自動的に切りかわります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オートエアコン

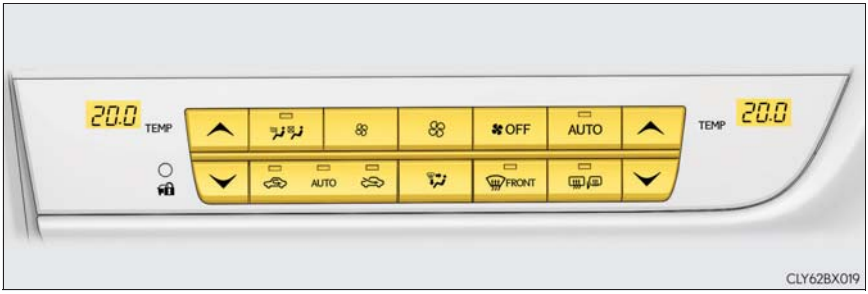
設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

リモートタッチの MENU スイッチを押して、を選択するとエアコン操作画面が表示されます。

エアコン操作画面は、サイド画面に表示し操作することもできます。
(→ P. 376)

リモートタッチについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

エアコン操作スイッチについて



■ **温度を調整する**

設定温度を上げるときは を、下げるときは を押す

■ **風量を切りかえる**

風量を増やすときは を、減らすときは を押す

OFF スイッチを押すと、ファンがとまります。

■ 吹き出し口を切りかえる

を押す

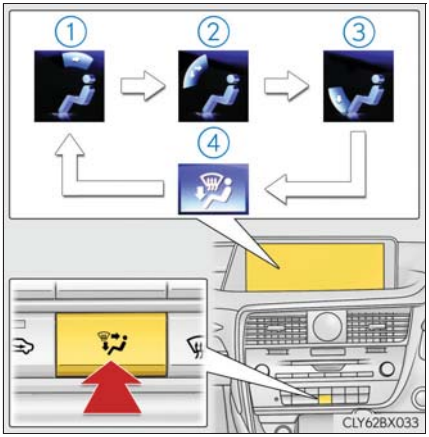
押すたびに吹き出し口が切りかわります。

① 上半身に送風

② 上半身と足元に送風

③ 足元に送風

④ 足元に送風・ガラスの曇りを取る



■ S-FLOW モード

S-FLOW モードでは、フロント席への送風を優先させ、リヤ席への送風および空調の効きを抑えます。

乗員が運転席のみのときは、設定温度や外気温度に応じて運転席のみの送風に切りかわります。

その場合、助手席側の温度表示は消灯します。

S-FLOW モードには、次のモードがあります。

▶ オート S-FLOW モード

このモードでは、リヤドアの開閉操作でリヤ席乗員の有無を判断し、リヤ席に乗員がいると判断したときは、自動的に S-FLOW モードが非作動になります。（→ P. 385）

作動中は、の作動表示灯が点灯します。

手動でS-FLOWモードの作動／非作動を切りかえるには、を押してマニュアル S-FLOW モードに切りかえてください。（→ P. 385）

▶ マニュアル S-FLOW モード

を押すたびに S-FLOW モードの作動／非作動が切りかわります。

作動中は、の作動表示灯が点灯します。

■ **その他の機能**

- 内気循環／外気導入を切りかえる（→ P. 382）
- フロントウインドウガラスの曇りを取る （→ P. 382）
- リヤウインドウの曇りやミラーの霜をとる（→ P. 383）

エアコン操作画面について

① 助手席側の温度を調整する
② 風量を切りかえる
③ 吹き出し口を切りかえる
④ 運転席側の温度を調整する
⑤ オプション操作画面を表示する（→ P. 380）
⑥ 吹き出し口と風量が自動的に調整される
⑦ 冷房・除湿する
⑧ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）（→ P. 382）
⑨ エコモードに設定する（→ P. 386）

■ **オプション操作画面**

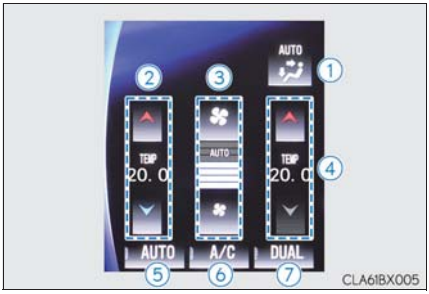
エアコン操作画面で を選択する。各機能の ON/OFF を切りかえることができます。

① フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐ★（→ P. 383）
② 花粉を除去する（→ P. 383）
③「ナノイー」※ を作動する（→ P. 386）

※「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エアコン操作画面（サイド画面）



① 吹き出し口を切りかえる

② 助手席側の温度を調整する

③ 風量を切りかえる

④ 運転席側の温度を調整する

⑤ 吹き出し口と風量が自動的に調整される

⑥ 冷房・除湿する

⑦ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）（→ P. 382）

オート設定で使用する

1 エアコン操作スイッチの AUTO スイッチを押す、またはエアコン操作画面で “AUTO” を選択する

2 AUTO モードになるまで を押す

外気導入と内気循環を自動で切りかえます。

3 温度を設定する

4 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

- エアコン操作画面で “DUAL” を選択する
- エアコン操作画面（サイド画面）で “DUAL” を選択する
- 助手席側の温度調整スイッチで設定温度を変更する

左右独立モードになりスイッチの作動表示灯が点灯します。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

を押す

スイッチを押すごとに、内気循環 → AUTO モード → 外気導入に切りかわります。

AUTO モードを選択するとエアコンが作動します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります。）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度 を押すと前のモードにもどります。

■ **リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター**

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

を押す

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的にOFF になります。

■ **花粉除去機能を使用するには**

オプション操作画面で、 を選択する。

花粉除去モードが ON のとき、エアコン操作画面の が点灯します。

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。

外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために除湿機能が作動する場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■ **フロントワイパーデアイサー★**

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

オプション操作画面で、 を選択する。

フロントワイパーデアイサーが ON のとき、エアコン操作画面の が点灯します。

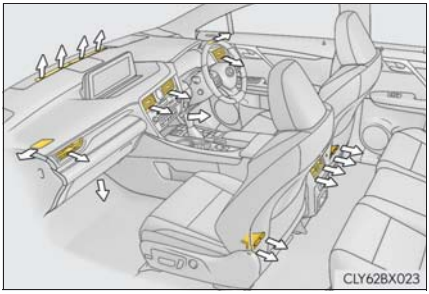
フロントワイパーデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

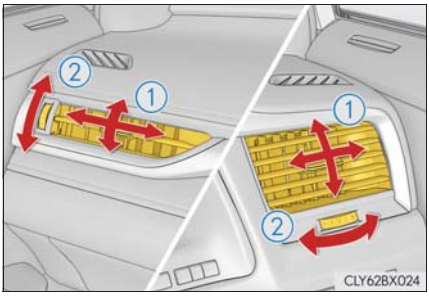
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。

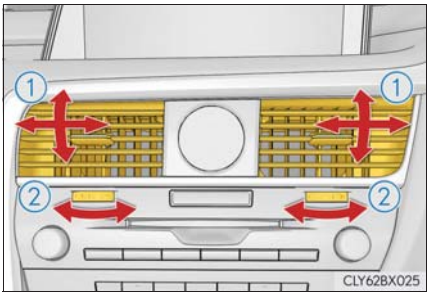


■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

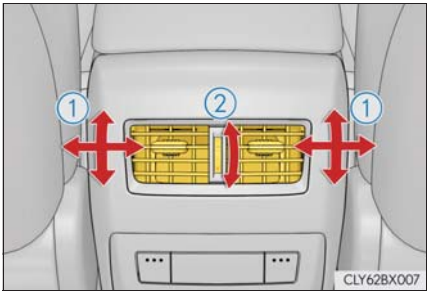
▶ フロントサイド



▶ フロントセンター



▶ リヤ



① 風向きの調整

② 吹き出し口の開閉

知識

■電子キーによるエアコン設定の記憶について（ドライビングポジションメモリー装着車）

●電子キーでドアを解錠してエンジンスイッチをイグニッションON モードにすると、その電子キーに対して記憶されたエアコン設定が呼び出されます。

●エンジンスイッチを OFF にすると、その時のエアコンの設定が解錠した電子キーに対して記憶されます。

●複数の電子キーを持ってスマートエントリー＆スタートシステムでドアを解錠したり、運転席以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠したりすると、正しく作動しないことがあります。

●スマートエントリー＆スタートシステムでエアコン設定の呼び出しのできる、解錠ドアの設定※を変更できます。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

※ ドライビングポジションメモリーの呼び出しを行う解錠ドアの設定も同時に変更になります。

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチ（“AUTO”）をONにした直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■オート S-FLOW モードの作動について

オート S-FLOW モードでは、S-FLOW モードの作動中にリヤドアを開閉すると非作動になります。再度 S-FLOW モードを作動させるには、[ソラシ] を押してください。

■マニュアル S-FLOW モードからオート S-FLOW モードに復帰するには

1 [ソラシ] を押して S-FLOW モードを非作動にする

2 エンジンスイッチを OFF にする

3 60 分以上経過後に、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

■内外気切りかえの AUTO モードについて

AUTO モードでは、排気ガスなどの有害成分を検知し、自動で外気導入と内気循環を切りかえます。

エアコンが OFF で送風が作動中に AUTO モードにすると、エアコンが ON になります。

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、“A/C” をONにすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●“A/C” をONからOFFにすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■エコドライブモードのエアコン作動について

●エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房 / 冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをより良くしたいときは、次の操作を行ってください。
・風量を調整する。
・エコドライブモードを解除する。

■「ナノイー」について

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置は運転席窓側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性のナノイーイオンを放出し、室内を爽やかな空気で満たします※1。

●ファンが作動すると、自動的に「ナノイー」が作動します※2。

●「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。
・吹き出し口が上半身、上半身と足元、または足元のとき
・運転席窓側の吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

※1 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

※2「ナノイー」がONのとき。(→ P. 380)

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→ P. 446

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。(→ P. 537)

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、FRONTを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。

■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター／フロントワイパーデアイサー★が作動しているとき

●ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

●フロントワイパーデアイサー装着車：フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■「ナノイー」について

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、レクサス販売店にお問い合わせください。

注意

■「ナノイー」の損傷を防ぐために

運転席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ステアリングヒーター★／シートヒーター★／シートベンチレーター★

ハンドルの左右のグリップ部やシートを暖めたり、シートから風を出して通気をよくできます。

警告

■**やけどについて**

●低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特にご注意ください。
・乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
・皮膚の弱い方
・疲労の激しい方
・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

●異常過熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
・長時間連続使用しない
・毛布・クッションなどを使用しない

注意

●シートヒーター／シートベンチレーターの損傷を防ぐため、凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

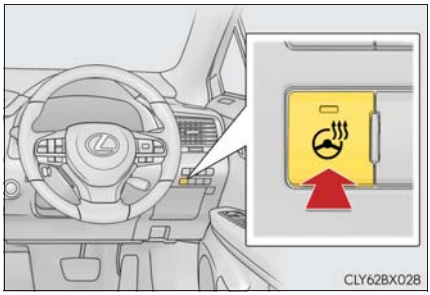
●バッテリーあがりを防ぐため、エンジンが停止した状態で使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ステアリングヒーター

システムの ON ／ OFF を切りかえる

作動中はインジケーターが点灯します。



知識

■ **作動条件**

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ **タイマー制御**

約 30 分後に自動で OFF になります。

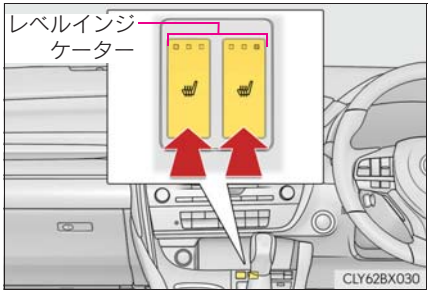
フロントシートヒーター

▶ シートベンチレーター非装着車

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

作動中は、レベルインジケーター（黄）が点灯します。



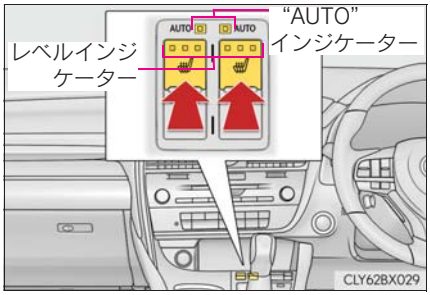
▶ シートベンチレーター装着車

いずれかのスイッチを 1 回押すと、AUTO モードが作動し、“AUTO” インジケーター (緑) が点灯します。

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

作動中は、レベルインジケーター（黄）が点灯します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■S-FLOW モード作動時は

乗員が運転席のみのときは、助手席側のシートヒーターが停止します。（→ P. 379）

■カスタマイズ機能

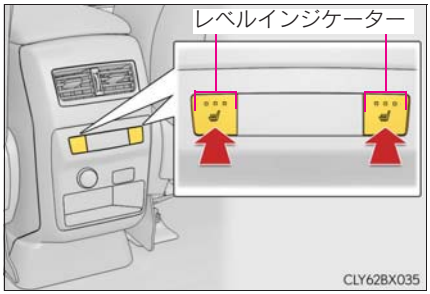
お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。（→ P. 537）

リヤシートヒーター

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

作動中は、レベルインジケーター（黄）が点灯します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

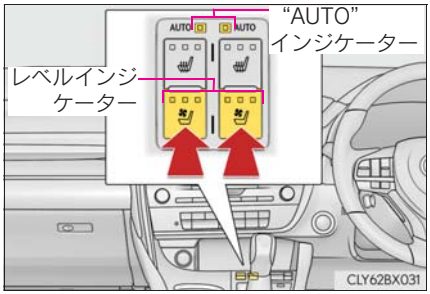
シートベンチレーター

いずれかのスイッチを 1 回押すと、AUTO モードが作動し、“AUTO” インジケーター (緑) が点灯します。

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

作動中は、レベルインジケーター（緑）が点灯します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

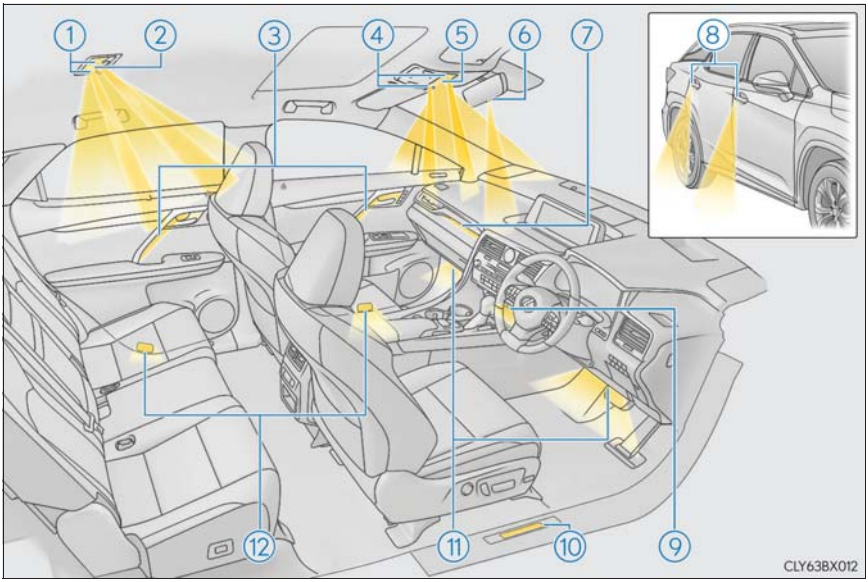
■S-FLOW モード作動時は

乗員が運転席のみのときは、助手席側のシートベンチレーターが停止します。（→ P. 379）

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。（→ P. 537）

室内灯一覧



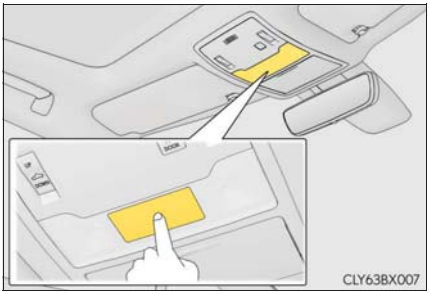
① リヤパーソナルランプ(→P. 395)
② リヤインテリアランプ(→P. 394)
③ ドアトリムオーナメントイルミネーション★
④ フロントパーソナルランプ(→P. 395)
⑤ フロントインテリアランプ(→P. 394)
⑥ シフト照明
⑦ インストルメントパネルオーナメントイルミネーション★
⑧ 室外足元照明
⑨ フロントセンターコンソール照明
⑩ スカッフプレート照明★
⑪ 室内足元照明
⑫ ドアカーテシランプ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

インテリアランプ

リヤインテリアランプはフロントインテリアランプに連動して点灯・消灯します。

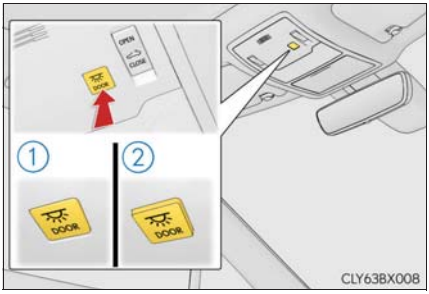
ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）



ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる

① ON

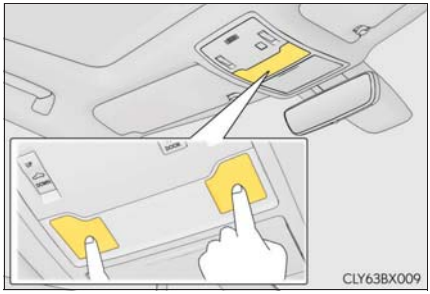
② OFF



パーソナルランプ

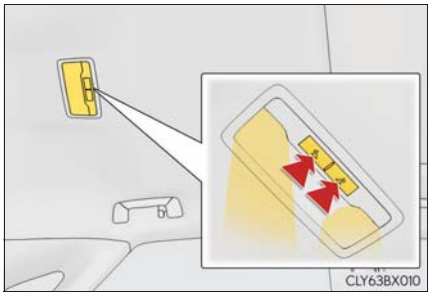
▶ フロント

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）



▶ リヤ

ランプを点灯・消灯する



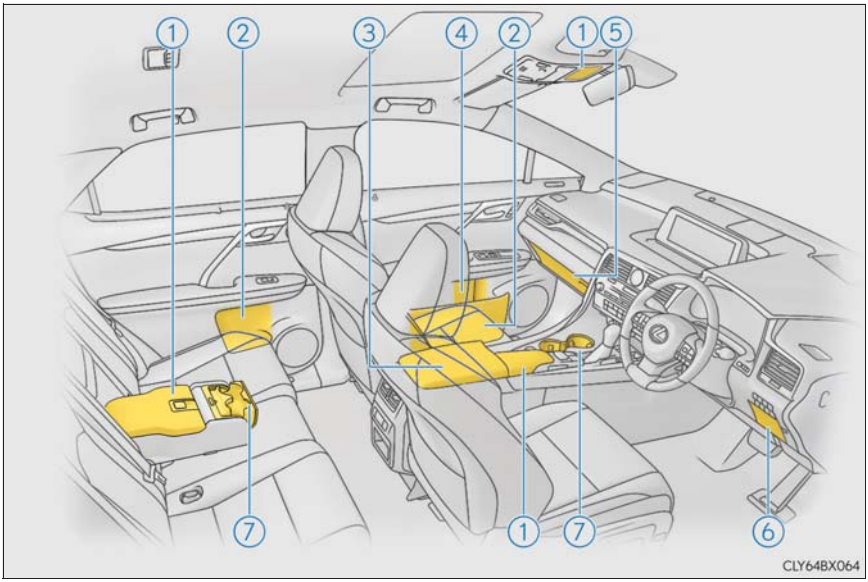
知識

- 電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。（イルミネーテッドエントリーシステム）
- エンジンスイッチが OFF の場合、室内灯が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。
- 次の場合は、インテリアランプとフロントパーソナルランプが正常に反応しないおそれがあります。
  - ・レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき
  - ・濡れた手で操作したとき
  - ・手袋などを装着しているとき
- お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。（→ P. 537）

注意

- フロントインテリアランプとフロントパーソナルランプのレンズを絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



① 小物入れ★（→ P. 403）
② ドアポケット（→ P. 401）
③ コンソールボックス（→ P. 398）
④ ボトルホルダー（→ P. 401）
⑤ グローブボックス（→ P. 398）
⑥ コインボックス（→ P. 402）
⑦ カップホルダー（→ P. 399）

警告

- メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
  放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  ・室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
  ・室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
  急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

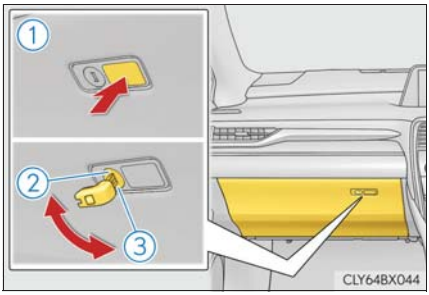
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

グローブボックス

① 開ける（ボタンを押す）

② メカニカルキーで解錠

③ メカニカルキーで施錠



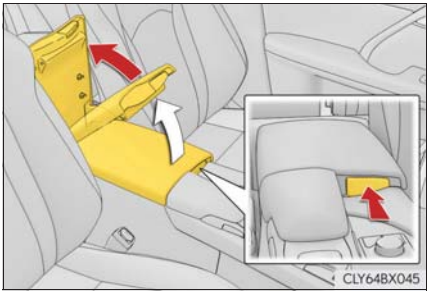
知識

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

コンソールボックス

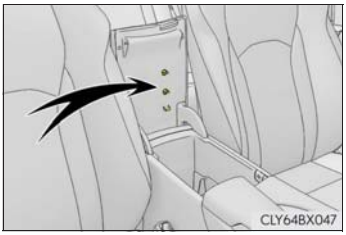
ノブを押す

手動でさらに開くと、全開にすることができます。

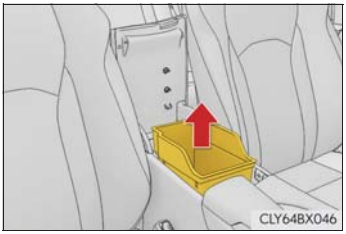


知識

- 車幅灯点灯時は、コンソールボックス内のランプが点灯します。
- フタの裏側にペンを取り付けることができます。（ペンホルダー）



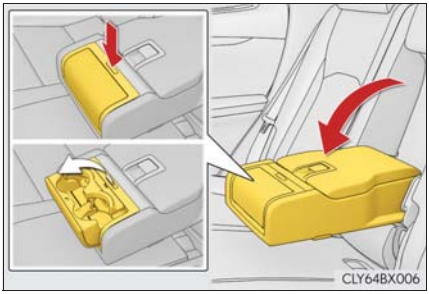
- トレイを取り外すことで、トレイの下にものを収納することができます。



カップホルダー

▶ フロント

▶ リヤ

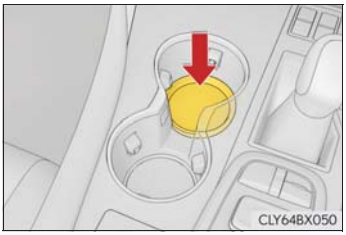


リヤアームレストを手前に倒し、ボタンを押す

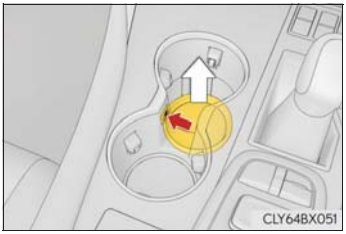
知識

フロントカップホルダーの前側のカップホルダーは深さを変えることができます。

1 カップホルダーの底面を押すことで、背の高いペットボトルなども収納することができます。



2 底面の位置を元に戻すには、ボタンを押します。



警告

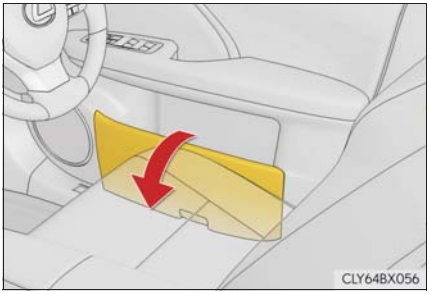
- カップホルダーにはカップや缶、ペットボトル以外のものを置かないでください。急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。
- リヤカップホルダー：使わないときはフタを必ず閉じてください。走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

注意

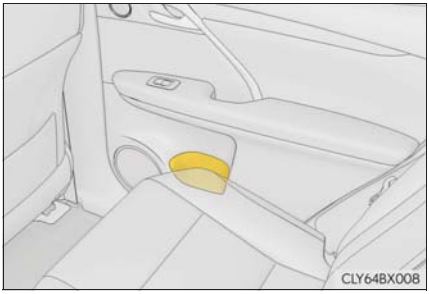
カップホルダーの破損を防ぐために、リヤシートのカップホルダーを開いた状態で、アームレストを格納しないでください。

ドアポケット

▶ フロント



▶ リヤ



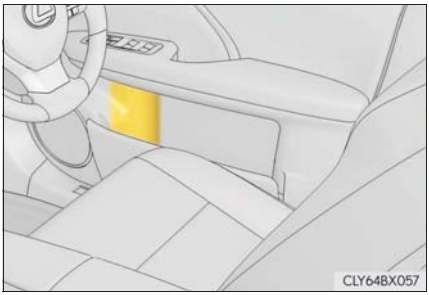
フロントドアのドアポケットは開閉することができます。

警告

■ **走行中の警告**

フロントドアポケット：ドアポケットを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたドアポケットが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ボトルホルダー



知識

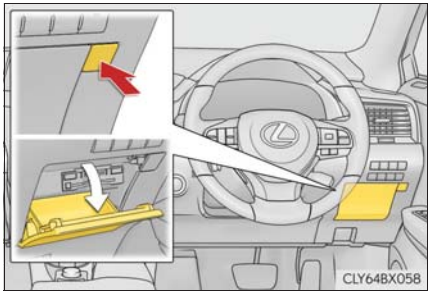
- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

注意

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

コインボックス

ボタンを押す



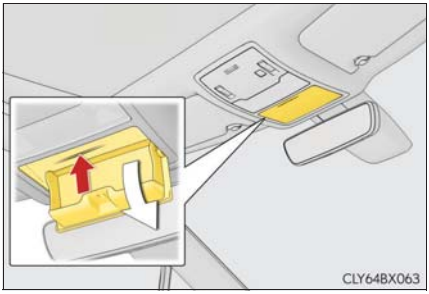
警告

■走行中の警告

コインボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたコインボックスが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

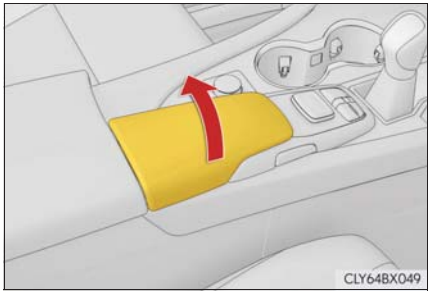
小物入れ

▶ 天井



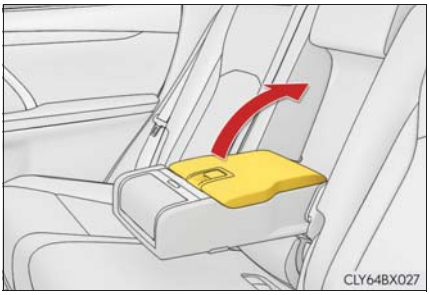
フタを押す

▶ センターコンソール



フタを開ける

▶ リヤアームレスト★



レバーを引き上げてロックを解除し、ふたを持ち上げて開く

警告

天井 :200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れると、ふたが開き収納されているものが飛び出したりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

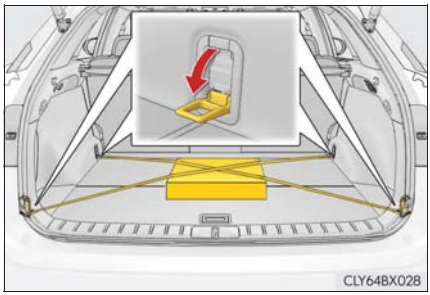
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ラゲージルーム内装備

デッキフック

デッキフックを起こして使用する

フックを使って荷物を固定することができます。



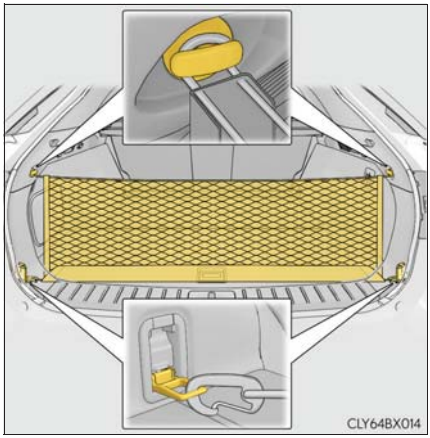
警告

フックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

ネットフック

後ろ側のデッキフックとネットフックを起こして使用する

フックを使って積荷ネットをかけることができます。

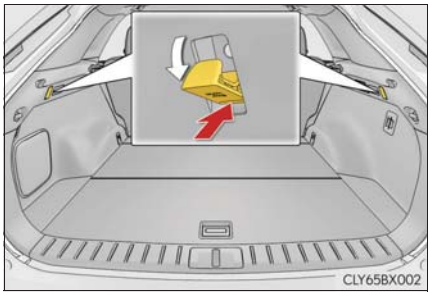


警告

フックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

買い物フック

使用するときは買い物フックの下側を押す



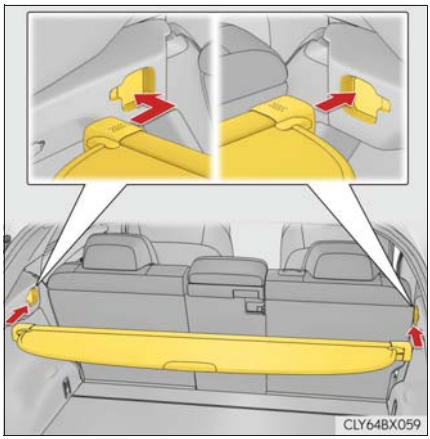
⚠ 注意

買い物フックの破損を防ぐために、4kg 以上のものや大きいものを買い物フックに吊り下げないでください。

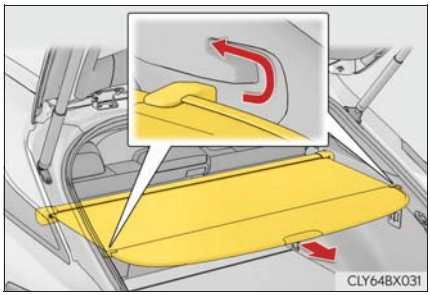
トノカバー

■ トノカバーを使用するときは

1 トノカバーの片側を取りつけ、トノカバーを取りつけた側へ押しながら反対側を取りつける

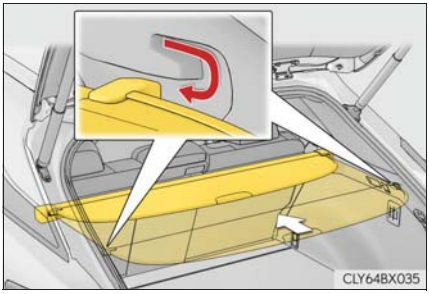


2 トノカバーを引き出し、カバー両側のフックを車両後方の左右の取りつけ部に差し込む



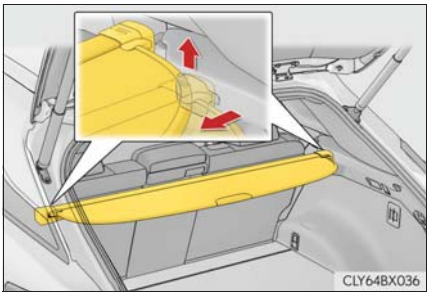
■ トノカバーを取り外すときは

1 トノカバー両側のフックを取りつけ部からはずし、カバーを巻き取る



2 トノカバーを片側に押さえつけながら、もう一方の側を水平に引き出すようにして取り外す

取りはずしたトノカバーは客室以外の場所に保管ください。

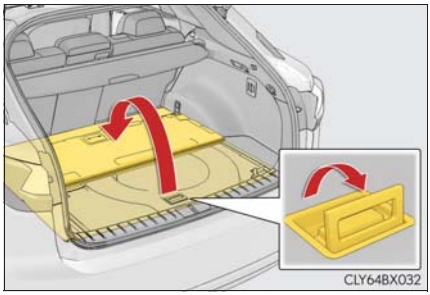


警告

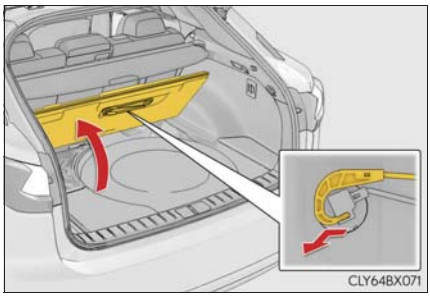
- トノカバーの上には、荷物を積まないでください。急ブレーキや旋回時に、荷物が飛び出して乗員にあたるなどして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- トノカバーの上には、お子さまが乗ったりしないようにしてください。トノカバーが破損し、お子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

小物入れ

1 レバーを引き上げて、デッキボードを折りたたむ

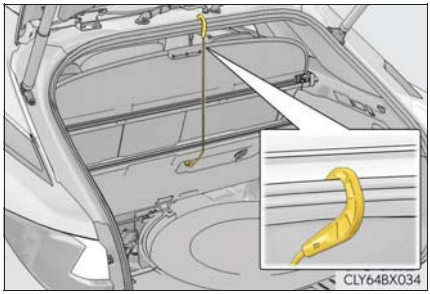


2 デッキボードを持ち上げて、裏面のフックを取りはずす



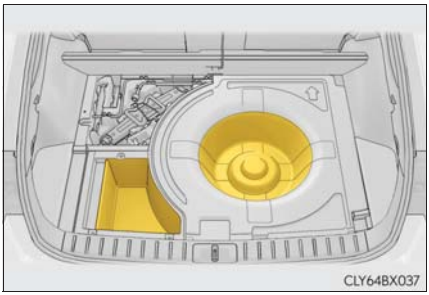
3 フックをバックドア開口部の上端に引っかけて固定する

もとにもどすときは、逆の手順でおこないます。

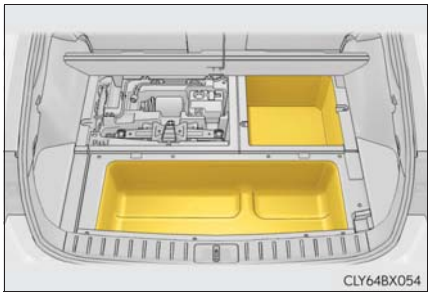


■ デッキフロアボックス

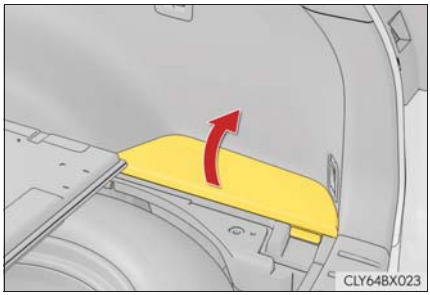
▶ 応急用タイヤ装着車



▶ タイヤパンク応急修理キット装着車



■ デッキサイドボックス



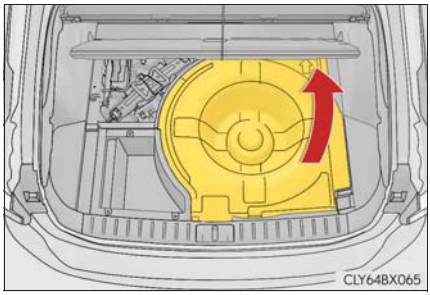
警告

デッキボードを開けたり取りはずしたときは、走行前に必ずもとどおりに取り付けてください。そのまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどにデッキボードや収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

三角表示板収納スペース

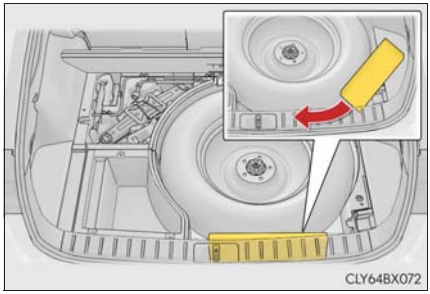
▶ 応急用タイヤ装着車

1 応急用タイヤカバーを取りはずす。



2 三角表示板を収納することができます。

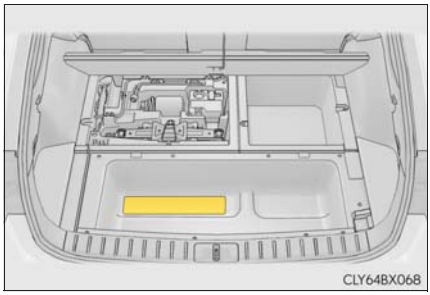
大きさや形状によっては、収納できない場合があります。



▶ タイヤパンク応急修理キット装着車

デッキフロアボックス内に収納することができます。

大きさや形状によっては、収納できない場合があります。



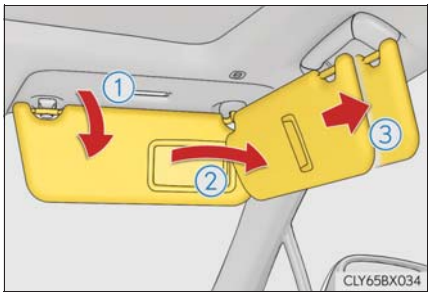
その他の室内装備

サンバイザー

① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

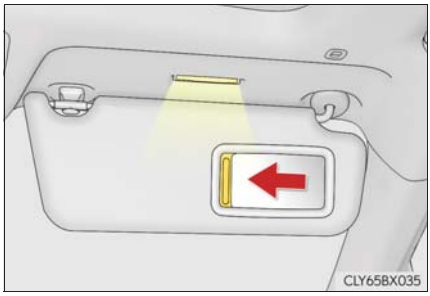
③ エクステンダーを使用するには、バイザーを横にした状態からうしろへ引く



バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



知識

エンジンスイッチが OFF の場合、バニティミラーランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

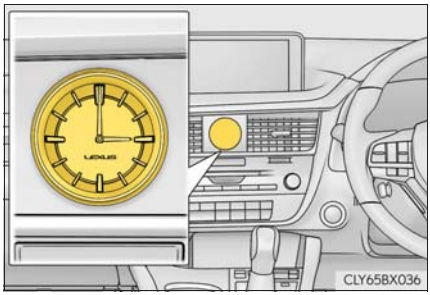
注意

バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。



おくだけ充電（ワイヤレス充電器）★

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電エリアより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。
ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■「Qi」マークについて

「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の登録商標です。

■「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」、「おくだけ充電」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

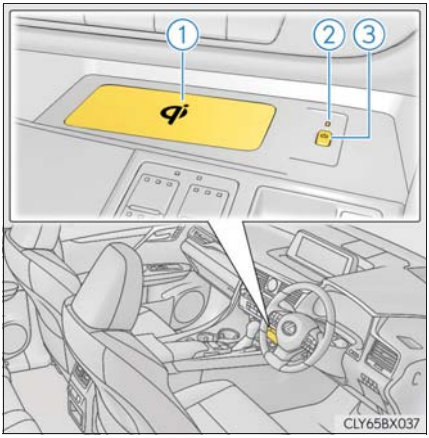
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 各部の名称

① 充電エリア

② 作動表示灯

③ 電源スイッチ



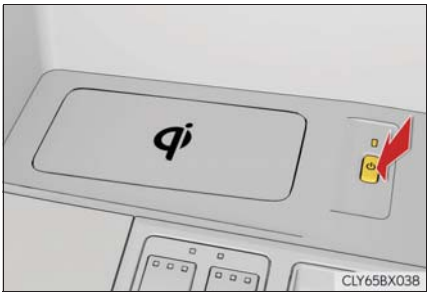
■ 充電する

1 電源スイッチを押す

押すごとに ON と OFF が切りかわります。

ON にすると作動表示灯が緑色に点灯します。

ワイヤレス充電器の電源の状態（ON ／ OFF）はエンジンスイッチを OFF にしても記憶されます。



2 充電エリアに携帯機器を置く

携帯機器の充電面が下になるように置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。

充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。

● 再充電機能

・ 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。
・ 携帯機器が移動すると、いったん充電が停止しますが、ただちに充電を再開します。

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯	状況
消灯	ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき
緑（点灯）	待機中（充電可能状態）
	充電完了時 ※
橙（点灯）	充電エリアに携帯機器を置いたとき（携帯機器を検出中）
	充電中

※ 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

● 作動表示灯が点滅したときは

エラーが発生すると作動表示灯が橙色に点滅します。次の表に基づき、対処をしてください。

作動表示灯	想定される原因	対処方法
1 秒間に 1 回の点滅をくり返す（橙色）	**車両とワイヤレス充電器の通信不良**	レクサス販売店へお問い合わせください。
3回連続の点滅をくり返す（橙色）	**異物検知** 携帯機器と充電エリアの間に異物がある	携帯機器と充電エリアの間にある異物を取り除いてください。
	携帯機器のずれ 置かれた場所から携帯機器がずれている	携帯機器を充電エリアの中央付近に置き直してください。
4 回連続の点滅をくり返す（橙色）	**ワイヤレス充電器内の温度上昇**	いったん充電を停止し、しばらく待ってから充電を開始してください。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

■使用できる携帯機器について

●ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。

●携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

■携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。カバーやアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■充電中に、AM ラジオにノイズが入るときは

ワイヤレス充電器の電源を OFF にして、ノイズが低減するか確認してください。ノイズが低減する場合は、充電中にワイヤレス充電器の電源スイッチを約 2 秒間押し続けることで、充電の周波数を切りかえてノイズを低減することができます。
また、その際、作動表示灯が橙色に 2 回点滅します。

■充電についての留意事項

●車室内に電子キーを検出できない場合は、充電することができません。ドアの開閉時は、一時的に充電が停止することがあります。

●充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

■作動中の音について

電源スイッチを押して電源を ON にしたときや、携帯機器を検出中は “ ジー ” と作動音がしますが、異常ではありません。

■清掃について

→ P. 430

警告

■**運転中の注意**

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■**電波がおよぼす影響について**

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■**故障ややけどを防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと装置の故障や損傷、発火、発熱によるやけどにつながるおそれがあります。

●充電中に、充電エリアと携帯機器の間に金属物をはさまない

●充電エリアや携帯機器にアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない

●布などをかぶせて充電しない

●指定された携帯機器以外は充電しない

●分解や改造、取りはずしをしない

●強い力や衝撃をかけない

注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

●携帯機器が満充電

●充電エリアと携帯機器の間に異物がある

●充電により、携帯機器の温度が高温になっている

●携帯機器の充電面を上にして置いた

●携帯機器の置き場所が充電エリアからずれている

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。レクサス販売店へお問い合わせください。

■故障やデータ破損を防止するために

●充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。

●携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因となります。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

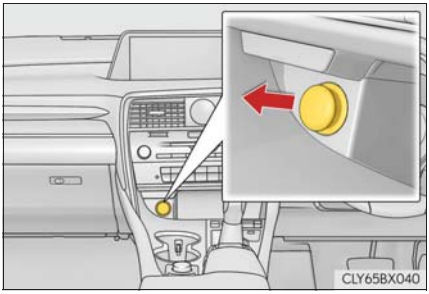
アクセサリーソケット

DC12 V ／ 10 A（消費電力 120 W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

電気製品を使用するときは、次のことをお守りください。

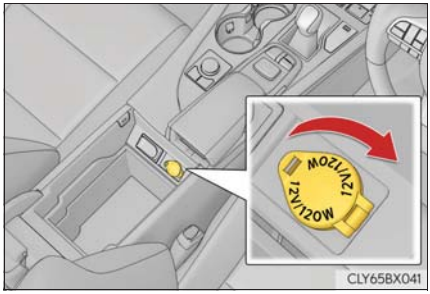
- インストルメントパネルとラゲージルーム内のアクセサリーソケットに接続されている電気製品の消費電力合計を 120W 未満にする
- コンソールボックス内とリヤコンソールのアクセサリーソケットに接続されている電気製品の消費電力合計を 120W 未満にする

▶ インストルメントパネル



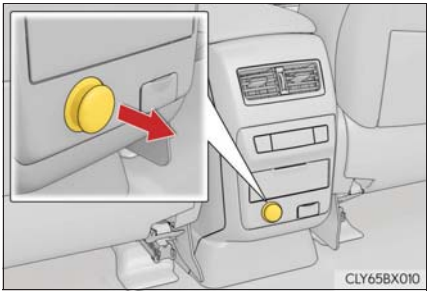
キャップを取りはずして使用する

▶ コンソールボックス内



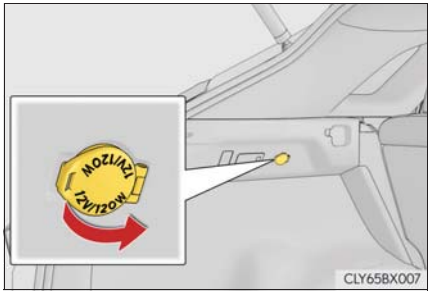
フタを開けて使用する

▶ リヤコンソール



キャップを取りはずして使用する

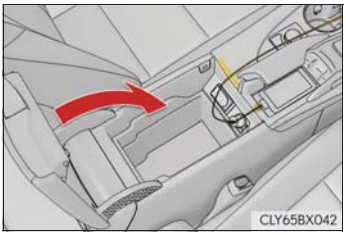
▶ ラゲージルーム内



フタを開けて使用する

知識

- 作動条件:エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモード
- コンソールボックスの縁に配線を通すことで、コンソールボックスを閉じた状態でも配線を外へ引き出すことができます。



- Stop & Start システムの作動により、エンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリーソケットが使用できないことがありますが、異常ではありません。

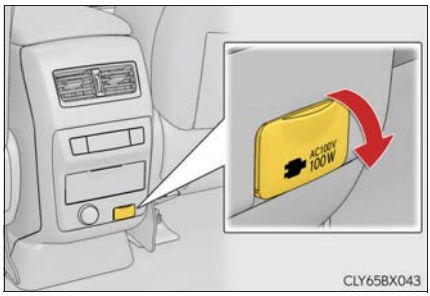
注意

- アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、キャップ・フタを閉じておいてください。
- バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

アクセサリーコンセント

AC100 Vで最大消費電力100 W以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



知識

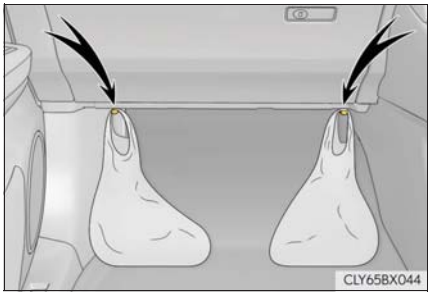
- 作動条件：エンジンスイッチがイグニッション ON モード
- Stop & Start システムの作動により、エンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリーコンセントが使用できないことがありますが、異常ではありません。

注意

- アクセサリーコンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。
- ヒューズが切れるのを防ぐために、AC100 Vで最大消費電力100 W以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が 100 W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。
- バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。
- 次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。
  - ・起動時のピーク電力が高い電気製品
  - ・精密なデータを処理する計測機器
  - ・電源周波数の切りかえ（50/60Hz）のある機器
  - ・極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

助手席足元フック

足元の荷物を倒したくないときに、荷物を床に置いた状態でお使いください。



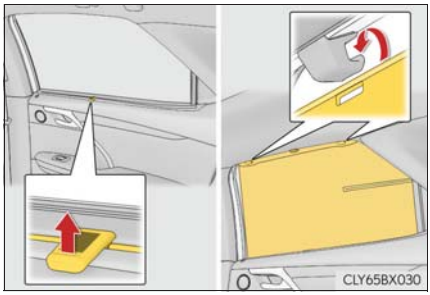
注意

破損を防ぐため、荷物を吊るしたり、過度の負荷をかけないでください。

リヤドアサンシェード★

ツマミをしっかりと持って引き出し、フックにかける

もどすときはフックからはずし、しっかりと持ったままゆっくりと収納します。



警告

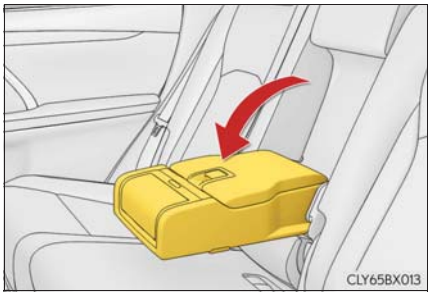
リヤドアサンシェード使用中は、フックや溝に指などを置かないでください。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。

注意

- 操作の妨げになる部分にものを置かないでください。
- 破損を防ぐために、リヤドアサンシェードにものを貼ったり、過度の負荷をかけないでください。

リヤアームレスト

手前に倒して使用します。



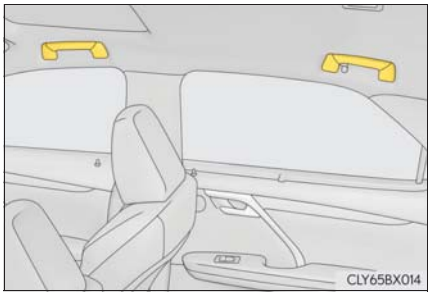
注意

アームレストの破損を防ぐために、過度の負荷をかけないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



警告

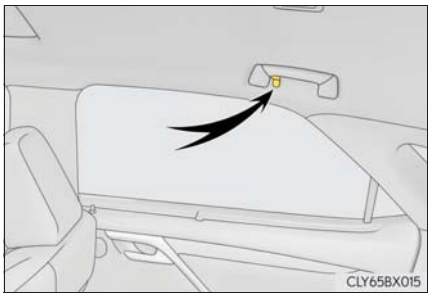
アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

注意

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

コートフック

コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。



警告

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 424
内装の手入れ 429

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 432
ガレージジャッキ 434
ウォッシャー液の補充.....435
タイヤについて 436
タイヤ空気圧について.....444
エアコンフィルターの交換.....446
ワイパーゴムの交換.....449
電子キーの電池交換.....451
ヒューズの点検、交換.....453
電球（バルブ）の交換.....456

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へよごれを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- よごれがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面のよごれを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

知識

■セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から５～８年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
  なお、お湯をかけて塗装を暖めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うときは

- お車を洗う前に：
  ・ドアミラーを格納する
  ・パワーバックドアを停止する

  走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

■高圧洗車機を使うときは

●車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。

●洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■スマートエントリー＆スタートシステムについて

●キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください（キーの盗難に注意してください）。

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→ P. 148）

■アルミホイール

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
・フロントドアガラス表面の泥などのよごれを落とす
・よごれは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

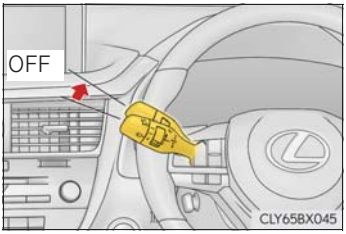
警告

■**洗車をするときは**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**フロントウインドウガラスを清掃するときは**

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■**排気管について**

排気管およびデュアルエキゾーストパイプは排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管およびデュアルエキゾーストパイプが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■**ブラインドスポットモニター★について**

リヤバンパーの塗装に傷が付くと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。
・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しくよごれたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するときは

ワイパースイッチを OFF にしてください。（→ P. 236）
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

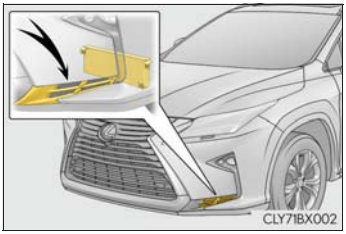
注意

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
・駆動系部品
・ステアリング部品
・サスペンション部品
・ブレーキ部品

●ノズルの先端を、イラストの場所に向けないで下さい。高い水圧がかかることにより、オイルクーラーが損傷するおそれがあります。



内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

車内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■車両への水の浸入

●車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。（→ P. 33）
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●おくだけ充電（ワイヤレス充電器）★（→ P. 411）をぬらさないでください。
発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

カメラセンサーのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。
また、レンズにはふれないでください。（→ P. 251）

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

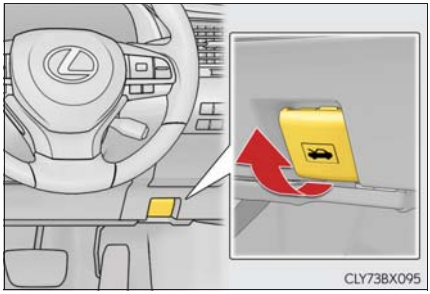
●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

ボンネット

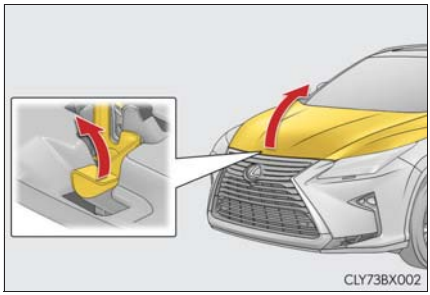
車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

1 ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを引き上げてボンネットを開ける



警告

■走行前の確認

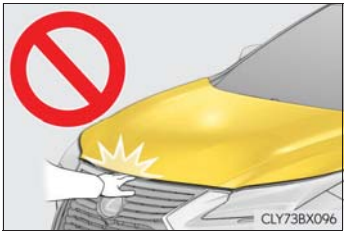
ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

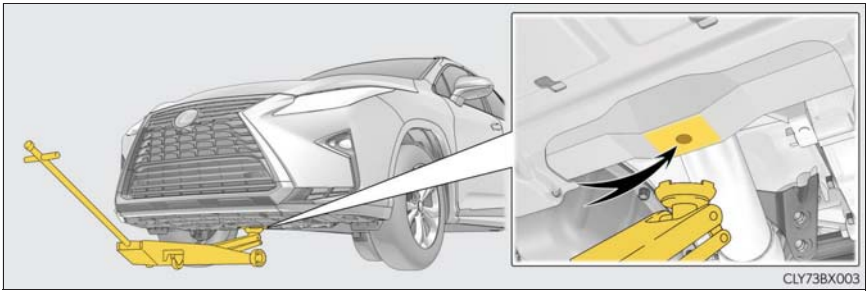
●ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
・ロッド部を軍手などでふれない
・ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない
・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

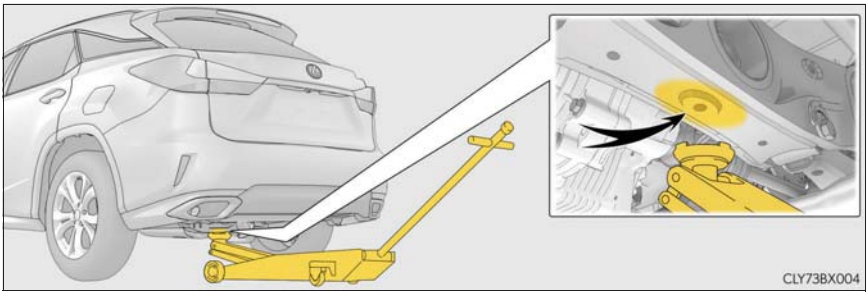
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

◆ フロント側



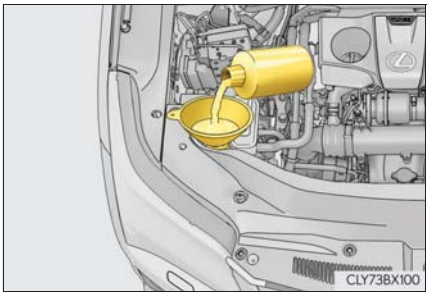
◆ リヤ側



ウォッシャー液の補充

補充のしかた

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに「ウォッシャー液を補充してください」が表示されたら、ウォッシャー液を補充する



警告

■**ウォッシャー液を補充するとき**

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■**ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■**ウォッシャー液のうすめ方**

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

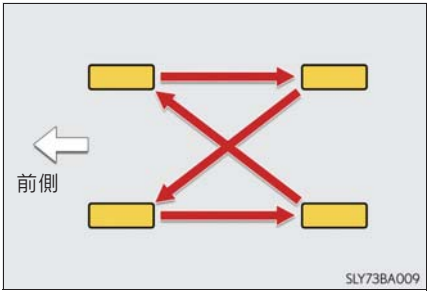
  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示す順にタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



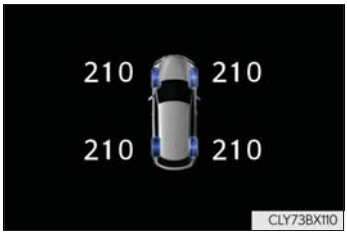
タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。

タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

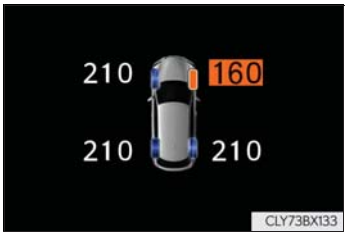
● タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

右図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。



● 空気圧が一定値をこえて低下している場合、画面表示と警告灯で警報します。(→ P. 483)

右図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。



空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

新しいバルブ／送信機を装着する場合は専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。登録の際は、レクサス販売店へご依頼ください。(→ P. 439)

タイヤ空気圧警報システムの初期化

■ 初期化が必要な場合

- タイヤサイズの変更などにより、タイヤの指定空気圧が変更になった場合
- タイヤローテーションを実施した場合

システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。

■ 初期化のしかた

1 車を安全な場所に駐車し、エンジンを停止する

車両が動いているときは、初期化できません。

2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する（→ P. 439, 535）

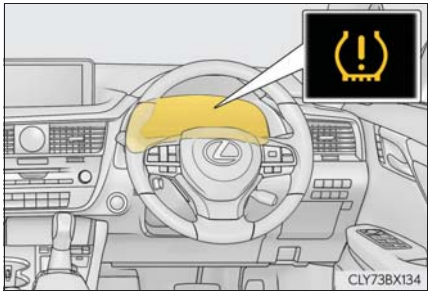
タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

3 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

4 マルチインフォメーションディスプレイ内の を選択する（→ P. 92）

5 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して、「車両設定」を選択し ・ を押す

6 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、TPMS 画面を選択しタイヤ空気圧警告灯が 3 回点滅するまで ・ を長押しする



マルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が「- -」になり、タイヤの位置判定を開始します。

位置判定が終了すると、再びタイヤ空気圧が表示されます。

7 約 40 km/h 以上で約 10 ～ 30 分走行すると、タイヤの空気圧がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

タイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

車両状態や走行条件、走行環境によっては、初期化に約 1 時間かかる場合があります。

ID コードの登録について

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されており、タイヤ空気圧バルブ／送信機の交換時は、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。
ID コードの登録については、レクサス販売店にご依頼ください。

知識

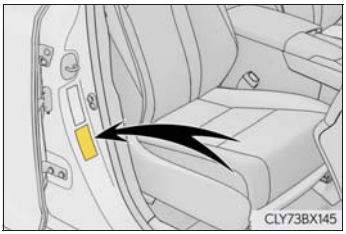
■タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	空気圧※ kPa（kg/cm^2）	
	前輪	後輪
18 インチ	250（2.5）	
20 インチ	230（2.3）	

応急用タイヤ★：420kPa（4.2kg/cm^2）※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

■ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分間走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

■タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。
日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

●次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
・純正ホイール以外を使用したとき
・純正装着タイヤ以外に交換したとき
・指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
・タイヤチェーンなどを装着しているとき
・電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
・車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
・タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
・タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
・タイヤ空気圧警報バルブ／送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

●次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
・近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。

●停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。

●タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

■初期化操作について

●必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。
なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。

●初期化中にエンジンスイッチをOFFにしてしまった場合は、次回イグニッションONモードにしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためて初期化操作をやり直す必要はありません。

●初期化の必要がない状態で誤って初期化操作をしてしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。

●タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■タイヤ空気圧警報システムの初期化がうまくいかないとき

未舗装の場所では初期化に時間がかかる場合があるため、できるだけ舗装された場所を走行してください。走行環境やタイヤの状態によりますが、通常約 10 ～ 30 分で終了します。約 10 ～ 30 分走行しても終了しない場合は、しばらく走行を続けてください。

約 1 時間走行し続けてもタイヤ空気圧が表示されない場合は、次の方法で走行してください。

●安全な場所に約20分間停車したあと、約40 km/h以上で適度に右左折や直進をしながら約 10 ～ 30 分走行する

ただし、次の場合は、初期化されておらずシステムが適切に働かないおそれがありますので、初期化し直してください。

●スイッチ操作時に警告灯が 3 回点滅しない場合（走行中は初期化を受け付けません）

●初期化したあと、走行中にタイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅後点灯した場合

上記の方法でうまくいかないときは、レクサス販売店にご相談ください。

■ID コードの登録について

車 1 台に対して、最大 2 セット分のホイールの ID コードを登録することができます。通常使用するタイヤとは別に、冬用タイヤを装着したホイールの ID コードをあらかじめ登録しておけば、冬用タイヤへの交換時に ID コードを登録しなおす必要がなく、便利です。
ID コードの切りかえについては、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■点検・交換時について

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
  以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■タイヤ空気圧警報システムを初期化するとき

必ず指定空気圧に調整してから初期化操作をしてください。
お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

●タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。

●レクサス指定の純正ホイールを使用してください。
レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。

●ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。

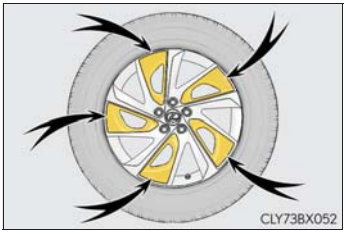
●バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが固着する場合があります。

●バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■セレクタブルカラートリム★について

●使用中に異常（ガタつき、異音など）を感じたらレクサス販売店へご相談ください。

●セレクタブルカラートリムの脱着は故障の原因となりますのでお客様自身では行わないでください。脱着はレクサス販売店へご依頼ください。



■パンク修理剤を使用したとき

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。**（→ P. 535）**

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、レクサス販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤがパンクした状態になるおそれがあります。

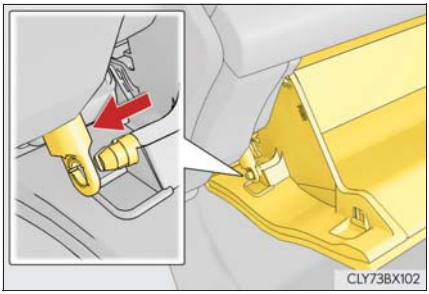
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

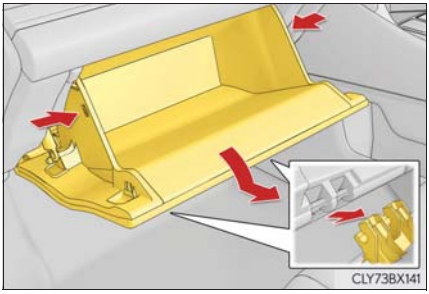
交換のしかた

1 エンジンスイッチを OFF にする

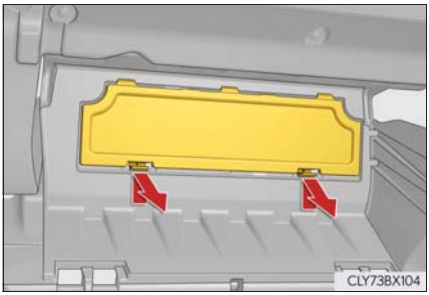
2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす



3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす



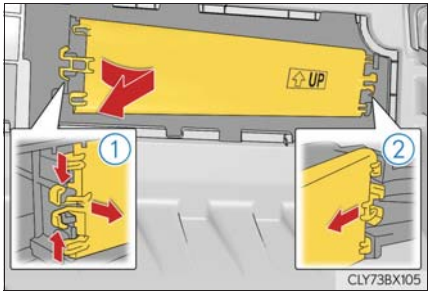
4 カバーを取りはずす



5 フィルターカバーを取りはずす

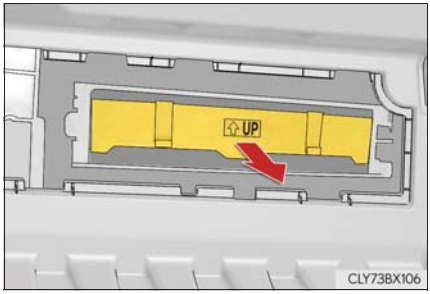
① フィルターカバーの固定を解除する

② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、ツメからフィルターカバーを抜く



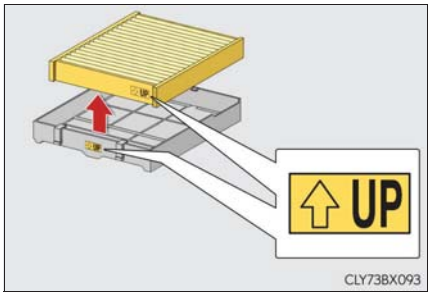
6 フィルターケースを取りはずす

フィルターの上に異物が付着している場合があります。



7 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■ **エアコンフィルターの交換について**

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15,000 km [7,500 km※1] ごと、ただし 12ヶ月をこえないこと ※2

※1 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■ **エアコンの風量が減少したときは**

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

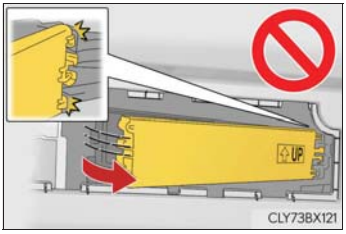
■エアコンを使用するときの注意

●フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

●フィルターは、交換するタイプです。
水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーの固定を解除するときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力が加わらないよう注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



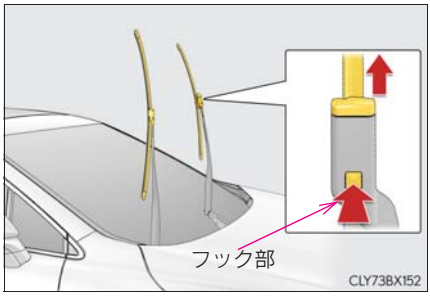
ワイパーゴムの交換

交換のしかた

1 ワイパースイッチを使ってワイパーの停止位置を、サービスポジションに切りかえてから、ワイパーを立ててください（→ P. 240）

2 ワイパーブレードのロック解除ボタンを押しながら、ワイパーブレードを取りはずす

ワイパーアームのフック部を手でしっかり支えながら作業してください。

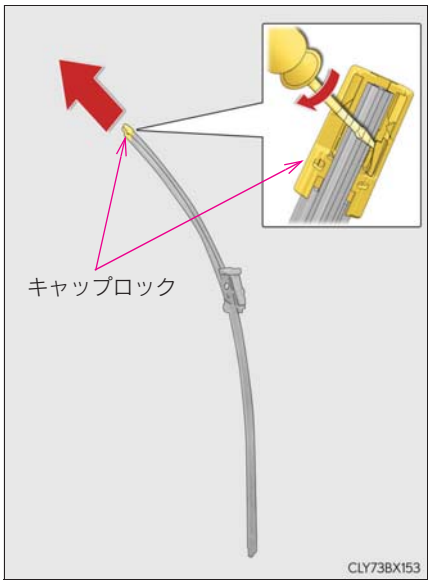


3 マイナスドライバーなどを使って、キャップロックを解除しながらワイパーゴムを抜き取る

車両上方側のキャップロックを持って取りはずしてください。

ワイパーゴムとキャップロックは一体になっています。

ワイパーブレードを保護するためにマイナスドライバーの先端にテープなどを巻いてください。



4 新しいワイパーゴムを取りつける

ワイパーゴムを取りつけるときは、キャップロックがしっかり固定されるまで押しこんでください。

取りつけたあとは、確実にロックされていることを確認してください。

5 ワイパーブレードをワイパーアームに取りつける

ワイパーブレードのロックがかかるまでしっかり押しこんでください。

ワイパーアームのフック部を手でしっかり支えながら作業してください。

取りつけたあとは、確実にロックされていることを確認してください。

6 ワイパーを格納位置にもどす

ワイパーゴムを交換したあとは、ワイパーをボンネットの下の位置にもどしてから走行してください。（→ P. 241）

■ リヤワイパーの交換について

リヤワイパーを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

■ ワイパーブレード・ワイパーゴムの取り扱いについて

誤った取り扱いをすると、ワイパーブレード、またはワイパーゴムが損傷するおそれがあります。ご自身でのワイパーブレード・ワイパーゴムの交換に不安がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

電子キーの電池交換

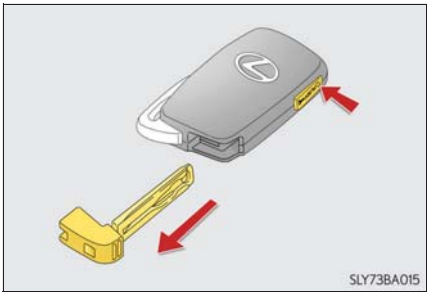
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- リチウム電池：CR2032

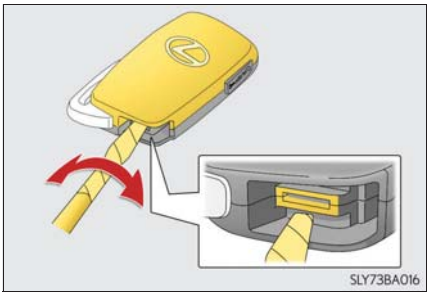
電池交換のしかた

1 メカニカルキーを抜く



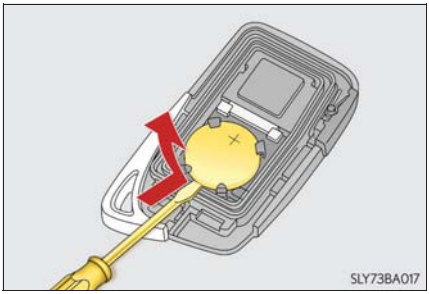
2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



知識

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はレクサス販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■カードキーの電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ヒューズの点検、交換

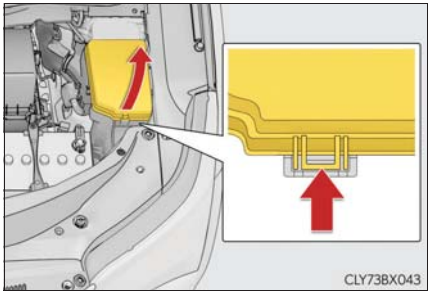
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

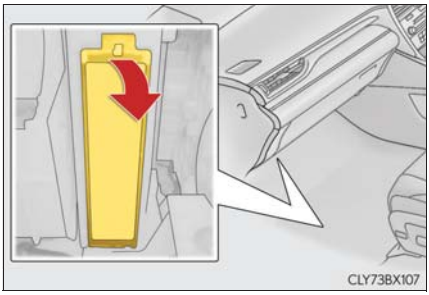
▶ エンジンルーム

ツメを押してロックをはずし、カバーを持ち上げる



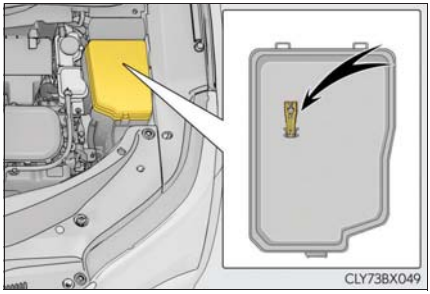
▶ 助手席足元

カバーを取りはずす



3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

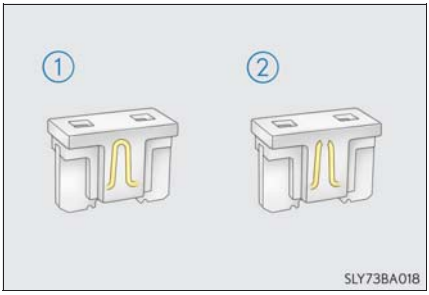


4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



知識

■**ヒューズを交換したあと**

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→ P. 456）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■**バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると**

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■**電球（バルブ）を交換するときは**

この車両に指定されているレクサス純正品のご使用をおすすめします。
一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のレクサス純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、レクサス販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

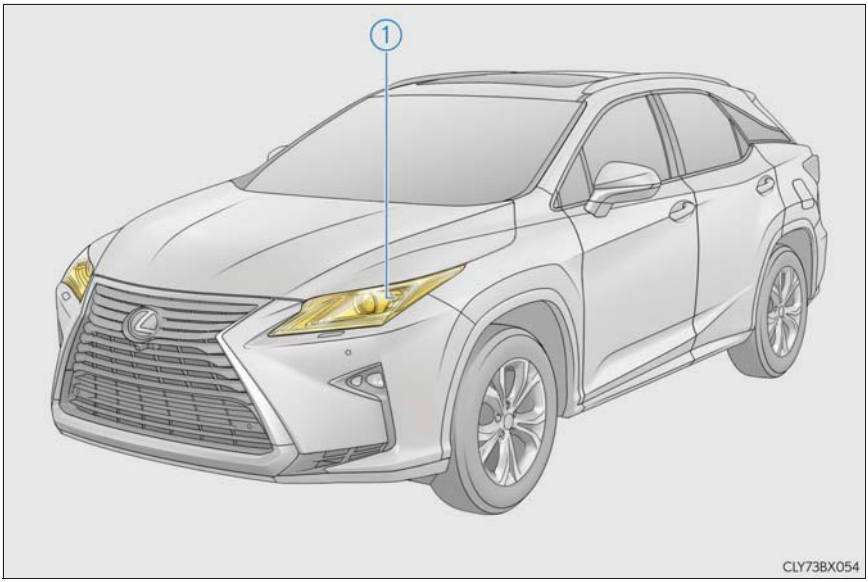
切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 536）

パワーバックドアの作動停止

→ P. 135

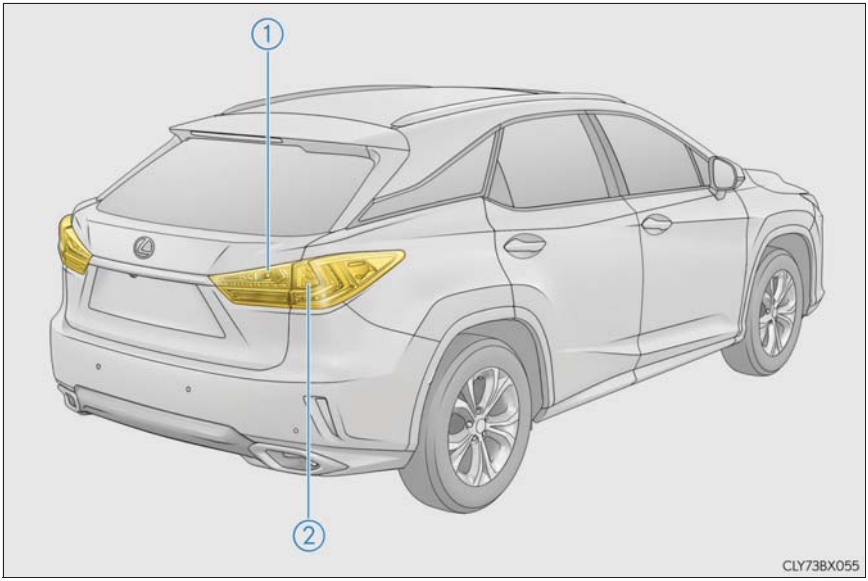
バルブ位置

■ フロント



① フロント方向指示灯／非常点滅灯（三眼フル LED ヘッドランプ非装着車）

■ リヤ



① 後退灯

② リヤ方向指示灯／非常点滅灯（三眼フル LED ヘッドランプ非装着車）

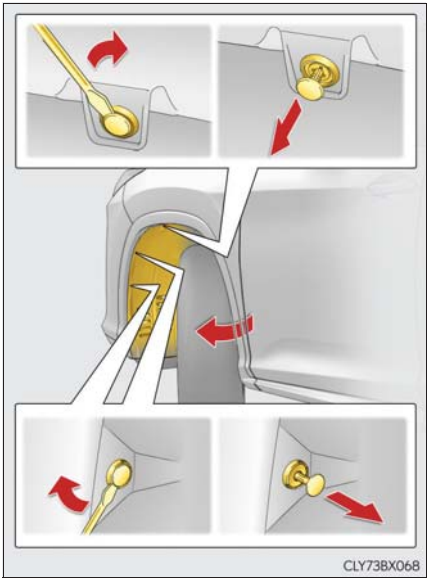
電球交換のしかた

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯（三眼フル LED ヘッドランプ非装着車）

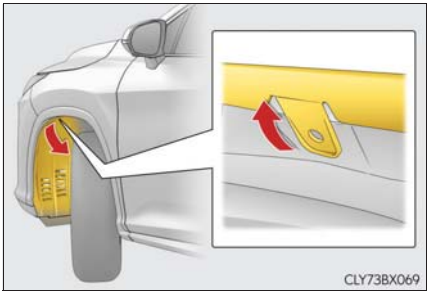
1 交換するランプの反対側にハンドルをいっぱいまでまわしてスペースを広げ、クリップ（3 個）を取りはずす

運転席側を交換するときは左に、助手席側を交換するときは右にハンドルをまわしてください。

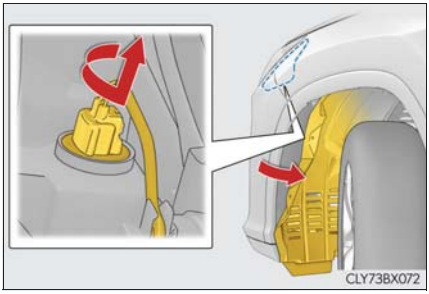
クリップを取りはずすときは、マイナスドライバーを使用してクリップ中央部を引き出し、クリップを引き抜きます。



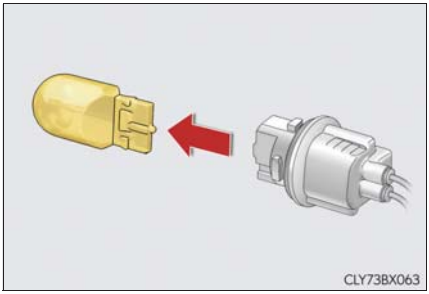
2 コネクターが見える位置までフェンダーライナーをめくる



3 ソケットを左にまわして取りはずす

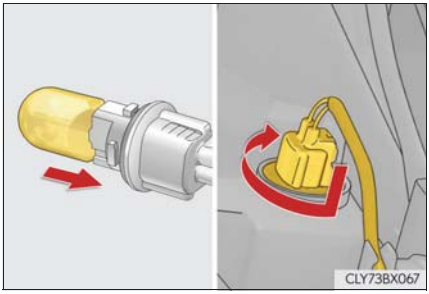


4 電球を取りはずす

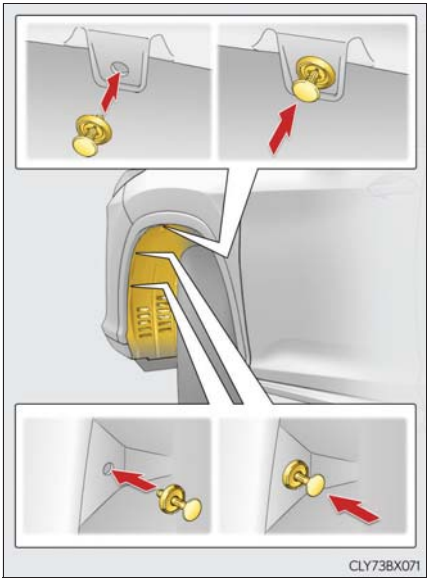


5 新しい電球を取り付け、ソケットをランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける

ソケットを取り付けたあとは、ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんフロント方向指示灯 / 非常点滅灯を点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



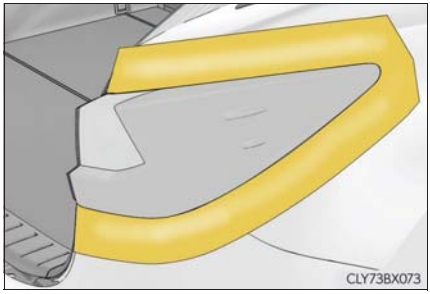
6 フェンダーライナーをもとにもどし、クリップ（3 個）を取り付ける



■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯（三眼フル LED ヘッドランプ非装着車）

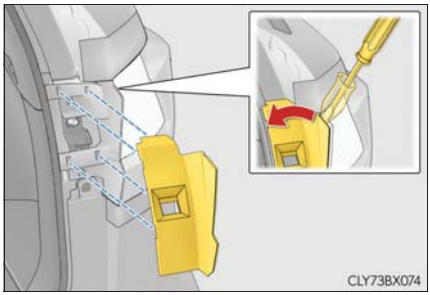
1 バックドアを開け、ランプ周りの車両側に保護テープを貼る

マスキングテープなど粘着力の弱いテープを使用してください。保護テープを取りはずす際に跡が残ったり、塗装が損傷するおそれがあります。

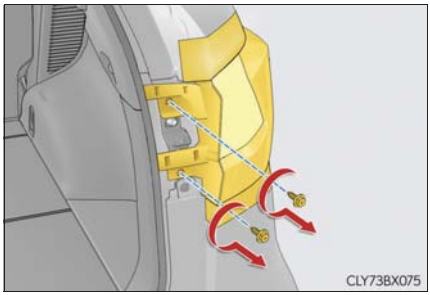


2 マイナスドライバーを使用して、カバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



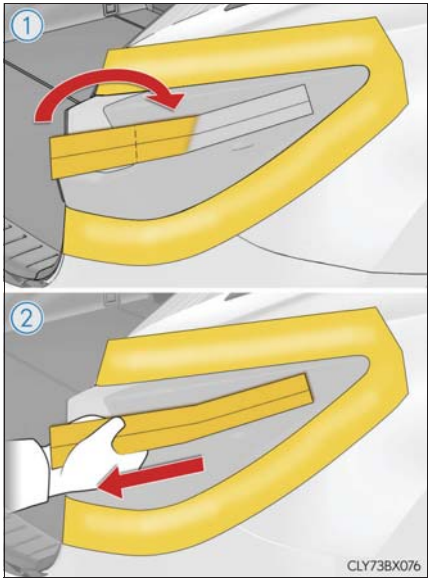
3 スクリュー（2 本）を取りはずす



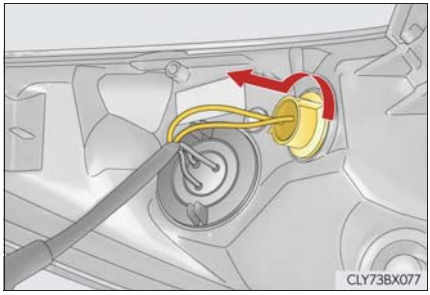
4 ランプ本体を取りはずす

① 長めのガムテープを2本貼り、はみ出した部分を半分に折る

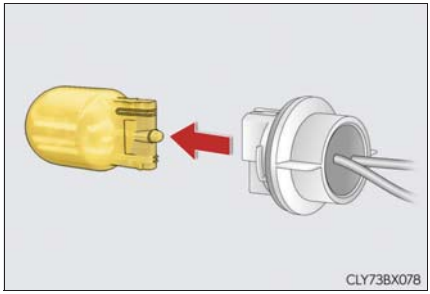
② 半分に折った部分を持ち、レンズを車両後方に引いて取りはずす



5 ソケットを左にまわして取りはずす

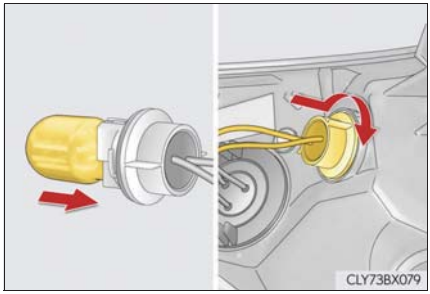


6 電球を取りはずす



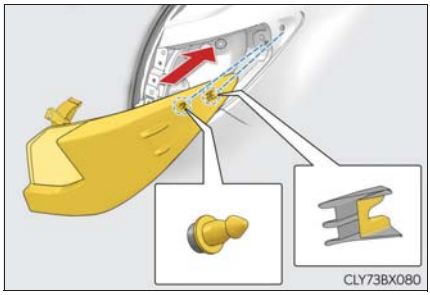
7 新しい電球を取り付け、ソケットをランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける

ソケットを取り付けたあとは、ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんリヤ方向指示灯 / 非常点滅灯を点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

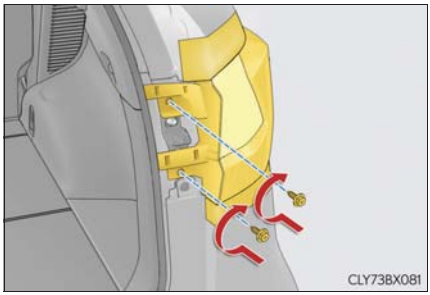


8 ランプ本体を取り付ける

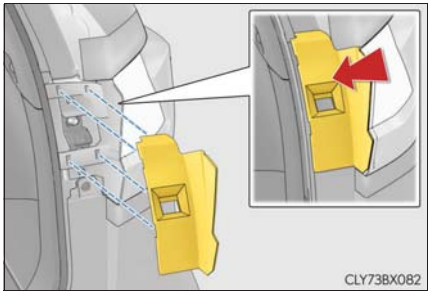
ランプ本体側と車両側のツメの位置を合わせ、ランプ本体を車両前方へ押して取り付ける。



9 スクリュー（2 本）を取り付ける



10 カバーを取り付ける



11 保護テープをはがす

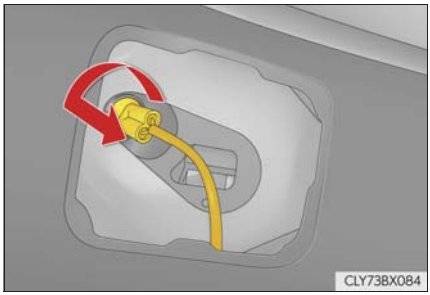
■ 後退灯

1 バックドアを開け、カバーを取りはずす

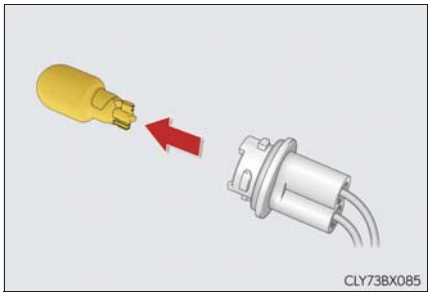
マイナスドライバーを使用して、カバーを取りはずす。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

2 ソケットを左にまわして取りはずす

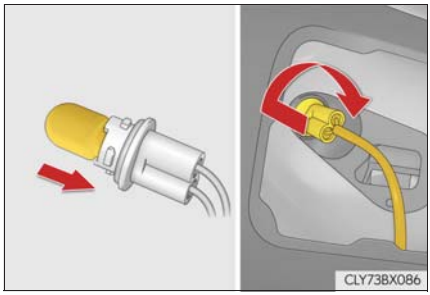


3 電球を取りはずす



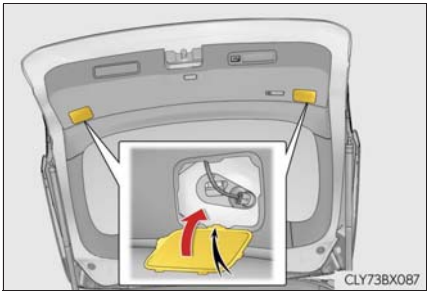
4 新しい電球を取り付け、ソケットをランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける

ソケットを取り付けたあとは、ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったん後退灯を点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



5 カバーを取り付ける

カバーのツメを合わせて取り付ける。



■ 次の電球を交換するには

次の電球が切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドランプロービーム
- ヘッドランプハイビーム
- フロント方向指示灯／非常点滅灯（三眼フル LED ヘッドランプ装着車）
- 車幅灯／ LED デイライト
- フロントフォグランプ
- コーナーリングランプ
- リヤフォグランプ★
- リヤ方向指示灯／非常点滅灯（三眼フル LED ヘッドランプ装着車）
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 尾灯／制動灯
- リヤサイドマーカーランプ
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯
- アウトサイドドアハンドル照明

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■LED ランプについて

ヘッドランプロービーム・ヘッドランプハイビーム・フロント方向指示灯／非常点滅灯（三眼フル LED ヘッドランプ装着車）・車幅灯／ LED デイライト・フロントフォグランプ・コーナーリングランプ・リヤフォグランプ★・リヤ方向指示灯／非常点滅灯（三眼フル LED ヘッドランプ装着車）・サイド方向指示灯／非常点滅灯・尾灯／制動灯・リヤサイドマーカーランプ・ハイマウントストップランプ・番号灯・アウトサイドドアハンドル照明は数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。

●レンズ内側に大粒の水滴が付いている

●ランプ内に水がたまっている

■電球（バルブ）を交換するときは

→ P. 454

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**けがを防ぐために**

バルブ交換を実施する前に、エンジンスイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■**電球を交換するときは**

●ランプを消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**お車の故障や火災を防ぐために**

●電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

●発熱を防ぐために、電球を取り付ける前に W（ワット）数を確認してください。

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

故障したときは 468

非常点滅灯
（ハザードランプ）.....469

発炎筒 470

車両を緊急停止するには.....472

7-2. 緊急時の対処法

けん引について 473

警告灯がついたときは.....480

警告メッセージが
表示されたときは 486

パンクしたときは
（応急用タイヤ装着車）.....491

パンクしたときは
（タイヤパンク応急修理
キット装着車）.....502

エンジンが
かからないときは 515

電子キーが正常に
働かないときは 517

バッテリーが
あがったときは 521

オーバーヒートしたときは.....525

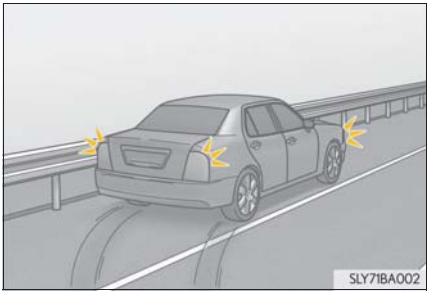
スタックしたときは.....529

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

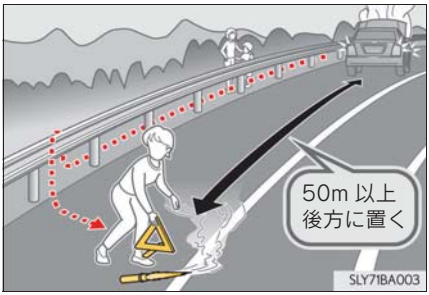
非常点滅灯（→ P. 469）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 470）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

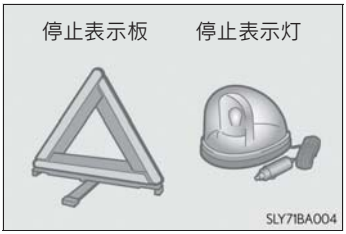


知識

■**停止表示板・停止表示灯について**

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。

●停止表示板･停止表示灯のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。

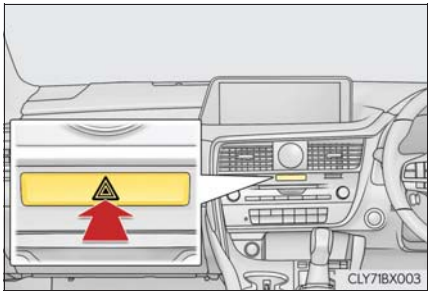


非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

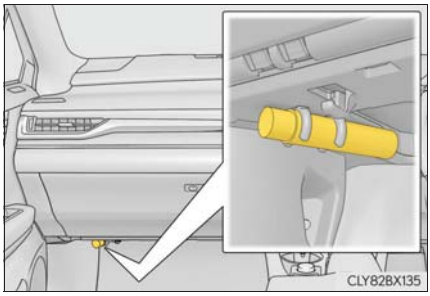
■ **非常点滅灯について**

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

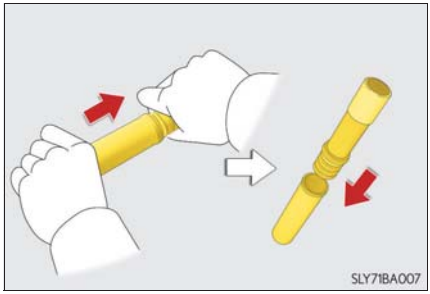
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

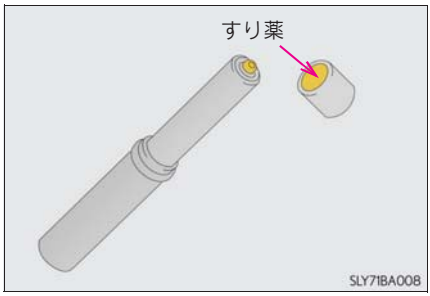


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する

5 車を安全な道路脇に停める

警告

■ **走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは**

ブレーキの効きが悪くなると共に、ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者に依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

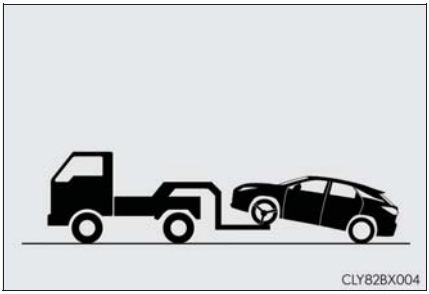
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

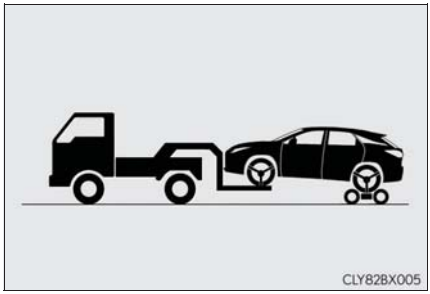
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは
FF（前輪駆動）



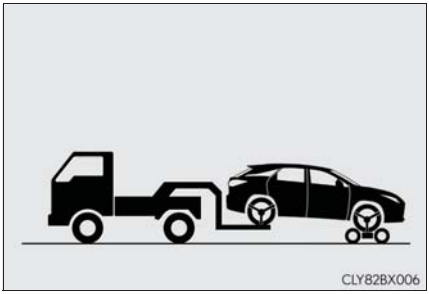
パーキングブレーキを解除する

▶ 前向きにけん引するときは
AWD（4 輪駆動）



台車を使用して後輪を持ち上げる

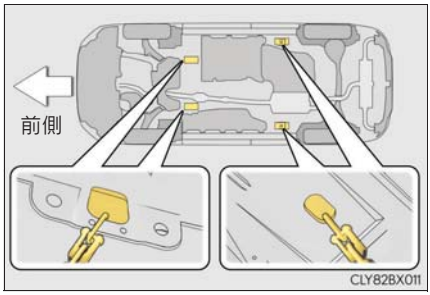
▶ うしろ向きにけん引するときは



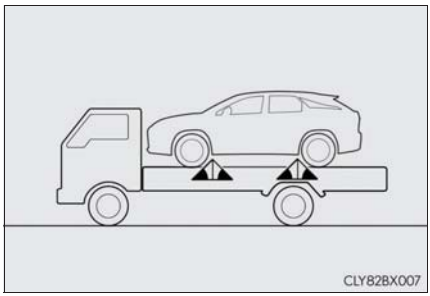
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°　になるように固縛する

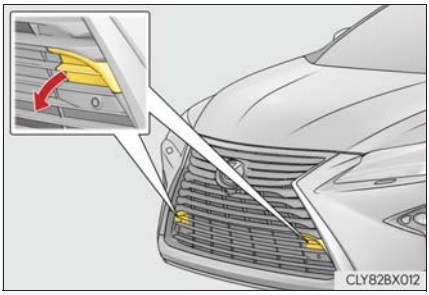


他車にけん引してもらうとき

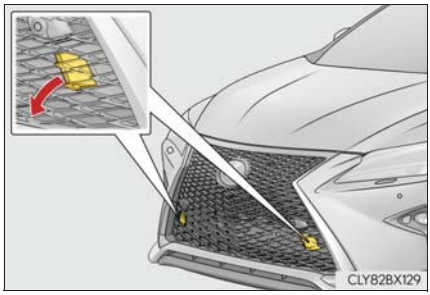
1 けん引フックを取り出す（→ P. 492, 504）

2 フタをはずす

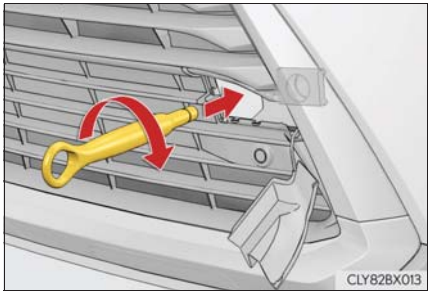
▶ F SPORT 以外



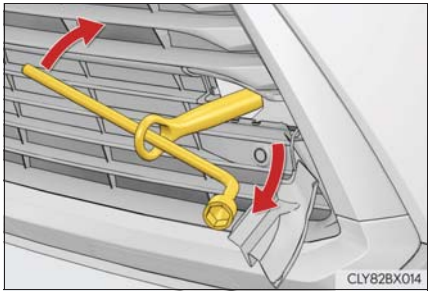
▶ F SPORT



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

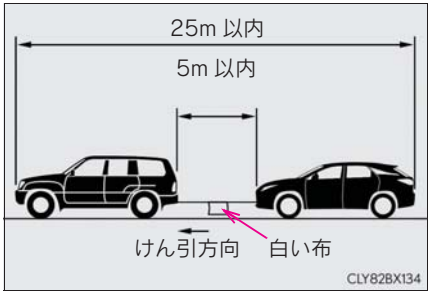


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上



7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する

エンジンが始動できないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。
シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 213

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

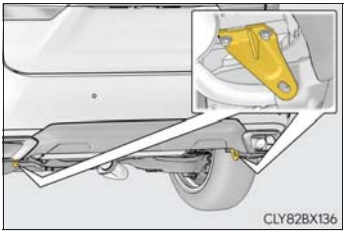
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

ラゲージルームに搭載されています。（→ P. 492, 504）

■輸送用フックについて

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりすることはできません。



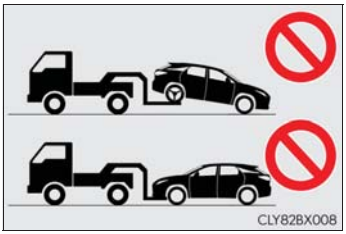
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

▶FF（前輪駆動）

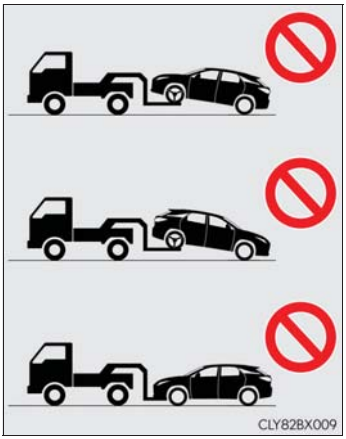
必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



警告

▶AWD（4 輪駆動）

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



■**他車にけん引してもらうときの運転について**

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●エンジンスイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがおります。

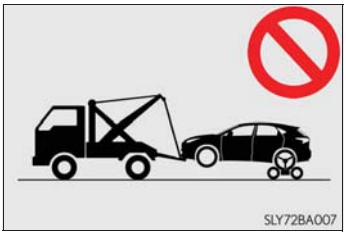
■**けん引フックを車両に取り付けるとき**

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付け過ぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■駆動系部品の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
・ワイヤーロープは使用しない
・速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■Stop & Start システム装着車をけん引するときは

4 輪すべてを接地した状態でけん引が必要な場合は、システム保護のため、けん引される前にいったんエンジンスイッチを OFF にしてから、エンジン始動またはエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか（FF［前輪駆動］）、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ブレーキ警告灯 ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
	ブレーキ警告灯 ・電動パーキングブレーキシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
	充電警告灯★ 充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
	ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
（点滅）	**パーキングブレーキ表示灯** パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性があります。 **→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。** パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。 解除後、消灯すれば正常です。
HOLD （点滅）	**ブレーキホールド作動表示灯** ブレーキホールドシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
	LKA 表示灯 LKA（レーンキーピングアシスト）の異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに「LKA 現在利用できません」が表示された場合は、いったん LKA を OFF にして、しばらくしてから再度 LKA を ON にしてください。（→ P. 269）それ以外のメッセージが表示された場合は、メッセージの指示に従ってください。**
	スリップ表示灯 警告灯が点灯した場合： ・ VSC システムの異常 ・ TRC システムの異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** 警告灯が点滅した場合： VSC・TRC システムが作動していることを表します。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
OFF	**PCS 警告灯** 警告灯が点滅した場合（ブザーあり）： プリクラッシュセーフティシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** 警告灯が点滅した場合（ブザーなし）： 次の原因などによりプリクラッシュセーフティシステムが一時停止している可能性があります。 ・ 前方センサー周辺に汚れや付着物がある **→ 汚れや付着物を取り除いてください。（→ P. 252, 253）** ・ 前方センサーが作動条件範囲外（温度など） **→ 走行は可能です。（温度など）作動条件を満たせば、プリクラッシュセーフティシステムが利用可能になります。** 警告灯が点灯した場合： VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムまたはプリクラッシュセーフティシステム、もしくは両方が OFF になっています。 **→ VSC システムとプリクラッシュセーフティシステムを ON にすると、プリクラッシュセーフティシステムが利用可能になります。（→ P. 258, 363）**
OFF （点滅）	**ICS OFF 表示灯★** ブザーが鳴った場合： インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）の異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** ブザーが鳴らなかった場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ 汚れなどを取り除いてください。**
A OFF （点滅）	**Stop & Start キャンセル表示灯** Stop & Start システムの異常 （Stop & Start システム非作動時は点灯します。→ P. 305） **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 10.8L 以下になった **→ 燃料を補給する**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※） 運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**
	タイヤ空気圧警告灯 ・ パンクによるタイヤ空気圧の低下 ・ 自然要因によるタイヤ空気圧の低下 ・ タイヤ空気圧警報システムの異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→ P. 484）に従ってください。**
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示します。 → P. 486

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のまま 24 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤがパンクしていないか確認してください。

パンクしているときは：→ P. 491, 502

パンクしていないときは：
エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度イグニッション ON モードにして、タイヤ空気圧警告灯が点灯しているか点滅しているかを確認してください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

1 タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整してください。

2 数分たっても警告灯が消灯しない場合は、指定空気圧であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの初期化を行ってください。(→ P. 438)

初期化を行ってから数分たっても警告灯が消灯しない場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が 1 分間点滅したあとに点灯した場合

タイヤ空気圧警報システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■応急用タイヤ★に交換した場合

応急用タイヤには空気圧バルブ／送信機は装備されていません。タイヤがパンクした場合、応急用タイヤに交換しても空気圧警告灯は消灯しません。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→ P. 440

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操舵力補助が制限され、赤色に点灯したときは操舵力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。
- タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合はタイヤがパンクしている可能性があります。タイヤを確認し、パンクしている場合はスペアタイヤに交換するかタイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを修理してください。
- 急ハンドル・急ブレーキを避けてください。
  タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

注意

■タイヤ空気圧警報システムについての注意

- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化操作（→ P. 438）では解除できない場合があります。（→ P. 484）

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

▶ F SPORT 以外

▶ F SPORT

① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

	専用警告灯	警告ブザー ※	警告内容
点灯	ー	あり	**走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。**
ー	点灯または点滅	あり	**表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。**
点滅	ー	あり	**車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。**
点灯	ー	なし	**電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。**
点滅	ー	なし	**車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。**

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

取扱説明書の確認を指示する警告メッセージが表示されたとき

● 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
　・「故障のためブレーキ力が低下　安全な場所に停車して取扱書を確認」
　・「エンジン油圧不足 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」
　・「充電システム故障 取扱書を確認してください」

● 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
　・「スマートエントリー＆スタートシステム故障　取扱書を確認」

●「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたときは、対処方法（→ P. 525）に従ってください。

●「AT オイル高温 取扱書を確認してください」が表示されたときは、オートマチックトランスミッションフルードの温度が異常に高くなっている可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、シフトレバーを P にいれて、エンジンをかけたまま温度が下がるまでお待ちください。
しばらくしてもメッセージが消えない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

その他のメッセージ

画面に表示されるメッセージに従って対処してください。
ただし、次のメッセージが表示された時は、取扱説明書も併せて確認してください。

■「駐車時は P レンジに入れてください」が表示されたとき

シフトレバーが P 以外でエンジンスイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。
駐車時は P にしてください。

■「バッテリー保護のため自動で電源を Off しました」が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。
次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転数を保持しバッテリーを充電してください。

■「AWD システム高温 高負荷走行を控えてください」または「AWD システム高温 2WD 走行に切りかわりました」が表示されたときは★

負荷の高い走行状況が続いた場合などに表示される場合があります。
メッセージが表示されなくなるまで車速を落として走行するか、エンジンをかけたまま安全な場所に停車してください。
メッセージが消えない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■「新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください」が表示されたときは

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から開錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが 1 週間程続きます。
電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをレクサス販売店で確認してください。

■「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

- LED ヘッドランプ
- ヘッドランプオートレベリングシステム
- アダプティブハイビームシステム★
- オートマチックハイビーム★

■「前方カメラシステム一時利用不可 少々お待ちください」または「前方カメラシステム利用不可 フロントガラス汚れを取ってください」が表示されたとき

次のシステムが一時的もしくは対処を行うまで使用できなくなります。表示された画面の指示に従ってください。

- PCS(プリクラッシュセーフティシステム)
- LKA（レーンキーピングアシスト）
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）
- アダプティブハイビームシステム★
- オートマチックハイビーム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■専用警告灯について

次の内容のメッセージが表示されたときは、マスターウォーニングが点灯・点滅しません。その場合は個別の専用警告表示を行います。

●「ABS 故障　販売店で点検してください」：
ABS ＆ブレーキアシスト警告灯が点灯します。（→ P. 480）

●「充電システム故障 取扱書を確認してください」（F SPORT）：
充電警告灯が点灯します。（→ P. 480）

■警告ブザーについて

→ P. 484

注意

■「電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中です」がひんぱんに表示されるときは

充電系の異常やバッテリーが劣化している可能性があります。レクサス販売店で点検を受けてください。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 436 を参照してください）

警告

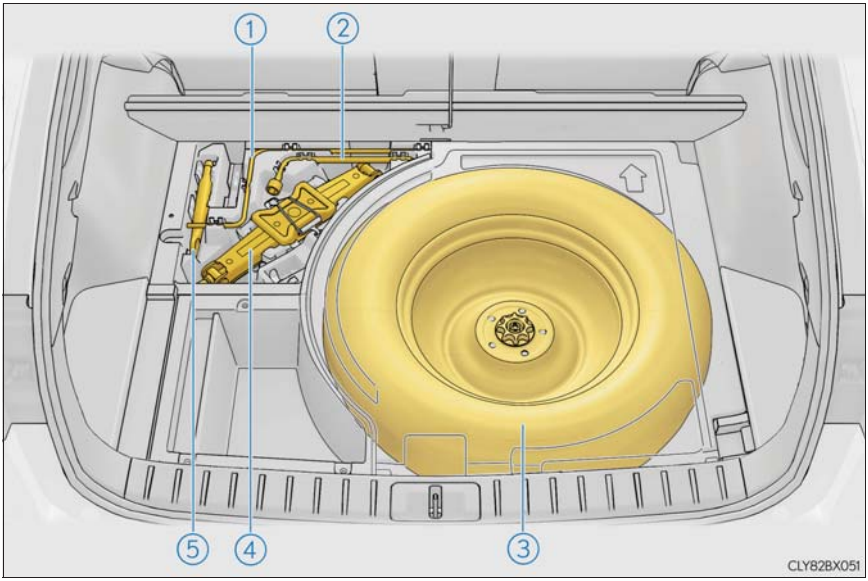
■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 469）

工具とジャッキ位置



① ジャッキハンドル
② ホイールナットレンチ
③ 応急用タイヤ
④ ジャッキ
⑤ けん引フック

警告

■ **ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

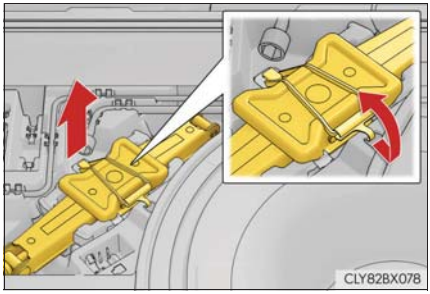
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキの取り出し方

1 フックを使ってデッキボードを固定する（→ P. 407）

2 フックをはずし、ジャッキを取り出す

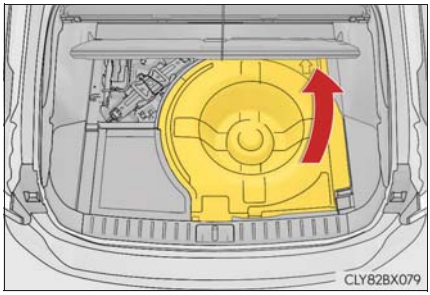
いったんホイールナットレンチを取り出してから、ジャッキを取り出してください。



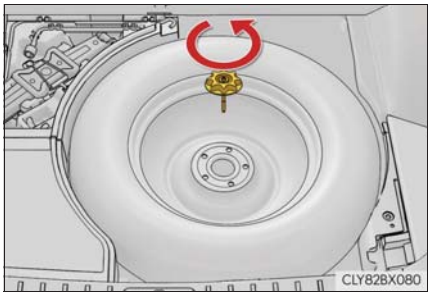
応急用タイヤの取り出し方

1 フックを使ってデッキボードを固定する（→ P. 407）

2 カバーを取りはずす



3 留め具をはずし、応急用タイヤを取り出す



警告

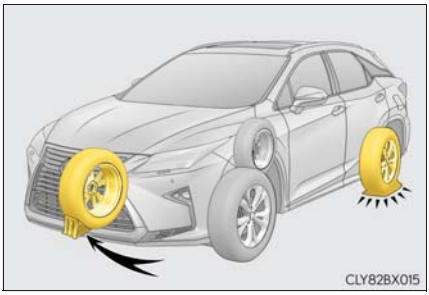
■**応急用タイヤを収納するとき**

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

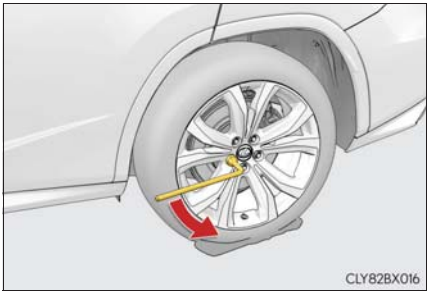
1 輪止め※をする

※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

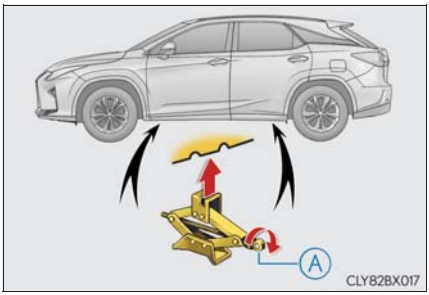


パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

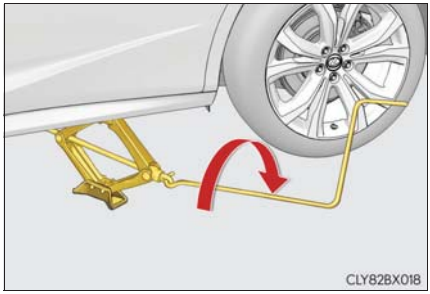
2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



3 ジャッキのⒶ部を手でまわして、ジャッキの溝をジャッキセット位置にしっかりかける

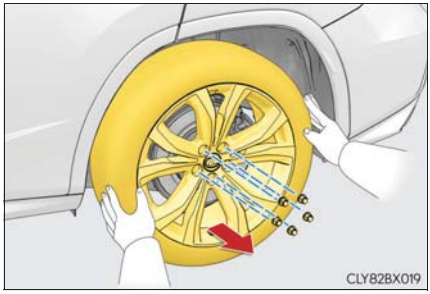


4 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



5 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

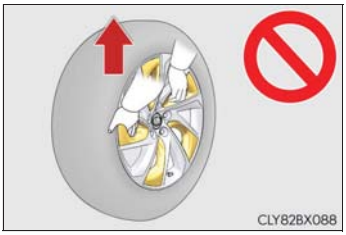
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



警告

■**セレクタブルカラートリム★が装着されたタイヤを持ち上げるときは**

セレクタブルカラートリムをつかんだ状態でタイヤを持ち上げないでください。セレクタブルカラートリムが破損したり、タイヤが落下してけがをするおそれがあります。



■**タイヤ交換について**

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
・ホイールの交換後はすぐに 103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける

■**パワーバックドア装着車のタイヤ交換について**

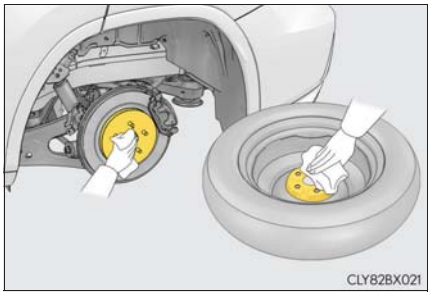
タイヤ交換などをする際は、バックドアの作動を停止してください。（→ P. 95）
停止しないと、誤ってパワーバックドアを作動させたときにバックドアが動き、指や手を挟んでけがをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

応急用タイヤの取り付け

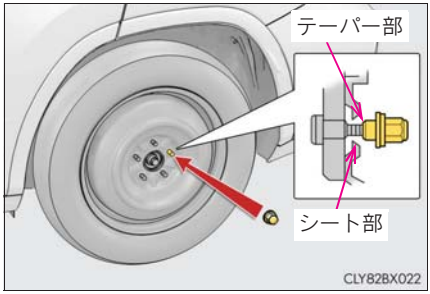
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

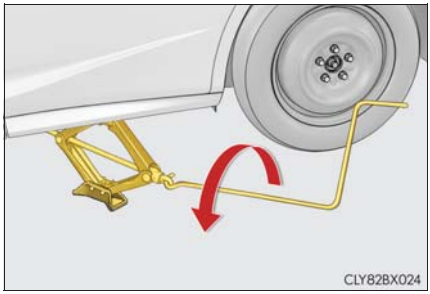


2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわします。

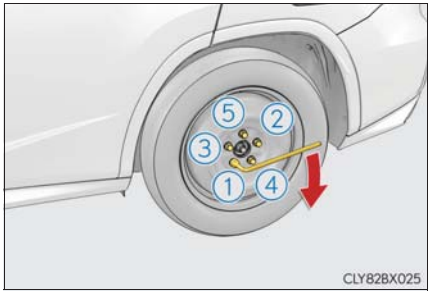


3 車体を下げる



4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）



5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

●タイヤの側面にTEMPORARY USE ONLYと書かれています。応急用にのみ使用してください。

●空気圧を必ず点検してください。(→ P. 535)

■応急用タイヤを使用するときは

応急用タイヤにはタイヤ空気圧バルブ／送信機が装着されていません。指定の通常タイヤに交換し、正しい空気圧に調整するまではタイヤ空気圧警告灯は消灯しません。

■応急用タイヤを装着しているとき

標準タイヤ装着時にくらべ車高が変化します。

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたときは

1 後輪を応急用タイヤと交換する

2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する

3 タイヤチェーンを前輪に装着する

警告

■**応急用タイヤを使用するときは**

●お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

●同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

●急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

■**応急用タイヤ装着中は**

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ABS
・ブレーキアシスト
・VSC
・TRC
・EPS
・VDIM★
・NAVI・AI-AVS★
・レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付)
・PCS（プリクラッシュセーフティシステム）
・LKA（レーンキーピングアシスト）
・オートマチックハイビーム★
・アダプティブハイビームシステム★
・タイヤ空気圧警報システム
・クリアランスソナー★
・インテリジェントクリアランスソナー(リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）★
・バックガイドモニター＆サイドモニター★
・パノラミックビューモニター★
・BSM（ブラインドスポットモニター）★
・ナビゲーションシステム

また、次のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。
・AWD システム★

■**応急用タイヤ使用時の速度制限**

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**ジャッキや工具を使用したあとは**

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■ **応急用タイヤ装着中の注意**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が変化します。段差を乗りこえるときは注意してください。

■ **応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着**

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

■ **タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換**

→ P. 443

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

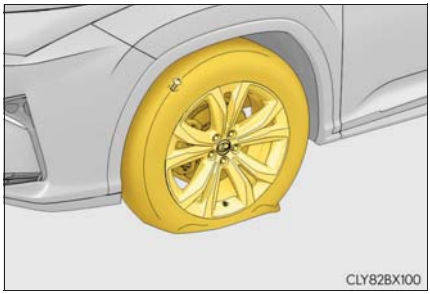
応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 469）
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



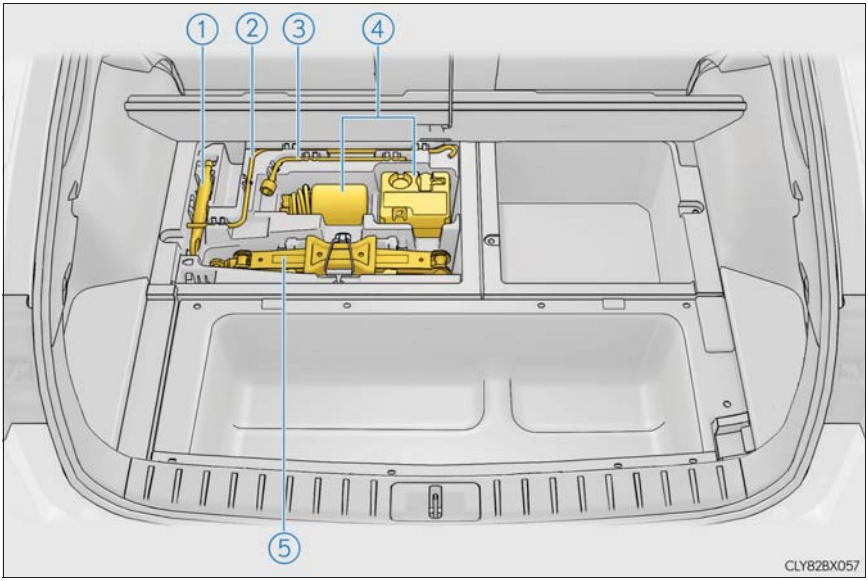
知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- 補修液の有効期限がきれているとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置



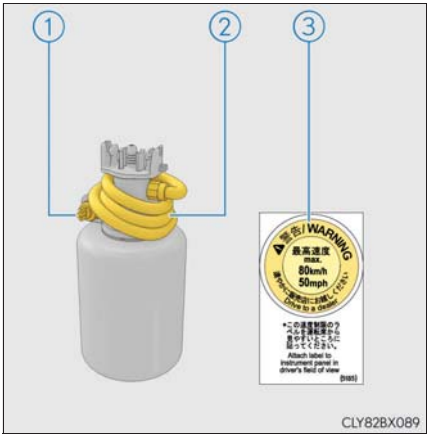
① けん引フック
② ジャッキハンドル
③ ホイールナットレンチ
④ タイヤパンク修理キット
⑤ ジャッキ ※

※ ジャッキの使い方（→ P. 493, 494）

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

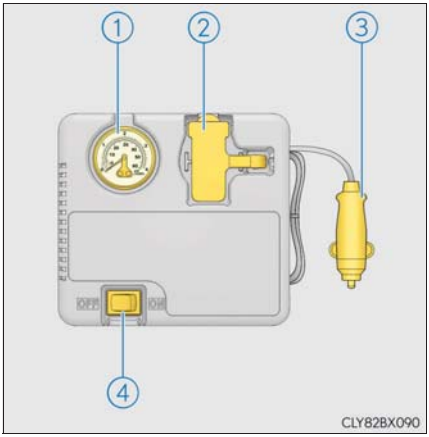
■ ボトル

① 空気逃がしキャップ
② ホース
③ 速度制限ラベル



■ コンプレッサー

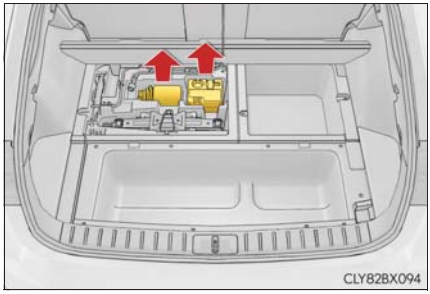
① 空気圧計
② ゴム栓
③ 電源プラグ
④ 電源スイッチ



応急修理キットの取り出し方

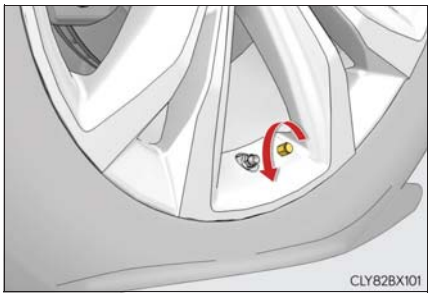
1 フックを使ってデッキボードを固定する（→ P. 407）

2 応急修理キットを取り出す



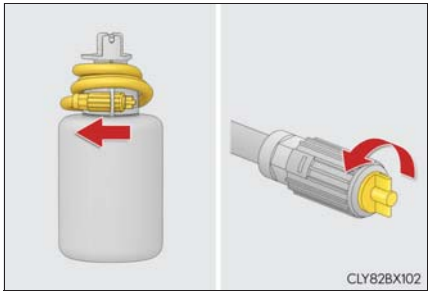
応急修理するときは

1 パンクしたタイヤのバルブから、バルブキャップを取りはずす



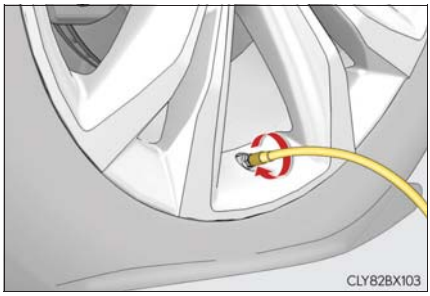
2 ホースをのばし、空気逃しキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

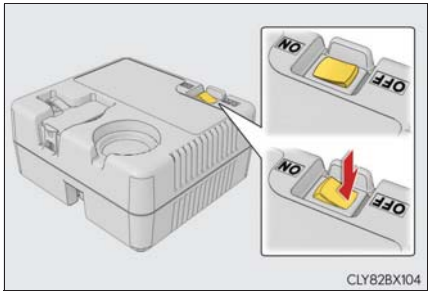


3 ホースをバルブに接続する

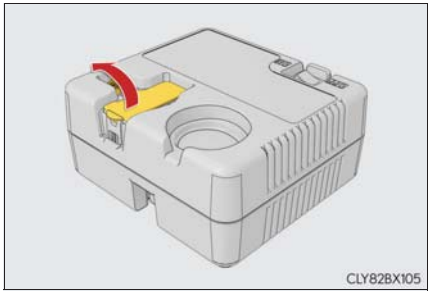
ホース先端を時計まわりにまわして、できるだけ奥までねじ込みます。



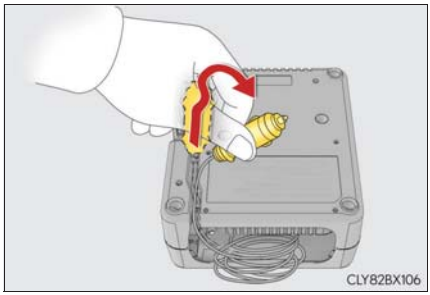
4 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認する



5 コンプレッサーのゴム栓をはずす



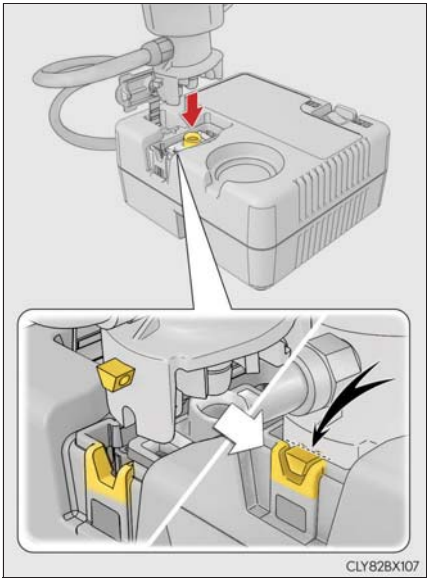
6 コンプレッサーの電源プラグを取りはずす



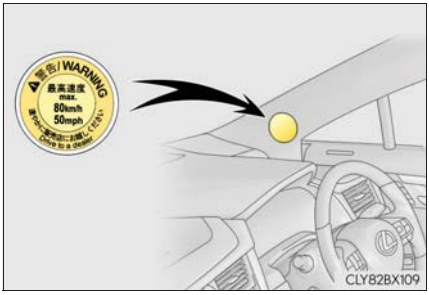
7 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む (→ P. 417)

8 ボトルをコンプレッサーに接続する

しっかり接続されているか確認してください。

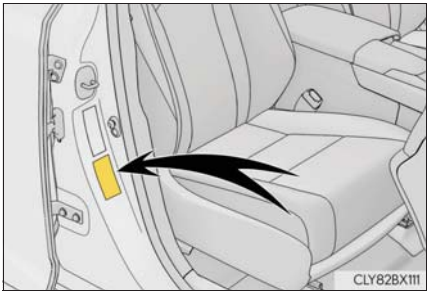


9 付属のラベルを図のように貼り付ける



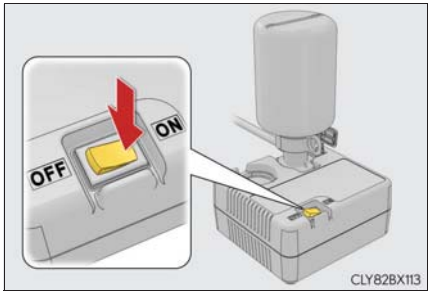
10 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→ P. 439)



11 エンジンを始動する

12 コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する

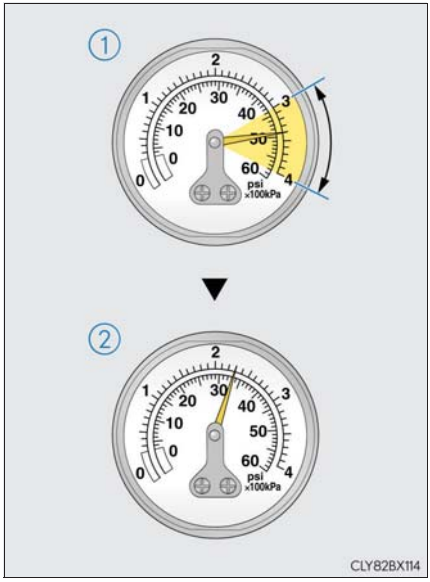


13 空気圧が指定空気圧になるまで充填する

① 一時的に空気圧計が 300 ～ 400kPa (3.0 ～ 4.0kg/cm^2) まで上昇し、徐々に減少します。

② スイッチを ON にしてから 1 分 ～ 5 分程度で実際の空気圧になります。

・コンプレッサーのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。



・25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にしてレクサス販売店にご連絡ください。

・空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。(→ P. 512, 535)

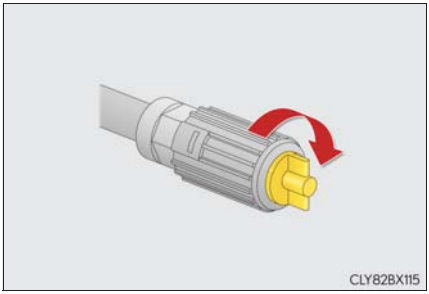
14 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブから応急修理キットのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

15 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

16 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

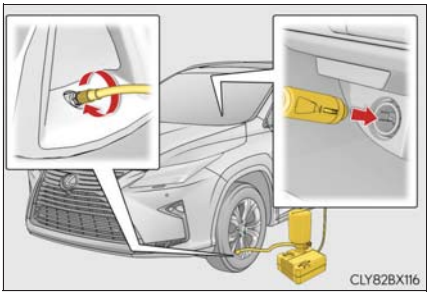
空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、お車が汚れる可能性があります。



17 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

18 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、すみやかに約 5km 程度、速度 80km/h 以下で安全に走行する

19 走行後、平坦な場所に停車し、再度コンプレッサーを接続する

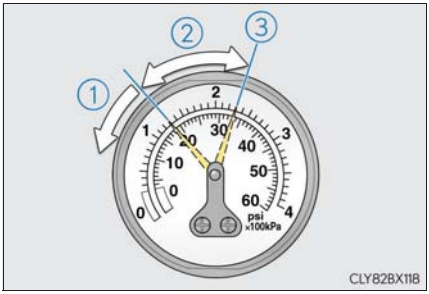


20 コンプレッサーのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧を確認する

① 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合：応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

② 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm^2）以上、指定空気圧未満の場合：手順 **21** へ

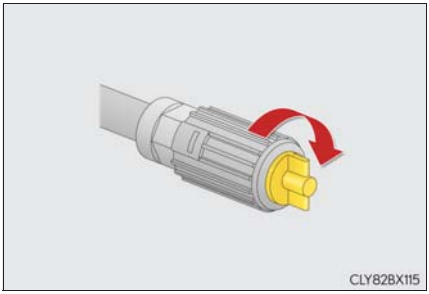
③ 空気圧が指定空気圧（→ P. 439, 535）の場合：手順 **22** へ



21 コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行後にあらためて手順 **19** から実施する

22 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、お車が汚れる可能性があります。



23 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

24 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、約 100km 以内、速度 80km/h 以下でレクサス販売店まで慎重に運転する

レクサス販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

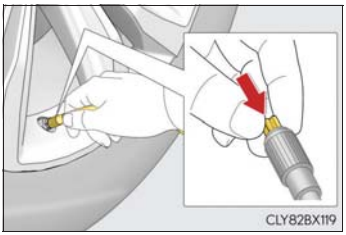
■応急修理キットについて

- パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。
- 応急修理キットのパンク補修液は、1 本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、レクサス販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 外気温度が－ 40 ℃～ 60 ℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■空気を入れすぎてしまったときは

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 応急修理キットのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、応急修理キットのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急（パンク）修理キットを使用したとき

●空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

●タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

■応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はボトルに表示されています。
有効期限が切れたパンク修理液は使用しなでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

警告

■**応急修理キットについて**

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**パンク補修液について**

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■**パンクしたタイヤを応急修理するときは**

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。

●接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

●充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。

●充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

●破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにキットのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。

●応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

警告

- 応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所の金属部分は特に熱くなるため、使用中、または使用直後はふれないでください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
  - ・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
  - ・空気圧を確認してください。130 kPa 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■応急修理をするときは

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
  取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットは砂埃や水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 204）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→ P. 204）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
  （→ P. 66）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 521）

スターターがまわらない場合

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 516）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 521）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

  対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1. エンジンスイッチをイグニッション ON モードにし、パーキングブレーキがかかっていることを確認する（→ P. 205, 216）
2. シフトレバーが P の位置にあることを確認する
3. エンジンスイッチをアクセサリーモードにする
4. ブレーキペダルをしっかり踏んでエンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

電子キーが正常に働かないときは

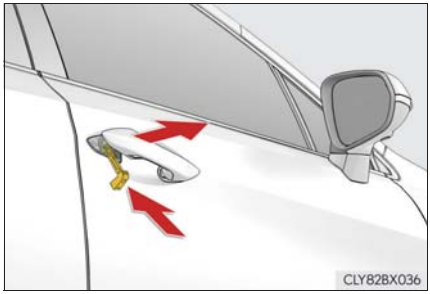
電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 149）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

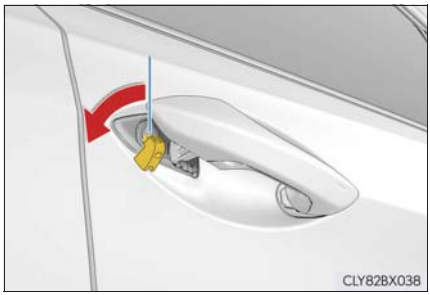
■ ドアの解錠

メカニカルキー（→ P. 119）を使って次の操作ができます。

1 運転席側のドアハンドルを引いたまま、メカニカルキーを挿し込む



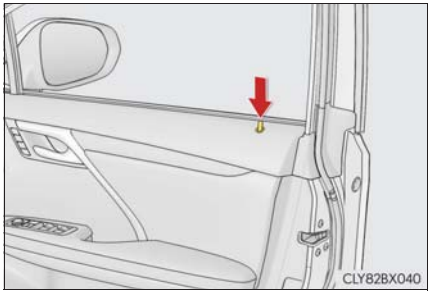
2 キーを回してドアを解錠する



3 メカニカルキーを抜いてドアハンドルを元に戻したあと、再度ドアハンドルを引く

■ ドアの施錠

1 ドアを開けた状態でロックボタンを押し下げる



▶ フロント席ドア

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

▶ リヤ席ドア

2 ドアを閉める

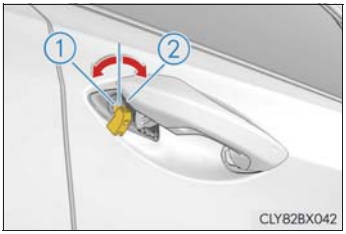
知識

■キーの連動機能

① ドアガラスとムーンルーフ★またはパノラマムーンルーフ★が開く（まわし続ける）

② ドアガラスとムーンルーフ★またはパノラマムーンルーフ★が閉まる（まわし続ける）

レクサス販売店での設定が必要です。



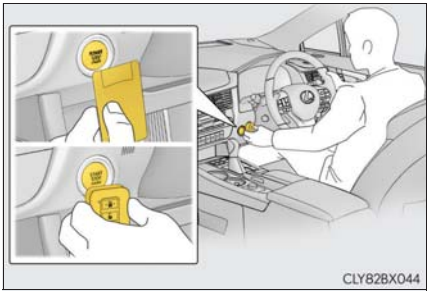
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジン始動の方法

1 シフトレバーがＰの状態でブレーキペダルを踏む

2 電子キーのレクサスエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。
車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっているときは、アクセサリーモードへ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する

4 エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

知識

■エンジンの停止のしかた

通常のエンジン停止のしかたと同様に、シフトレバーを P にし、パーキングブレーキをかけて、エンジンスイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→ P. 451）

■エンジンスイッチのモードの切りかえ

エンジン始動方法の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→ P. 205）

■電子キーが正常に働かない場合

●車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→ P. 540）

●電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。
設定されている場合は解除してください。（→ P. 149）

警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフまたはパノラマムーンルーフを操作するとき

ドアガラスやムーンルーフまたはパノラマムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフまたはパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

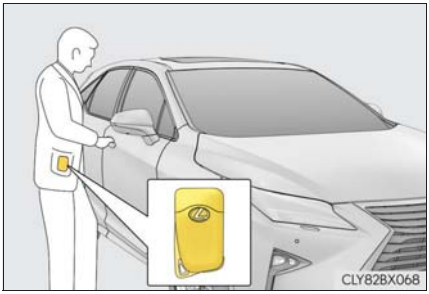
バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12 V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

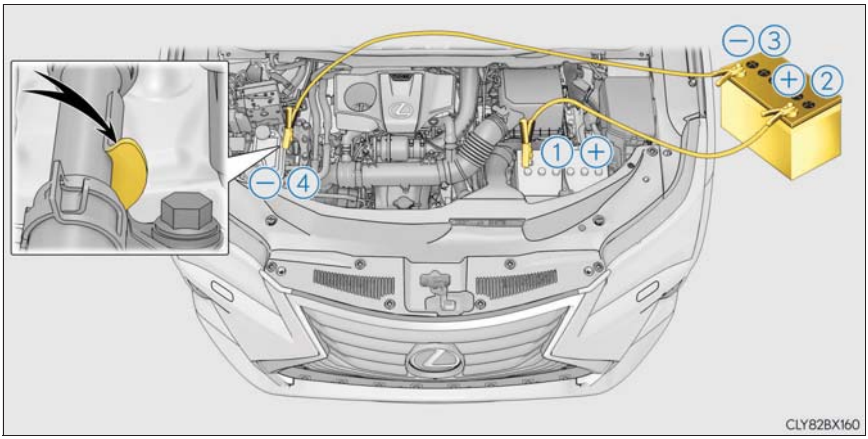
1 電子キーを携帯していることを確認する

ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。
（→ P. 69）



2 ボンネットを開ける（→ P. 432）

3 ブースターケーブルを次の順につなぐ



① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

5 エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

6 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッションONモードにしてからエンジンを始動する

7 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンが始動しても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。（Stop & Start システム装着車は、システムによるエンジン停止中を除く）

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがってしまった場合は

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはレクサス販売店で点検を受けてください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長時間放置すると、バッテリーがあがってエンジンが始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■バッテリーあがり時や取りはずし時などは

●バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

●車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に車両は復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。
バッテリーあがり前のエンジンスイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

●パワーバックドアシステムの初期化を行ってください。（→ P. 139）

●バッテリーがあがったあと、またはバッテリー端子をはずしたあとは、約 5 ～ 60 分間、Stop & Start システムが作動しないことがあります。

■バッテリーを交換するときは

装着されているバッテリーは、Stop & Start システム専用品です。T-115 またはそれ以上の性能を持つバッテリーと交換してください。
適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリー保護のために Stop & Start システムの作動が制限されます。さらに、バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。
詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない

●＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない

●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない

●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする

●必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない

●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

●バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまをバッテリーに近付けない

注意

■ **ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→ P. 79）の針がレッドゾーンに入ったり、エンジンの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

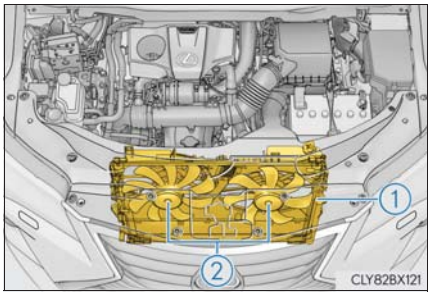
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

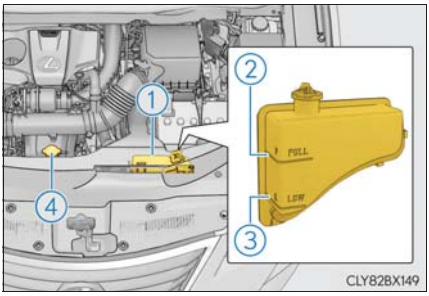
② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

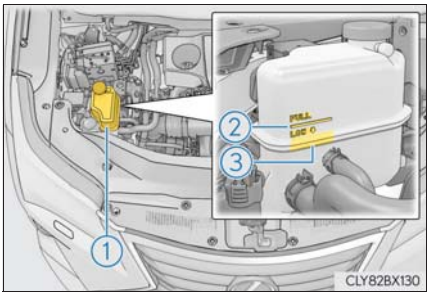


4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

▶ エンジン



▶ インタークーラー



① リザーバータンク

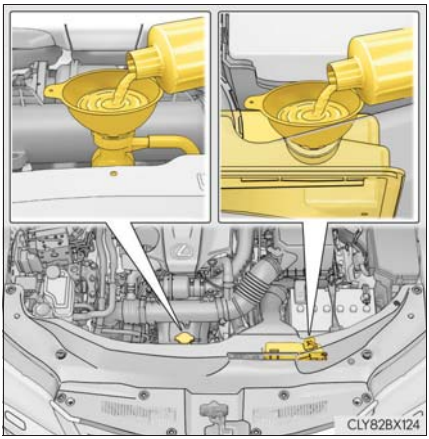
② “FULL”（上限）

③ “LOW”（下限）

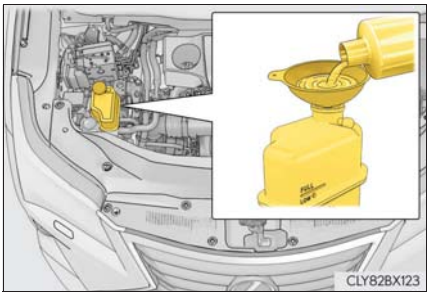
④ ラジエーターキャップ

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

▶ エンジン



▶ インタークーラー



冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、レクサス販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

8 マルチインフォメーションディスプレイの「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください」表示を確認する

表示が消えていない場合：
　すぐにエンジンを停止し、レクサス販売店に連絡する

表示が消えている場合：
　最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、ラジエーターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

1. シフトレバーをPにし、パーキングブレーキをかけて、エンジンを停止する
2. 前輪周辺の土や雪を取り除く
3. 前輪の下に木や石などをあてがう
4. エンジンを再始動する
5. AWD 車：AWD LOCK モードスイッチを押して ON にする（→ P. 359）
6. シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

を押して TRC を OFF にしてください。

警告

■**脱出するときは**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■**シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。
- スタックから脱出する際にオートマチックトランスミッションの油温に関する警告メッセージが表示されたときは、ただちにアクセルペダルから足を離して警告メッセージが表示されなくなるまで待ってください。トランスミッションが故障するおそれがあります。(→P. 488)

車両情報 8

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
（指定燃料・オイル量など）....532

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧.....537

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目.....548

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
・無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク） ・バイオ混合ガソリン（プレミアム）※	72

※ エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値 ※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
弊社純正モーターオイル ECO TURBO 0W-20※2 —SAE 0W-20 弊社純正モーターオイル SN 0W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 弊社純正モーターオイル SN 5W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20 弊社純正モーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30	4.7	4.9

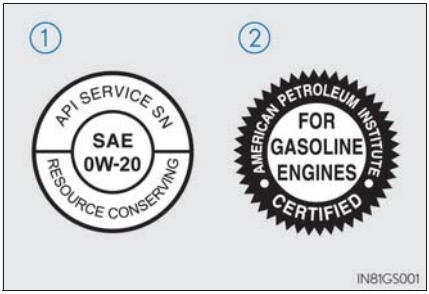
※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にエンジンを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※2 弊社純正モーターオイル ECO TURBO は新車時に充填されている、レクサス車のガソリンターボエンジン専用オイルです。合成油を含む、高性能なベースオイルをバランス良く配合し、ガソリンターボエンジンの性能を最大限に発揮できるように作られています。

■ 指定エンジンオイル

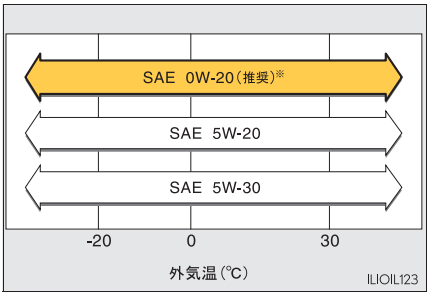
指定銘柄以外を使用される場合は、API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。
なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサック サーティフィケーション）マークが付いています。

① API マーク
② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：
・0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
・0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

⚠ 注意

■ エンジンオイル

定期的なエンジンオイル交換を必ず行ってください。
定められた期間でエンジンオイル・オイルフィルターを交換しないと、エンジンオイルが劣化してターボ装置の故障の原因になります。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）	
	エンジン	インタークーラー
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　−12 ℃ 濃度 50%　−35 ℃	8.7	3.2

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
弊社純正オートフルード　WS※	6.7

※ 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。

リヤディファレンシャル（AWD 車）

オイルタイプ・推奨粘度	容量［L］（参考値）
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	0.5

トランスファー（AWD 車）

オイルタイプ・推奨粘度	容量［L］（参考値）
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	0.8

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
弊社純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	105

※ エンジン回転時に、490N（50 kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
4.8

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	235/65R18 106V	18 × 8 J	250（2.5）	250（2.5）
	235/55R20 102V	20 × 8 J	230（2.3）	230（2.3）
応急用タイヤ★	T165/90D18 107M	18 × 4 T	420（4.2）	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球（バルブ）※1

	電球	W（ワット）数
車外	フロント方向指示灯／非常点滅灯 ※2	21
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯 ※2	21
	後退灯	16
車内	ドアカーテシランプ ※3	5
	バニティミラーランプ	8
	ラゲージルームランプ	5

※1 表に記載のないランプは LED を採用しています。

※2 三眼フル LED ヘッドランプ非装着車

※3 ドアトリムオーナメントイルミネーション非装着車

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
RX200t	AGL20	8AR-FTS（2.0L ガソリン）	FF（前輪駆動）
	AGL25		AWD（4 輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてレクサス販売店で作動内容を変更することができます。また、ナビゲーションシステム・マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

G-Link サービスご契約のお客様は、G- カスタマイズ機能（レクサスオーナーズサイトのご利用またはレクサス販売店へのご依頼）により、遠隔で設定変更ができます。
遠隔での設定変更が可能な項目に関してはレクサスオーナーズサイトでご確認ください。

設定変更のしかた

安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にします。

■ ナビゲーションシステムで設定するには

1. リモートタッチの MENU スイッチを押し、を選択する
2. 「設定・編集」画面の「車両」／「運転支援」を選択する
3. 設定を変更したいカテゴリーを選択する
4. 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する
5. 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、「する」（作動）・「しない」（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「+」または「−」を選択してレベルを調整します。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

→ P. 92

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

① ナビゲーションシステムの画面操作で設定変更可能

② レクサス販売店で設定変更可能

■ オートアラーム（→ P. 67）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	あり	なし	―	○

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ（→ P. 79, 83）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
単位	km/L	L/100km	○	―
カラー ※	カラー 1	カラー 2	○	―
提案サービス	あり	なし	―	○

※ F SPORT 以外

■ ドアロック（→ P. 124, 517）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	―	○
車速感応オートドアロック	あり	なし	○	○
シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）	なし	あり	○	○
シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）	あり	なし	○	○
運転席ドアを開けたときの全ドア解錠（運転席ドア開連動アンロック）	なし	あり	○	○

■ パワーバックドア（→ P. 131）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
パワーバックドアスイッチの操作	押し続ける	押す	―	○
バックドアを引き下げたときの自動閉作動	あり	なし	―	○
バックドアオープンスイッチを押したときの自動開作動	あり	なし	―	○
パワーバックドア開度調節	開度 5	開度 1 ～ 5	○	○
ブザー音量	レベル 3	レベル 1	―	○
		レベル 2		
パワーバックドア／タッチレスセンサー作動	あり	パワーバックドア：あり タッチレスセンサー：なし	―	○
		なし		
パワーバックドア開閉ブザー	作動開始時：あり 作動中：なし	なし	―	○
		作動開始時：なし 作動中：あり		
		あり		
作動開始時のブザー音	パターン A	パターン B	―	○
		パターン C		
タッチレスセンサーの感度調整	レベル 1（標準）	レベル 1（標準） ～ レベル 3（高感度）	―	○

■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→ P. 124, 147）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
作動の合図（ブザー音量調整）	レベル 5	OFF	○	○
		レベル 1 ～ 7		
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	○
		120 秒		
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	○

■ スマートエントリー＆スタートシステム（→ P. 124, 147）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
スマートエントリー＆スタートシステム	あり	なし	○	○
解錠されるドアの選択	全席解錠	運転席のみ解錠	○	○
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	—	○

■ ワイヤレスドアロック（→ P. 118, 124, 131）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ワイヤレス機能	あり	なし	—	○
解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	○
ワイヤレスリモコンの スイッチでのパワーバックドア開閉操作	開作動：バックドア解錠時に押し続ける 閉作動：押し続ける	なし	—	○
		開作動：バックドア解錠時に1回押し 閉作動：1 回押し		
		開作動：バックドア解錠時に2回押し 閉作動：2 回押し		
		開作動：2 回押し ※1 開作動：2 回押し		
		開作動：押し続ける ※1 開作動：押し続ける		
ワイヤレスリモコンの スイッチでパワーバックドアを開けたときのドア解錠 ※2	全ドア解錠	バックドアのみ解錠	—	○

※1 施錠時・解錠時ともに作動します。

※2 ※1 を選択しているときのみ設定できます。

■ ポジションメモリー★（→ P. 163）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
降車時の運転席シート移動量調節	標準	OFF	○	○
		少なめ		
メモリーコール機能と連動するドアの選択	運転席ドア	全ドア	—	○

■ ハンドル（→ P. 170）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
オートアウェイ＆オートリターン機構	あり	なし	—	○

■ ドアミラー（→ P. 174）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	OFF	—	○
		エンジンスイッチと連動		

■ パワーウインドウ、ムーンルーフ★、パノラマムーンルーフ★共通（→ P. 178, 182, 186）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー）	あり	なし	—	○

■ ムーンルーフ★（→ P. 182）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
メカニカルキー連動開機能の作動	スライドのみ	チルトのみ	—	○
ワイヤレスリモコン連動開機能の作動	スライドのみ	チルトのみ	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→ P. 222）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ライトセンサーの感度調整	標準	-2 ～ 2	○	○
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	―	○

■ ランプ（→ P. 222）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
LED デイライト	あり	なし	―	○

■ アダプティブハイビームシステム★（→ P. 225）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
アダプティブハイビームシステム	あり	なし ※	―	○
前方車両と遮光ハイビームとの間隔	標準	狭い	―	○
		広い		
車速に応じた、ハイビームの明るさと照らす範囲の調整	約 15km/h から作動	約 30km/h から作動	―	○
		約 80km/h から作動		
カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす	あり	なし	―	○
先行車との距離に応じた、ロービームの照らす範囲の調整	あり	なし	―	○

※ オートマチックハイビームとして作動します。（→ P. 230）

■ ワイパー（→ P. 236）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ワイパースイッチを “AUTO” にしたときの作動	雨滴感知	車速連動間欠作動（間欠時間調整式）	―	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー★（→ P. 327）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
フロントセンターセンサーの検知可能距離	遠い	近い	○	○
リヤセンターセンサーの検知可能距離	遠い	近い	○	○
ブザー音量	レベル 3	レベル 1 ～ 5	○	○
ソナー表示の切りかえ	すべて表示	表示なし	○	○

■ BSM（ブラインドスポットモニター）★（→ P. 313）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ドアミラーインジケーターの明るさ	明るい	暗い	○	○
接近車両を知らせるタイミング（BSM 機能のみ）	中間	早い	○	○
		遅い		
		死角領域のみ		
RCTA ブザーの音量	レベル 2	レベル 1	○	—
		レベル 3		

■ ドライブモードセレクトスイッチ（→ P. 356）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
カスタマイズモード★時のパワートレーン制御	NORMAL	POWER	○	—
		ECO		
カスタマイズモード★時のシャシー制御	NORMAL	SPORT	○	—
カスタマイズモード★時のエアコン作動	NORMAL	ECO	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エアコン（→ P. 378）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	○
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	○
排ガスセンサー感度調節	標準	－ 3 ～ 3	○	○

■ シートヒーター★／シートベンチレーター★（→ P. 391, 392）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
運転席 AUTO 作動時の温度調整	標準	-2（すずしめ） ～ 2（暖かめ）	○	○
助手席 AUTO 作動時の温度調整	標準	-2（すずしめ） ～ 2（暖かめ）	○	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ イルミネーション（→ P. 393）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
室内灯の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	○
		7.5 秒		
		30 秒		
エンジンスイッチ OFF 後の作動	あり	なし	―	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	―	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	―	○
車室内足元照明、フロントセンターコンソール照明の点灯	あり	なし	―	○
インストルメントパネルオーナメントイルミネーション★、ドアトリムオーナメントイルミネーション★の点灯	あり	なし	―	○
室外足元照明の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	○
		7.5 秒		
		30 秒		
接近時の室外足元照明の点灯	あり	なし	―	○
解錠時の室外足元照明の点灯	あり	なし	―	○
ドアを開けたときの室外足元照明の点灯	あり	なし	―	○
室外足元照明の消灯時のフェードアウト	長い	短い	―	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■車両カスタマイズについて

●「車速感応オートドアロック」と「シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）」を両方とも「あり」にした場合、次のように作動します。
・シフトレバーを P 以外に入れると全ドア施錠されます。
・全ドアが施錠された状態で発進した場合、車速感応オートドアロックは作動しません。
・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応オートドアロックが作動します。

●「スマートエントリー＆スタートシステム」が「なし」の場合、「解錠されるドアの選択」の設定はできません。

●解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動した合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図（ブザー音量調整）」の設定に依存します。

●ナビゲーション画面以外でもスイッチ操作などでカスタマイズ設定ができる項目があります。スイッチ操作で設定を変更した場合、エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするまでナビゲーション画面には反映されません。

警告

■カスタマイズを行うときは

エンジンを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■カスタマイズを行うときは

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
タイヤ空気圧警報システム	・タイヤサイズの変更などにより、タイヤの指定空気圧が変更になった場合 ・タイヤローテーションを実施した場合	P. 438
インテリジェントクリアランスソナー（リヤクロストラフィックオートブレーキ機能付き）★	・バッテリーの充電・交換後の再接続時	P. 347
パワーバックドア	・バッテリーの充電・交換後の再接続時	P. 139

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）.....550
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....554
アルファベット順さくいん 556
五十音順さくいん.....558

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

・ナビゲーション
・オーディオ＆ビジュアル
・後席 11.6 型ワイドディスプレイ
・音声操作システム
・バックガイドモニター
・サイドモニター
・パノラミックビューモニター
・ETC2.0 システム
・ハンズフリー
・G-Link

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、レクサス販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、レクサス販売店でレクサス純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 120）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにレクサス販売店にご相談ください。（→ P. 122）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 451）
- エンジンスイッチがイグニッション ON モードになっていませんか？
  施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。（→ P. 205）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
  （→ P. 149）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？

  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。
  （→ P. 127）

故障かな？と思ったら

エンジンがかからない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→ P. 204）
- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 206）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 147）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 206）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。
  （→ P. 519）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 521）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

- エンジンスイッチはイグニッション ON モードになっていますか？

  エンジンスイッチがイグニッション ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 213）

エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 206）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？

  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 178）

エンジンスイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリーモードまたはイグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 206）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 554）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 480、486 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

- 応急用タイヤ装着車
  車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 491）
- タイヤパンク応急修理キット装着車
  車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 502）

立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 529）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P. 67
ドアを開閉したとき	シフトポジションが P 以外になっている	P. 486
	窓・ムーンルーフ★・パノラマムーンルーフ★が開いている（エンジン停止中のみ）	P. 180, 184, 188
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P. 67
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 451
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 148
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 486

※ ドアを解錠する、またはエンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドア・ボンネットが確実に閉まっていない	P. 129
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 218
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない ※	P. 483
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P. 212
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 197
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P. 282
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）が作動した	P. 255
車線から逸脱しそうになったとき	LKA（レーンキーピングアシスト）を使用している	P. 265, 266

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）. 378
ABS
（アンチロックブレーキシステム）. 360, 480
AI-AVS
（アーティフィカルインテリジェンスアダプティブ
バリアブルサスペンションシステム）. 356, 361, 364
AI-SHIFT
（アーティフィカルインテリジェンスシフト）. 214
AVS
（アダプティブバリアブルサスペンションシステム）. 356, 361, 364
AWD
（オールホイールドライブ）. 536
BSM
（ブラインドスポットモニター）. 313
EDR
（イベントデータレコーダー）. 8
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）. 360, 481
FF
（フロントエンジンフロントドライブ）. 536
HUD
（ヘッドアップディスプレイ）. 103
ICS
（インテリジェントクリアランスソナー）. 337
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）. 533
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）. 44
LED
（ライトエミッティングダイオード）. 222
LKA
（レーンキーピングアシスト）. 265
PCS
（プリクラッシュセーフティシステム）. 255, 482
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート）. 321

RF
（ラジオフリクエンシー）. 9
S-VSC
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール） . . 360, 481
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム） 33, 480
TRC
（トラクションコントロール）. 360, 481
VDIM
（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）. 361
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）. 360, 481

五十音順さくいん

あ

アースポイント
（バッテリーあがりの処置）..... 521
アームレスト..... 420
ITS Connect 292
アイドリングストップ 302
アイドリングストップ
時間..... 91, 98
Stop & Start キャンセル
表示灯 305, 482
Stop & Start システム 302
Stop & Start 表示灯 302
アウターミラー（ドアミラー）
格納のしかた 175
操作 174
ブラインドスポットモニター
（BSM）..... 313
ミラーヒーター 383
リバース連動機能..... 176
アクセサリーコンセント 418
アクセサリーソケット 417
アクセサリーモード 205
アダプティブハイビーム
システム 225
アラーム
オートアラーム..... 67
音さくいん 554
警告ブザー 480, 486
アンチロックブレーキシステム
（ABS）..... 360
ABS & ブレーキアシスト
警告灯 480
アンテナ
スマートエントリー＆
スタートシステム 147

い

イグニッションスイッチ
（エンジンスイッチ）..... 204
位置交換
（タイヤローテーション）..... 436
イベントデータレコーダー
（EDR）..... 8
イモビライザーシステム 66
イルミネーテッドエントリー
システム 396
インジケーター（表示灯）..... 76
インストルメントパネル照度調整
スイッチ 81
インテリアランプ..... 394
インテリジェント
クリアランスソナー..... 337
警告灯 482
警告メッセージ 341, 347
表示灯 76
インナーミラー..... 172

う

ウインカー（方向指示灯）..... 215
電球（バルブ）の交換..... 456
方向指示レバー..... 215
ワット数 536
ウインドウ
ウォッシャー 236, 242
パワーウインドウ..... 178
フロントワイパーデアイサー ... 383
リヤウインドウデフォッガー ... 383
ウインドウロックスイッチ 178
ウォーニングランプ
（警告灯）..... 75, 480
ウォッシャー..... 236, 242
液の補充 435
スイッチ 236, 242
タンク容量 535
冬の前の準備・点検..... 367
動けなくなったときは
（スタック）..... 529
雨滴感知式ワイパー 236
運転 192
雨の日の運転 193
運転を補助する装置..... 360
寒冷時の運転 367
正しい運転姿勢..... 26
手順 192
運転席シートベルト
非着用警告灯..... 483
運転席シートポジション
メモリー 163

え

エアコン
S-FLOW モード..... 379
オートエアコン 378
花粉除去機能 383
曇り取り（フロントガラス）..... 382
「ナノイー」..... 386
フィルターの清掃..... 446
エアコン・デフォッガー 382
エアバッグ..... 33
SRS エアバッグ警告灯 480
お子さまのための注意..... 35
改造・廃棄 37
作動条件 38
正しい姿勢 26
配置 33
HUD
（ヘッドアップディスプレイ）..... 103
AWD ロックモード 359
エコドライブモード 356
S-FLOW モード..... 379
LED デイライト 223
エレクトリックパワー
ステアリング（EPS）..... 360
パワーステアリング警告灯 481
エンジン
エンジンイモビライザー
システム 66
エンジンが始動できない 515
エンジン警告灯..... 480
エンジンスイッチ..... 204
エンジンの始動方法..... 204
オーバーヒート..... 525
ボンネット 432
エンジンオイル..... 532
冬の前の準備・点検..... 367
メンテナンスデータ..... 532
容量 532
エンジンスイッチ 204
エンジンフード（ボンネット）..... 432

お

オートアラーム 67
オートエアコン 378
オートドアロック・
アンロック機能 128
オートマチック
トランスミッション 209
M モード 211
シフトダウン制限警告ブザー ... 212
シフトレバー 209
シフトレバーが
シフトできない 213
パドルシフトスイッチ 210, 211
メンテナンスデータ 534
オートマチックハイビーム 230
オートレベリングシステム
（ヘッドランプ）..... 224
オープナー
パワーバックドア 132
ボンネット 432
オイル（エンジンオイル）..... 532
応急用タイヤ 491
空気圧 535
交換方法 491
おくだけ充電
（ワイヤレス充電器）..... 411
お子さまを乗せるとき 43
ウインドウロックスイッチ 178
お子さまの安全のために 43
シートベルトの着用 30
チャイルドシート 44
チャイルドシートの取り付け 44
オドメーター
ODO/TRIP スイッチ 86
機能 98

か

カーテンシールドエアバッグ 33
カードキー 118
カーペット 429
洗浄 430
フロアマットの取り付け方 24
外気温度表示 79
外装の電球（バルブ）
交換要領 456
ワット数 536
買い物フック 405
カスタマイズ機能 537
カスタマイズモード 356
型式 536
カップホルダー 399
花粉除去機能 383
ガラスの曇り取り（リヤウインドウ
デフォッガー）..... 383
ガレージジャッキ 434
冠水路走行 201
寒冷時の運転 367

き

キー 118
エンジンが始動できない..... 515
カードキー 118
キーナンバープレート..... 118
キーの構成 118
キーレスエントリー..... 118, 147
キーをなくした 120, 122
正常に働かない 517
施錠・解錠ができない..... 517
電子キー 118
電池が切れた 451, 517
メカニカルキー 119
ワイヤレスリモコン..... 118
キーレスエントリー
スマートエントリー＆スタートシステム 147
ワイヤレスドアロック..... 118
きしみやひっかき音が聞こえる（ブレーキパッドウェアインジケーター）..... 197
給油 244
給油口が開けられない..... 247
給油のしかた 244
メンテナンスデータ..... 532
緊急時シートベルト固定機構..... 30
緊急始動機能 516
緊急時の対処
エンジンが始動できない..... 515
オーバーヒートした..... 525
キーの電池が切れた..... 451, 517
警告灯がついた..... 480
警告メッセージが表示された ... 486
けん引 473
故障したときは..... 468
車両を緊急停止する..... 472
スタックした 529
電子キーが正常に働かない..... 517
発炎筒 470
バッテリーがあがった..... 521
パンクした 491, 502
緊急ブレーキシグナル 361

く

空気圧（タイヤ）..... 535
クーラー..... 378
区間距離計（トリップメーター）
ODO/TRIP スイッチ 86
機能..... 98
曇り取り
フロントガラス 382
ミラーヒーター 383
リヤウインドウデフォッガー ... 383
クラクション（ホーン）..... 170
クリアランスソナー
インテリジェント
クリアランスソナー 337
クリアランスソナー..... 327
クリアランスランプ（車幅灯）..... 222
スイッチ 222
電球（バルブ）の交換..... 456
クリップ
フロアマット 24
クルーズコントロール 275
グローブボックス 398

け

警音器（ホーン）..... 170
計器類（メーター）..... 79
照度調整 81
設定 92
ヘッドアップディスプレイ 103
マルチインフォメーション
ディスプレイ 83
メーター 79
警告灯..... 75
ICS OFF 表示灯..... 482
ABS ＆ブレーキアシスト 480
SRS エアバッグ..... 480
LKA 表示灯 481
エンジン 480
シートベルト非着用..... 483
充電 480
Stop ＆ Start キャンセル
表示灯 482
スリップ表示灯..... 481
タイヤ空気圧 483
燃料残量 482
パーキングブレーキ表示灯 481
パワーステアリング..... 481
PCS 482
プリテンショナー..... 480
ブレーキ 480
ブレーキホールド作動表示灯 ... 481
マスターウォーニング..... 483

警告ブザー
シートベルト非着用 483
シフトダウン制限 212
車線逸脱警報（LKA） 265
衝突警報（PCS） 255
接近警報（レーダークルーズコントロール） 282
パーキングブレーキ未解除 218
パノラマムーンルーフ開 188
パワーステアリング 481
半ドア 125, 148
半ドア走行 129
ふらつき警報（LKA） 266
窓開 180
ムーンルーフ開 184
リバース 213
警告メッセージ 486
化粧ミラー（バニティミラー） 410
けん引
けん引のしかた 473
フック 475

こ

コインホルダー 402
交換
キーの電池 451
タイヤ 491
電球（バルブ） 456
ヒューズ 453
ワイパーゴム 449
工具（ツール） 492, 504
航続可能距離 88, 112
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換 456
ワット数 536
コーナーリングランプ 223
子供専用シート 44
選択方法 46
取り付け方 48
小物入れ 403, 407
コンソールボックス 398
コンライト
（自動点灯・消灯装置） 222

さ

サイドエアバッグ 33
サイド方向指示灯 215
電球（バルブ）の交換 456
方向指示レバー 215
ワット数 536
サイドミラー（ドアミラー）
格納のしかた 175
操作 174
ブラインドスポットモニター（BSM） 313
ミラーヒーター 383
リバース連動機能 176
サスペンションコントロール（PCS） 255
サンシェード
電動サンシェード 186
リヤドアサンシェード 420
サンバイザー 410

し

シート 153, 154
正しい運転姿勢 26
チャイルドシート 44
調整 153, 154
手入れ 429
ドライビングポジションメモリー 163
ヘッドレスト 168
ポジションメモリー 163
メモリーコール機能 166
シートクッションエアバッグ 33
シートヒーター 391, 392
シートベルト 28
お子さまの着用 30
緊急時シートベルト固定機構 30
シートベルト非着用警告灯 483
正しく着用するには 28
着け方、はずし方 28
手入れ 430
妊娠中の方の着用 31
シートベルト非着用警告灯 483

シートベルトプリテンショナー..... 29
機能..... 29
プリテンショナー警告灯..... 480
シートベンチレーター 392
シートポジションメモリー 163
室内灯 393
始動のしかた..... 204
シフトポジション 209
シフトレバー..... 209
シフトポジションの切りかえ ... 209
シフトレンジの
切りかえ 210, 211
シフトロックシステム
（解除ボタン）..... 213
リバース警告ブザー..... 213
シフトロックシステム 213
締め付けトルク（ホイール）..... 498
ジャッキ
ガレージジャッキ..... 434
車載ジャッキ 492, 504
ジャッキハンドル 492, 504
車幅灯..... 222
電球（バルブ）の交換..... 456
ランプスイッチ..... 222
車両型式..... 536
車両仕様（スペック）..... 532
車両データの記録 7
車両を緊急停止するには 472
収納装備..... 397
瞬間燃費..... 88
仕様（車両仕様）..... 536
衝撃感知ドアロック
解除システム..... 129
初期設定..... 548
インテリジェント
クリアランスソナー..... 347
タイヤ空気圧警報システム 438
パワーバックドア..... 139
助手席足元フック 419
助手席シートベルト
非着用警告灯..... 483
侵入センサー（オートアラーム）..... 70

す

スイッチ
アダプティブハイビーム
システム 226
イグニッション 204
ウインドウロック..... 178
ウォッシャー 236, 242
HUD 103
AWD ロックモード 359
LKA 269
エンジンスイッチ..... 204
オートマチックハイビーム 230
ODO/TRIP..... 86
クルーズコントロール..... 275
シート調整 153, 154
シートヒーター 391, 392
シートベンチレーター..... 392
車間距離切りかえ（レーダー
クルーズコントロール）..... 275
侵入センサー OFF..... 70
ステアリングヒーター..... 390
Stop & Start キャンセル 305
電話※
ドアミラー 174
ドアロック 126
トークスイッチ※
ドライブモードセレクト..... 356
パーキングブレーキ..... 216
ハザードランプ 469
パドルシフト 210, 211
パノラマムーンルーフ..... 186
パワーウインドウ..... 178
パワーバックドア..... 132, 134
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 469
VSC OFF 362
フォグランプ 234
ブレーキホールド 220
ヘッドアップディスプレイ 103
方向指示レバー..... 215
ホーン（警音器）..... 170
ポジションメモリー..... 163
ムーンルーフ 182
メーター操作 85
ランプ 222
リヤウインドウデフォッガー ... 383
レーダークルーズ
コントロール 275
ワイパー 236, 242
スタック..... 529
ステアリングアシステッド
ビークルスタビリティ
コントロール（S-VSC）..... 360
ステアリングヒーター 390
ステアリングホイール
（ハンドル）..... 170
位置調整 170
ステアリングヒーター..... 390
ステアリングロック 206
解除できないとき..... 206
Stop & Start システム..... 302

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

ストップランプ（制動灯）
緊急ブレーキシグナル..... 361
電球（バルブ）の交換..... 456
スノータイヤ（冬用タイヤ）..... 369
スピードメーター..... 79
スペアタイヤ（応急用タイヤ）..... 491
空気圧..... 439, 535
交換方法..... 491
スペック（車両仕様）..... 532
スポーツモード..... 356
スマートエントリー＆スタート
システム..... 147
アンテナの位置..... 147
エンジンの始動..... 204
カスタマイズ設定..... 537
緊急始動機能..... 516
警告ブザー..... 148
警告メッセージ..... 148
作動範囲..... 147
節電機能..... 148
電波がおよぼす影響について... 152
ドアの解錠・施錠..... 124, 131
パワーバックドアの
施錠・解錠..... 131
スモールランプ（車幅灯）..... 222
電球（バルブ）の交換..... 456
ランプスイッチ..... 222

せ

清掃..... 424, 429
アルミホイール..... 425
外装..... 424
シートベルト..... 430
内装..... 429
制動灯
緊急ブレーキシグナル..... 361
電球（バルブ）の交換..... 456
積算距離計（オドメーター）
ODO/TRIP スイッチ..... 86
機能..... 98
セキュリティインジケーター.... 66, 67
接近警報（レーダークルーズ
コントロール）..... 282
センサー
インナーミラー..... 173
雨滴感知センサー..... 237
カメラセンサー..... 251
侵入センサー..... 70
タッチレスセンサー..... 133
ライトセンサー..... 223
レーダーセンサー..... 251
洗車..... 424
前照灯（ヘッドランプ）..... 222
オートレベリングシステム..... 224
電球（バルブ）の交換..... 456
ライトセンサー..... 223
ランプ消し忘れ防止機能..... 223
ランプスイッチ..... 222
ワット数..... 536

そ

走行モード（ドライブモード）..... 356
速度計（スピードメーター）..... 79

た

ターンシグナルランプ
（方向指示灯）..... 215
電球（バルブ）の交換..... 456
方向指示レバー 215
ワット数 536
ダイナミックトルクコントロール
AWD 361
タイヤ 436
応急用タイヤ 491
空気圧 444, 535
交換 491
締め付けトルク 498
チェーン 368
点検 436
パンク応急修理キット..... 502
パンクしたときは..... 491, 502
冬用タイヤ 369
ホイールサイズ 535
ローテーション（位置交換）..... 436
タイヤが空まわりする
（スタックした）..... 529
タイヤ空気圧警報システム 437
ID コードの登録・選択..... 439
空気圧バルブ／
送信機について 437
初期化 438
タイヤ空気圧警告灯..... 483
タイヤチェーン 368
タコメーター（エンジン回転計）..... 79
タッチレスパワーバックドア..... 133

ち

チェーン（タイヤチェーン）..... 368
チャイルドシート 44
ISOFIX バーでの取り付け..... 57
シートベルトでの固定..... 52
選択方法 46
チャイルドプロテクター 127
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）..... 216

つ

ツール（工具）..... 492, 504

て

手入れ 424, 429
アルミホイール 425
外装 424
シートベルト 430
内装 429
テールランプ（尾灯）..... 222
電球（バルブ）の交換..... 456
ランプスイッチ 222
デッキフック
（荷物固定用フック）..... 404
デフォッガー（リヤウインドウ
デフォッガー）..... 383
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）..... 456
ワット数 536
点検基準値
（メンテナンスデータ）..... 532
電子キー..... 118
作動範囲 147
正常に働かないとき..... 517
節電機能 148
電池が切れた 451, 517
電池交換（キー）..... 451
電動サンシェード
操作 186
挟み込み防止機能..... 187
電動パーキングブレーキ 216
電話スイッチ ※

と

ドア 124
オートドアロック・
アンロック機能 128
衝撃感知ドアロック
解除システム 129
スマートエントリー＆
スタートシステム 147
チャイルドプロテクター..... 127
ドアガラス 178
ドアロックスイッチ..... 126
パワーバックドア..... 131
ロックボタン 126
ワイヤレスリモコン..... 118
ドアポケット 401
ドアミラー
格納のしかた 175
操作 174
ブラインドスポットモニター
（BSM）..... 313
ミラーヒーター..... 383
リバース連動機能..... 176
盗難防止装置
エンジンイモビライザー
システム 66
オートアラーム..... 67
トークスイッチ ※
時計 79, 411

トップテザーアンカー 64
トノカバー..... 405
ドライビング
ポジションメモリー..... 163
ポジションメモリー..... 164
メモリーコール機能..... 166
ドライブインフォメーション
（マルチインフォメーション
ディスプレイ）..... 83
表示項目 88
メーター操作スイッチ..... 85
ドライブスタート
コントロール..... 194, 212
トラクションコントロール
（TRC）..... 360
トランスミッション 209
M モード..... 211
シフトダウン制限警告ブザー ... 212
シフトレバー 209
シフトレバーが
シフトできない 213
パドルシフトスイッチ.... 210, 211
メンテナンスデータ..... 534
トリップメーター
ODO/TRIP スイッチ 86
機能 98

な

内装
収納装備 397
手入れ 429
「ナノイー」..... 386
ナビゲーションシステム ※

に

ニーエアバッグ 33
荷物
積むときの注意..... 202
荷室内装備 404

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック）... 529

ね

ネットフック 404
燃費
燃費情報 88, 112
燃料 532
給油 244
種類 532
燃料残量警告灯..... 482
容量 532
燃料計..... 79

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

は

パーキングブレーキ 216
パーキングブレーキ表示灯 481
ブレーキ警告灯 480
未解除走行時警告ブザー 218
パーソナルランプ 395
Harmonious Driving Navi. 画面.... 109
排気ガス 42
ハイビーム（ヘッドランプ）..... 222
アダプティブハイビーム
システム 225
オートマチックハイビーム 230
電球（バルブ）の交換 456
ランプスイッチ 222
ワット数 536
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換 456
ハザードランプ（非常点滅灯）
スイッチ 469
電球（バルブ）の交換 456
ワット数 536
挟み込み防止機能
電動サンシェード 187
パノラマムーンルーフ 187
パワーウインドウ 179
パワーバックドア 139
ムーンルーフ 183
発炎筒 470
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換 456
ワット数 536
バックドア
タッチレスパワー
バックドア 133
パワーバックドア 131
ワイヤレスリモコン 131
バックドアイージークローザー..... 138
バッテリーがあがった 521
パドルシフトスイッチ 210, 211
バニティ（化粧用）ミラー 410
バニティミラーランプ 410
ワット数 536
パノラマムーンルーフ 186
警告ブザー 188
操作 186
挟み込み防止機能 187
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）..... 456
ワット数 536
パワーイージーアクセス
システム 163

パワーウインドウ 178
ウインドウロックスイッチ 178
警告ブザー 180
閉めることができないときは ... 179
操作 178
ドアロック連動ドアガラス
開閉機能 180
挟み込み防止機能..... 179
パワーステアリング 360
パワーステアリング警告灯 481
パワーバックドア 131
イージークローザー..... 138
タッチレスパワー
バックドア 133
バックドアオープンスイッチ ... 132
ワイヤレスリモコン..... 131
パンクした
応急用タイヤ装着車..... 491
タイヤパンク応急修理キット
装着車 502
番号灯
（ライセンスプレートランプ）..... 222
電球（バルブ）の交換..... 456
ランプスイッチ 222
ハンドル（ステアリングホイール）
位置調整 170
ステアリングヒーター..... 389

ひ

ビークルスタビリティ
コントロール（VSC）..... 360
ビークルダイナミクス
インテグレイテッド
マネージメント（VDIM）..... 361
ヒーター
オートエアコン..... 378
シートヒーター..... 389
ステアリングヒーター 389
ミラーヒーター..... 383
非常点滅灯（ハザードランプ）
スイッチ 469
電球（バルブ）の交換..... 456
ワット数 536
尾灯（テールランプ）..... 222
電球（バルブ）の交換..... 456
ランプスイッチ..... 222
ヒューズ..... 453
表示灯..... 76
日よけ（サンバイザー）..... 410
日よけ
（リヤドアサンシェード）..... 420
ヒルスタートアシスト
コントロール..... 360

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方..... 521
フォグランプ..... 234
スイッチ 234
電球（バルブ）の交換..... 456
ワット数 536
ブザー
シートベルト非着用..... 483
シフトダウン制限..... 212
車線逸脱警報（LKA）..... 265
衝突警報（PCS）..... 255
接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 282
パーキングブレーキ未解除 218
パノラマムーンルーフ開警告..... 188
パワーステアリング..... 481
半ドア 125, 148
ふらつき警報（LKA）..... 266
窓開警告 180
ムーンルーフ開警告..... 180
リバース 213
フック
買い物フック 405
けん引フック 475
コートフック 421
助手席足元フック..... 419
デッキフック 404
ネットフック 404
フロアマット固定フック..... 24
フューエルメーター（燃料計）..... 79
フューエルリッド（給油口）..... 244
給油口が開かない..... 247
給油のしかた 244
冬の前の準備（寒冷時の運転）..... 367
冬用タイヤ..... 369
ブラインドスポットモニター（BSM）..... 313
ブラインドスポットモニター機能..... 317
リヤクロストラフィックアラート機能 321
プリクラッシュセーフティシステム（PCS）..... 255
PCS 警告灯..... 482
ブレーキ
緊急ブレーキシグナル..... 361
パーキングブレーキ..... 216
ブレーキ警告灯..... 480
ブレーキホールド..... 220
メンテナンスデータ..... 535
ブレーキアシスト 360
ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 480
ブレーキ付近からキーキー音が聞こえる 197
ブレーキフルード 535
ブレーキホールド 220

フロアマット 24
フロントシート 153
シートヒーター 391
シートベンチレーター 392
シートポジションメモリー 163
正しい運転姿勢 26
調整 153
手入れ 429
ドライビングポジション
メモリー 163
パワーイージーアクセス
システム 163
ヘッドレスト 168
ポジションメモリー 163
フロントシートヒーター 391
フロントフォグランプ 234
スイッチ 234
電球（バルブ）の交換 456
ワット数 536
フロント方向指示灯 215
電球（バルブ）の交換 456
方向指示レバー 215
ワット数 536

へ

平均車速 88, 112
平均燃費 88, 112
ヘッドアップディスプレイ 103
ヘッドランプ 222
クリーナー 236
電球（バルブ）の交換 456
ライトセンサー 223
ランプ消し忘れ防止機能 223
ランプスイッチ 222
ヘッドランプオートレベリング
システム 224
ヘッドレスト 168
ヘルプネットスイッチパネル※
ベンチレーター（シートベンチ
レーター） 392

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

ほ

ホイール
交換（タイヤ）..... 491
メンテナンスデータ..... 535
ホイールナットレンチ 492, 504
方向指示灯..... 215
電球（バルブ）の交換..... 456
方向指示レバー 215
ワット数 536
ホーン（警音器）..... 170
ポジションメモリー 164
保証 9
ボトルホルダー..... 401
ボンネット（エンジンフード）..... 432

ま

マスターウォーニング 483
マルチインフォメーション
ディスプレイ..... 83
AWD Control..... 89
LKA 270
警告メッセージ..... 486
G モニター 90
Stop & Start システム..... 309
設定 92
提案サービス機能..... 99
時計 79
ドライブインフォメーション 88
PCS 255
ブーストメーター..... 89
ふらつき検知機能..... 89
メーター操作スイッチ..... 85
油圧計 89
油温計 89
レーダークルーズ
コントロール 275

み

ミラー
インナーミラー..... 172
ドアミラー 174
バニティミラー..... 410
ミラーヒーター..... 383

む

ムーンルーフ
警告ブザー 184
操作 182
挟み込み防止機能..... 183

め

メーター（計器類）..... 79
警告灯 480
照度調整 81
設定 92
表示灯 76
ヘッドアップディスプレイ 103
マルチインフォメーション
ディスプレイ 83
メーター 79
メカニカルキー 119
メモリーコール機能 166
メンテナンスデータ 532

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 537
雪道ですべって動けない
（スタックした）..... 529
油脂類 532

ら

ライセンスプレートランプ
（番号灯）..... 222
電球（バルブ）の交換..... 456
ランプスイッチ..... 222
ラジエーター
オーバーヒート..... 525
メンテナンスデータ..... 534
ランプ
アダプティブハイビーム
システム 225
インテリアランプ..... 394
オートマチックハイビーム 230
コーナーリングランプ..... 223
室内灯 393
電球（バルブ）の交換..... 456
パーソナルランプ..... 395
バニティミラーランプ..... 410
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 469
フロントフォグランプ..... 234
ヘッドランプ（前照灯）..... 222
方向指示灯
（ターンシグナルランプ／
ウインカー）..... 215
ライトセンサー..... 223
ラゲージルームランプ..... 137
ランプ消し忘れ防止機能..... 223
リヤフォグランプ..... 234
ワット数 536
ランプ消し忘れ防止機能 223

り

リモートタッチ※ 372
リヤアームレスト 420
リヤウインドウデフォッガー
スイッチ 383
リヤクロストラフィック
アラート 321
リヤサイドマーカーランプ 222
電球（バルブ）の交換..... 456
ランプスイッチ 222
リヤシート..... 154
リヤシートヒーター 392
リヤドアサンシェード 420
リヤフォグランプ..... 234
スイッチ 234
電球（バルブ）の交換..... 456
ワット数 536
リヤ方向指示灯 215
電球（バルブ）の交換..... 456
方向指示レバー 215
ワット数 536

る

ルームミラー（インナーミラー）... 172
ルームランプ..... 393

れ

レーダークルーズコントロール..... 275
接近警報 282
レーダーセンサー..... 251
レーンキーピングアシスト
（LKA）..... 265
冷却水..... 534
冬の前の準備 367
メンテナンスデータ..... 534
冷却装置（ラジエーター）..... 534
オーバーヒート..... 525
メンテナンスデータ..... 534
レクサスクライメイト
コンシェルジュ..... 377
Lexus Safety System+..... 249
アダプティブハイビーム
システム 225
LKA 265
オートマチックハイビーム 230
PCS 255
レーダークルーズ
コントロール 275
レバー
シフト 209
方向指示 215
ボンネット解除..... 432
ロック（ドア）..... 126
ワイパー 236, 242
REV インジケーター 81
REV ピーク..... 81

ろ

ロック
ウインドウロック..... 178
スマートエントリー＆
スタートシステム 147
チャイルドプロテクター..... 127
ドア..... 124
パワーバックドア..... 131
ワイヤレスリモコン..... 118

わ

ワイパー＆ウォッシャー..... 236, 242
ウォッシャー液の補充..... 435
フロント 236
フロントワイパーデアイサー ... 383
リヤ 242
ワイパーゴムの交換 449
ワイパーブレード（寒冷地用）..... 368
ワイヤレス充電器
（おくだけ充電）..... 411
ワイヤレスリモコン 118
作動の合図 125
操作 118
電池の交換 451
半ドア警告ブザー..... 125
ワックス..... 424
ワット数..... 536

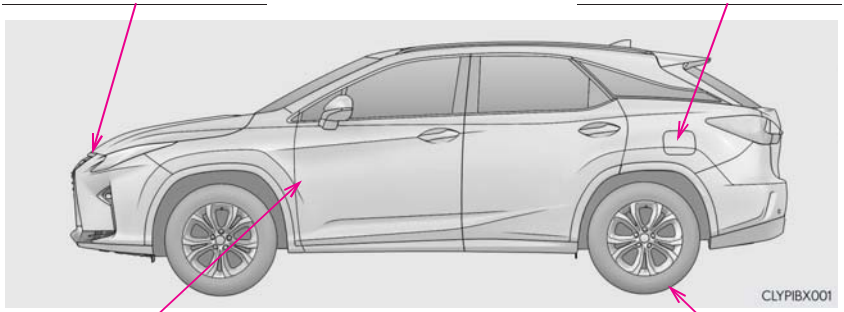
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック
P. 432

給油口
P. 247



ボンネット解除レバー
P. 432

タイヤ空気圧
P. 535

燃料の容量（参考値）	72L
燃料の種類	・無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク） ・バイオ混合ガソリン（プレミアム）※ ※ エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。 P. 532
タイヤが冷えているときの空気圧	P. 535
エンジンオイル容量（参考値）	オイルのみ交換時：4.7L オイルとオイルフィルター交換時：4.9L
エンジンオイルの種類	弊社純正モーターオイル ECO TURBO 0W-20（SAE 0W-20） 弊社純正モーターオイル ・SN 0W-20（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20） ・SN 5W-20（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20） ・SN 5W-30（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30） P. 532

「個人情報保護方針」については、http://lexus.jp にて掲載しております。

マ-78

M48733
01999-48733
NAC-2017年5月17日
2016年8月3日初版
2017年5月24日3版
RX200t